

Nikon

デジタルカメラ

D750

使用説明書



「Nikon Manual Viewer 2」アプリ

いつでもどこでもスマートフォンやタブレットで
説明書を見ることができます。

Jp

お使いになる前に、この使用説明書をよくお読みになり、内容を十分に理解してから正しくお使いください。お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに必ず保管し、撮影を楽しむためにお役立てください。

本文中のマークについて

この使用説明書は、次の記号を使用しています。必要な情報を探すときにご活用ください。



カメラを使用する前に注意していただきたいことや守っていただきたいことを記載しています。



カメラを使用する前に知っておいていただきたいことを記載しています。



使用説明書上で関連情報が記載されているページです。

表記について

- SDメモリーカード、SDHCメモリーカード、およびSDXCメモリーカードを「SDカード」と表記しています。
- バッテリーチャージャーを「チャージャー」と表記しています。
- ご購入時に設定されている機能やメニューの設定状態を「初期設定」と表記しています。
- この使用説明書では、カメラの設定が初期設定であることを前提に操作の説明を行っています。



「Nikon Manual Viewer 2」アプリ

ニコンデジタルカメラの説明書をスマートフォンやタブレットで見ることができるアプリです。App StoreまたはGoogle Playから無料でダウンロードできます。

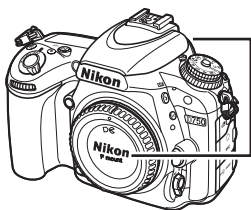
* アプリおよび使用説明書をダウンロードするには、インターネットに接続できる環境が必要です（通信料が発生します）。

⚠ 安全上のご注意

安全にカメラをお使いいただくために守っていただきたい内容が記載されています。カメラをお使いになる前に必ずお読みください。詳しくはxiv～xxをご覧ください。

カメラと付属品を確認する

お使いになる前に、カメラと付属品が全てそろっていることを確認してください。万が一、付属品がそろっていない場合は、販売店にご相談ください。



□ 接眼目当てDK-21
(□107)



□ ボディーキャップBF-1B
(□26、446)

□ D750 カメラ本体 (□1)



□ Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL15
(端子カバー付) (□23、25)



□ バッテリーチャージャー MH-25a
(電源プラグ (直付け型) 付) (□23)



□ アイピースキャップDK-5 (□107)

□ ストラップAN-DC14 (□23)

□ 使用説明書 (本書)

□ USB ケーブルUC-E17
(□261、266)

□ ViewNX 2 CD-ROM (□257)

□ 登録のご案内

□ 保証書

- SD カードは別売です。
- 日本国内でご購入いただいたカメラは、画面の表示言語を日本語または英語に設定できます。

目次

カメラと付属品を確認する	i
安全上のご注意	xiv
ご確認ください	xxi
Wi-Fi (無線 LAN) 機能について	xxiv

お使いになる前に 1

各部の名称と機能	1
マルチセクターの使い方	18
メニューの操作方法	19
メニュー項目の設定	20
撮影前の準備	23

かんたんな撮影と再生 33

かんたんに静止画を撮影する	
(📷 オート / 📷 発光禁止オート)	33
撮影した画像を確認する	36
画像を削除する	37

シーンに合わせて撮影する (簡単操作でより美しく) 40

👤 (ポートレート)	41
🏞️ (風景)	41
👶 (こどもスナップ)	41
🏈 (スポーツ)	41
🌸 (クローズアップ)	42
🌃 (夜景ポートレート)	42
🌃 (夜景)	42
🎉 (パーティー)	42
🌨️ (海・雪)	43
🔥 (夕焼け)	43
🌆 (トワイライト)	43

 (ペット)	43
 (キャンドルライト)	44
 (桜)	44
 (紅葉)	44
 (料理)	44

特殊効果をつけて撮影する

(スペシャルエフェクトモード) 45

 (ナイトビジョン)	46
 (カラースケッチ)	46
 (ミニチュア効果)	47
 (セレクトカラー)	47
 (シルエット)	47
 (ハイキー)	48
 (ローキー)	48

静止画ライブビュー撮影

54

静止画ライブビューで撮影する	54
AF モードを変更する	57
AF エリアモードを変更する	58
マニュアルフォーカスで撮影する	60
 ボタンを使う	61
静止画ライブビュー中の情報表示について	63
静止画ライブビュー時の表示を切り換える	64

動画ライブビュー撮影と再生

66

動画ライブビューで撮影する	66
インデックスマーキングについて	69
 ボタンを使う	70
動画ライブビュー中の情報表示について	73
動画ライブビュー時の表示を切り換える	74
動画ライブビュー時の撮像範囲	75
動画ライブビュー時の静止画撮影	76

動画の再生	80
動画の編集	83
動画の必要な部分を残す	83
動画の 1 フレームを JPEG 画像として保存する	87

P、S、A、M モードで撮影する 89

撮影モード P、S、A、M を使う	89
P (プログラムオート)	90
S (シャッター優先オート)	91
A (絞り優先オート)	92
M (マニュアル)	94
長時間露出で撮影する (撮影モード M のみ)	96

ユーザーセッティングモード U1、U2 を使う 100

U1、U2 にユーザーセッティングを登録する	100
------------------------------	-----

レリーズモード 104

1 コマ撮影や連続撮影、静音撮影など、 レリーズモードを変更する	104
セルフタイマーを使って撮影する (☺)	106
ミラーアップ撮影する (Mup)	108

画像の記録 109

撮像範囲を変更する	109
画質モードを変更する	114
画像サイズを設定する	117
2 枚の SD カードに記録する (スロット 2 の機能)	118

フォーカス 119

オートフォーカスで撮影する	119
AF モードを設定する	119
AF エリアモードを変更する	121
フォーカスポイントを自分で選ぶ	125
フォーカスロックしてピントを固定する	127
マニュアルフォーカスで撮影する	130

ISO 感度 132

ISO 感度を設定する	132
感度自動制御機能を使う	134

測光・露出 137

測光モードを設定する	137
AE ロックして露出を固定する	140
露出補正して画像の明るさを調整する	142

ホワイトバランス 144

ホワイトバランスを変更する	144
ホワイトバランスを微調整する	147
色温度設定で色温度を指定する	150
プリセットマニュアルで基準となる白を設定する	153
ファインダー撮影時にプリセットマニュアル データを新規取得する	154
ライブビュー撮影時にスポットホワイトバランスで プリセットマニュアルデータを取得する	158
プリセットマニュアルデータを管理する	161

画像処理 164

ピクチャーコントロールを使って画像の仕上がりを 簡単に設定したり、思い通りに調整する	164
カスタムピクチャーコントロールを登録する	169

白とびや黒つぶれを抑えて撮影する	175
アクティブ D-ライティングで撮影する	175
HDR（ハイダイナミックレンジ）合成を行う	177

フラッシュ撮影 **181**

内蔵フラッシュを使って撮影する	181
内蔵フラッシュが自動的に上がる撮影モードの 場合	181
内蔵フラッシュを手動で上げる撮影モードの場合 ..	183
調光補正してフラッシュの発光量を変更する	189
FV ロックして調光量を固定する	191

リモコン撮影 **194**

別売のリモコン ML-L3 を使って撮影する	194
別売のワイヤレスリモートコントローラーを使って 撮影する	198
ワイヤレスリモートコントローラー WR-1	198
ワイヤレスリモートコントローラー WR-R10/ WR-T10	198

撮影の便利な機能 **199**

ファインダー撮影時に i ボタンを使う	199
ツールボタンリセットで基本的な機能を初期設定に戻す	200
オートブラケティングで露出や調光、ホワイトバランス、 アクティブ D-ライティングを変えながら撮影する	203
多重露出撮影で 1 つの画像に重ねて写し込む	215
設定した間隔で撮影する（インターバルタイマー撮影）	221
微速度撮影する	227
非 CPU レンズを使う（レンズ情報手動設定）	232
位置情報を画像に記録する	235

画像を再生する	237
画像を 1 コマずつ再生する (1 コマ表示モード)	237
複数の画像を一覧表示する (サムネイル表示モード)	239
撮影した日付ごとに画像を表示する (カレンダー表示モード)	240
<i>i</i> ボタンを使う	241
画像情報を表示する	242
画像を拡大表示する	251
プロテクトで画像を削除できないように保護をする	253
画像を削除する	254

パソコン、プリンター、テレビとの接続

ViewNX 2 をインストールする	257
ViewNX 2 を使う	261
パソコンに画像を取り込む	261
有線 LAN/ 無線 LAN を使ってパソコンに画像を 転送する	264
画像をプリンターで印刷する	266
カメラとプリンターを接続する	266
1 コマだけプリントする	267
複数の画像をプリントする	269
プリントしたい画像を指定する (プリント指定)	271
画像をテレビで見る	273
HDMI ケーブルを使ってハイビジョンテレビと 接続する	273
HDMI 対応機器との接続時の設定を変更する	274

Wi-Fi を使ってできること	277
カメラとスマートデバイスを接続する	278
WPS プッシュボタン接続でスマートデバイスと 接続する (Android OS のみ)	280
スマートデバイスの PIN コードをカメラに入力して 接続する (Android OS のみ)	281
カメラの SSID をスマートデバイスで選んで接続する (Android OS/iOS)	283
スマートデバイスに取り込みたい画像をカメラで 送信指定する	286
表示中の画像を送信指定する	286
複数の画像をまとめて送信指定する	287

メニューガイド

初期設定一覧	288
▶ 再生メニュー：再生で使える便利な機能	297
再生メニュー項目一覧	297
再生フォルダー設定	298
非表示設定	298
再生画面設定	300
画像コピー	300
撮影直後の画像確認	305
削除後の次再生画像	305
縦位置自動回転	305
スライドショー	306
📷 静止画撮影メニュー：	
静止画撮影で使える便利な機能	308
静止画撮影メニュー項目一覧	308
静止画撮影メニューのリセット	309
記録フォルダー設定	309
ファイル名設定	311
色空間	312

ヴィネットコントロール	313
自動ゆがみ補正	314
長秒時ノイズ低減	315
高感度ノイズ低減	315
● 動画撮影メニュー：動画撮影で使える便利な機能	316
動画撮影メニュー項目一覧	316
動画撮影メニューのリセット	317
ファイル記録先	317
画像サイズ / フレームレート	318
動画の画質	318
マイク感度	319
録音帯域	319
風切り音低減	320
ホワイトバランス	320
ピクチャーコントロール	320
動画 ISO 感度設定	321
✎ カスタムメニュー：撮影に関するさらに詳細な設定	322
カスタムメニュー項目一覧	323
カスタムメニューのリセット	324
a：オートフォーカス	325
a1：AF-C モード時の優先	325
a2：AF-S モード時の優先	325
a3：AF ロックオン	326
a4：フォーカスポイント表示	327
a5：フォーカスポイント照明	328
a6：フォーカスポイント循環選択	328
a7：AF 点数切り換え	328
a8：縦 / 横位置フォーカスポイント切換	329
a9：内蔵 AF 補助光の照射設定	330
b：露出・測光	331
b1：ISO 感度設定ステップ幅	331
b2：露出設定ステップ幅	331
b3：露出補正簡易設定	331
b4：マルチパターン測光	332

b5: 中央部重点測光範囲.....	333
b6: 基準露出レベルの調節.....	333
c: AE ロック・タイマー	333
c1: 半押し AE ロック	333
c2: 半押しタイマー.....	334
c3: セルフタイマー.....	334
c4: モニターのパワーオフ時間.....	335
c5: リモコン待機時間 (ML-L3).....	335
d: 撮影・記録・表示	336
d1: 電子音設定.....	336
d2: 低速連続撮影.....	337
d3: 連続撮影コマ数.....	337
d4: 露出ディレーモード.....	338
d5: フラッシュ使用推奨表示.....	338
d6: 連番モード.....	338
d7: ファインダー内格子線表示.....	339
d8: ISO 感度の簡易設定.....	339
d9: インフォ画面の表示設定.....	340
d10: イルミネーター点灯.....	340
d11: MB-D16 電池設定.....	341
d12: 電池の使用順序.....	343
e: フラッシュ・BKT 撮影	344
e1: フラッシュ撮影同調速度.....	344
e2: フラッシュ時シャッタースピード制限.....	346
e3: 内蔵フラッシュ発光.....	346
e4: フラッシュ使用時の露出補正.....	353
e5: モデリング発光.....	353
e6: オートブラケティングのセット.....	353
e7: BKT の順序.....	354
f: 操作.....	354
f1: OK ボタンの機能.....	354
f2: Fn ボタンの機能.....	356
f3: プレビューボタンの機能.....	361

f4: AE/AF ロックボタンの機能	361
f5: コマンドダイヤルの設定	363
f6: ボタンのホールド設定	366
f7: カードなし時リリース	367
f8: インジケーターの+ / - 方向	367
f9: 動画撮影ボタンの機能	368
f10: MB-D16 の  ボタンの機能	369
f11: リモコン (WR) の Fn ボタンの機能	370
g: 動画	372
g1: Fn ボタンの機能	372
g2: プレビューボタンの機能	373
g3: AE/AF ロックボタンの機能	374
g4: シャッターボタンの機能	374
Y セットアップメニュー:	
カメラを使いやすくする基本設定	375
セットアップメニュー項目一覧	375
カードの初期化 (フォーマット)	376
モニターの明るさ	377
モニターのカラーカスタマイズ	378
イメージダストオフデータ取得	379
フリッカー低減	381
地域と日時	382
言語 (Language)	383
縦横位置情報の記録	383
電池チェック	384
画像コメント	385
著作権情報	386
カメラ設定の保存と読み込み	387
水準器表示	390
AF 微調節	391
Eye-Fi 送信機能	393
認証マークの表示	394
ファームウェアバージョン	394

 画像編集メニュー：撮影した画像に行う編集機能.....	395
画像編集メニュー項目一覧	395
D- ライティング	398
赤目補正.....	399
トリミング	400
モノトーン	401
フィルター効果	402
カラーカスタマイズ.....	403
画像合成.....	404
RAW 現像（パソコンを使わずに RAW 画像を JPEG 画像に変換する）	408
リサイズ.....	410
簡単レタッチ	413
傾き補正.....	413
ゆがみ補正	414
魚眼効果.....	415
塗り絵	415
カラースケッチ	416
アオリ効果.....	417
ミニチュア効果	418
セレクトカラー	419
編集前後の画像表示.....	422
 マイメニュー /  最近設定した項目	424
 マイメニュー：よく使うメニューを登録する	424
 最近設定した項目： 最近設定したメニューをたどる	429

資料

430

使用できるレンズ.....	430
使用できるスピードライト.....	437
使用できるアクセサリ	445
カメラとパワーコネクター、AC アダプターの 接続方法	450

カメラのお手入れについて	452
保管について	452
クリーニングについて	452
ローパスフィルターのお手入れについて	453
カメラとバッテリーの取り扱い上のご注意	458
カメラの使用上のご注意	458
バッテリーの使用上のご注意	460
チャージャーの使用上のご注意	462
撮影モードによって設定に制限がある機能一覧	463
撮影モード P（プログラムオート）のプログラム線図	465
故障かな？と思ったら	466
電源・表示関連	466
撮影関連（全撮影モード共通）	467
撮影関連（撮影モード P、S、A、M）	470
再生関連	471
Wi-Fi（無線 LAN）関連	473
その他	473
警告メッセージ	474
主な仕様	482
使用できる SD カード	494
記録可能コマ数と連続撮影可能コマ数	495
撮影可能コマ数（電池寿命）について	498
AF 補助光撮影、内蔵フラッシュ撮影に制限のある	
レンズについて	500
索引	505
ニコンプラザ、サービスセンターのご案内	514
アフターサービスについて	515

安全上のご注意

お使いになる前に「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。
この「安全上のご注意」は、製品を安全に正しく使用し、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために重要な内容を記載しています。お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに必ず保管してください。表示と意味は、次のようになっています。



危険

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が高いと想定される内容を示しています。



警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が想定される内容を示しています。

お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。

絵表示の例



△記号は、注意（警告を含む）を促す内容を告げるものです。図の中や近くに具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。



⊘記号は、禁止の行為（してはいけないこと）を告げるものです。図の中や近くに具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。



●記号は、行為を強制すること（必ずすること）を告げるものです。図の中や近くに具体的な強制内容（左図の場合はプラグをコンセントから抜く）が描かれています。

警告 (カメラとレンズについて)



分解禁止

分解したり修理や改造をしないこと

感電したり、異常動作をしてケガの原因となります。



接触禁止

落下などによって破損し、内部が露出したときは、露出部に手を触れないこと

感電したり、破損部でケガをする原因となります。



すぐに修理依頼を

電池、電源を抜いて、ニコンサービス機関に修理を依頼してください。



電池を取る

熱くなる、煙が出る、こげ臭いなどの異常時は、すみやかに電池を取り出すこと

そのまま使用すると火災、やけどの原因となります。



すぐに修理依頼を

電池を取り出す際、やけどに充分注意してください。
電池を抜いて、ニコンサービス機関に修理を依頼してください。



水かけ禁止

水につけたり、水をかけたり、雨にぬらさない

感電や発火などの事故や故障の原因になります。



使用禁止

引火・爆発のおそれのある場所では使わない

プロパンガス、ガソリン、可燃性スプレーなどの引火性ガスや粉塵の発生する場所で使用すると、爆発や火災の原因になります。



使用禁止

レンズまたはカメラで直接太陽や強い光を見ないこと

失明や視力障害の原因となります。



発光禁止

車の運転者等に向けてフラッシュを発光しないこと

事故の原因となります。



発光禁止

フラッシュを人の目に近づけて発光しない

視力障害の原因になります。

撮影時には、1m以上離れてください。

特に乳幼児の撮影には注意してください。



保管注意

幼児の口に入る小さな付属品は、幼児の手の届くところに置かない

幼児の飲み込みの原因となります。

万一飲み込んだときは直ちに医師にご相談ください。



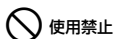
警告

ストラップが首に巻き付かないようにする

特に幼児・児童の首にストラップをかけない

首に巻き付くと窒息の原因になります。

警告 (カメラとレンズについて)



ACアダプター使用時に雷が鳴り出したら、電源プラグに触れないこと
感電の原因となります。
雷が鳴り止むまで機器から離れてください。



指定の電源（電池、ACアダプター）を使う
指定以外のものを使用すると、事故や故障の原因になります。

注意 (カメラとレンズについて)



ぬれた手でさわらない
感電の原因になることがあります。



カメラの電源がONの状態、長時間直接触れないこと
使用中に温度が高くなる部分があり、低温やけどの原因になることがあります。



製品は幼児の手の届くところに置かない
ケガの原因になることがあります。



逆光撮影では、太陽を画角から十分にずらすこと
太陽光がカメラ内部で焦点を結び、火災の原因になることがあります。画角から太陽をわずかに外しても火災の原因になることがあります。



使用しないときは、レンズにキャップを付けるか、太陽光のあたらない所に保管すること
太陽光が焦点を結び、火災の原因になることがあります。



三脚にカメラやレンズを取り付けたまま移動しないこと
転倒したりぶついたりして、ケガの原因となることがあります。



航空機内では、離着陸時に電源をOFFにする
飛行中は無線通信機能を使わない
病院では、病院の指示に従う
本機器が出す電磁波などが、航空機の計器や医療機器に影響を与えるおそれがあります。
無線通信機器は、あらかじめカメラから取り外してください。

注意 (カメラとレンズについて)

長期間使用しないときは電源（電池やACアダプター）を外すこと



電池を取る

電池の液もれにより、火災、ケガや周囲を汚損する原因となることがあります。



プラグを抜く

ACアダプターをご使用の際には、ACアダプターを取り外し、その後電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。



発光禁止

内蔵フラッシュの発光窓を人体やものに密着させて発光させないこと

やけどや発火の原因になることがあります。



禁止

布団でおおったり、つつんだりして使用しないこと

熱がこもりケースが変形し、火災の原因になることがあります。



放置禁止

窓を閉め切った自動車の中や直射日光が当たる場所など、異常に温度が高くなる場所に放置しない

故障や火災の原因になることがあります。



禁止

付属のCD-ROMを音楽用CDプレーヤーで使用しないこと

機器に損傷を与えたり大きな音がして聴力に悪影響を及ぼすことがあります。

危険 (専用リチウムイオン充電電池について)



禁止

電池を火に入れたり、加熱しないこと

液もれ、発熱、破裂の原因となります。



分解禁止

電池を分解しない

液もれ、発熱、破裂の原因となります。



危険

電池に強い衝撃を与えたり、投げたりしない

液もれ、発熱、破裂の原因となることがあります。



危険

専用の充電器を使用すること

液もれ、発熱、破裂の原因となります。

危険 (専用リチウムイオン充電電池について)



危険

ネックレス、ヘアピンなどの金属製のものと一緒に持ち運んだり、保管したりしない
ショートして液もれ、発熱、破裂の原因になりますので、端子カバーをつけて絶縁してください。



使用禁止

Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL15に対応していない機器には使用しないこと
液もれ、発熱、破裂の原因となります。
Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL15は、D750に対応しています。



危険

電池からもれた液が目に入ったときはすぐにきれいな水で洗い、医師の治療を受けること
そのままにしておくと、目に傷害を与える原因となります。

警告 (専用リチウムイオン充電電池について)



保管注意

電池は、幼児の手の届くところに置かない
幼児の飲み込みの原因となります。
万一飲み込んだ場合は直ちに医師にご相談ください。



水かけ禁止

水につけたり、ぬらさないこと
液もれ、発熱の原因となります。



警告

変色・変形、そのほか今までと異なることに気づいたときは、使用しないこと
液もれ、発熱・破裂の原因となります。



警告

充電の際に所定の充電時間を超えても充電が完了しないときには、充電をやめること
液もれ、発熱・破裂の原因となります。



警告

電池をリサイクルするときや、やむなく廃棄するときはビニールテープなどで接点部を絶縁すること
他の金属と接触すると、発熱、破裂、発火の原因となります。ニコンサービス機関やリサイクル協力店にご持参くださるか、お住まいの自治体の規則に従って廃棄してください。



警告

電池からもれた液が皮膚や衣服に付いたときはすぐにきれいな水で洗うこと
そのままにしておくと、皮膚がかぶれたりする原因となります。

注意 (専用リチウムイオン充電機について)



使用注意

充電中の電池に長時間直接触れないこと

充電中に温度が高くなる部分があり、低温やけどの原因になることがあります。



警告 (チャージャーについて)



分解禁止

分解したり修理や改造をしないこと

感電したり、異常動作をしてケガの原因となります。



接触禁止

落下などによって破損し、内部が露出したときは、露出部に手を触れないこと

感電したり、破損部でケガをする原因となります。



すぐに修理依頼を

電源プラグをコンセントから抜いて、二コンサーブス機関に修理を依頼してください。



プラグを抜く

熱くなる、煙が出る、こげ臭いなどの異常時は、速やかに電源プラグをコンセントから抜くこと

そのまま使用すると火災、やけどの原因となります。



すぐに修理依頼を

電源プラグをコンセントから抜く際、やけどに充分注意してください。二コンサーブス機関に修理を依頼してください。



水かけ禁止

水につけたり、水をかけたり、雨にぬらさない

感電や発火などの事故や故障の原因になります。



使用禁止

引火・爆発のおそれのある場所では使わない

プロパンガス、ガソリン、可燃性スプレーなどの引火性ガスや粉塵の発生する場所で使用すると、爆発や火災の原因になります。



警告

電源プラグの金属部やその周辺にほこりが付着している場合は、乾いた布で拭き取ること

そのまま使用すると火災の原因になります。



使用禁止

雷が鳴り出したら電源プラグに触れないこと

感電の原因となります。

雷が鳴り止むまで機器から離れてください。



感電注意

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないこと

感電の原因になることがあります。

警告 (チャージャーについて)



チャージャーを海外旅行者用電子式変圧器（トラベルコンバーター）やDC/ACインバーターなどの電源に接続して使わないこと

発熱、故障、火災の原因となります。

注意 (チャージャーについて)



ぬれた手でさわらない

感電の原因になることがあります。



通電中のチャージャーに長時間直接触れないこと

通電中に温度が高くなる部分があり、低温やけどの原因になることがあります。



製品は幼児の手の届くところに置かない

ケガの原因になることがあります。



布団でおおったり、つつんだりして使用しないこと

熱がこもりケースが変形し、火災の原因となることがあります。

ご確認ください

●保証書について

この製品には「保証書」が付いていますのでご確認ください。「保証書」は、お買い上げの際、ご購入店からお客様へ直接お渡しすることになっています。必ず「ご購入年月日」「ご購入店」が記入された保証書をお受け取りください。「保証書」をお受け取りにならないと、ご購入1年以内の保証修理が受けられないこととなります。お受け取りにならなかった場合は、ただちに購入店にご請求ください。

●カスタマー登録

下記のホームページからカスタマー登録ができます。

<https://reg.nikon-image.com/>

付属の「登録のご案内」に記載されている登録コードをご用意ください。

●カスタマーサポート

下記アドレスのホームページで、サポート情報をご案内しています。

<http://www.nikon-image.com/support/>

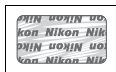
●大切な撮影の前には試し撮りを

大切な撮影（結婚式や海外旅行など）の前には、必ず試し撮りをしてカメラが正常に機能することを事前に確認してください。本製品の故障に起因する付随的損害（撮影に要した諸費用および利益喪失等に関する損害等）についての補償はご容赦願います。

●本製品を安心してお使いいただくために

本製品は、当社製のアクセサリ（レンズ、スピードライト、バッテリー、チャージャー、ACアダプターなど）に適合するように作られておりますので、当社製品との組み合わせでお使いください。

- Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL15には、ニコン純正品であることを示すホログラムシールが貼られています。
- 模倣品のバッテリーをお使いになると、カメラの十分な性能が発揮できないほか、バッテリーの異常な発熱や液もれ、破裂、発火などの原因となります。
- 他社製品や模倣品と組み合わせると、事故・故障などが起こる可能性があります。その場合、当社の保証の対象外となりますのでご注意ください。



●使用説明書について

- この使用説明書の一部または全部を無断で転載することは、固くお断りいたします。
- 仕様・性能は予告なく変更することがありますので、ご承知ください。
- 使用説明書の誤りなどについての補償はご容赦ください。
- 使用説明書の内容が破損などによって判読できなくなったときは、下記のホームページから使用説明書のPDFファイルをダウンロードできます。

<http://www.nikon-image.com/support/manual/>

ニコンサービス機関で新しい使用説明書を購入することもできます（有料）。

●著作権についてのご注意

あなたがカメラで撮影または録音したものは、個人として楽しむなどの他は、著作権上、権利者に無断で使うことができません。なお、実演や興行、展示物の中には、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。また、著作権の対象となっている画像は、著作権法の規定による範囲内で使用する以外は、ご利用いただけませんのでご注意ください。

●カメラやメモリーカードを譲渡/廃棄するときのご注意

カメラを譲渡/廃棄する際は、使用者によってカメラ内に登録または設定された、無線LAN接続設定などの個人情報を含む内容を、カメラのセットアップメニュー〔ネットワーク〕の〔接続設定〕で削除してください。設定内容の削除については、別売の通信ユニットの使用説明書をご覧ください。SDカード内のデータはカメラやパソコンで初期化または削除しただけでは、完全には削除されません。譲渡/廃棄した後に市販のデータ修復ソフトなどを使ってデータが復元され、重要なデータが流出してしまう可能性があります。SDカード内のデータはお客様の責任において管理してください。

SDカードを譲渡/廃棄する際は、市販のデータ削除専用ソフトなどを使ってデータを完全に削除するか、初期化後にSDカードが真っ白になるまで、空や地面などの画像で置き換えることをおすすめします。なお、プリセットマニュアルの画像（□153）も、同様に別の画像で置き換えてから譲渡/廃棄してください。SDカードを物理的に破壊して廃棄する場合は、周囲の状況やケガなどに充分ご注意ください。

- Wi-Fi接続設定は、セットアップメニュー〔Wi-Fi〕→〔接続設定〕→〔接続設定のリセット〕で工場出荷時の設定にリセットしてください（□284）。

●電波障害自主規制について

この装置は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
使用説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

VCCI-B

●AVC Patent Portfolio Licenseに関するお知らせ

本製品は、お客様が個人使用かつ非営利目的で次の行為を行うために使用される場合に限り、AVC Patent Portfolio Licenseに基づきライセンスされているものです。

- (i) AVC規格に従い動画をエンコードすること（以下、エンコードしたものをAVCビデオといいます）
- (ii) 個人利用かつ非営利目的の消費者によりエンコードされたAVCビデオ、またはAVCビデオを供給することについてライセンスを受けている供給者から入手したAVCビデオをデコードすること

上記以外の使用については、黙示のライセンスを含め、いかなるライセンスも許諾されていません。

詳細情報につきましては、MPEG LA, LLCから取得することができます。

<http://www.mpegla.com> をご参照ください。

✓ アクセサリーについての注意

このカメラには、当社製のアクセサリーをお使いいただくことをおすすめします。他社製アクセサリーは、カメラの故障や不具合の原因となることがあります。他社製アクセサリー使用によるカメラの不具合については、保証の対象となりませんので、ご了承ください。なお、このカメラに使用できる別売アクセサリーについての最新情報は、最新のカatalogや当社のホームページなどでご確認ください（□xxi）。

Wi-Fi（無線LAN）機能について

●電波に係わるご注意

- 本製品はWi-Fi（無線LAN）機能を搭載しています。国や地域によって、法律によりWi-Fi（無線LAN）機能が使用できない場合があります。ご購入された国以外での使用については、本書の裏表紙に記載のニコン カスタマーサポートセンターへお問い合わせください。

●Wi-Fi（無線LAN）機能のご注意

2.4	DS4 / OF4
-----	-----------

Wi-Fi（無線LAN）機能：2.4DS4/OF4

本製品の使用周波数は2.4 GHz 帯、変調方式はDSSS、OFDM、与干渉距離は約40 mです。

- 本製品は、「電波法」に基づく技術基準適合認証を受けた無線設備を内蔵し、証明ラベルは無線設備上に表示しています。

以下の行為は法令で罰せられることがあります。

- 本製品の分解/改造
- 本製品から証明ラベルをはがす
- 本製品の使用周波数帯は、以下の機器や無線設備と同じです。
 - 電子レンジなどの産業・科学・医療用機器
 - 工場の製造ライン等の移動体識別用の
 - ① 構内無線局（免許を要する無線局）
 - ② 特定小電力無線局（免許を要しない無線局）
 - アマチュア無線局（免許を要する無線局）

これらの無線設備の近くでは、電波干渉で通信速度の低下、通信距離の短縮、通信の途絶が双方に生じることがあります。

- 本製品で電波干渉を起こさないよう、以下にご注意ください。
 - 使用周波数帯が同じ無線設備が近くにないか、事前に確認する
 - 万一、本製品から移動体識別用の構内無線局に電波干渉を生じたら、Wi-Fiアクセスポイントのチャンネル番号を変更して使用周波数を変える
- その他、本製品から移動体識別用の特定小電力無線局あるいはアマチュア無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、本書の裏表紙に記載されているニコンカスタマーサポートセンターへお問い合わせください。
- データの送受信は、第三者に傍受される危険性にご留意ください。
データ送受信による情報漏洩には、当社は一切の責任を負いません。
- 本製品は、電子レンジなどの電気製品、AV機器、OA機器などの電磁波や磁気の発生源の周辺で使わないでください。
 - 雑音が増大したり、通信が途絶したりします。
 - AV機器、OA機器などの受信障害の原因になります。

●本製品の使用上のご注意

本製品は、Wi-Fi（無線LAN）機器としてお使いください。

Wi-Fi機器以外としての使用による損害は、当社では一切の責任を負いません。

- 医療機器や人命に直接的または間接的に係わるシステムなど、高い安全性が要求される用途には使わないでください。
- Wi-Fi機器よりも高い信頼性が要求される機器や電算機システムなどの用途では、使用システムの安全設計や故障に対する適切な処置をしてください。

●セキュリティについて

- 本製品は電波を利用して情報を交換するため、電波の届く範囲で自由に無線接続が可能であるという利点がありますが、セキュリティに関する設定を行っていない場合、以下のような問題が発生する可能性があります。
 - 情報の漏洩：悪意ある第三者が電波を故意に傍受し、ID やパスワードなどの個人情報情報が漏洩する可能性があります。
 - 不正アクセス：悪意ある第三者が無断でネットワークにアクセスして、なりすまし、情報の改ざんなどの行為を行う可能性があります。また、本製品にセキュリティを設定したにもかかわらず、無線LAN の仕様上、特殊な方法によりセキュリティが破られることもありますので、ご理解の上でご利用ください。
- セキュリティ設定は、専用ソフトウェア「Wireless Mobile Utility」(□279) を使って行うことができます。
- 液晶モニターやスマートデバイスに使用権限のないネットワークが表示されても、接続しようとししないでください。接続しようとする、不正アクセスとみなされるおそれがあります。使用権限のあるネットワークだけをお使いください。

●本製品の輸出、持ち出しに係わるご注意

本製品は、米国輸出規制（EAR）を含む米国法の対象であり、米国政府指定の輸出規制国（キューバ、イラン、北朝鮮、スーダン、シリア）への輸出や持ち出しには、米国政府の許可が必要になりますので、ご注意ください。なお、輸出規制国は変更されている可能性がありますので、詳しくは米国商務省へお問い合わせください。

●個人情報の管理および免責事項

- 使用者によって本製品内に登録または設定された、Wi-Fi（無線LAN）接続設定等の個人情報を含む情報は、誤操作、静電気の影響、事故、故障、修理、その他の取り扱いで変化、消失する場合があります。

必要な内容は、お客様の責任において控えを必ずおとりください。

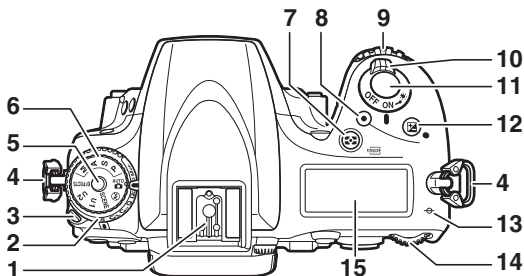
当社の責によらない内容の変化、消失、それらに起因する直接または間接の損害および逸失利益には、当社は一切の責任を負いません。

- 本製品を譲渡/ 廃棄するときは、使用者によって本製品内に登録または設定された、Wi-Fi接続設定等の個人情報を含む内容を、セットアップメニュー **[Wi-Fi]** → **[接続設定]** → **[接続設定のリセット]** で工場出荷時の設定にリセットしてください (□284)。
- 本製品の盗難や紛失などで、第三者による不正使用の被害が発生しても、当社は一切の責任を負いません。

お使いになる前に

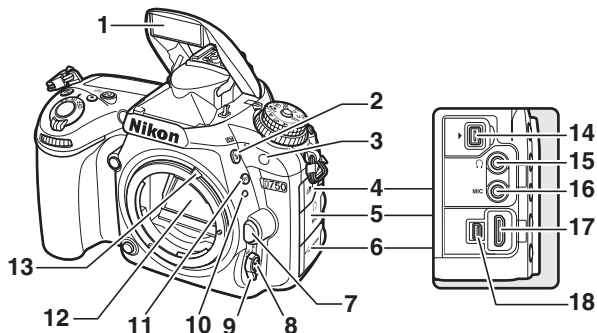
各部の名称と機能

カメラ本体



1	フラッシュ取り付け部 (アクセサリシュー)437	8	動画撮影ボタン68
2	レリーズモードダイヤル... 7、104	9	サブコマンドダイヤル 363
3	レリーズモードダイヤル ロックボタン7、104	10	電源スイッチ3、27
4	ストラップ取り付け部 (吊り金具)	11	シャッターボタン35
5	撮影モードダイヤルロック ボタン 6	12	☑ ボタン 露出補正 142 ツェーボタンリセット 200
6	撮影モードダイヤル 6	13	⊖ 距離基準マーク 131
7	☑ (AE-L/AF-L) ボタン 測光モード 138 フォーマット 376	14	メインコマンドダイヤル 363
		15	表示パネル 8

カメラ本体 (つづき)



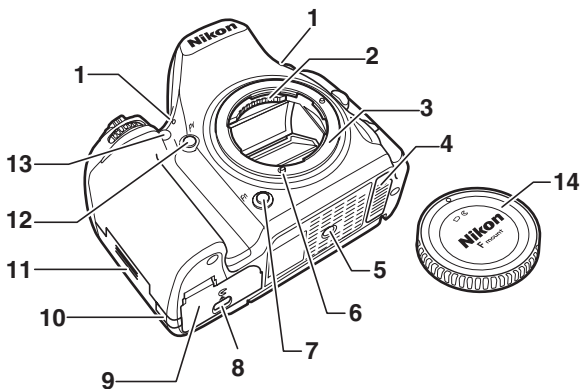
1	内蔵フラッシュ	181	9	フォーカスモードセレクター	57、119、130
2	⚡ (Fn) ボタン フラッシュモード	181	10	レンズ着脱指標	26
3	調光補正	189	11	BKT ボタン ブラケットिंग	204、208、211
4	リモコン受光部 (前面)	196	12	ミラー	108、455
5	アクセサリターミナルカバー	447	13	露出計連動レバー	485
6	ヘッドホン出力端子/ 外部マイク入力端子カバー	72、447	14	アクセサリターミナル	447
7	HDMI端子/ USB端子カバー	261、266、273	15	ヘッドホン出力端子	72
8	レンズ取り外しボタン	32	16	外部マイク入力端子	72、447
	AFモードボタン	57、59、120、123	17	HDMI端子	273
			18	USB端子 パソコンと接続する	261
				プリンターと接続する	266

✓ スピーカーについてのご注意

スピーカーに磁気カードなどの磁気製品を近づけると、記録内容が壊れることがあります。スピーカーに磁気製品を近づけないでください。

🔧 端子カバーについて

使用しない場合は、必ず端子カバーを閉じてください。ゴミなどが入ると、誤作動の原因となることがあります。

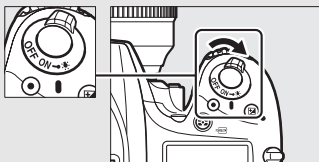


1	マイク（ステレオ）.....68、70	9	バッテリー室カバー.....25
2	レンズ信号接点	10	パワーコネクターカバー.....450
3	レンズマウント.....26、131	11	SDカードカバー.....25
4	MB-D16用接点カバー.....445	12	Pv ボタン プレビュー69、93、361、373
5	三脚ネジ穴	13	AF補助光ランプ.....330 セルフタイマーランプ.....106 赤目軽減ランプ.....182、184
6	AFカップリング	14	ボディーキャップ.....26、446
7	Fn ボタン ファンクション112、192、234、356、372		
8	バッテリー室開閉ノブ.....25		

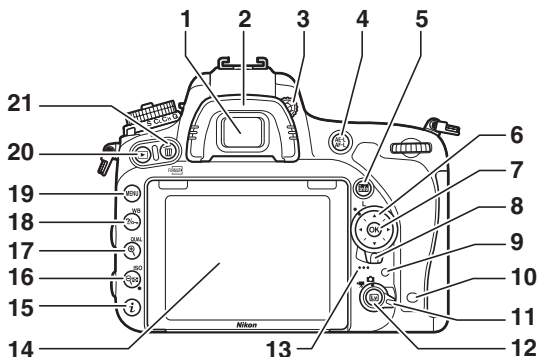
表示パネルのイルミネーター（照明）について

電源スイッチを☼マークの方向に回すと、表示パネルのイルミネーター（照明）が点灯します。電源スイッチから指を放すと、スイッチは「ON」の位置に戻り、イルミネーターは6秒間点灯し続けます。ただし、シャッターをきるか、もう一度☼マークの方向に回すと消灯します。

電源スイッチ



カメラ本体 (つづき)



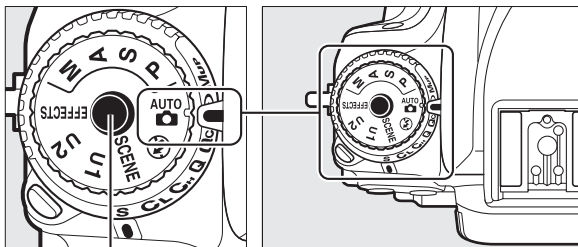
1	ファインダー接眼窓.....28	14	チルト式液晶モニター16 撮影時の設定を確認する12 ライブビューで撮影する...54、66 撮影した画像を確認する36 画像を1コマずつ再生する...237
2	接眼目当て107	15	i ボタン ファインダー撮影時の設定を 変更する199 静止画ライブビューの設定を 変更する61 動画ライブビューの設定を 変更する70 画像編集メニューを 表示する396
3	視度調節ダイヤル.....28	16	ISO ボタン 縮小/サムネイル表示...239、240 ISO感度.....132 感度自動制御135 ツールボタンリセット200
4	AE-L/AF-L ボタン AE/AFロック127、140、361、374		
5	Info ボタン インフォ画面12		
6	マルチセレクトター.....18、20		
7	OK ボタン.....20、354		
8	フォーカスポイントロック レバー125		
9	SDカードアクセスランプ...31、35		
10	リモコン受光部 (背面).....196		
11	ライブビューセレクトター 静止画ライブビュー54 動画ライブビュー66		
12	Live ボタン ライブビュー54、66		
13	スピーカー81		

17	🔍 (QUAL) ボタン 拡大表示 251 画質モード/ 画像サイズ 114、117	19	MENU ボタン メニュー 19、288
18	🔍 (WB) ボタン ヘルプ 20 プロテクト 253 ホワイトバランス 145、149、152	20	▶ ボタン 再生 36、237
		21	🗑 (FORMAT) ボタン 削除 37、254 フォーマット 376

撮影モードダイヤル

撮影モードダイヤルロックボタンを押しながら、撮影モードダイヤルを回すと、次の各モードに切り換えられます。

撮影モードダイヤル



撮影モードダイヤルロックボタン

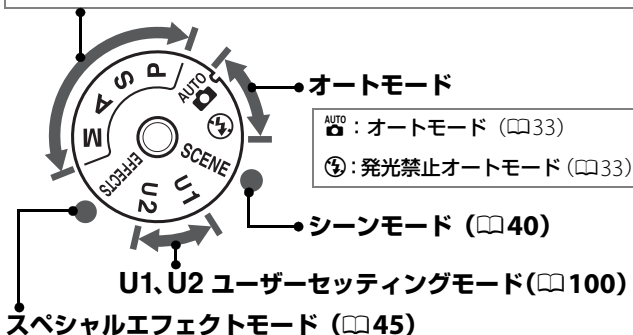
P、S、A、Mモード

P：プログラムオート (490)

A：絞り優先オート (492)

S：シャッター優先オート (491)

M：マニュアル (494)



オートモード

AUTO：オートモード (433)

⚡：発光禁止オートモード (433)

シーンモード (440)

U1、U2 ユーザーセッティングモード (4100)

スペシャルエフェクトモード (445)

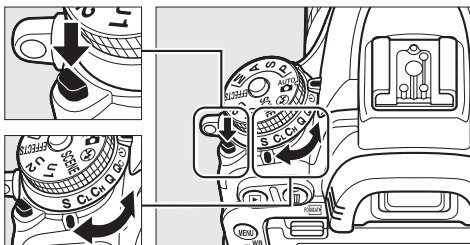
🔍 使用レンズについて

A、M以外の撮影モードで撮影するときは、CPUレンズ (4433) をお使いください。非CPUレンズ (4435) 装着時は、シャッターはきれません。

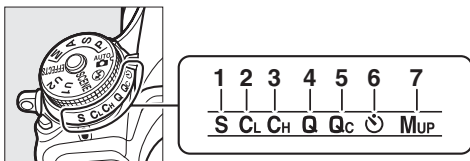
リリースモードダイヤル

リリースモードダイヤルロックボタンを押しながら、リリースモードダイヤルを回すと、リリースモードを切り換えられます。

リリースモードダイヤルロックボタン



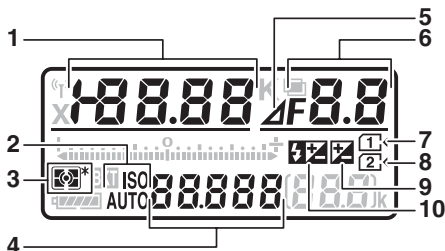
リリースモードダイヤル



1	S 1コマ撮影	104	6	🕒 セルフタイマー	
2	CL 低速連続撮影	104		撮影	104、106
3	CH 高速連続撮影	104	7	MUP ミラーアップ	
4	Q 静音撮影	104		撮影	104、108
5	Qc 静音連続撮影	104			

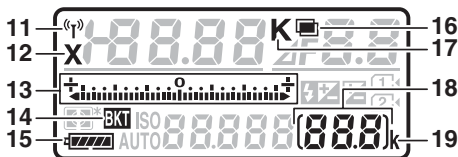
表示パネル

(説明のため、全ての表示を点灯させています)



1	シャッタースピード 91、94 露出補正值 142 調光補正量 189 ホワイトバランス微調整量 149 ホワイトバランス色温度 144、150 ホワイトバランスプリセット マニュアルデータ番号 155 オートブラケティング撮影 コマ数 204 WBブラケティング撮影コマ数 208 インターバル回数 223 非CPUレンズ焦点距離 234
2	ISO感度マーク 132 感度自動制御設定マーク 135
3	測光モード 137
4	ISO感度 132 AFモード 120

5	絞り込み段数マーク 93、435
6	絞り値 92、94 絞り込み段数 93、435 オートブラケティング補正 ステップ 205 WBブラケティング補正 ステップ 209 ADLブラケティング撮影 コマ数 211 インターバルタイマー撮影 コマ数 223 非CPUレンズ開放絞り値 234 PC接続中マーク 448
7	SDカードマーク (スロット1) 30、118
8	SDカードマーク (スロット2) 30、118
9	露出補正マーク 142
10	調光補正マーク 190



11	Wi-Fi通信表示	284	18	記録可能コマ数.....	30
12	フラッシュシンクロマーク	344		連続撮影可能コマ数	105、495
13	インジケーター			AFエリアモード.....	123
	露出	95		ホワイトバランスプリセット	
	露出補正.....	143		マニュアルデータ取得モード	155
	オートブラケティング.....	205		表示	230
	WBブラケティング.....	209		微速度撮影中マーク	234
	ADLブラケティング.....	213		手動設定レンズNo.....	448
14	オートブラケティングマーク	204、208、211		PCカメラモード表示.....	275
15	バッテリー残量表示	29	19	HDMI-CEC接続中マーク	30
16	多重露出マーク	216		1000コマ以上補助表示.....	
17	ホワイトバランス色温度表示	150			

電源OFF時のパネル表示について

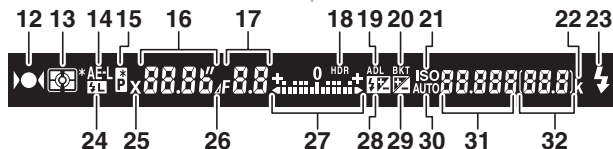
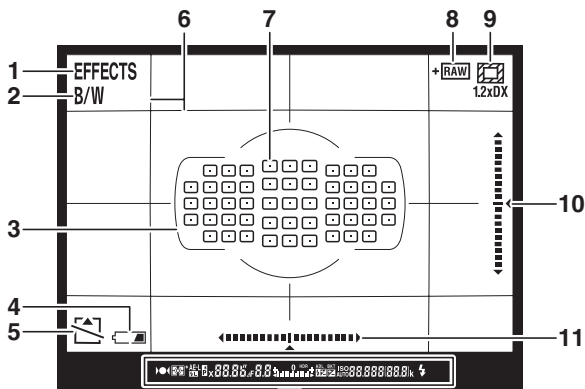
バッテリーが入っていると、カメラの電源がOFFのときも、表示パネルのSDカードマークと記録可能コマ数が点灯します。SDカードの種類によっては、電源がOFFのときにSDカードを挿入しても、まれにSDカードマークと記録可能コマ数が点灯しないことがあります。この場合、カメラの電源をONにすると点灯します。



表示パネル

ファインダー

(説明のため、全ての表示を点灯させています)



1	スペシャルエフェクトモード マーク 45	6	構図用格子線 339 (カスタムメニュー d7 [ファ インダー内格子線表示] を [する] に設定している場合 のみ表示されます)
2	白黒マーク 46、164 (撮影モードが [] の場合、ピ クチャーコントロールが [モ ノクローム] の場合または [モノクローム] を元にした カスタムピクチャーコント ロールの場合にのみ表示され ます)	7	フォーカスポイント表示 125、327 AFエリアモード表示 121
3	AFエリアフレーム 28、34	8	プラスRAW記録マーク 357
4	バッテリー警告表示 29	9	撮像範囲表示 110
5	カードなしマーク 478	10	縦位置撮影時の水準器 (ローリ ング方向) 359
		11	横位置撮影時の水準器 (ローリ ング方向) 359

12	ピント表示.....35、131	25	フラッシュシンクロマーク 344
13	測光モード..... 137	26	絞り込み段数マーク..... 93、435
14	AEロックマーク..... 140	27	インジケーター 露出.....95
15	プログラムシフトマーク..... 90		露出補正..... 142
16	シャッタースピード.....91、94	28	調光補正マーク..... 190
	AFモード..... 120	29	露出補正マーク..... 143
17	絞り値.....92、94	30	感度自動制御設定マーク..... 135
	絞り込み段数.....93、435	31	ISO感度..... 132
18	HDRマーク..... 178		AFエリアモード..... 121
19	アクティブD-ライティング マーク..... 176	32	記録可能コマ数.....30
20	オートブラケティングマーク 204		連続撮影可能コマ数 105、495
	WBブラケティングマーク...208		ホワイトバランスプリセット マニュアルデータ取得モード 表示..... 155
	ADLブラケティングマーク...211		露出補正值..... 142
21	ISO感度マーク..... 132		調光補正量..... 189
22	1000コマ以上補助表示..... 30		
23	レディーライト..... 39		
24	FVロックマーク..... 192		

✓ ファインダーについてのご注意

カメラにバッテリーが入っていない、またはバッテリー残量がない状態では、ファインダー内が暗くなります。充電したバッテリーを入れると明るくなります。

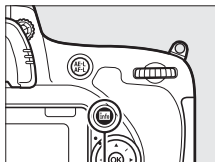
✓ 高温、低温下での液晶表示について

表示パネルやファインダーの液晶表示は、高温・低温下で色の濃さが変わったり、低温下で応答速度が多少遅くなることがありますが、常温時には正常に戻ります。

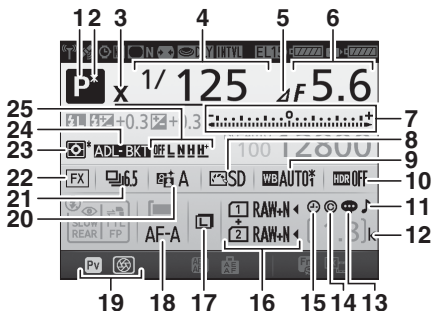
インフォ画面

(説明のため、全ての表示を点灯させています)

info ボタンを押すと、液晶モニターに「インフォ画面」が表示されます。シャッタースピードや絞り値、記録可能コマ数、AFエリアモードなど、撮影に関する情報や設定の確認ができます。



info ボタン



1	撮影モード.....33、40、45、89	6	絞り値.....92、94 絞り込み段数.....93、435 オートブラケティング補正 ステップ.....205 WBブラケティング補正 ステップ.....209 ADLブラケティング撮影コマ数211 非CPUレンズ開放絞り値.....234
2	プログラムシフトマーク.....90	7	インジケータ 露出.....95 露出補正.....142 オートブラケティング.....204 WBブラケティング.....208
3	フラッシュシンクロマーク.....344		
4	シャッタースピード.....91、94 オートブラケティング撮影 コマ数.....204 WBブラケティング撮影コマ数208 非CPUレンズ焦点距離.....234		
5	絞り込み段数マーク.....93、435		

8	ピクチャーコントロールマーク 165	17	画像サイズ..... 117
9	ホワイトバランスモード..... 145 ホワイトバランス微調整設定 マーク..... 149	18	AFモード..... 120
10	HDRマーク..... 177 HDR強度..... 179 多重露出マーク..... 216	19	レビューボタンの機能表示...361
11	電子音マーク..... 337	20	アクティブD-ライティング マーク..... 176
12	1000コマ以上補助表示..... 30	21	リリースモード..... 104 連続撮影速度..... 105
13	画像コメント入力設定マーク...385	22	撮像範囲表示..... 109
14	著作権情報設定マーク..... 386	23	測光モード..... 137
15	Ⓢマーク..... 382	24	オートブラケティングマーク...204 WBブラケティングマーク.....208 ADLブラケティングマーク.....211
16	画質モード..... 114 スロット2の機能..... 118	25	ADLブラケティング度合い表示211

インフォ画面を消灯するには

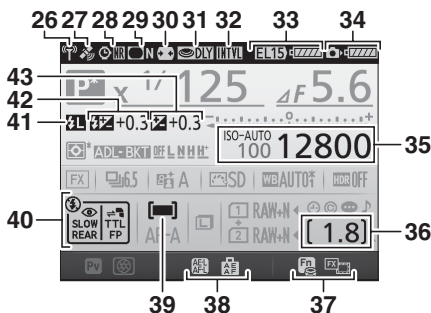
- シャッターボタンを半押しする
- インフォ画面の表示中に、**Info** ボタンを押す

操作を行わないまま約10秒経過したときも、インフォ画面は消灯します。

Ⓢマークについて

インフォ画面でⓈが点滅している場合、カメラの内蔵時計が初期化されています。その場合は撮影日時が正しく記録されないため、セットアップメニュー **【地域と日時】** (□382) の **【日時の設定】** で日時設定をしてください。カメラの内蔵時計は、バッテリーとは別の時計用電池で作動します。カメラにバッテリーを入れるか、別売のパワーコネクターとACアダプターを接続すると (□445)、時計用電池が充電されます。フル充電するには約2日間かかります。充電すると、約3カ月の間時計を動かすことができます。

インフォ画面 (つづき)



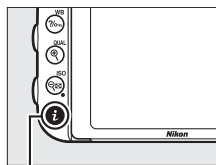
26	Wi-Fi通信マーク.....	284	35	ISO感度マーク.....	132
	Eye-Fi通信マーク.....	393		ISO感度.....	132
27	衛星受信状態マーク.....	236		感度自動制御設定マーク.....	135
28	長秒時ノイズ低減マーク.....	315	36	記録可能コマ数.....	30
29	ヴェネットコントロール.....	313		微速度撮影中マーク.....	230
30	自動ゆがみ補正.....	314	37	Fn ボタンの機能表示.....	356
31	露出デレモード.....	338	38	AE/AFロックボタンの機能表示	361
32	インターバルタイマー設定 マーク.....	221	39	AFエリアモード表示.....	123
	微速度撮影設定マーク.....	227	40	フラッシュモード.....	181
	リモコンモード (ML-L3).....	194	41	FVロックマーク.....	192
33	MB-D16のバッテリー種別表示	343	42	調光補正マーク.....	189
	MB-D16のバッテリー残量表示	342		調光補正量.....	189
34	カメラのバッテリー残量表示 ...	29	43	露出補正マーク.....	142
				露出補正值.....	142

関連ページ

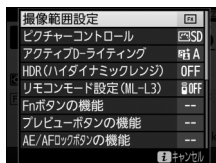
- 液晶モニターの点灯時間を変更する → c4 [モニターのパワーオフ時間] (□335)
- インフォ画面の表示を手動で白黒反転する → d9 [インフォ画面の表示設定] (□340)

iボタン

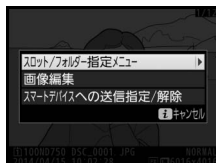
ファインダー撮影時 (□199)、静止画ライブビュー時 (□61)、動画ライブビュー時 (□70) または再生時 (□241) に、それぞれのシーンで便利な機能に簡単にアクセスできます。



iボタン



ファインダー撮影時



再生時



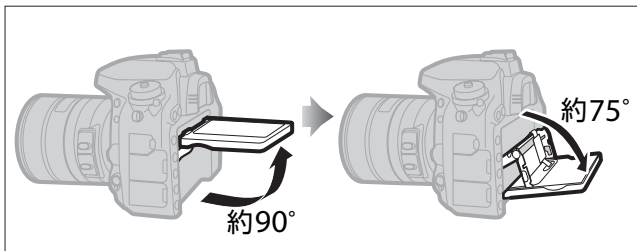
静止画ライブビュー
撮影時



動画ライブビュー撮影時

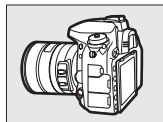
チルト式液晶モニター

このカメラの液晶モニターは、角度を変えて使えます。



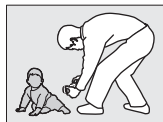
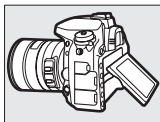
通常の撮影

通常の撮影では、モニターを収納している状態でお使いください。



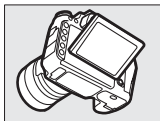
ローアングル撮影

カメラを低い位置に構えて撮影できます。



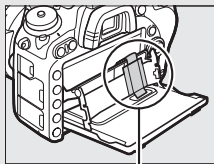
ハイアングル撮影

カメラを高い位置に構えて撮影できます。



▼ チルト式液晶モニター取り扱い上のご注意

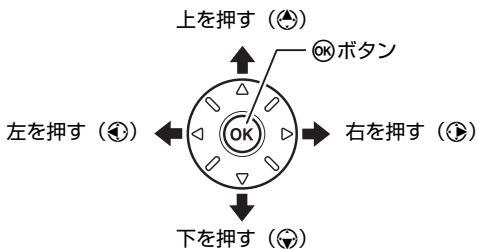
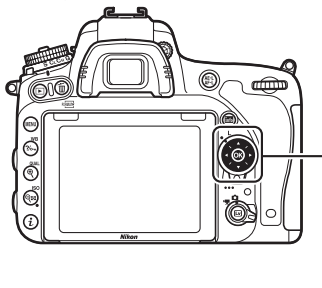
- 液晶モニターの角度を変える場合は、可動範囲内でゆっくりと動かしてください。無理な力がかかると、カメラ本体や液晶モニターの破損の原因となります。
- 液晶モニターの内側には触れないでください。故障の原因となります。
- 液晶モニターの内側に水などの液体がかからないようにご注意ください。故障の原因となります。
- 撮影時以外は、液晶モニターをカメラ本体に収納することをおすすめします。
- 液晶モニター部分を掴んで、カメラを持ち上げたりしないでください。カメラが破損することがあります。
- 三脚使用时には、液晶モニターが三脚に接触しないように注意しながら角度を変えてください。



特にこの部分には触れないでください。

マルチセレクターの使い方

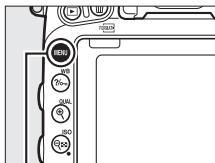
マルチセレクターは、上下左右を押したり、**OK** ボタンを押して操作します。この説明書では、マルチセレクターを上下左右に押す動作を     で表しています。



メニューの操作方法

撮影や再生、カメラの基本的な設定をするときは、主にメニューを使います。

MENUボタンを押すと、液晶モニターに次のようなメニュー画面（例：セットアップメニュー）を表示します。



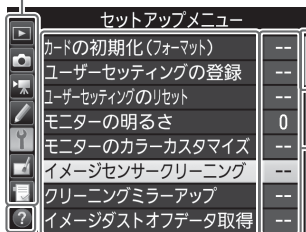
MENU ボタン

メニュー切り換えタブ

次の各メニューのアイコンのタブを選ぶと、選んだメニュー画面が表示されます

- | | |
|--|-----------------------------------|
| | 再生メニュー (冊297) |
| | 静止画撮影メニュー (冊308) |
| | 動画撮影メニュー (冊316) |
| | カスタムメニュー (冊322) |
| | セットアップメニュー (冊375) |
| | 画像編集メニュー (冊395) |
| | マイメニュー (冊424) / 最近設定した項目 (冊429) ※ |

※ どちらかに設定できます。初期設定は「マイメニュー」です。



項目がそのメニュー全体のどの位置にあるかを示しています

各項目の設定をアイコンで表示します

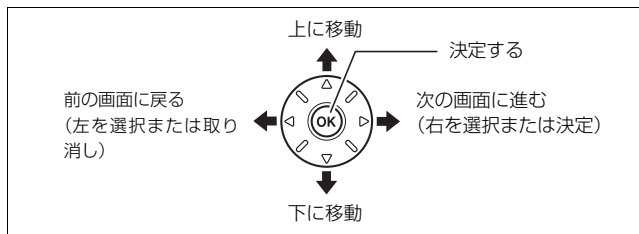
メニュー項目

タブで選んだメニュー内にある設定項目を一覧表示します

ヘルプあり表示 (冊20)

メニュー項目の設定

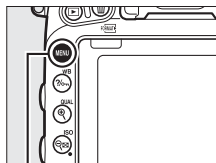
メニューの操作には、マルチセクターとOKボタンを使います。



■ メニュー項目の設定方法

1 メニュー画面を表示する

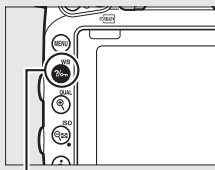
- MENU ボタンを押します。



② (ヘルプあり表示)

ヘルプがある場合に **WB** ボタンを押すと、その項目のヘルプ (説明) を表示します。

- 説明が2ページ以上ある場合は、**WB** ボタンを押しながらマルチセクターの **OK** を押して、次のページを表示してください。
- **WB** ボタンを放すと、メニュー画面に戻ります。

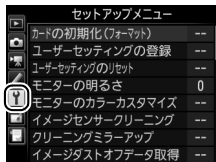


? 多重露出

[コマ数]で設定した回数、撮影した画像を合成して1枚の画像として記録できます。
半押しタイマーの作動時間は自動的に30秒延長されます。
撮影途中で半押しタイマーがオフになると、多重露出は解除され、それまでに撮影した画像で合成して記録

2 メニューのタブを選ぶ

- ①を押して、タブのアイコンを黄色く表示します。



3 メニューを切り換える

- ②または③を押して、メニューのタブを切り換えます。



4 選んだメニューに入る

- ④を押して、選んだメニューに入ります。



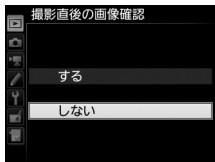
5 メニュー項目を選ぶ

- ⑤または⑥で項目を選びます。



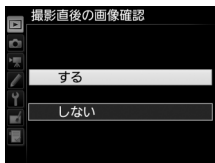
6 設定内容を表示する

- を押して設定内容を表示します。



7 設定内容を選ぶ

- またはで設定内容を選びます。



8 決定する

- ボタンを押して決定します。
- メニュー操作をキャンセル（中止）するには、**MENU**ボタンを押してください。
- メニュー画面から撮影に戻るには、シャッターボタンを半押ししてください。



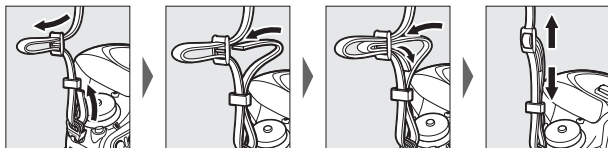
▼ メニュー項目の設定について

- 撮影モードやカメラの状態によって、設定できないメニュー項目があります。この場合、その項目はグレーで表示されて選べません。
- ボタンの代わりにを押しても決定できますが、画像の削除やSDカードの初期化などの重要な設定項目については、ボタンしか使えないことがあります。

撮影前の準備

次の1～7の手順で撮影前の準備を行ってください。

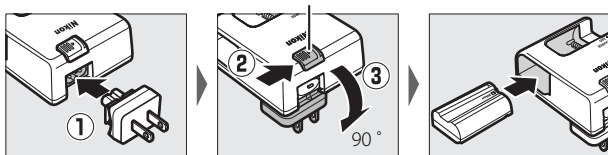
1 カメラにストラップを取り付ける (2カ所)



2 バッテリーをバッテリーチャージャーで充電する

- 電源プラグ (直付け型) を取り付けた後 (①)、電源プラグ (直付け型) 回転ロックを矢印の方向にスライドさせながら (②)、電源プラグ (直付け型) を90° 回転させ、しっかりと固定させます (③)。

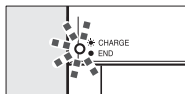
電源プラグ (直付け型)
回転ロック



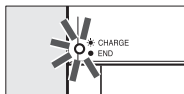
✓ バッテリーとチャージャーの使用上のご注意

お使いになる前に、必ず「安全上のご注意」(□xiv～xx)、「カメラとバッテリーの取り扱い上のご注意」(□458～462)をお読みになり、記載事項をお守りください。

- フル充電するには約2時間35分かかります（残量の少ないバッテリーの場合）。



充電中
(点滅)



充電完了
(点灯)

▼ チャージャーの「CHARGE」ランプが速く（1秒間に8回）点滅する場合

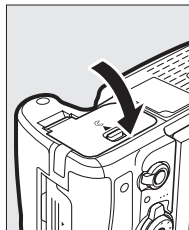
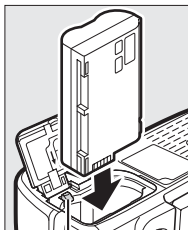
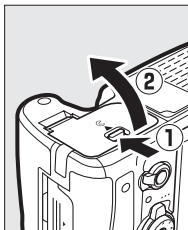
- バッテリーのセットミス：電源プラグをコンセントから抜いて、バッテリーを取り外し、チャージャーにセットし直してください。
- 指定温度外での使用：チャージャーを指定温度範囲内（0℃ ～ 40℃）でお使いください。
- 上記の処置をしても不具合が続く場合は、ただちに電源プラグをコンセントから抜いて、充電を中止してください。販売店またはニコンサービス機関にチャージャーおよびバッテリーをお持ちください。

▼ 付属の電源プラグ（直付け型）についてのご注意

付属の電源プラグ（直付け型）は、バッテリーチャージャー MH-25a以外の機器に接続しないでください。この電源プラグ（直付け型）は、日本国内専用（AC 100V対応）です。海外でお使いになる場合は、別売の専用コードが必要です。別売の電源コードについては、ニコンサービス機関にお問い合わせください。また、オンラインショップ（ニコンダイレクト）
<http://shop.nikon-image.com/> でもお求めいただけます。

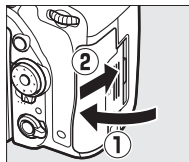
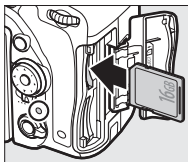
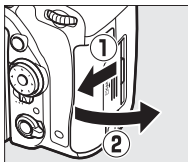
3 カメラにバッテリーとSDカードを入れる

- バッテリーやSDカードをカメラに入れたり、カメラから取り出したりするときは、必ずカメラの電源スイッチがOFFの位置にあることを確認してください。
- バッテリーとSDカードは、図のように正しい向きで入れてください。
- オレンジ色のバッテリーロックレバーをバッテリー側面で押しながら、バッテリーを奥まで入れると、バッテリーロックレバーがバッテリーに掛かって固定されます。



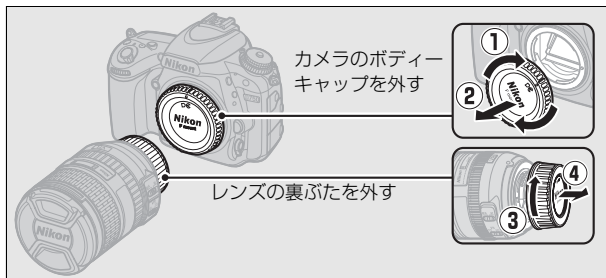
バッテリーロックレバー

- SDカードは、カチッと音がするまで挿入してください。
- SDカードを1枚だけ使用するときは、スロット1に入れてください (30)。



4 レンズを取り付ける

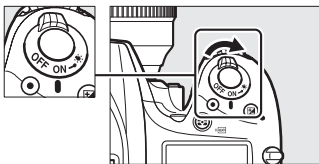
- この使用説明書では、主にAF-S NIKKOR 24-85mm f/3.5-4.5G ED VRのレンズを使用して説明しています。
- ほこりなどがカメラ内部に入らないように注意してください。



- 撮影する前に、レンズキャップを取り外してください。

5 カメラの電源をONにする

電源スイッチ



- 表示パネルが点灯します。



表示パネル

6 日付と時刻を設定する

- ご購入後、初めて電源をONにすると、カメラの内蔵時計の日付と時刻を設定する画面が表示されます。日時の設定が完了するまで、撮影や他の設定はできません。
- マルチセクターの $\odot$ または $\odot$ を押して、選択中の項目の数値を合わせ、 $\odot$ または $\odot$ で項目を移動します。
- 日付と時刻の設定を完了したら、 $\odot$ ボタンを押します。
- 設定した日付と時刻は、セットアップメニュー「地域と日時」(□382) の「日時の設定」で変更できます。

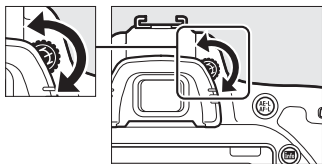


イメージセンサークリーニングについて

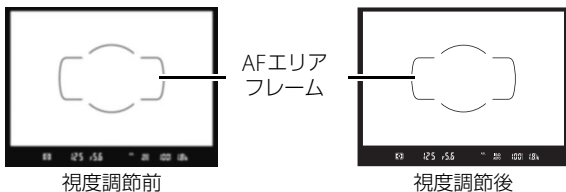
カメラの電源をON/OFFするたびに、撮像素子の前面にあるローパスフィルターを振動させてゴミをふるい落とすイメージセンサークリーニングが作動します (□454)。

7 ファインダーを見やすくする

- ファインダーで構図を決めながら撮影する場合は、あらかじめ、ファインダー内がはっきり見えるように視度調節ダイヤルを回して調節してください。



- ファインダーをのぞきながら視度調節ダイヤルを回して、AFエリアアフレームが最もはっきり見えるように調節してください。



- 爪や指先で目を傷つけないようにご注意ください。

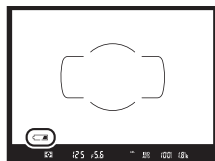
撮影前の準備が完了しました。すぐに撮影する場合は、□33へ進みます。

■■ バッテリーの残量について

表示パネルまたはファインダーで、バッテリーの残量を確認できます。



表示パネル



ファインダー

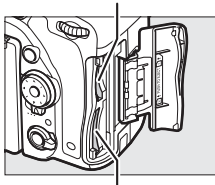
表示パネル	ファインダー	意味
	—	残量は充分に残っています。
	—	残量が減り始めました。
	—	
	—	
		残量は残りわずかです。予備のバッテリーを準備するか、バッテリーを充電してください。
 (点滅)	 (点滅)	バッテリーが消耗して撮影できません。バッテリーを交換するか、バッテリーを充電してください。

■ SDカード表示と記録可能コマ数について

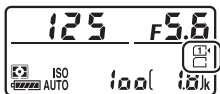
このカメラは、スロット1とスロット2のSDカードスロットを装備しており、2枚のSDカードを使用することができます。

- スロット1とスロット2の両方にSDカードを入れると、スロット1から優先的に記録し、空き容量がなくなったら、記録先をスロット2に変更します（[スロット2の機能]（□118）が初期設定の[順次記録]のとき）。撮影で主に使いたいSDカードは、スロット1に入れてください。
- 表示パネルとインフォ画面には、使用中のスロットが右図のように表示されます（例：スロット1とスロット2の両方にSDカードが入っている場合）。
- SDカードの残量がなくなった場合やSDカードがロックされている場合など、何らかのエラーが発生しているときは、エラーが発生しているSDカードのアイコンが点滅します（□477）。
- 表示パネルまたはファインダー内表示で、SDカードの記録可能コマ数（これから撮影できる枚数）を確認できます。
- カメラにSDカードが2枚入っている場合、スロット1の記録可能コマ数が表示されます。
- 記録可能コマ数が1000コマ以上あるときは、1000を意味する「k」マークが点灯します。

スロット1



スロット2



表示パネル

記録可能コマ数



表示パネル

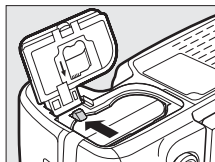


ファインダー内表示

■■ バッテリーとSDカードの取り出し方

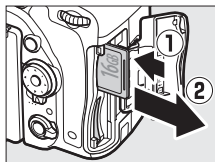
バッテリーを取り出すには

電源をOFFにしてからバッテリー室カバーを開けてください。バッテリーロックレバーを矢印の方向に押すと、バッテリーが少し飛び出します。引き抜いて取り出してください。



SDカードを取り出すには

SDカードカバーを開ける前に、SDカードアクセスランプの消灯を確認して、電源をOFFにしてください。SDカードカバーを開けて、SDカードを奥に押し込んで放すと(①)、カードが押し出されるので、引き抜いて取り出してください(②)。

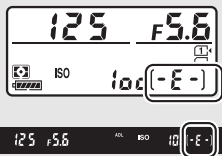


✓ SDカード取り扱い上のご注意

- カメラの使用後はSDカードが熱くなっていることがあります。取り出しの際はご注意ください。
- SDカードの初期化中や画像の記録または削除中、パソコンとの通信時などには、次の操作をしないでください。記録されているデータの破損やSDカードの故障の原因となります。
 - SDカードの着脱をしないでください
 - カメラの電源をOFFにしないでください
 - バッテリーを取り出さないでください
 - ACアダプターを抜かないでください
- 端子部に手や金属で触れないでください。
- SDカードに無理な力を加えないでください。破損のおそれがあります。
- 曲げたり、落としたり、衝撃を与えたりしないでください。
- 熱、水分、直射日光を避けてください。
- パソコンで初期化しないでください。

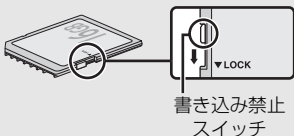
SDカードが入っていないときの表示について

SDカードが入っていないときは、表示パネルとファインダー内表示の記録可能コマ数表示部に「-E-」マークが表示されます。電源をOFFにしても、バッテリー残量があるときは、表示パネルの「-E-」マークが点灯します。



SDカードの書き込み禁止スイッチについて

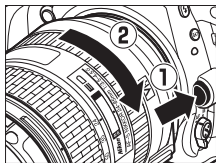
- SDカードには、書き込み禁止スイッチが付いています。このスイッチを「LOCK」の位置にすると、データの書き込みや削除が禁止され、カード内の画像を保護できます。
- 「LOCK」したSDカードをカメラに入れてシャッターをきろうとすると、警告メッセージが表示され、撮影できません。撮影時や、画像を削除するときは「LOCK」を解除してください。



■ レンズの取り外し方

カメラの電源をOFFにしてから、カメラ前面のレンズ取り外しボタンを押しながら①、レンズを矢印の方向にいっぱいまで回し②、引き抜いてください。

- レンズを取り外した後は、カメラのボディーキャップとレンズの裏ぶたをそれぞれ取り付けてください。



絞りリングのあるCPUレンズについてのご注意

絞りリングのあるCPUレンズ（□433）を取り付ける場合は、最小絞り（最大値）にして、ロックしてください。

かんたんな撮影と再生

かんたんに静止画を撮影する

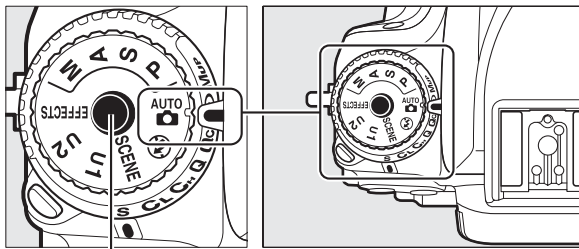
( オート/ 発光禁止オート)

撮影モード^{AUTO} (オート)と[ⓧ] (発光禁止オート)を使うと、カメラまかせの簡単な操作で静止画撮影を楽しむことができます。^{AUTO}の場合は、必要に応じてフラッシュが発光します。フラッシュを光らせずに撮影したいときは、[ⓧ]で撮影してください。



カメラの電源をONにして、カメラ上面の撮影モードダイヤルロックボタンを押しながら、撮影モードダイヤルを回して^{AUTO}または[ⓧ]に合わせます。

撮影モードダイヤル



撮影モードダイヤルロックボタン

1 カメラを構える

- 脇を軽く締め、右手でカメラのグリップを包み込むようにしっかりと持ち、左手でレンズを支えます。

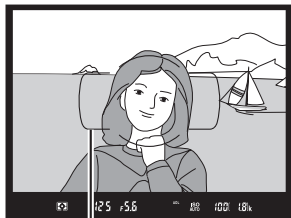


- 人物などを縦位置で撮影する場合は、カメラを縦位置に構えます。



2 構図を決める

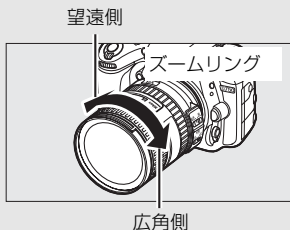
- ファインダーをのぞいて、構図を決めてください。
- 被写体をAFエリアフレーム内に配置します。



AFエリアフレーム

ズームレンズの使い方

被写体を大きく写したいときはズームリングを望遠側（焦点距離目盛の大きい数値側）に、広い範囲を写したいときはズームリングを広角側（焦点距離目盛の小さい数値側）に回してください。



3 シャッターボタン を軽く押して（半 押しして）、ピン トを合わせる

- 暗い場所などでは、AF補助光が光ったり内蔵フラッシュが上がる場合があります。



ピント表示

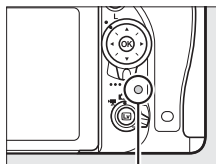
- ピントが合うと、ファインダー内のピント表示（●）が点灯します。

ファインダー内 ピント表示	意味
● （点灯）	被写体にピントが合っています。
▶ （点灯）	目的の被写体よりも手前にピントが合っています。
◀ （点灯）	目的の被写体よりも後方にピントが合っています。
▶ ◀ （点滅）	オートフォーカスでのピント合わせができません（「オートフォーカスの苦手な被写体について」（□□129）をご覧ください）。

- ピントが合った位置には、フォーカスポイントが表示されます。

4 シャッターボタンを半押ししたまま、さらに深く押し込んで（全押しして）撮影する

- SDカードアクセスランプが点灯している間は、画像を記録しています。SDカードやバッテリーを取り出さないでください。

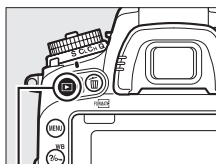


SDカード
アクセスランプ

撮影した画像を確認する

1 再生ボタンを押す

- 撮影した画像をカメラ背面の液晶モニターに表示します。



▶ ボタン

- 表示中の画像がどちらのスロットのSDカードに入っているかは、画像の左下のSDカードマークで確認できます。



2 マルチセレクターの⬅ または ➡ を押して他の画像を確認する



- 撮影に戻るには、シャッターボタンを半押ししてください。

✍ 撮影直後の画像確認について

再生メニューの「撮影直後の画像確認」(□305)を「する」に設定すると、▶ ボタンを押さなくても、撮影した画像を自動的に液晶モニターに表示します。

✍ 関連ページ

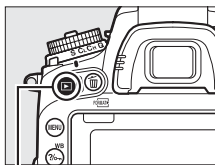
画像を表示するスロットを切り換える→「i ボタンを使う」(□241)

画像を削除する

表示中の画像を削除します。削除した画像は元には戻せないものでご注意ください。

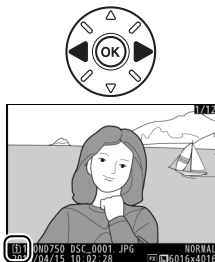
1 削除したい画像を表示する

- ▶ ボタンを押して液晶モニターに画像を表示してから、マルチセクターの◀▶ または▶ で削除したい画像を選びます。



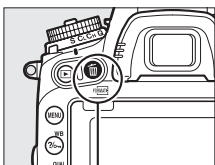
▶ ボタン

- 削除する画像がどちらのスロットのSDカードに入っているかは、画像の左下のSDカードマークで確認できます。



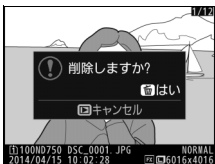
2 画像を削除する

- ⌫ (FORMAT) ボタンを押すと、削除確認画面が表示されます。もう一度⌫ (FORMAT) ボタンを押すと、表示中の画像を削除して、再生画面に戻ります。



⌫ (FORMAT) ボタン

- 削除確認画面で▶ ボタンを押すと、画像の削除をキャンセルします。



▼ 再生メニュー [削除]

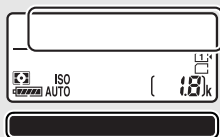
再生メニューの [削除] (□255) では、次の操作ができます。

- 複数の画像を選んで削除
- 同じ日付の画像をまとめて削除
- 再生フォルダー内の全画像を一括して削除

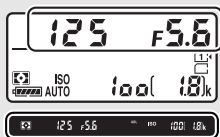
また、SDカードを2枚使っているときは、全画像を削除するSDカードスロットを指定できます。

🔍 ファインダー撮影時の半押しタイマーについて

このカメラには、バッテリーの消耗を抑えるための「半押しタイマー」という機能があります。半押しタイマーは、シャッターボタンを半押しするとオンになり、何も操作が行われないまま約6秒経過すると、オフになります。半押しタイマーがオフになると、表示パネルのシャッタースピード、絞り値表示とファインダー内の全ての表示が消灯します。もう一度シャッターボタンを半押しすると、半押しタイマーがオンになり、元の状態に戻ります。半押しタイマーの作動時間は、カスタムメニュー c2 [半押しタイマー] (□334) で変更できます。



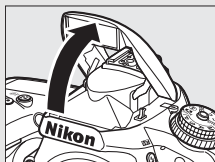
半押しタイマーオフ



半押しタイマーオン

内蔵フラッシュについて

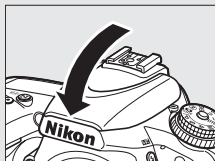
撮影モード $\square$ では、被写体が暗い場合や逆光の場合に、シャッターボタンを半押しすると自動的に内蔵フラッシュが上がります。



ファインダー内に $\blacksquare$ （レディーライト）が点灯しているときは、シャッターボタンを全押しすると、内蔵フラッシュが発光します。内蔵フラッシュが上がっている状態で $\blacksquare$ が点灯していないときは、フラッシュが充電中のため、撮影できません。



内蔵フラッシュを収納するときは、カチッと音がするまで手で軽く押し下げます。バッテリーの消耗を防ぐため、使用しないときは常に収納してください。



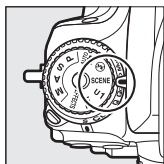
シーンに合わせて撮影する

(簡単操作でより美しく)

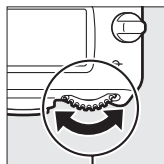
撮影するシーンが決まっているときは、シーンに合わせてシーンモードを選ぶだけで、美しく撮影できます。シーンモードを選ぶ以外は、**AUTO**と同じ操作で撮影できます。

■ シーンモードの設定方法

撮影モードダイヤルを**SCENE**に合わせた後、メインコマンドダイヤルを回して設定を変更します。



撮影モード
ダイヤル



メインコマンド
ダイヤル



液晶モニター

- 現在選択されているシーンモードは、**Info** ボタンを押して確認できます。
- 次のシーンモードから設定できます。



ポートレート



風景



こどもスナップ



スポーツ



クローズアップ



夜景ポートレート



夜景



パーティー



海・雪



夕焼け



トワイライト



ペット



キャンドルライト



桜



紅葉



料理

■ 各シーンモードの特徴

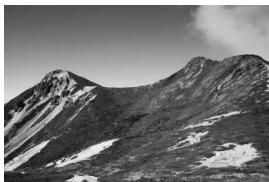
(ポートレート)



人物を美しく撮影したいときに使います。人物の肌を滑らかで自然な感じに仕上げます。

- 被写体と背景が離れているときや、望遠レンズを使って撮影したときは、背景がぼけて立体感のある画像になります。

(風景)



自然の風景や街並みを、色鮮やかに撮影したいときに使います。

ご注意

- 内蔵フラッシュとAF補助光は発光しません。

(こどもスナップ)



子供の撮影に向いています。肌の色を美しく表現すると同時に、服装や背景も鮮やかに仕上げます。

(スポーツ)



運動会などスポーツ写真の撮影に向いています。動きのある被写体の一瞬の動きを鮮明にとらえ、躍動感のある画像に仕上げます。

ご注意

- 内蔵フラッシュとAF補助光は発光しません。

(クローズアップ)



草花や昆虫などの小さな被写体に近づき、大きく写したいときに使います。

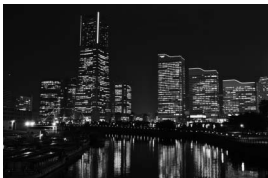
- マイクロレンズを使用すると、より被写体に近づいて撮影することができます。

(夜景ポートレート)



夕景や夜景をバックに、人物を撮影したいときに使います。人物と背景の両方を美しく表現します。

(夜景)



夜景の撮影に適しています。ノイズや不自然な発色を抑え、外灯やネオンなどの光を鮮やかにして夜景の雰囲気表現します。

ご注意

- 内蔵フラッシュとAF補助光は発光しません。

(パーティー)



パーティーなどでの撮影に適しています。パーティー会場の光の雰囲気も表現します。

(海・雪)



晴天の海や湖、砂浜、雪景色などの撮影に適しています。

ご注意

- 内蔵フラッシュとAF補助光は発光しません。

(夕焼け)

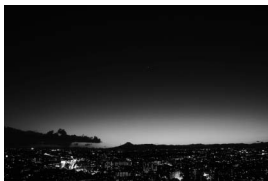


夕焼けや朝焼けの撮影に適しています。

ご注意

- 内蔵フラッシュとAF補助光は発光しません。

(トワイライト)



夜明け前や日没後の風景の撮影に適しています。わずかな自然光での風景をきれいに表現します。

ご注意

- 内蔵フラッシュとAF補助光は発光しません。

(ペット)



動き回るペットなどの撮影に適しています。

ご注意

- AF補助光は照射しません。

🕯 (キャンドルライト)



キャンドルライトでの撮影に適しています。

✔ ご注意

- 内蔵フラッシュは発光しません。

🌸 (桜)



桜、花畑などの花がたくさん咲いている風景の撮影に適しています。

✔ ご注意

- 内蔵フラッシュは発光しません。

🍁 (紅葉)



紅葉の撮影に適しています。紅葉の赤色や黄色を鮮やかに表現します。

✔ ご注意

- 内蔵フラッシュは発光しません。

🍴 (料理)



料理の撮影に適しています。料理を鮮やかに表現します。

✔ ご注意

- ⚡ (🔧) ボタンを押して内蔵フラッシュを上げて、フラッシュ撮影することもできます (□183)。

📷 三脚の使用について

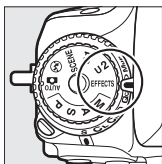
暗いときや手ブレが気になるときは、三脚の使用をおすすめします。

特殊効果をつけて撮影する (スペシャルエフェクトモード)

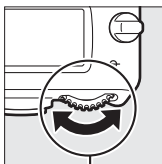
特殊な効果のついた画像を撮影できます。

■■ スペシャルエフェクトモードの設定方法

撮影モードダイヤルを**EFFECTS**に合わせた後、メインコマンドダイヤルを回して設定を変更します。



撮影モード
ダイヤル



メインコマンド
ダイヤル



液晶モニター

- 現在選択されているスペシャルエフェクトモードは、**info** ボタンを押して確認できます。
- 次のスペシャルエフェクトモードから設定できます。



ナイトビジョン



カラースケッチ



ミニチュア効果



セレクトカラー



シルエット



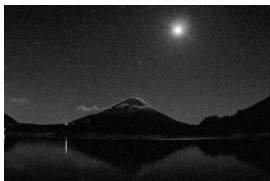
ハイキー



ローキー

■各スペシャルエフェクトモードの特徴

(ナイトビジョン)



意図的に高感度で撮影して、モノトーン（白黒）で表現します。暗闇での撮影に適しています。

ご注意

- オートフォーカスでピントが合いにくい場合は、フォーカスモードセレクトターを **M** に合わせて、マニュアルフォーカスで撮影してください。
 - 撮影した画像にノイズ（ざらつき、むら、すじ）が発生する場合があります。
 - 内蔵フラッシュは発光しません。
-

(カラスケッチ)



輪郭を抽出して色をつけることで、スケッチ風に表現します。

- ライブビュー表示にすると、（カラスケッチ）の効果を設定できます（□49）。

ご注意

- オートフォーカス中は効果が一時解除されます。
 - 動画撮影の場合は、コマ送りのような動画として記録されます。
 - 動画撮影中はオートフォーカスは作動しません。
-

(ミニチュア効果)



ミニチュア(模型)を接写したように表現します。高いところから見下ろして撮影する場合に適しています。

- ライブビュー表示にすると、 (ミニチュア効果) の効果を設定できます (□50)。

ご注意

- 内蔵フラッシュとAF補助光は発光しません。
- オートフォーカス中は効果が一時解除されます。
- 動画撮影の場合は、早送り動画として記録されます。
- 動画撮影の場合は音声は記録されません。
- 動画撮影中はオートフォーカスは作動しません。

(セレクトカラー)



選んだ色のみをカラーで残し、それ以外の色をモノトーン(白黒)で表現します。

- ライブビュー表示にすると、 (セレクトカラー) の効果を設定できます (□52)。

ご注意

内蔵フラッシュは発光しません。

(シルエット)



背景が明るいシーンで、被写体を意図的にシルエットで表現します。

ご注意

内蔵フラッシュは発光しません。

(ハイキー)



全体的に明るめの被写体の撮影に適しています。画像全体を意図的に明るいトーンで表現します。光に満ちた華やかな雰囲気になります。

ご注意

内蔵フラッシュは発光しません。

(ローキー)



全体的に暗めの被写体の撮影に適しています。画像全体を意図的に暗いトーンで表現します。深く落ち着いた、ハイライト部分が引き立った雰囲気になります。

ご注意

内蔵フラッシュは発光しません。

三脚の使用について

暗いときや手ブレが気になるときは、三脚の使用をおすすめします。

スペシャルエフェクトモードについて

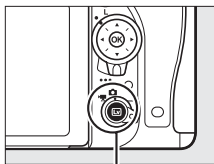
- 、、、では、RAWを含む画質モード（114）に設定できません。他の撮影モードで画質モードを[RAW + FINE]、[RAW + NORMAL]、[RAW + BASIC]に設定していた場合は、それぞれFINE、NORMALまたはBASICに変更されます。[RAW]の場合はFINEに変更されます。
- 撮影モードがまたはのときにレリーズモードをCL（低速連続撮影）、CH（高速連続撮影）またはQC（静音連続撮影）に設定した場合、連続撮影速度が遅くなります。
- 撮影モードがまたはのときは、ライブビュー時の表示の更新は遅くなります。

■ (カラースケッチ) の効果の設定方法

スペシャルエフェクトモードで を選んだ後、効果を設定します。

1 Lv ボタンを押す

- 液晶モニターに被写体が表示されます。



Lv ボタン

2 OK ボタンを押す

- カラースケッチの設定画面が表示されます。



3 色の濃さと線の濃さを設定する

- マルチセレクトの ④ または ⑤ を押して、設定したい項目を選びます。
- 「色の濃さ」： ⑥ を押すと色が濃くなり、⑦ を押すと薄くなります。
- 「線の濃さ」： ⑥ を押すと線が濃くなり、⑦ を押すと薄くなります。「線の濃さ」を濃くすると、画像全体の色も濃くなります。



4 決定する

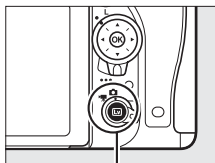
- OK ボタンを押すと、効果が決定します。
- 静止画ライブビューまたは動画ライブビュー、ファインダー撮影が可能です。
- ファインダー撮影をする場合は、Lv ボタンを押してライブビューを終了します。ファインダー撮影時も、設定した効果は維持されます。

■ (ミニチュア効果) の効果の設定方法

スペシャルエフェクトモードで (ミニチュア効果) を選んだ後、効果を設定します。

1 Lv ボタンを押す

- 液晶モニターに被写体が表示されます。



Lv ボタン

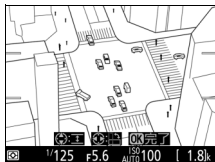
2 フォーカスポイントを被写体に重ねる

- マルチセクターで、ぼかさないではっきりと見せたい部分にフォーカスポイントを移動します。
- シャッターボタンを半押しして、ピントが合う部分を確認します。
- (QUAL) ボタンを押すと、被写体が拡大表示され、ピントを細部まで確認できます。 (ISO) ボタンを押すと画像を縮小表示します。
- 拡大表示中は効果が一時解除されます。



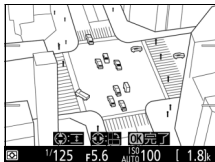
3 OK ボタンを押す

- ミニチュア効果の設定画面が表示されます。



4 効果を加える方向と幅を設定する

-  または  を押すと、効果を加える方向を縦と横から選べます。
-  または  を押すと、効果を加える幅を設定できます。



5 決定する

-  ボタンを押すと、効果が決定します。
- 静止画ライブビューまたは動画ライブビュー、ファインダー撮影が可能です。
- ファインダー撮影をする場合は、 を押してライブビューを終了します。ファインダー撮影時も、設定した効果は維持されます。

ミニチュア効果での動画撮影について

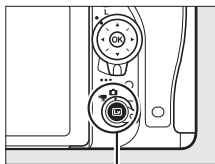
動画の記録時間は撮影にかかる時間よりも短くなります。たとえば、動画撮影メニューの[画像サイズ/フレームレート]が1920 × 1080、30pの場合(□318)、約3分の動画ファイルを作成するためには、約45分の撮影時間が必要です。

■ ④（セレクトカラー）の効果の設定方法

スペシャルエフェクトモードで④を選んだ後、効果を設定します。

1 Lv ボタンを押す

- 液晶モニターに被写体が表示されます。



Lv ボタン

2 OK ボタンを押す

- セレクトカラーの設定画面が表示されます。



3 残したい色を抽出する

- カメラを動かして画面中央の枠を残したい色の被写体に重ねます。
- ④（QUAL）ボタンを押すと、被写体が拡大表示され、残したい色を細部まで確認できます。④（ISO）ボタンを押すと画像を縮小表示します。
- マルチセクターの④を押すと、画面中央の枠に重ねた被写体の色が抽出され、色の枠に表示されます。
- 抽出した色以外の色は、モノトーン（白黒）で表示されます。



4 抽出する色の感度を設定する

- ⊕ または ⊖ を押して、抽出する色の感度を [1] ~ [7] から設定します。数値が大きいほど抽出する色の色相が広くなり、小さいほど狭くなります。

色の感度



5 抽出する色を追加する

- メインコマンドダイヤルを回して別の色の枠を選び、手順3~4と同じ手順で色を抽出し、色の感度を設定します。
- 最大3色まで設定できます。
- 抽出した色を選んで  (FORMAT) ボタンを押すと、抽出した色をリセットします。
- 抽出した全ての色を削除したい場合は、 (FORMAT) ボタンを押し続けます。確認画面で [はい] を選んで  ボタンを押すと、全ての色をリセットします。



6 決定する

-  ボタンを押すと、効果が決定します。
- 静止画ライブビューまたは動画ライブビュー、ファインダー撮影が可能です。
- ファインダー撮影をする場合は、 ボタンを押してライブビューを終了します。ファインダー撮影時も、設定した効果は維持されます。

✓ セレクトカラー設定時のご注意

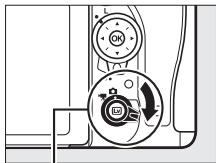
- 残したい色の彩度によっては、抽出しにくい場合があります。彩度の高い色の抽出をおすすめします。
- 色の感度を高く設定しすぎると、選択した色に近い色相の色も抽出されます。

静止画ライブビュー撮影

静止画ライブビューで撮影する

液晶モニターで被写体を見ながら静止画を撮影できます。

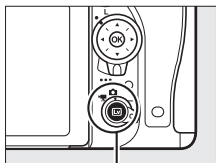
- 1 ライブビューセクターを
📷（静止画ライブビュー）に合わせる



ライブビューセクター

- 2 **LV** ボタンを押す

- ミラーアップしてライブビューを開始します。ファインダー内が暗くなり、液晶モニターに被写体が表示されます。



LV ボタン

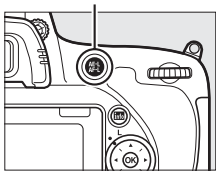
- 3 フォกัสポイントを被写体に重ねる

- フォกัสポイントの形状はAFエリアモードによって異なります（□58）。

4 シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせる



- シャッターボタンを半押しすると、ピントが合った時点でフォーカスがロックされます。
- フォーカスポイントは、オートフォーカス作動中は緑色で点滅し、ピントが合うと緑色で点灯します。ピントが合わないとき赤色で点滅します。
- 露出を固定（AEロック）するには、 AE/AFロックボタン  AE/AFロックボタンを押し続けます（ 140）。



- i** ボタンを押して、[露出プレビュー]（ 61）を[する]に設定すると、右のような露出プレビュー画面に切り替わります。露出プレビューでは、表示されたシャッタースピード、絞り値、ISO感度での撮影で、どのような露出（明るさ）になるのかを液晶モニターで確認しながら静止画撮影できます。露出補正（ 142）は、通常と同じ±5段まで設定できますが、液晶モニターで確認できるのは±3段までになります。

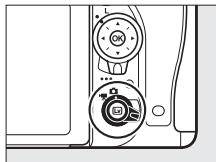


5 シャッターボタンを全押しして撮影する



- 撮影時は液晶モニターが消灯します。

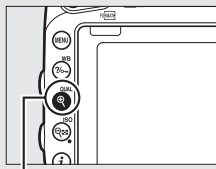
6 ボタンを押して静止画ライブビューを終了する



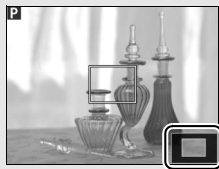
🔪 ライブビュー時の拡大表示

ライブビュー中に $\mathcal{Q}$ (QUAL) ボタンを押すと、拡大表示できます (最大約19倍)。

- $\mathcal{Q}$ (QUAL) ボタンを押すごとに拡大率が上がり、 $\mathcal{Q}$ ISO ボタンを押すごとに拡大率が下がります。
- 拡大表示中は、画面の右下に構図のどの部分を拡大しているかを表すナビゲーションウィンドウ (グレーの枠) が表示されます。
- 拡大表示中は、マルチセレクトターの $\odot$ $\odot$ $\odot$ $\odot$ で画面をスクロールさせて、見たい部分に移動できます。



$\mathcal{Q}$ (QUAL) ボタン



ナビゲーション
ウィンドウ

🔪 静止画ライブビュー時のプレビュー機能

撮影モードがP、S、A、またはMの場合は、静止画ライブビュー中にPvボタンを押すと開放絞りになり、ピントが確認しやすくなります。再度Pvボタンを押すか、オートフォーカスでピントを合わせると、設定した絞り値に絞り込まれます。開放絞りにしたままでシャッターボタンを全押しすると、設定した絞り値に絞り込まれてから撮影します。

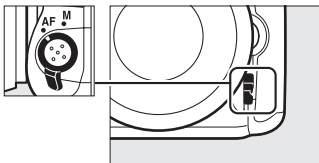
🔪 HDMI接続時の撮影について

HDMI対応機器との接続時には、接続した機器とカメラのモニターに被写体が表示されます。

AFモードを変更する

フォーカスモードセクターがAFの場合、静止画ライブビューまたは動画ライブビュー時のAFモードを選べます。

フォーカスモードセクター

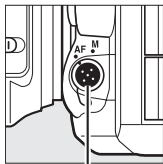


AF-S シングルAFサーボ	静止している被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押しすると、ピントが合った時点でフォーカスがロックされます。
AF-F 常時AFサーボ	動いている被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押しするまで、カメラは被写体の動きに合わせてピントを合わせ続けます。半押しすると、ピントが合った時点でフォーカスがロックされます。

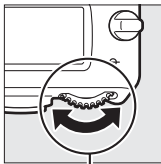
■■ 静止画ライブビューまたは動画ライブビュー撮影時のAFモードの変更方法

AFモードボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回す

- AFモードは液晶モニターに表示されます。



AFモードボタン



メインコマンドダイヤル



液晶モニター

AFエリアモードを変更する

静止画ライブビューまたは動画ライブビュー時のAFエリアモードを選べます。AFエリアモードは、フォーカスモードセクター（□57）がAFの場合のみ設定できます。

 顔認識AF	記念写真など、人物の顔にピントを合わせたい場合に適しています。カメラが人物の顔を自動的に認識し、フォーカスポイントが黄色の二重枠に変わります。複数の顔を認識した場合は、カメラが最も近いと判断した人物の顔を二重枠で表示します。このとき、マルチセクターで二重枠を移動して他の顔を選ぶこともできます。途中で顔が後ろを向くなどしてカメラが顔を認識できなくなると、枠が消えます。
 ワイド エリアAF	風景などを手持ちで撮影する場合に適しています。フォーカスポイントは、マルチセクターで任意の位置に移動できます。OK ボタンを押すと、フォーカスポイントは中央に移動します。
 ノーマル エリアAF	画面の任意の位置にピンポイントでピントを合わせたい場合に適しています。フォーカスポイントは、マルチセクターで任意の位置に移動できます。OK ボタンを押すと、フォーカスポイントは中央に移動します。三脚の使用をおすすめします。
 ターゲット 追尾AF	指定した被写体に追尾させてフォーカスポイントを動かしたい場合に適しています。マルチセクターでフォーカスポイントを被写体に重ねて OK ボタンを押すと、被写体の追尾を開始し、被写体の動きに合わせてフォーカスポイントが移動します。もう一度 OK ボタンを押すと、追尾を終了します。

▼ ターゲット追尾AFについてのご注意

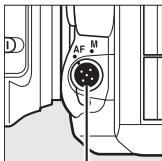
次のような場合は、追尾動作が正常に行われなことがありますので、ご注意ください。

- 被写体の色、明るさが背景と似ている場合
- 被写体の大きさ、色、明るさが著しく変わる場合
- 被写体が大きすぎる/小さすぎる場合
- 被写体が明るすぎる/暗すぎる場合
- 被写体の動きが速すぎる場合
- 被写体が隠れたり、画面から外れた場合

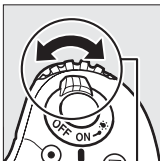
■ 静止画ライブビューまたは動画ライブビュー撮影時のAFエリアモードの変更方法

AFモードボタンを押しながら、サブコマンドダイヤルを回す

- AFエリアモードは液晶モニターに表示されます。



AFモードボタン



サブコマンド
ダイヤル



液晶モニター

✓ 静止画ライブビューまたは動画ライブビュー撮影時のオートフォーカスについてのご注意

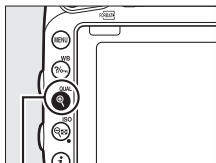
- 静止画ライブビューまたは動画ライブビュー撮影時のオートフォーカスは、通常のオートフォーカスより、ピント合わせに時間がかかります。また、次の被写体はピントが合わない場合がありますので、ご注意ください。
 - 画面の長辺側と平行な線の被写体
 - 明暗差の少ない被写体
 - フォーカスポイント内の被写体の輝度が著しく異なる場合
 - イルミネーション、夜景などの点光源や、ネオンなど明るさが変化する被写体
 - 蛍光灯、水銀灯、ナトリウム灯などの照明下で、画面にちらつきや横縞が見える場合
 - クロスフィルターなど、特殊なフィルターを使用した場合
 - フォーカスポイントに対して被写体が小さい場合
 - 連続した繰り返しパターンの被写体（ビルの窓やブラインドなど）
 - 動く被写体
- オートフォーカス作動中は、画面の明るさが変わることがあります。
- フォーカスポイントが緑色に点滅しているとき（オートフォーカス作動中）は、シャッターはきれません。ただし、赤色に点滅しているとき（ピントがあっていないとカメラが判断したとき）でもシャッターはきれます。
- ピントが合わなくてもピント表示（緑枠）が点灯する場合があります。
- AF-S以外のレンズやテレコンバーターを使用した撮影では、十分なピント精度が出ない場合があります。

マニュアルフォーカスで撮影する

マニュアルフォーカス（□130）で撮影するときは、レンズのフォーカスリングを回して被写体にピントを合わせます。



- ピントの状態を細部まで確認したい場合は、**QUAL** ボタンを押して被写体を拡大表示してください（□56）。

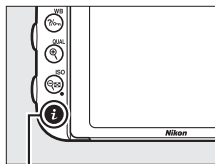


QUAL ボタン

i ボタンを使う

静止画ライブビュー時に **i** ボタンを押すと、次の機能の設定を変更できます。項目を選んでマルチセクターの **⬇** を押すと、選んだ項目の設定画面が表示されます。

- 設定終了後、**OK** ボタンを押して決定します。
- 撮影に戻るには、再度 **i** ボタンを押してください。



i ボタン



撮像範囲設定	静止画ライブビュー時の撮像範囲を選べます (□109)。
画質モード	画質モードの設定を変えられます (□114)。
画像サイズ	画像サイズの設定を変えられます (□117)。
ピクチャーコントロール	ピクチャーコントロールの設定を変えられます (□164)。
アクティブD-ライティング	アクティブD-ライティングの設定を変えられます (□175)。
リモコンモード設定 (ML-L3)	リモコンモードの設定を変えられます (□194)。
モニターの明るさ	- 静止画ライブビュー時の液晶モニターの明るさを、⬆ または ⬇ を押して調整できます。 - 液晶モニターの明るさを調整すると、静止画ライブビューまたは動画ライブビュー中の表示に反映されますが、撮影した画像や画像再生時の表示、メニュー表示などには反映されません。
露出プレビュー	露出プレビューを有効にするかどうかを設定できます。[する]に設定すると、露出プレビュー画面に切り替わります (□62)。



露出プレビューについて

- 露出プレビュー (□61) を [する] に設定すると、表示されたシャッタースピード、絞り値、ISO感度での撮影で、どのような露出 (明るさ) になるのかを液晶モニターで確認しながら静止画撮影できます。露出補正 (□142) は、通常と同じ±5段まで設定できますが、液晶モニターで確認できるのは±3段までになります。

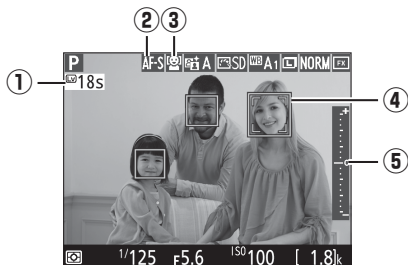


- スペシャルエフェクトモードの場合や、シャッタースピードが **bulb** (バルブ) または **- -** (タイム) の場合、露出プレビューには切り替わりません。また、次の場合は、露出プレビューの表示が実際に撮影される画像と異なります。
 - 内蔵フラッシュまたは別売スピードライト使用時
 - [アクティブD-ライティング] (□175) または [HDR (ハイダイナミックレンジ)] (□177) を設定した場合
 - ピクチャーコントロールの [明瞭度] が [0] 以外の場合 (□167)
 - ピクチャーコントロールの [コントラスト] が [A] (オート) の場合 (□167)
 - シャッタースピードを **x 2000** に設定した場合
 - オートブラケティング撮影時
- 被写体が極端に明るい場合や暗い場合には、画像の明るさを正しく表示できないことがあります (露出インジケータが点滅します)。

画像再生時やメニュー表示時の明るさについて

画像再生時やメニュー表示時などの液晶モニターの明るさは、セットアップメニューの [モニターの明るさ] (□377) で設定してください。セットアップメニューで設定した液晶モニターの明るさは、静止画ライブビューまたは動画ライブビュー中の明るさには反映されません。

静止画ライブビュー中の情報表示について



① ライブビュー残り時間	ライブビューが自動的に終了する30秒前から、ライブビュー残り時間のカウントダウンを表示します。	☞ 64
② AFモード	ライブビュー撮影時のAFモードを表示します。	☞ 57
③ AFエリアモード	ライブビュー撮影時のAFエリアモードを表示します。	☞ 58
④ フォーカスポイント	枠内の被写体にピン트가合います。フォーカスポイントの形状は、選んだAFエリアモード (☞ 58) により異なります。	☞ 54
⑤ 露出インジケータ	自分で設定した露出値と、カメラが制御した露出値との差が表示されます。[露出プレビュー] の設定が [する] のときのみ表示されます。	☞ 95

静止画ライブビュー時の表示を切り換える

静止画ライブビュー中は、**Info** ボタンを押すたびに、次のように画面の表示が切り替わります。

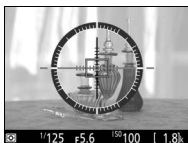
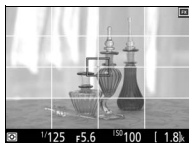
情報表示



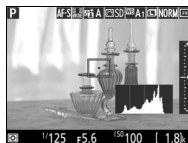
情報表示なし



格子線表示



水準器表示 (□390)



ヒストグラム※

※露出プレビュー時 (□62) のみ表示されます。

▼ 静止画ライブビュー残り時間のカウントダウンについて

カメラが自動的にライブビューを終了する30秒前から、液晶モニターの上にカウントダウンを表示します (□63)。

- カスタムメニュー c4 [モニターのパワーオフ時間] (□335) の設定により終了する場合は、終了30秒前から黒字で表示し、終了5秒前から赤字で表示します。[モニターのパワーオフ時間] の [ライブビュー表示] を [制限なし] に設定している場合も、カメラ内部の温度上昇などによりライブビューが終了する場合があります。
- カメラ内部の温度上昇により終了する場合は、終了30秒前から赤字で表示します。撮影条件によっては、ライブビュー開始後すぐにカウントダウンが始まる場合があります。

▼ 静止画ライブビュー撮影時のご注意

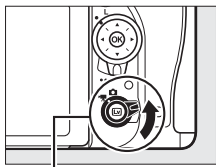
- 静止画ライブビュー中は、液晶モニターの表示に次のような現象が発生することがありますが、実際に記録される画像に影響はありません。
 - 電車や自動車など、高速で画面を横切る被写体が歪んで表示される
 - カメラを左右に動かした場合、画面全体が歪んで見える
 - ジャギー、偽色、モアレ、輝点が発生する
 - 周囲でスピードライトやフラッシュなどが発光されたり、イルミネーションなどの点滅する光源がある場合、画面の一部が明るくなったり、明るい横帯が発生する
- 蛍光灯、水銀灯、ナトリウム灯などの照明下で、ライブビュー表示中に画面にちらつきや横縞が生じる「フリッカー現象」は、セットアップメニューの[フリッカー低減] (□381) で低減できますが、設定しているシャッタースピードによっては、撮影した静止画に記録されることがあります。
- 適正露出や画像に影響を与える接眼部からの逆入射光を防ぐため、シャッターボタンを押す前に付属のアイピースキャップを取り付けてください (□107)。
- ライブビュー表示中は、太陽など強い光源にカメラを向けないでください。内部の部品が破損するおそれがあります。
- 静止画ライブビュー時に動画撮影ボタンを押しても動画撮影はできません。動画ライブビューに切り換えてください (□66)。
- 静止画ライブビュー中は、カスタムメニュー c2 [半押しタイマー] (□334) の設定にかかわらず、半押しタイマーはオフになりません。

動画ライブビュー撮影と再生

動画ライブビューで撮影する

液晶モニターを見ながら音声付きの動画を撮影できます。

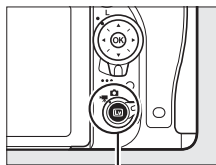
- 1 ライブビューセクターを
●（動画ライブビュー）に合わせる



ライブビュー
セクター

- 2 **Lv** ボタンを押す

- ミラーアップしてライブビューを開始します。ファインダー内が暗くなり、液晶モニターに被写体が表示されます。
- 動画ライブビュー中は、実際に撮影される動画の露出（明るさ）を液晶モニターで確認できます。



Lv ボタン

3 動画ライブビュー撮影時のAFモードを設定する

- 動画ライブビュー撮影時のAFモードの設定方法については、「AFモードを変更する」(□57)をご覧ください。



4 動画ライブビュー撮影時のAFエリアモードを設定する

- 動画ライブビュー撮影時のAFエリアモードの設定方法については、「AFエリアモードを変更する」(□58)をご覧ください。



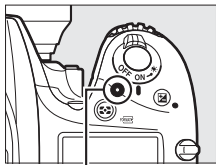
5 シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせる

- 動画撮影を開始する前に、被写体にピントを合わせます。



6 動画撮影ボタンを押して、撮影を始める

- 動画撮影中は録画中マークが液晶モニターに表示されます。SDカードに記録できる残り時間の目安も液晶モニターで確認できます。
- 動画撮影中も、シャッターボタンを半押しすると被写体にピントを合わせられます。
- 内蔵マイク (□3) で音声を記録します。録画中は、マイクを指でふさがないようにしてください。
- 露出を固定 (AEロック) するには、AE/AFロックボタンを押し続けます (□140)。
- 動画撮影中は±3段の範囲で露出補正ができます (□142)。



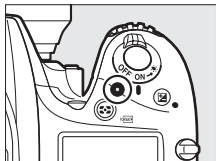
動画撮影ボタン

録画中マーク

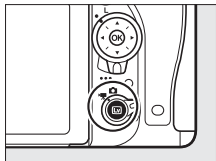


残り時間

7 もう一度動画撮影ボタンを押して、撮影を終了する

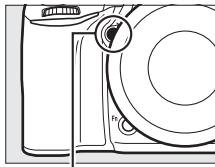


8 [LV] ボタンを押して動画ライブビューを終了する

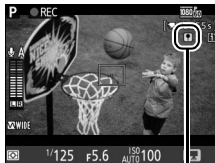


インデックスマーキングについて

カスタムメニュー g2 [プレビューボタンの機能] (□373) の [押し時の動作] が [インデックスマーキング] の場合、動画撮影中に **Pv** ボタンを押すと、撮影中の動画にインデックスマークを付けることができます。インデックスマークを付けると、動画の再生時や編集時に目的の場所へ素早く移動できます (□82)。インデックスマークは1つの動画に最大20個まで付けられます。



Pvボタン



インデックスマーク

✓ 撮影モードが のときのインデックスマーキングについて

撮影モードが  のときは、動画記録中にインデックスマークを付けることはできません。

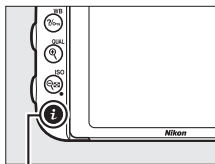
🔗 関連ページ

- **Fn** ボタンを押してインデックスマークを付ける
→  g1 [Fn ボタンの機能] (□372)
-  AE/AF ロックボタンを押してインデックスマークを付ける
→  g3 [AE/AF ロックボタンの機能] (□374)

i ボタンを使う

動画ライブビュー時に **i** ボタンを押すと、次の機能の設定を変更できます。項目を選んでマルチセレクターの **Q** を押すと、選んだ項目の設定画面が表示されます。

- 設定終了後、**OK** ボタンを押して決定します。
- 撮影に戻るには、再度 **i** ボタンを押してください。
- ・[マイク感度]、[録音帯域]、[風切り音低減]、[マルチセレクターによるパワー絞リ] および [ハイライト表示] は、動画撮影中でも設定を変更できます。



i ボタン



撮像範囲設定	動画ライブビュー時の撮像範囲を選べます (□75)。
画像サイズ/ フレームレート	動画を記録するときの画像サイズ (ピクセル) / フレームレートを設定します (□318)。
動画の画質	動画の画質を選べます (□318)。
マイク感度	内蔵マイクまたは別売のステレオマイクロホンの感度を、Q または Q を押して調整できます (□319)。 
録音帯域	内蔵マイクまたは別売ステレオマイクロホンの周波数特性を設定します (□319)。
風切り音低減	内蔵マイクに吹き付ける風の音を抑えるローカットフィルター機能を有効にするかどうかを設定できます (□320)。
ピクチャー コントロール	ピクチャーコントロールの設定を変えられます (□164)。明瞭度の設定は、動画には反映されません。
ファイル記録先	SDカードを2枚使用している場合に動画を記録するスロットを設定できます (□317)。

モニターの明るさ	- 動画ライブビュー撮影時の液晶モニターの明るさを、 または  を押して調整できます。 - 液晶モニターの明るさを調整すると、静止画ライブビューまたは動画ライブビュー中の表示に反映されますが、撮影した画像や画像再生時の表示、メニュー表示などには反映されません。	
マルチセクターによるパワー絞り	マルチセクターによるパワー絞りを有効にするかどうかを設定できます。撮影モードがP、S、AまたはMのときのみ設定できます。 [有効] に設定すると、マルチセクターの  を押している間、最小絞り側に絞りが動きます。また、 を押している間、開放絞り側に絞りが動きます。	
ハイライト表示	動画ライブビュー時、ハイライト部分（非常に明るい部分）を斜線で表示するかどうかを設定できます。撮影モードがP、S、AまたはMのときのみ設定できます。	ハイライト部分 
ヘッドホン音量	ヘッドホン音量を、 または  を押して調整できます。	

パワー絞りについて

- 撮影モード**A**または**M**のときのみ動作します。
- 静止画撮影情報の表示中は、パワー絞りは動作しません。
- マークが液晶モニターに表示されているときは、パワー絞りは動作しません。
- 使用するレンズによっては、パワー絞りが動作しない場合があります。
- カメラの電源をOFFにするか、動画ライブビューを終了して半押しタイマーがオフになると、パワー絞りは無効になります。

別売のステレオマイクロホンについて

別売のステレオマイクロホンを外部マイク入力端子に接続すると、動画撮影中にオートフォーカスでピント合わせをしたときに生じるレンズの動作音などが録音されるのを低減できます (□447)。

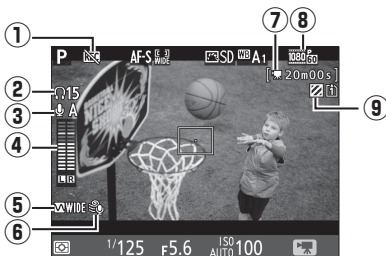
ヘッドホンについて

- 市販のヘッドホンをヘッドホン端子に接続すると、音声はヘッドホンから出力されます。
- マイク感度を最大に設定すると、大音量で出力される場合がありますので、ヘッドホン使用時は特にご注意ください。

関連ページ

- **Fn**ボタンを押して開放絞り側に絞りを動かす→ g1 [Fn ボタンの機能] (□372)
- **Pv**ボタンを押して最小絞り側に絞りを動かす→ g2 [プレビューボタンの機能] (□373)

動画ライブビュー中の情報表示について



① 動画記録禁止マーク	動画が撮影できない状態のとき表示します。	—
② ヘッドホン音量	市販のヘッドホン接続時に表示されます。ヘッドホン出力の音量レベルを表示します。	☞71
③ マイク感度	マイク感度のレベルを表示します。	☞70
④ 音声レベルインジケータ	音声を記録するときの音量レベルを表示します。インジケータの色が赤で表示される場合、音量が大きすぎることを示しています。マイク感度を調節してください。	☞70
⑤ 録音帯域マーク	録音帯域の設定を表示します。	☞70
⑥ 風切り音低減マーク	風切り音低減が「する」の場合に表示します。	☞70
⑦ 動画記録残り時間	動画撮影時に、SDカードに記録できる残り時間を表示します。	☞68
⑧ 動画の画像サイズ	動画の画像サイズを表示します。	☞318
⑨ ハイライト表示マーク	ハイライト表示が有効の場合に表示します。	☞71

☑ 動画ライブビュー残り時間のカウントダウンについて

- カメラが自動的に動画撮影を終了する（☞469）30秒前から、液晶モニターの左上にカウントダウンを表示します。
- 撮影条件によっては、動画撮影を開始後すぐにカウントダウンが始まる場合があります。
- 動画記録中にカウントダウンが始まった場合は、液晶モニターの右上に表示されている動画残り記録時間にかかわらず、ライブビュー残り時間のカウントダウン時間で動画撮影を自動的に終了します。

動画ライブビュー時の表示を切り換える

動画ライブビュー中は、**info** ボタンを押すたびに、次のように画面の表示が切り替わります。

情報表示



情報表示なし



格子線表示



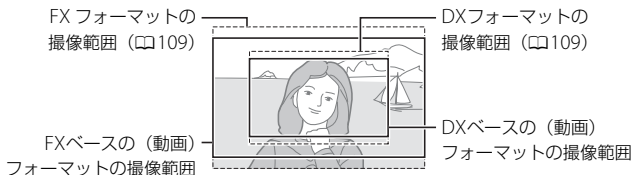
水準器表示 (□390)



ヒストグラム

動画ライブビュー時の撮像範囲

ファインダー撮影時や静止画ライブビュー時の撮像範囲と比べ、動画ライブビュー時の撮像範囲は次の図のようになります。動画ライブビューで撮影する動画や静止画のアスペクト比（縦横比）は、16：9です。



- [撮像範囲設定] (□70) で [DX (24 × 16) 1.5×] に設定するか、DXレンズを装着して動画撮影メニューの [撮像範囲] の [DX自動切り換え] (□110) を [する] に設定した場合は、DXベースの（動画）フォーマットになります。その場合、液晶モニターには **DX** が表示されます。



- [撮像範囲設定] を [FX (36 × 24) 1.0×] に設定して撮影する場合は、動画ライブビューでの撮像範囲はFXベースの（動画）フォーマットになります。
- 動画ライブビュー時の撮像範囲のサイズは、FXベースの（動画）フォーマットとDXベースの（動画）フォーマットでは異なります。それぞれの撮像範囲のサイズは次の通りです。

フォーマット	サイズ
FXベースの（動画）フォーマット	約35.9×20.2 mm
DXベースの（動画）フォーマット	約23.5×13.2 mm

動画ライブビュー時の静止画撮影

カスタムメニュー g4 [シャッターボタンの機能] (□374) が [静止画撮影] の場合、動画ライブビュー中にシャッターがきれるまでシャッターボタンを全押しし続けると、動画と同じ撮像範囲の静止画 (□75) を撮影します。



- 動画撮影中の場合、動画撮影は終了し、そこまでの動画を記録します。
- 画質モードは、静止画撮影メニュー [画質モード] (□114) で設定した内容になります。
- 動画ライブビュー中の静止画撮影の露出は、液晶モニターでは確認できません。
- 撮影モードMで静止画を撮影する場合は、静止画ライブビュー (□54) で適正露出に合わせてから動画ライブビューに切り換えてください。

■ 動画ライブビュー時に撮影できる静止画の画像サイズ

動画ライブビュー時に撮影できる静止画の画像サイズは、次の通りです。

撮像範囲	画像サイズ	プリント時の大きさ (出力解像度300dpiの場合) ※
FXベースの (動画) フォーマット	L (6016×3376ピクセル)	約50.9×28.6 cm
	M (4512×2528ピクセル)	約38.2×21.4 cm
	S (3008×1688ピクセル)	約25.5×14.3 cm
DXベースの (動画) フォーマット	L (3936×2224ピクセル)	約33.3×18.8 cm
	M (2944×1664ピクセル)	約24.9×14.1 cm
	S (1968×1112ピクセル)	約16.7× 9.4 cm

※ピクセル数÷出力解像度 (dpi) ×2.54 cmで計算しています。

🔪 動画撮影について

- 使用している SD カードの書き込み速度によっては、最長記録時間に満たないで撮影が自動的に終了する場合があります (□494)。
- 動画撮影時は、AF エリアモードが顔認識 AF の場合に認識できる人数が少なくなります。
- 🚫 (動画記録禁止) マーク (□73) が表示されているときは、動画撮影できません。
- 1つの動画ファイルで記録可能な最大ファイルサイズは4GBです。
- 動画ライブビュー時は、内蔵フラッシュと別売のスピードライト (□437) は発光しません。
- 画像が明るくなりすぎたり、暗くなりすぎたりする場合は、ライブビューを終了してからもう一度動画ライブビューを開始してください。
- 動画を撮影するときは、常にsRGBの色空間で撮影されます。
- 各撮影モードで動画ライブビュー時に設定できる機能は、次の通りです。

	絞り値	シャッター スピード	ISO感度 (□321)	露出補正	測光※1
P、S	—	—	—	○	○
A	○	—	—	○	○
M	○	○※2	○	—	○
SCENE、📷	—	—	—	○	—
その他の 撮影モード	—	—	—	—	—

※1 スポット測光は設定できません。

※2 撮影モード**M**で撮影する場合、シャッタースピードは1/25～1/4000秒の範囲で設定できます (動画のフレームレート (□318) によって、低速側の制限が異なります)。

- 動画撮影中に **WB** ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、ホワイトバランスを変更できます (撮影モード**P、S、A、M**のみ、□145)。

🔪 ワイヤレスリモートコントローラーとリモートコードについて

カスタムメニューg4 [シャッターボタンの機能] を [動画撮影] に設定すると、ワイヤレスリモートコントローラー (□447) やリモートコード (□447) のシャッターボタンを半押しして動画ライブビューを開始したり、全押しして動画撮影の開始と終了を行えます (□374)。

▼ 動画撮影時のご注意

- 動画撮影中の液晶モニターの表示に、次のような現象が発生する場合があります。これらの現象は撮影した動画にも記録されます。
 - 蛍光灯、水銀灯、ナトリウム灯などの照明下で、画面にちらつきや横縞が発生する (□381)
 - 電車や自動車など、高速で画面を横切る被写体が歪む
 - カメラを左右に動かした場合、画面全体が歪む
 - ジャギー、偽色、モアレ、輝点が発生する
 - 周囲でスピードライトやフラッシュなどが発光されたり、イルミネーションなどの点滅する光源がある場合、画面の一部が明るくなったり、明るい横帯が発生する
 - パワー絞りを作動中、画面にちらつきが発生する
- 動画ライブビュー時に、**Q (QUAL)** ボタンで画面を拡大した場合 (□60)、ノイズ (ざらつき、むら、すじ)、色の変化が発生しやすくなります。
- 次のような場合は、動画撮影は自動的に終了します。
 - 最長記録時間に達したとき
 - SDカードの残量がなくなったとき
 - 撮影モードを切り換えたとき
- 動画撮影時、太陽など強い光源にカメラを向けしないでください。内部の部品が破損するおそれがあります。
- 次のような場合は、動作音が録音されることがあります。
 - オートフォーカス作動中
 - 絞り値を変更した場合
 - VRレンズ使用時にVR (手ブレ補正) をONにした場合

🔗 HDMI接続時の撮影について

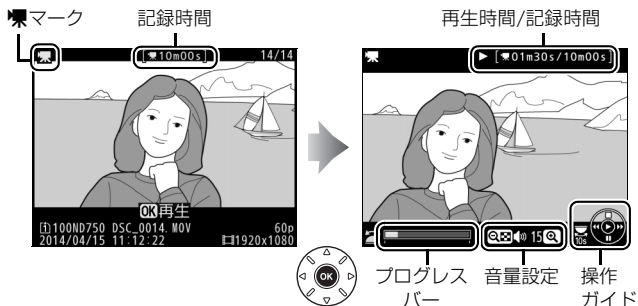
- HDMI対応機器との接続時には、接続した機器とカメラのモニターに被写体が表示されます。
- HDMI-CEC対応機器との接続時にライブビュー撮影を行うには、セットアップメニューの [**HDMI**] の [**機器制御**] を [**しない**] に設定してください (□274)。

関連ページ

- 動画撮影時のオートフォーカスについてのご注意→「静止画ライブビューまたは動画ライブビュー撮影時のオートフォーカスについてのご注意」(□59)
- レンズのフォーカスリングを使って（マニュアルフォーカスで）ピントを合わせる→「マニュアルフォーカスで撮影する」(□60)
- 動画を記録するときの記録先、画像サイズとフレームレート、画質、音声などを設定する→ 動画撮影メニュー (□316)
-  ボタンを押して、画面中央にフォーカスポイントを移動したり、拡大表示に切り換えられるようにする→ f1 [OKボタンの機能] (□354)
- 動画ライブビュー時のFnボタン、Pvボタン、 AE/AFロックボタン、シャッターボタンの機能を設定する→ g1 [Fnボタンの機能] (□372)、 g2 [プレビューボタンの機能] (□373)、 g3 [AE/AFロックボタンの機能] (□374)、 g4 [シャッターボタンの機能] (□374)
-  AE/AFロックボタンを押し続けなくてもAEロック状態を維持できるようにする→ g1 [Fnボタンの機能] (□372)、 g2 [プレビューボタンの機能] (□373)、 g3 [AE/AFロックボタンの機能] (□374)
- シャッターボタンで動画ライブビューの開始や動画撮影の開始と終了ができるようにする→ g4 [シャッターボタンの機能] (□374)
- ライブビュー表示中や動画撮影時のフリッカー現象を低減する→ [フリッカー低減] (□381)

動画の再生

1コマ表示モード（□237）で📺マークが表示されている画像が動画です。OK ボタンを押すと動画を再生します（プログレスバーで再生中の位置の目安を確認できます）。



■ 動画再生中の操作方法

一時停止する		マルチセクターの🛑を押すと、一時停止します。
再生を再開する		一時停止中または早送り/巻き戻し中にOK ボタンを押すと、動画再生を再開します。

巻き戻しする/ 早送りする		• 動画の再生中に  を押すと巻き戻し、 を押すと早送りします。同じ方向のボタンを押すごとに、巻き戻し/早送りの速度が2倍、4倍、8倍、16倍に切り替わります。 •  を押し続けると、最初のコマに移動し、 を押し続けると、最後のコマに移動します。 • 先頭フレームには  アイコンが、最終フレームには  アイコンが、画面右上に表示されます。
コマ戻しする/ コマ送りする		• 一時停止中に  または  を押すと、コマ戻し/コマ送りします。 •  または  を押し続けると連続でコマ戻し/コマ送りします。
10秒進める/ 10秒戻す		メインコマンドダイヤルを1クリック回すと、10秒前または後に移動します。
インデックス マークに移動 する		動画撮影時に設定したインデックスマークに移動するには、サブコマンドダイヤルを回します。サブコマンドダイヤルを回すと、前後のインデックスマークに移動します。
先頭フレーム に移動する/ 最終フレーム に移動する		動画にインデックスマークがない場合にサブコマンドダイヤルを回すと、先頭フレームまたは最終フレームに移動します。
音量を調節 する	 (QUAL) /  (ISO)	 (QUAL) ボタンを押すと音量が大きくなり、  (ISO) ボタンを押すと小さくなります。
動画を編集 する		一時停止中に  ボタンを押すと、[動画編集] 画面を表示します (□83)。

再生を 終了する		⏮ または ⏮ ボタンを押すと1コマ表示モードに戻ります。
撮影に戻る		液晶モニターが消灯し、すぐに撮影できます。

インデックスマーク

インデックスマークが設定された動画 (69) の場合、1コマ表示画面に  マークが表示されます。



動画の編集

撮影した動画を編集できます。

📏 始点/終点の設定

動画の前半、後半、または前後両端を切り取って、選択した範囲だけを残します。

📁 選択フレームの保存

選択した1フレームを切り出して、JPEG画像として保存します。

動画の必要な部分を残す

1 1コマ表示モード (📖 237) で編集したい動画を表示する

2 切り取りたい位置で動画を一時停止する

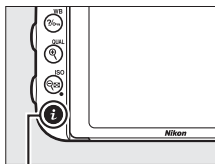
- OK ボタンを押すと、動画が再生されます。再生中にマルチセクターの🔍を押すと、一時停止します。
- プログレスバーで再生中の位置の目安を確認できます。
- 🔍または▶、メインコマンドダイヤル、サブコマンドダイヤルで再生中の位置を調整できます。



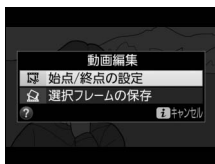
プログレスバー

3 [始点/終点の設定] を選ぶ

- **i** ボタンを押して、[始点/終点の設定] を選んで **OK** ボタンを押します。

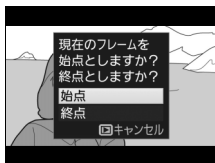


i ボタン



4 始点または終点を選ぶ

- [始点] を選んで **OK** ボタンを押すと、選んだ始点より後ろの部分が残ります。



- [終点] を選んで **OK** ボタンを押すと、選んだ終点より前の部分が残ります。



5 手順4で選んだ始点、または手順4で選んだ終点の位置を調整する

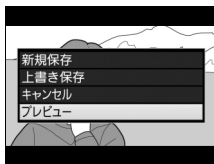
- ④または⑤を押して、切り取りたい位置を調整します。
- メインコマンドダイヤルを1クリック回すと、10秒前または後に移動します。
- サブコマンドダイヤルを回すと、先頭フレームまたは最終フレームに移動します。
- 動画撮影時にインデックスマークを設定した場合（□69）は、サブコマンドダイヤルを回すと、前後のインデックスマークに移動します。



6 ⑥を押して決定する

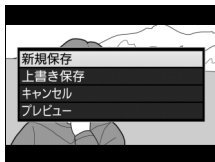
7 保存する動画を確認する

- [プレビュー] を選んでOKボタンを押すと、編集後の動画のプレビューが再生されます（プレビューを終了するには⑥を押します）。
- [キャンセル] を選んでOKボタンを押すと、手順5の画面に戻ります。



8 動画ファイルの保存方法を選ぶ

- [新規保存] を選ぶと、編集前の動画とは別に、新しい動画として保存します。[上書き保存] を選ぶと、編集前の画像が上書きされます。



9 動画ファイルを保存する

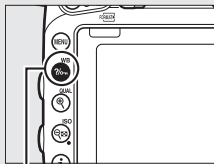
- **OK** ボタンを押して決定します。

✓ 動画編集時のご注意

- SDカードに十分な空き容量がない場合、動画編集できません。
- [始点/終点の設定] では、2秒未満の動画は編集できません。
- 動画編集で作成した動画の日時情報は、撮影時の日時になります。

✎ 動画の前後を切り取るには

手順5の画面で、**WB** ボタンを押すと、**■** (始点) または **■** (終点) を切り換えられ、一度の操作で動画の前後を切り取ることができます。



WB ボタン



✎ 画像編集メニュー [動画編集]

動画編集は、メニュー操作でも行えます (□395)。

動画の1フレームをJPEG画像として保存する

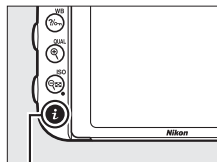
1 保存したい位置で動画を一時停止する

- 動画の再生中にマルチセクターの $\odot$ を押すと、一時停止します。

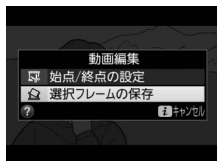


2 [選択フレームの保存] を選ぶ

- **i** ボタンを押して、[選択フレームの保存] を選んで $\odot$ ボタンを押します。



i ボタン



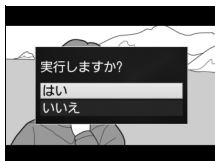
3 JPEG画像として保存したいフレームを決める

- 保存したいフレームを選んで $\odot$ を押します。



4 JPEG画像を作成する

- [はい] を選んで **OK** ボタンを押すと、JPEGの画像として保存します。



【選択フレームの保存】で作成した画像について

- 画質モード **【FINE】** (□114) のJPEG画像を作成します。
- 画像編集はできません。
- 再生時の画像情報 (□242) で表示されない項目があります。

P、S、A、Mモードで撮影する

撮影モードP、S、A、Mを使う

撮影モード**P**、**S**、**A**、**M**では、撮影の意図に応じて、シャッタースピードと絞りのそれぞれを自分で設定したり、カメラまかせにしたりすることができます。



P プログラムオート (☐90)	シャッターチャンス逃したくないスナップ撮影などに使います。シャッタースピードと絞り値の両方をカメラが自動制御します。
S シャッター優先 オート (☐91)	被写体の動きを強調して撮影したいときなどに使います。シャッタースピードを自分で設定し、絞り値はカメラが自動制御します。
A 絞り優先オート (☐92)	背景のぼかし方を調節して撮影したいときなどに使います。絞り値を自分で設定し、シャッタースピードはカメラが自動制御します。
M マニュアル (☐94)	シャッタースピードと絞り値の両方を自分で設定します。長時間露出(バルブ、タイム)撮影も、このモードで行います。

☑ 使用レンズについてのご注意

- CPUレンズ(Gタイプ、Eタイプレンズを除く)の絞りリング(☐433)は、必ず最小絞り(一番大きい数値)にセットしてください。
- 非CPUレンズをお使いの場合は、撮影モード**A**または**M**で撮影してください(その他のモードではシャッターがきけません)。絞りの設定や確認はレンズの絞りリングで行って撮影してください。詳しくは「使用できるレンズ」(☐430)をご覧ください。

P (プログラムオート)

被写体の明るさに応じて露出が適正になるように、カメラがシャッタースピードと絞り値を自動的に決定します。同じ露出でシャッタースピードと絞り値の組み合わせを変える「プログラムシフト」も行えます。

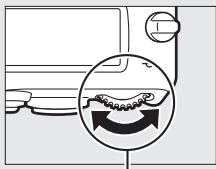
🔧 プログラムシフト

撮影モードPでは、カメラがシャッタースピードと絞り値を決めますが、半押しタイマーがオンのときに次の方法で「プログラムシフト」を行うと、適正露出のまま、シャッタースピードと絞り値の組み合わせを変えられます。プログラムシフト中はファインダー内表示にプログラムシフトマーク📷が点灯します。

- 背景をぼかしたい（絞り値を小さくする）場合や動きの速い被写体を撮影したい（速いシャッタースピードにする）場合にはメインコマンドダイヤルを右に回してください。
- 近くから遠くまでピントの合った写真を撮りたい（絞り値を大きくする）場合や被写体の動きを強調したい（遅いシャッタースピードにする）場合にはメインコマンドダイヤルを左に回してください。
- プログラムシフトを解除するには、プログラムシフトマーク📷が消灯するまでメインコマンドダイヤルを回してください。電源をOFFにしたときや、他の撮影モードに切り換えたときも、プログラムシフトは解除されます。

🔧 関連ページ

- 「撮影モードP（プログラムオート）のプログラム線図」(📖465)
- 「ファインダー撮影時の半押しタイマーについて」(📖38)



メインコマンドダイヤル

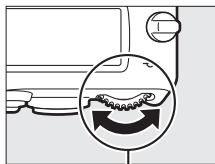


ファインダー内表示

S (シャッター優先オート)

シャッタースピードを自分で決めると、露出が適正になるようにカメラが自動的に絞り値を決定します。動きの速い被写体の撮影や、遅いシャッタースピードで被写体の動きを強調する撮影に適しています。シャッタースピードは、半押しタイマーがオンのときにメインコマンドダイヤルを回して設定します。

- シャッタースピードは1/4000 (4000) ~ 30秒 (30''), x 200に設定できます。



メインコマンドダイヤル



表示パネル

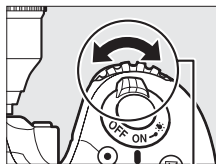
関連ページ

表示パネルで**bv1b/-**が点滅したときは→「警告メッセージ」(□476)

A（絞り優先オート）

絞り値を自分で決めると、露出が適正になるようにカメラが自動的にシャッタースピードを決定します。絞り値を設定するには、半押しタイマーがオンのときにサブコマンドダイヤルを回します。

- 設定できる最小絞り値、開放F値はレンズの種類によって異なります。



サブコマンドダイヤル

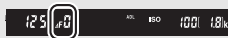


表示パネル

❏ 非CPUレンズを取り付けた場合

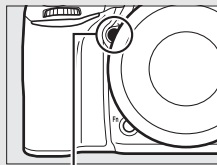
非CPUレンズ(□435)を装着してセットアップメニューの[レンズ情報手動設定](□232)でレンズの開放絞り値(開放F値)を設定した場合は、表示パネルとファインダー内表示に絞り値が表示されます。絞り値の設定は、レンズの絞りリングで行ってください。この場合、絞りリングによる中間絞りの設定は可能ですが、表示は1段単位になります。

- 開放絞り値を設定しない場合は、表示パネルとファインダー内の絞り値表示が開放からの絞り段数表示(ΔF、開放絞りはΔF0)となりますので、絞り値の設定と確認は、レンズの絞りリングで行ってください。



❏ 被写界深度のプレビュー

Pvボタンを押している間、レンズの絞り羽根が絞り込まれます。この状態でファインダーをのぞくと、そのときの絞り値のおおよその被写界深度(ピントの合う前後の範囲)が確認できます。内蔵フラッシュや別売のニコンクリエイティブライティングシステム(□437)対応スピードライト使用時は、モデリング発光をします。モデリング発光をしないようにするには、カスタムメニューe5[モデリング発光]を[しない]に設定してください(□353)。



Pvボタン

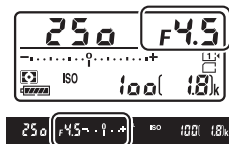
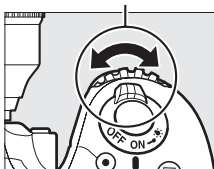
M (マニュアル)

シャッタースピードと絞り値の両方を自分で決定します。花火や星空などを長時間露出（バルブ撮影、タイム撮影、□96）で撮影する場合にはこの撮影モードを使います。半押しタイマーがオンのときに、露出インジケータを確認しながら、コマンドダイヤルを回してシャッタースピードと絞り値を設定します。

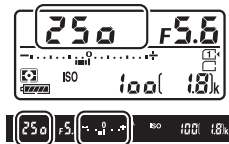
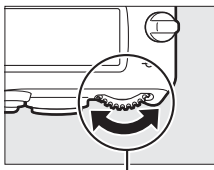
- メインコマンドダイヤルを回すと、シャッタースピード表示が変化します。設定したいシャッタースピード（1/4000（4000）～30秒（30'）および**bulb**（バルブ）、--（タイム）、x 200）に合わせてください。
- サブコマンドダイヤルを回すと、絞り値が変化します。
- 設定できる最小絞り値、開放F値はレンズの種類によって異なります。

サブコマンドダイヤル

絞り値の
設定



シャッター
スピードの
設定



メインコマンドダイヤル

🔍 AFマイクロレンズ装着時の露出倍数について

AFマイクロレンズをカメラに装着して、外部露出計の測光値を参考に絞り値をサブコマンドダイヤルでセットする場合、露出倍数を考慮する必要はありません。レンズの絞りリングでセットする場合だけ、露出倍数を考慮した補正が必要になります。

🔍 露出インジケータについて

撮影モードが**M**のときの適正露出との差が、表示パネルとファインダー内表示に表示されます。この「露出インジケータ」の見方は次の通りです（表示内容はカスタムメニューb2「露出設定ステップ幅」(□331)の設定によって変化します)。

	【露出設定ステップ幅】が【1/3段】のとき		
	適正露出の場合	1/3段 アンダーの場合	2段 オーバーの場合
表示 パネル	-.....0.....+	-.....0.....+	-.....0.....+
ファイン ダー内表示	- . 0 . . +	- . 0 . . +	- . 0 . . +

- 長時間露出（バルブ、タイム）撮影時（□96）は、露出インジケータは表示されません。

✔ 露出の制御ができないときの警告について

光量がカメラの測光範囲を超えて露出の制御ができない場合や、ライブビューでの露出制御範囲を超えた場合には、露出インジケータが点滅して警告します。

🔍 関連ページ

インジケータの+/-方向を変更する→🔍 f8「インジケータの+/-方向」(□367)

長時間露出で撮影する（撮影モードMのみ）

長時間露出撮影には、バルブ撮影とタイム撮影の2種類があります。花火や夜景、星空の撮影や、自動車のライトの流れを表現したいときなどに使います。



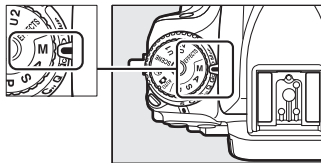
シャッタースピードを35秒、
絞り値をF25にして撮影した場合の画像

バルブ撮影	シャッターボタンを押し続けている間シャッターが開いたままになり、シャッターボタンを放すとシャッターが閉じます。 リモコン ML-L3（別売）の送信ボタンを押すと、シャッタースピードをbulb（バルブ）にしても、タイム撮影になります。
タイム撮影	シャッターボタンを全押しするとシャッターが開いたままになり、もう一度全押しするとシャッターが閉じます。

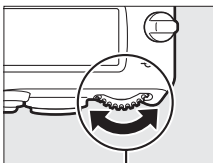
■■ バルブ撮影する

1 撮影モードダイヤルをMに合わせる

撮影モードダイヤル



2 メインコマンドダイヤルを回して、シャッタースピードを**bulb**（バルブ）に設定する



メインコマンドダイヤル



表示パネル

3 ピントを合わせて、撮影を開始する

- シャッターボタンを全押しして撮影を開始します。シャッターボタンは押し続けてください。

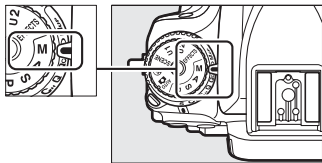
4 撮影を終了する

- シャッターボタンを放すと、撮影が終了します。

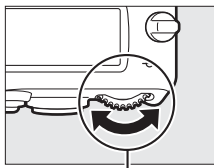
■ タイム撮影する

1 撮影モードダイヤルをMに合わせる

撮影モードダイヤル



2 メインコマンドダイヤルを左に回して、シャッタースピードを-- (タイム) に設定する



メインコマンドダイヤル



表示パネル

3 ピントを合わせて、撮影を開始する

- シャッターボタンを全押しすると、シャッターが開き、撮影を開始します。

4 もう一度シャッターボタンを全押しして撮影を終了する

- シャッターが開いてからボタンを押さないまま30分経つと、シャッターが自動的に閉じて撮影を終了します。

別売のリモコンML-L3をお使いの場合

撮影前に、静止画撮影メニューの[リモコンモード設定 (ML-L3)]でリモコンモード([2秒リモコン]、[瞬時リモコン]、[ミラーアップリモコン])を設定してください(□194)。

長時間露出について

- 手ブレを抑えるために三脚や別売のリモコン、ワイヤレスリモートコントローラーまたは、リモートコードなどが必要です(□447)。ワイヤレスリモートコントローラーとリモートコードのシャッターボタンは、カメラのシャッターボタンと同様に機能します。
- 適正露出に影響を与える接眼部からの逆入射光を防ぐため、シャッターボタンを押す前に付属のアイピースキャップを取り付けてください(□107)。
- 露光時間が長くなると、画像にノイズ(ざらつき、むら、輝点)が発生することがあります。このノイズは、あらかじめ静止画撮影メニューの[長秒時ノイズ低減](□315)を[する]にしておくことで低減できます。
- 撮影中のバッテリー切れを防ぐため、十分に充電されたバッテリー、または別売のパワーコネクターとACアダプターを組み合わせるをお使いになることをおすすめします。

ユーザーセッティングモード U1、U2を使う

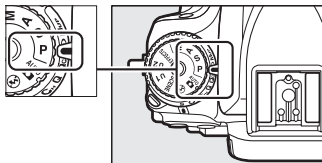
U1、U2にユーザーセッティングを登録 する

よく使う機能（ユーザーセッティング）を、あらかじめ撮影モードダイヤル**U1**と**U2**に登録すると、撮影モードダイヤルを切り換えるだけで、登録したユーザーセッティングの内容で撮影できます。

ユーザーセッティングを登録する

- 1 登録したい撮影モード
を選ぶ

撮影モードダイヤル

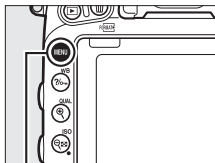


2 登録したい撮影機能を設定する

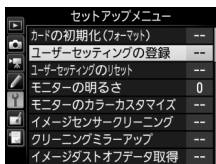
- ユーザーセッティングモード**U1**、**U2**には、次の撮影機能を登録できます。
 - 静止画撮影メニュー項目 (□308)
 - 動画撮影メニュー項目 (□316)
 - カスタムメニュー項目 (□322)
 - シャッタースピード (撮影モード**S**、**M**)、絞り値 (撮影モード**A**、**M**)、プログラムシフト (撮影モード**P**)、露出補正、調光補正、フラッシュモード、フォーカスポイント、測光モード、AFモード、AFエリアモード、オートブラケティング

3 セットアップメニューの「ユーザーセッティングの登録」を選ぶ

- **MENU**ボタンを押して、セットアップメニューの「ユーザーセッティングの登録」を選んでマルチセクターの $\odot$ を押します。



MENUボタン



✓ 登録できない撮影機能について

静止画撮影メニューまたは動画撮影メニューでは、一部登録できない撮影機能があります。詳しくは「静止画撮影メニュー」(□308)または「動画撮影メニュー」(□316)をご覧ください。

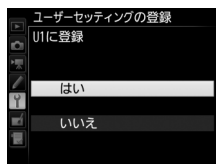
4 設定を登録したいユーザーセッティングモードを選ぶ

- [U1に登録] または [U2に登録] のいずれかを選んで、を押します。



5 ユーザーセッティングを登録する

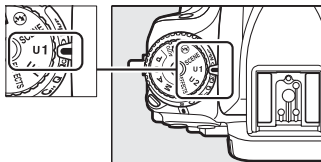
- またはで、[はい] を選んで  ボタンを押すと、選んだユーザーセッティングモードに現在の設定内容が登録されます。



6 登録したユーザーセッティングで撮影する

- 撮影モードダイヤルをU1またはU2に合わせると、登録したユーザーセッティングの内容で撮影できます。

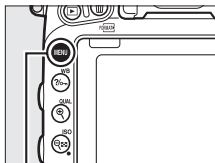
撮影モードダイヤル



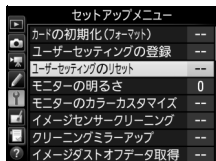
登録したユーザーセッティングをリセットする

1 セットアップメニューの【ユーザーセッティングのリセット】を選ぶ

- MENUボタンを押して、セットアップメニューの【ユーザーセッティングのリセット】を選んでマルチセクターの⏏を押します。

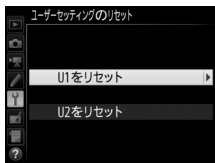


MENUボタン



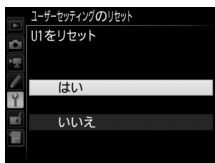
2 リセットしたいユーザーセッティングモードを選ぶ

- [U1をリセット] または [U2をリセット] のいずれかを選んで、⏏を押します。



3 ユーザーセッティングをリセットする

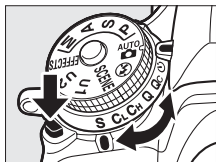
- ⏏または⏏で、[はい] を選んで⏏ボタンを押すと、選んだユーザーセッティングモードに登録された設定内容が、初期設定（撮影モードP）に戻ります。



リリースモード

1コマ撮影や連続撮影、静音撮影など、リリースモードを変更する

リリースモードダイヤルロックボタンを押しながら、リリースモードダイヤルを回すと(□7)、シャッターをきる(リリースする)ときの動作を設定できます。

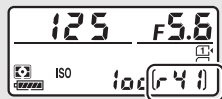


リリースモード	内容
S 1コマ撮影	シャッターボタンを全押しするたびに1コマずつ撮影します。
CL 低速連続撮影	シャッターボタンを全押ししている間、約1～6コマ/秒 ^{*1} で連続撮影できます ^{*2} 。
CH 高速連続撮影	シャッターボタンを全押ししている間、約6.5コマ/秒で連続撮影できます ^{*2} 。動きのある被写体などに使用すると便利です。
Q 静音撮影	1コマ撮影時より静かに撮影したい場合に適しています。静音撮影では、シャッターボタンを全押ししている間はミラーダウンしません。シャッターボタンを半押し状態に戻すとミラーダウンするため、ミラーダウン音のタイミングを遅らせることができます。また、ミラーダウンする音も1コマ撮影に比べ静かです。 • 静音撮影時には、カスタムメニュー d1 [電子音設定] (□336) の設定にかかわらず、電子音は鳴りません。
Qc 静音連続撮影	シャッターボタンを全押ししている間、約3コマ/秒で連続静音撮影します ^{*2} 。
 セルフ タイマー撮影	セルフタイマー撮影ができます (□106)。
MUP ミラー アップ撮影	カメラ本体のミラーアップを行い、撮影時にミラーアップの振動によるブレを防ぐことができます (□108)。超望遠撮影時や接写撮影時に効果的です。

- ※1 カスタムメニュー d2 [低速連続撮影] (□337) で設定した連続撮影速度になります。
- ※2 連続撮影速度は、AFモードが**AF-C**、撮影モード**S**または**M**、1/200 秒以上の高速シャッタースピード、電源がEN-EL15で、その他が初期設定のときの値です。

④ 連続撮影可能コマ数について

- シャッターボタンを半押しすると、連続撮影可能コマ数が、表示パネルとファインダー内に表示されます。右図の場合、撮影速度を維持しながら最低41コマ続けて撮影できることを示しています。
- 連続撮影は最大100コマまでできます。ただし、「100」と表示されたとき、連続撮影速度が低下します。
- 表示される連続撮影可能コマ数は、おおよその目安です。撮影条件によって増減することがあります。



④ ライブビュー撮影時の連続撮影について

ライブビュー時に連続撮影をする場合、シャッターボタンを全押ししている間、撮影した画像が表示されます。画像が表示されている間は、ライブビューは表示されません。

④ 連続撮影時の記録について

- 内蔵フラッシュが発光する場合 (□181) は、連続撮影できません。
- SDカードの性能や撮影条件によっては、数十秒から1分間程度SDカードアクセスランプが点灯します。SDカードアクセスランプの点灯中にカメラからSDカードを取り出さないでください。データが消失するだけでなく、カメラとSDカードに不具合が生じるおそれがあります。
- SDカードアクセスランプ点灯中に電源をOFFにすると、撮影された全ての画像がSDカードに記録されてから電源が切れます。
- 連続撮影時にバッテリーの残量がなくなった場合は、撮影は行わず、撮影済みの画像データがSDカードに記録されて終了します。

④ 連続撮影速度について

次の場合など、条件によって連続撮影速度が遅くなることがあります。

- シャッタースピードが低速の場合
- 感度自動制御を [する] にして感度が自動制御されているとき (□134)
- バッテリー残量が少なくなるとき
- レンズの絞りを著しく絞り込んだ場合
- VRレンズ使用時にレンズの手ブレ補正スイッチをONにしたとき
- 非 CPU レンズ装着時およびカスタムメニュー f5 [コマンドダイヤルの設定] の [絞り値の設定方法] を [絞りリング] に設定した場合 (□364)

④ 関連ページ

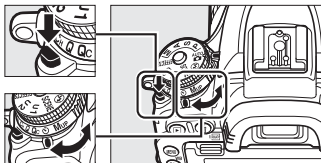
- 連続撮影時に撮影コマ数を制限する → ④ d3 [連続撮影コマ数] (□337)
- 「記録可能コマ数と連続撮影可能コマ数」 (□495)

セルフタイマーを使って撮影する (⌚)

セルフタイマーによる撮影は記念写真など、撮影者自身も一緒に写りたいときなどに便利です。セルフタイマー撮影時は、三脚などを使ってカメラを固定してください。

1 リリースモードダイヤルを⌚（セルフタイマー撮影）に合わせる

- リリースモードダイヤルロックボタンを押しながら、⌚に合わせます。



リリースモードダイヤル

2 構図を決め、ピントを合わせる

- AFモードが**AF-S**でピントが合っていないときなど、カメラのシャッターがきれない状態ではセルフタイマーは作動しません。



3 セルフタイマー撮影を開始する

- シャッターボタンを全押しすると、セルフタイマーランプが約8秒間点滅後、約2秒間点灯して合計で約10秒後にシャッターがきれます。
- リリースモードダイヤルを他のモードに切り換えると、セルフタイマーは解除されます。

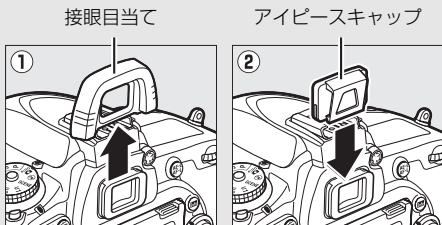


🔧 セルフタイマー撮影時のフラッシュについて

- 内蔵フラッシュを手動で上げる撮影モード (□183) でフラッシュを使って撮影したいときは、撮影を開始する前に🔧 (🔧) ボタンを押して内蔵フラッシュを上げ、ファインダー内表示の🔧 (フラッシュアイコン) が点灯するまでお待ちください。セルフタイマーの作動中にフラッシュを上げると、撮影は中止されます。
- 内蔵フラッシュが発光するときは、カスタムメニュー c3 [セルフタイマー] の [撮影コマ数] (□334) を2コマ以上に設定していても、連続撮影はできません。

🔧 ファインダーから顔を離して撮影するときは

- ファインダーから顔を離して撮影するときは、ファインダーから入った光が適正露出や画像に影響を与えることを防ぐため、付属のアイピースキャップを取り付けることをおすすめします。
- アイピースキャップは、接眼目当てを取り外し (①)、図のように取り付けます (②)。接眼目当てを取り外すときは、カメラをしっかりと支えてください。



🔧 関連ページ

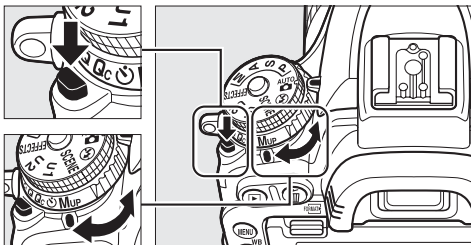
- セルフタイマーの作動時間、撮影コマ数、撮影間隔を設定する → 🔧 c3 [セルフタイマー] (□334)
- セルフタイマー撮影時の電子音を設定する → 🔧 d1 [電子音設定] (□336)

ミラーアップ撮影する (MUp)

ミラーアップ撮影すると、撮影時にミラーアップの振動によるブレを防ぐことができます。

- リリースモードダイヤルロックボタンを押しながら、リリースモードダイヤルを**MUp** (ミラーアップ撮影) に合わせます。

リリースモードダイヤルロックボタン



リリースモードダイヤル

- シャッターボタンを半押ししてピントと露出を合わせた後、全押しするとミラーアップします。もう一度シャッターボタンを全押しすると撮影できます。

✓ ミラーアップ中のご注意

- ファインダーで構図を確認できません。
- オートフォーカスと測光は使えません。

🔧 ミラーアップ撮影について

- ブレを防ぐため、シャッターボタンは静かに押してください。
- 撮影が終了すると、ミラーダウンします。
- 三脚の使用をおすすめします。
- ミラーアップ撮影時には、別売のリモートコード(□447)を使うと効果的です。
- リモコンを使ってミラーアップ撮影する方法については、「別売のリモコン ML-L3を使って撮影する (■)」(□194) をご覧ください。
- ミラーアップしたまま約30秒経過すると、自動的にシャッターがきれます。

画像の記録

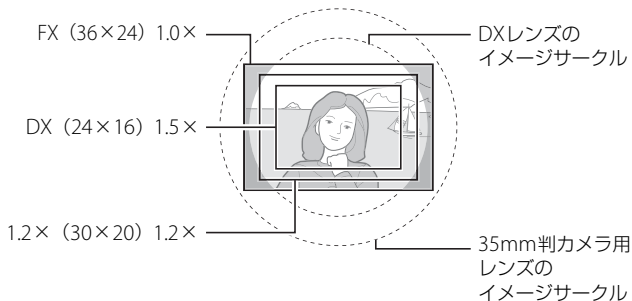
撮像範囲を変更する

撮像範囲を切り換えて撮影できます。

■■ 撮像範囲設定

このカメラで設定できる撮像範囲は次の通りです。撮像範囲は、静止画撮影メニューまたは動画撮影メニューの**[撮像範囲]**の**[撮像範囲設定]**で設定するか(□111)、**Fn**ボタンとコマンドダイヤルで設定します(□112)。

 FX (36 × 24) 1.0× (FXフォーマット)	35mm 判カメラに準じた画角のFX フォーマット (35.9 × 24.0 mm) で画像を記録します。35mm判カメラ用のニッコールレンズを装着して撮影するときに設定します。
 1.2× (30 × 20) 1.2×	29.9 × 19.9 mm で画像を記録します。レンズに表記されている焦点距離の約1.2倍のレンズに相当する画角になります。動画撮影メニューでは選べません。
 DX (24 × 16) 1.5× (DXフォーマット)	DXフォーマット (23.5 × 15.7 mm) で画像を記録します。レンズに表記されている焦点距離の約1.5倍のレンズに相当する画角になります。



■ DX自動切り換え

静止画撮影メニューまたは動画撮影メニュー〔**撮像範囲**〕の〔**DX自動切り換え**〕では、DXレンズを装着したときに自動的に撮像範囲を〔**DX (24×16) 1.5×**〕（DXフォーマット）に切り換えるかどうかを設定できます。

する	DXレンズを装着すると、自動的に撮像範囲を〔 DX (24×16) 1.5× 〕に切り換えます。
しない	自動的に切り換えません。

✓「ケラレ」について

DXレンズは通常の35mm判カメラ用レンズに比べ、イメージサークルが小さくなっています。このため、DXレンズを装着して〔**DX自動切り換え**〕を〔**しない**〕に設定して〔**撮像範囲設定**〕を〔**FX (36×24) 1.0×**〕または〔**1.2× (30×20) 1.2×**〕にして撮影すると、画面周辺部が黒くなることがあります。これを「ケラレ」といいます。ファインダー上ではケラレがないように見えても、撮影した画像を再生すると周辺部が暗くなっていることや、十分な解像度が得られないことがあります。

🔍 ファインダーの表示について

撮像範囲が〔**1.2× (30×20) 1.2×**〕または〔**DX (24×16) 1.5×**〕のときは、下図のように表示します。



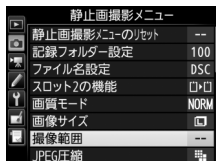
1.2× (30×20) 1.2×



DX (24×16) 1.5×

■ メニューの【撮像範囲】で設定する場合

- 1 静止画撮影メニューまたは動画撮影メニューの【撮像範囲】を選んでマルチセレクターの $\odot$ を押す



2 【撮像範囲設定】を選ぶ

- 【撮像範囲設定】を選んで $\odot$ を押すと、【撮像範囲設定】画面が表示されます。



3 設定したい撮像範囲を選ぶ

- 設定したい撮像範囲を選んで、 $\odot$ ボタンを押します。
- 設定に応じた撮像範囲がファインダー内で確認できます (□110)。

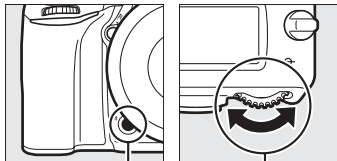


■ Fnボタンとコマンドダイヤルで設定する場合

1 カスタムメニュー f2 [Fnボタンの機能] の [コマンドダイヤル併用時の動作] (□360) を [撮像範囲選択] に設定する

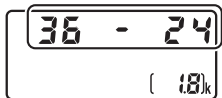
- Fnボタンとコマンドダイヤルの組み合わせに対して、撮像範囲の選択機能が割り当てられます。

2 Fnボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルまたはサブコマンドダイヤルを回す



Fnボタン メインコマンドダイヤル

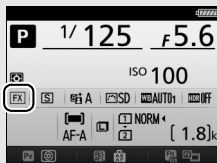
- 設定に応じた撮影範囲がファインダー内で確認できます (□110)。
- Fnボタンを押すと、表示パネルやファインダー内表示、インフォ画面で撮像範囲の設定を確認できます。



撮像範囲	表示
FX (36 × 24) 1.0× (FXフォーマット)	36 - 24
1.2× (30 × 20) 1.2×	30 - 20
DX (24 × 16) 1.5× (DXフォーマット)	24 - 16

🔍 撮像範囲の表示について

撮像範囲は、インフォ画面に表示されます (□12)。



✔ 撮像範囲の切り換えについて

撮像範囲の「DX自動切り換え」を「する」(□110)に設定してDXレンズを装着している場合、Fnボタンでは撮像範囲は切り換えられません。

🔍 撮像範囲を変更したときの画像サイズについて

同じ画像サイズに設定した場合でも、「撮像範囲」の設定によって、撮影画像のピクセル数が変化します (□117)。

🔍 関連ページ

- 「動画ライブビュー時の撮像範囲」(□75)
- P_vボタンで撮像範囲を切り換える → f3 [プレビューボタンの機能] (□361)
- AE/AFロックボタンで撮像範囲を切り換える → f4 [AE/AFロックボタンの機能] (□361)
- 「記録可能コマ数と連続撮影可能コマ数」(□495)

画質モードを変更する

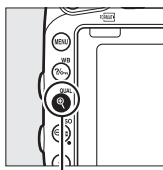
画像を記録する際の画質モードを選びます。

画質モード		ファイル形式	内容
RAW		NEF	撮像素子の生データ（RAW形式）を記録します。撮影時に設定したホワイトバランスやコントラストなどを、撮影後に変更できます。
FINE	高 ↑ 画質 ↓ 低	JPEG	画像データを約1/4に圧縮して記録します（サイズ優先時）。
NORMAL			画像データを約1/8に圧縮して記録します（サイズ優先時）。
BASIC			画像データを約1/16に圧縮して記録します（サイズ優先時）。
RAW + FINE		NEF + JPEG	RAWとJPEG（FINE）の2種類の画像を同時に記録します。
RAW + NORMAL			RAWとJPEG（NORMAL）の2種類の画像を同時に記録します。
RAW + BASIC			RAWとJPEG（BASIC）の2種類の画像を同時に記録します。

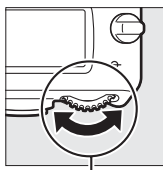
画質モードの設定方法

Ⓚ（QUAL）ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回す

- 画質モードは、インフォ画面に表示されます。



Ⓚ（QUAL）
ボタン



メインコマンド
ダイヤル



インフォ画面

RAW画像について

- 画質モードでRAWを選んだ場合、画像サイズは設定できません。RAWで保存した画像を付属のViewNX 2やCapture NX-Dなどで表示すると、画像サイズはLと同じになります。
- 現像には画像編集メニューの「**RAW現像**」(□408)、または付属のソフトウェアViewNX 2やCapture NX-Dを使います。
- ViewNX 2は付属のViewNX 2 CD-ROMを使ってインストールできます。
- Capture NX-Dは、ViewNX 2インストーラー(□257)に表示されているリンクからダウンロードしてインストールできます。

RAW画像とJPEG画像の同時記録について

- 画質モード「**RAW+FINE**」、「**RAW+NORMAL**」、「**RAW+BASIC**」で撮影したとき、カメラではJPEG画像のみを再生します。SDカードを1枚使用している場合、JPEG画像と同時記録されたRAW画像はパソコンでのみ再生できます。
- SDカードを1枚使用している場合や、SDカードを2枚使用していても「**スロット2の機能**」(□118)が「**順次記録**」または「**バックアップ記録**」の場合、RAW画像と同時記録されたJPEG画像をカメラ上で削除すると、RAW画像も削除されます。
- 「**スロット2の機能**」(□118)を「**RAW+JPEG 分割記録**」に設定してSDカードを2枚使用している場合、RAW画像がスロット1に、JPEG画像がスロット2に記録されます。RAW画像と同時記録されたJPEG画像をカメラ上で削除しても、RAW画像は削除されません。

JPEG画像の圧縮率について

画像データの圧縮率は目安です。撮影するシーンやISO感度によっては圧縮率が大きく変わる場合があります。

「画質モード」について

画質モードは静止画撮影メニュー(□308)でも設定できます。

関連ページ

「記録可能コマ数と連続撮影可能コマ数」(□495)

■ JPEG画像の圧縮方式を選ぶ

静止画撮影メニュー [JPEG圧縮] を選んで、画質モードがJPEG (FINE)、JPEG (NORMAL)、JPEG (BASIC) の画像を記録するときの圧縮方式を設定します。

 サイズ優先	ファイルサイズがほぼ一定になるように圧縮します。
 画質優先	画質の劣化を抑えて圧縮します。画像によってファイルサイズは異なります。

■ RAW画像の圧縮方式を選ぶ

静止画撮影メニュー [RAW記録] で [記録方式] を選んで、RAW画像の記録時の圧縮方式を設定します。

ON  ロスレス圧縮RAW	可逆圧縮します（データを完全に復元できます）。非圧縮時のファイルサイズに対して、約60～80%に圧縮して記録します。
ON  圧縮RAW	非可逆圧縮します（データは完全には復元できません）。非圧縮時のファイルサイズに対して、約45～65%に圧縮して記録します。

■ RAW画像の記録ビット数を選ぶ

静止画撮影メニュー [RAW記録] で [記録ビットモード] を選んで、RAW画像の記録ビット数を設定します。

12-bit 12ビット記録	RAW画像を12ビットで記録します。
14-bit 14ビット記録	RAW画像を14ビットで記録します。[12ビット記録] の場合よりもさらに豊かな階調表現になります。画像のファイルサイズは [12ビット記録] よりも大きくなります。

画像サイズを設定する

画像を記録する際の画像サイズ（大きさ）を、[サイズL]、[サイズM]、[サイズS] から設定できます。画像サイズは撮像範囲との組み合わせで変わります（□109）。

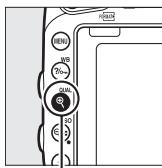
撮像範囲	画像サイズ	プリント時の大きさ (出力解像度300dpiの場合) ※
FX (36 × 24) 1.0×	L (6016 × 4016ピクセル)	約50.9 × 34.0 cm
	M (4512 × 3008ピクセル)	約38.2 × 25.5 cm
	S (3008 × 2008ピクセル)	約25.5 × 17.0 cm
1.2× (30 × 20) 1.2×	L (5008 × 3336ピクセル)	約42.4 × 28.2 cm
	M (3752 × 2504ピクセル)	約31.8 × 21.2 cm
	S (2504 × 1664ピクセル)	約21.2 × 14.1 cm
DX (24 × 16) 1.5×	L (3936 × 2624ピクセル)	約33.3 × 22.2 cm
	M (2944 × 1968ピクセル)	約24.9 × 16.7 cm
	S (1968 × 1312ピクセル)	約16.7 × 11.1 cm

※ピクセル数÷出力解像度（dpi）×2.54 cmで計算しています。

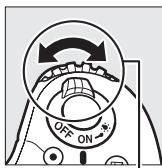
■■ 画像サイズの設定方法

🔍 (QUAL) ボタンを押しながら、サブコマンドダイヤルを回す

- 画像サイズは、インフォ画面に表示されます。



🔍 (QUAL)
ボタン



サブコマンド
ダイヤル



インフォ画面

🔍 【画像サイズ】について

画像サイズは静止画撮影メニュー（□308）でも設定できます。

2枚のSDカードに記録する（スロット2の機能）

MENUボタンを押して、静止画撮影メニュー「**スロット2の機能**」を選べば、2つあるSDカードスロットの両方を使って画像を記録するときのスロット2の機能を設定できます。

 順次記録	スロット1から優先的に記録し、空き容量がなくなったら、記録先をスロット2に変更します。
 バックアップ記録	バックアップ用として同じ画像をスロット1、スロット2に記録します。
 RAW+JPEG分割記録	• [画質モード] が [RAW + FINE]、[RAW + NORMAL]、または [RAW + BASIC] の場合、スロット1にRAW画像、スロット2にJPEG画像を記録します。 • その他の画質モードの場合は、同じ画像をスロット1とスロット2の両方に記録します。

【バックアップ記録】と【RAW+JPEG分割記録】について

- 表示パネルとファインダー内表示の記録可能コマ数には、記録可能コマ数が少ないスロットのコマ数を表示します。
- どちらか一方のスロットの空き容量がなくなると、シャッターがきれなくなります。

動画を記録するスロットについて

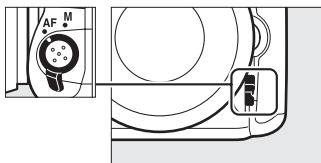
動画撮影メニューの「**ファイル記録先**」で、記録するスロットを設定できます（317）。

フォーカス

オートフォーカスで撮影する

フォーカスモードセクターを**AF**に合わせると、オートフォーカスになります。ここでは、ファインダーを見ながら撮影するときの、オートフォーカスでのピントの合わせ方について説明しています。

フォーカスモードセクター



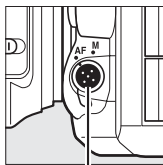
AFモードを設定する

AF-A	AFサーボモード 自動切り換え	被写体が静止しているときは AF-S 、動いているときは AF-C に自動的に切り替わります。
AF-S	シングル AFサーボ	静止している被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押しすると、ピントが合った時点でフォーカスがロックされます。 初期設定はピントが合うとシャッターがきれるフォーカス優先モードです (□325)。
AF-C	コンティニユアス AFサーボ	ファインダー内のピント表示 (●) がいったん点灯してもフォーカスロックはされず、シャッターをきるまでピントを合わせ続けるモードです。スポーツなど動きのある被写体の撮影に適しています。シャッターボタンの半押しを続けると、被写体が動いている場合には予測駆動フォーカス (□120) に切り替わり、被写体の動きに合わせてピントを追い続けます。 初期設定ではピントの状態に関係なく、いつでもシャッターがきれるリリース優先モードです (□325)。

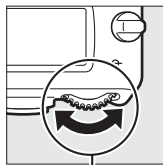
■ AFモードの変更方法

AFモードボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回す

- AFモードは、表示パネルとファインダー内表示に表示されます。



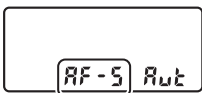
AFモードボタン



メインコマンドダイヤル



AF-A



AF-S



AF-C

🔪 予測駆動フォーカスについて

ファインダー撮影時のAFモードが**AF-C**のときや、**AF-A**に設定していて自動的に**AF-C**に切り替わったときは、シャッターボタンの半押し時に被写体が近づいてきたり遠ざかっていくのをカメラが認識すると、自動的に予測駆動フォーカスに切り替わります。予測駆動フォーカスが作動すると、シャッターがきれる時点での到達位置を予測しながらピントを合わせ続けます。

🔪 関連ページ

- AF-Cをフォーカス優先モードにする → 🔪 a1 [AF-Cモード時の優先] (□325)
- AF-Sをレリーズ優先モードにする → 🔪 a2 [AF-Sモード時の優先] (□325)
- サブコマンドダイヤルでAFモードを切り換えられるようにする → 🔪 f5 [コマンドダイヤルの設定] の [メインとサブの入れ換え] (□363)
- ライブビュー / 動画撮影時のAFモードを設定する → 「AFモードを変更する」 (□57)

AFエリアモードを変更する

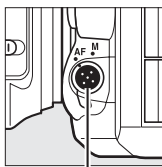
AFエリアモード	内容
シングルポイント AF	フォーカスポイントを自分で選べます (□125)。選んだフォーカスポイントだけを使ってピント合わせをします。静止している被写体の撮影に適しています。
ダイナミックAF・ 9点	AFモードの AF-A または AF-C (□119) との組み合わせで、撮影者が選んだ1つのフォーカスポイントから被写体が一時的に外れても、周辺のフォーカスポイントからのピント情報を利用してピントを合わせます。
ダイナミックAF・ 21点	● ダイナミックAF・9点: 構図を決めて撮影するときや、被写体の動く方向が予測でき、フォーカスポイントで被写体をとらえやすい撮影に適しています (例: 陸上競技やモータースポーツ)。 ● ダイナミックAF・21点: 動きがランダムで予測しにくい被写体の撮影に適しています (例: フィールドスポーツ)。
ダイナミックAF・ 51点	● ダイナミックAF・51点: 被写体の動きが速く、選んだフォーカスポイントで被写体をとらえにくい場合の撮影に適しています (例: 野鳥撮影)。
3D-トラッキング	AFモードのAF-AまたはAF-C (□119) との組み合わせで、51点全てのフォーカスポイントを使って被写体を追尾する3D-トラッキングになります。選んだフォーカスポイントで被写体にピントを合わせると、シャッターボタンを半押ししている間は被写体の動きに合わせて、フォーカスポイントを自動的に切り換えて被写体にピントを合わせ続けます。左右に動く被写体を自由な構図で撮影するのに適しています (例: テニス)。 ● カメラが途中で被写体を見失ってしまった場合は、いったんシャッターボタンを放して、もう一度被写体にフォーカスポイントを合わせてください。   

AFエリアモード	内容
グループエリア AF	撮影者が選んだフォーカスポイント（グループ）を使ってピント合わせをします。広い範囲で被写体をとらえるため、誤って背景にピントが合ってしまうことが起こりにくくなります。1つのフォーカスポイントではとらえにくい被写体を撮影する場合に適しています。 AFモードがAF-Sのときは、人物の顔を認識します。その場合は、認識した顔を優先してピントを合わせます。
オートエリアAF	カメラが自動的に全てのフォーカスポイントから被写体を判別してピントを合わせます。また、人物の顔を認識した場合は優先してピントを合わせます。 AFモードがAF-Sのときは、ピントが合ったフォーカスポイント全てを約1秒間表示します。AF-CまたはAF-Aに設定していて自動的にAF-Cに切り替わったときは、ピントが合った複数のフォーカスポイントを一瞬表示してから、主に使用するフォーカスポイント1点を表示します。 

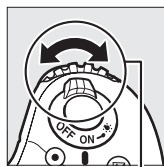
■ AFエリアモードの変更方法

AFモードボタンを押しながら、サブコマンドダイヤルを回す

- AFエリアモードは、表示パネルとファインダーに表示されます。



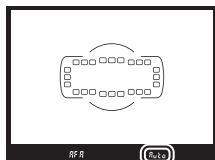
AFモードボタン



サブコマンド
ダイヤル



表示パネル



ファインダー内表示

🔍 AFエリアモードの表示について

表示パネルおよびファインダー内表示の各AFエリアモードの表示は次のようになります。

AFエリアモード	表示パネル	ファインダー内表示
シングルポイントAF	S	S
ダイナミックAF・9点※	d 9	d 9
ダイナミックAF・21点※	d21	d21
ダイナミックAF・51点※	d51	d51
3D-トラッキング	3d	3d
グループエリアAF	GrP	GrP
オートエリアAF	Auto	Auto

※実際にファインダーに表示されるフォーカスポイントは1点のみです。
ピント情報として利用する周辺のフォーカスポイントの数を選択できます。

3D-トラッキングについて

3D-トラッキングでは、半押ししていったんピントが合った時点で、選んだフォーカスポイント周辺の色を記憶します。そのため、被写体の色が周囲の色と似ていたり、半押し開始時の被写体が小さいと、うまく動作しない場合があります。

マニュアルフォーカス時のAFエリアモードについて

AFエリアモードは自動的にシングルポイントAFになります。

関連ページ

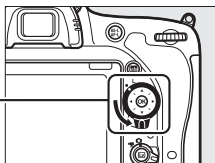
- AFロックオンを解除する →  a3 [AFロックオン] (□326)
- ダイナミックAF時やグループエリアAF時のフォーカスポイントの見え方を変える →  a4 [フォーカスポイント表示] (□327)
- メインコマンドダイヤルで AF エリアモードを切り換えられるようにする →  f5 [コマンドダイヤルの設定] の [メインとサブの入れ換え] (□363)
- ライブビュー / 動画撮影時のAFエリアモードを設定する → 「AFエリアモードを変更する」 (□58)

フォーカスポイントを自分で選ぶ

このカメラには、51カ所のフォーカスポイント（自動でピント合わせを行う領域）があります。フォーカスポイントを自分で選ぶことで、構図を自由に変えられます。

1 フォーカスポイント ロックレバーのロック を解除する

- フォーカスポイントロックレバーを回して●に合わせ、ロックを解除すると、マルチセクターでフォーカスポイントを選べるようになります。



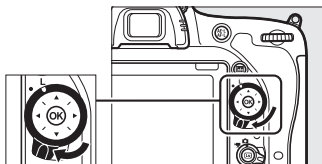
フォーカスポイント
ロックレバー

2 半押しタイマーがオンのときに、 ファインダーをのぞきながらマル チセクターでフォーカスポイン トを選ぶ

- ファインダー内で、フォーカスポイントが移動します。
- OKボタンを押すと、中央部のフォーカスポイントが選ばれます。



- フォーカスポイントロックレバーを**L**の位置に回すと、フォーカスポイントをロック（固定）します。



✓ オートエリアAFモードについて

AFエリアモードがオートエリアAFの場合、フォーカスポイントをカメラが自動的に決めるため、自分ではフォーカスポイントを選べません。

🔗 関連ページ

- フォーカスポイントの照明方法を変更する → 🖋 a5 [フォーカスポイント照明] (□328)
- フォーカスポイントの選択を循環方式にする → 🖋 a6 [フォーカスポイント循環選択] (□328)
- マルチセクターで選べるフォーカスポイントの数を変える → 🖋 a7 [AF点数切り換え] (□328)
- カメラの縦位置と横位置で個別にフォーカスポイントを設定する → 🖋 a8 [縦/横位置フォーカスポイント切換] (□329)
- **OK**ボタンを押したときの機能を変更する → 🖋 f1 [OKボタンの機能] (□354)

フォーカスロックしてピントを固定する

ピントを合わせたい被写体がいずれのフォーカスポイントにも入らないときや、オートフォーカスが苦手な被写体（□129）を撮影するときには、次の手順でピントを固定（フォーカスロック）して撮影してください。フォーカスロックを行う前に、AFエリアモード（□121）をオートエリアAF以外に設定することをおすすめします。

1 ピントを合わせたい被写体にフォーカスポイントを重ね、シャッターボタンを半押しする

- ピントが合うと、ファインダー内のピント表示（●）が点灯します。



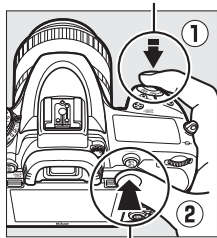
2 ピントを固定する

AFモード（□119）がAF-AまたはAF-Cのとき

シャッターボタンを半押ししたまま（①）、AE/AFロックボタンを押すと（②）、ピントが固定されます。

AE/AFロックボタンを押している間は、シャッターボタンから指を放しても、ピントと露出が固定されます。

シャッターボタン



AE/AFロックボタン

- AE/AFロックボタンを押している間、ファインダー内にはAE-Lマークが点灯します。



AFモードがAF-Sのとき

シャッターボタンを半押ししている間は、ピントが固定されます。

AE/AFロックボタンを押してピントを固定することもできます。

3 フォーカスロックを行って たまたまで構図を変え、 シャッターボタンを全押し して撮影する

- 被写体との距離は変えないでください。フォーカ



スロック後に被写体との距離が変化した場合は、いったんフォーカスロックを解除し、ピントを合わせ直してください。

シャッターボタンの半押しで露出を固定するには

カスタムメニュー c1 [半押しAEロック] を [する] に設定すると、シャッターボタンの半押しで露出を固定できます (□333)。

ピントを固定したまま繰り返し撮影したいときは

- シャッターボタンの半押しでフォーカスロックした場合は、シャッターをきいた後、シャッターボタンを半押しの状態に戻し、そのままもう一度シャッターボタンを全押ししてください。
-  AE/AF ロックボタンを押してフォーカスロックを行った場合は、 AE/AF ロックボタンを押したままもう一度シャッターボタンを全押ししてください。

関連ページ

 AE/AFロックボタンを押したときの機能を変更する →  f4 [AE/AFロックボタンの機能] (□361)

❏ オートフォーカスの苦手な被写体について

次のような被写体では、オートフォーカスによるピント合わせができず、シャッターがきれないことや、ピントが合わなくてもピント表示(●)が点灯し、シャッターがきれることがあります。このような場合は、マニュアルフォーカス(□130)でピントを合わせるか、フォーカスロック(□127)を利用してください。



被写体の明暗差がはっきりしない場合

(白壁や背景と同色の服を着ている人物など)



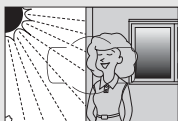
フォーカスポイント内に遠くのものと同くのもの混在する被写体

(オリの中の動物など)



連続した繰り返しパターンの被写体

(ビルの窓やブラインドなど)



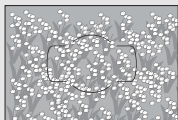
被写体の明暗差が極端に異なる場合

(太陽を背景にした日陰の人物など)



背景に対して被写体が小さい場合

(遠くの建物を背景に近くの人物を撮影する場合など)



絵柄が細かい場合

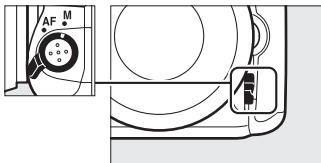
(一面の花畑など)

マニュアルフォーカスで撮影する

使用するレンズの種類によって、ピントを手動（マニュアル）で合わせるときの設定が異なります。各レンズでのマニュアルフォーカスの設定は次の通りです。

- **AFレンズを使用している場合：** フォーカスモードセレクトー
カメラのフォーカスモードセレクトーを**M**にしてください。レンズにフォーカスモード切り換えスイッチがある場合は、レンズ側のフォーカスモードも**M**にしてください。AF-Sレンズを使用している場合は、レンズのフォーカスモード切り換えスイッチを**M**にしてください。カメラのフォーカスモードセレクトーを切り換える必要はありません。
- **マニュアルフォーカスレンズを使用する場合：** マニュアルフォーカスレンズを使用すると、常にマニュアルフォーカスで撮影できます。

ピントは、レンズのフォーカスリングを回して、ファインダー内のメインの被写体がはっきり見えるように合わせます。



✓ AF-Sレンズ以外のAFレンズでマニュアルフォーカスをする場合のご注意

AFレンズでマニュアルフォーカスをする場合は、必ずカメラのフォーカスモードセレクトーを**M**にしてください。フォーカスモードセレクトーが**AF**のままマニュアルフォーカスをする、カメラやレンズの故障の原因になります。

■ フォーカスエイドによるピント合わせ

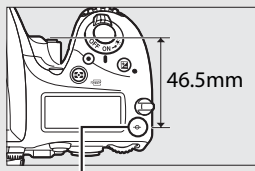
マニュアルフォーカスで撮影するときは、ファインダー内のピント表示(●)でピントが合っているかどうかを確認できます。ピントが合っているかどうかの基準となるフォーカスポイントは51カ所から選べます。

- ピントが合うとピント表示(●)が表示されます。
- オートフォーカスの苦手な被写体(□129)では、ピントが合っていないくてもピント表示(●)が点灯することがありますので、ファインダースクリーンの像でピントが合っていることを確認してください。
- 別売の AF-S/AF-I テレコンバーターを装着した場合のフォーカスエイドが可能なフォーカスポイントについては、「AF-S/AF-Iテレコンバーター使用時のフォーカスポイントについて」(□434)をご覧ください。



🔍 距離基準マークについて

距離基準マーク  は撮影距離の基準となるマークで、カメラ内の撮像面の位置を示します。マニュアルフォーカスや接写などでカメラから被写体までの距離を実測する場合、このマークが基準となります。レンズ取り付け面(レンズマウント)から撮像面までの寸法(フランジバック)は46.5mmです。



距離基準マーク 

ISO感度

ISO感度を設定する

撮影時の周辺の明るさに応じて、光に対する感度（ISO感度）を変更できます。一般的に、ISO感度を高くするほど、より高速のシャッタースピードで撮影できます（同じ被写体を同じ絞り値で撮影する場合）。ISO感度はISO 100～12800の間で1/3段ステップで設定できます。また、ISO 100から約0.3段～約1段の範囲での減感と、ISO 12800から約0.3段～約2段の範囲での増感ができます。設定できるISO感度は、撮影モードによって異なります。

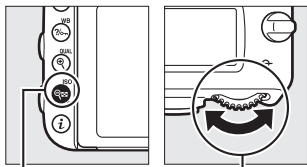
撮影モード	設定できるISO感度
P、S、A、M	Lo 0.3～Lo 1、100～12800、Hi 0.3～Hi 2
☒（ナイトビジョン）	オート
上記以外	オート、Lo 0.3～Lo 1、100～12800、Hi 0.3～Hi 2

- 【オート】ではカメラが自動的にISO感度を決めます。

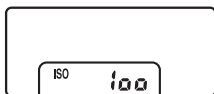
ISO感度の設定方法

☒（ISO）ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回す

- ISO感度は、表示パネル、ファインダー内表示およびインフォ画面に表示されます。



☒（ISO）ボタン メインコマンドダイヤル



表示パネル



ファインダー内表示



インフォ画面

【ISO感度】について

ISO感度は、静止画撮影メニュー（□308）の**【ISO感度設定】**でも設定できます。また、動画ライブビュー時のISO感度は動画撮影メニューの**【動画ISO感度設定】**で設定できます（□321）。

ISO感度を高く設定した場合

ISO感度を高くするほど暗い場所での撮影や動いている被写体の撮影などに効果的です。ただし、撮影した画像に多少ノイズ（ざらつき、むら、すじ）が発生する場合があります。

高感度（Hi 0.3～Hi 2）に設定した場合

ISO感度を**【Hi 0.3】**に設定すると、ISO 12800に対して約0.3段分増感します（ISO 16000相当）。**【Hi 2】**では約2段分の増感になります（ISO 51200相当）。これらのISO感度に設定したときは、ノイズ（ざらつき、むら、すじ）が発生しやすくなります。

低感度（Lo 0.3～Lo 1）に設定した場合

ISO感度を**【Lo 0.3】**に設定すると、ISO 100に対して約0.3段分減感します（ISO 80相当）。**【Lo 1】**では約1段分の減感になります（ISO 50相当）。明るい場所で絞りを開きたい場合などに使用してください。これらのISO感度で撮影した画像は、やや硬調な仕上がりになりますので、通常の撮影では**【100】**以上をお使いください。

ISO感度についてのご注意

【ISO感度】を**【オート】**にしてから撮影モードを**P、S、A、M**のいずれかに切り換えた場合は、**【オート】**に設定する直前のISO感度に戻ります。

関連ページ

- ISO感度の設定ステップ幅を変更する →  b1 **【ISO感度設定ステップ幅】**（□331）
- コマンドダイヤルを回すだけでISO感度を変更できるようにする
→  d8 **【ISO感度の簡易設定】**（□339）
- 高感度撮影時のノイズを低減する →  果 **【高感度ノイズ低減】**（□315）

感度自動制御機能を使う

撮影モードP、S、A、Mのみ

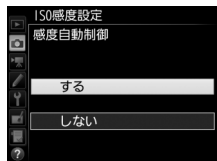
感度自動制御機能は、設定したISO感度で適正露出が得られない場合に、カメラが自動的にISO感度を変更する機能です。

1 静止画撮影メニュー [ISO感度設定] の [感度自動制御] を選んでマルチセクターの を押す



2 [する] を選ぶ

- [する] を選んで  ボタンを押すと、カメラが自動的にISO感度を変更するようになります。フラッシュ撮影時も、フラッシュの光量が適正となるように感度自動制御が機能します。
- [しない] を選ぶと、[ISO感度] で設定したISO感度に固定されます。



3 感度の制御方法を設定する

- カメラが感度を自動的に制御する方法を選びます。



制御上限 感度	感度自動制御するときにISO感度が高くなりすぎないように、上限感度（200～Hi 2）を設定できます。
低速限界 設定	撮影モードPまたはAで感度自動制御が働き始めるシャッタースピード（1/2000～30秒）を設定できます。また、[オート]に設定すると、レンズの焦点距離に応じてシャッタースピードの低速限界をカメラが自動で設定します（CPUレンズ装着時のみ）。たとえば、望遠レンズ使用時は手ブレが発生しやすくなるため、低速限界が自動的に高速側に設定され、ブレを軽減できます。 • [オート]を選んで$\odot$を押すと、補正値の設定画面が表示されます。低速限界をカメラが自動で設定するときに、より高速側または低速側になるように調整できます。 • ISO感度を上欄の[制御上限感度]まで上げても露出不足になる場合は、適正露出を得るために、低速限界設定よりもさらにシャッタースピードが低速になります。

- $\odot$ ボタンを押して設定します。

[感度自動制御] を [する] にすると、表示パネルとファインダー内表示に、右のように表示されます。ISO AUTO表示が点灯している場合は、[ISO感度] で設定した感度で撮影されます。感度が自動制御されるとISO AUTO表示が点滅し、制御されたISO感度が表示されます。



感度自動制御の設定について

$\odot$ (ISO) ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すと、[感度自動制御] をISO AUTO [する] またはISO [しない] に設定できます ($\square$ 134)。

感度自動制御についてのご注意

- ISO 感度が高くなると、撮影した画像に多少ノイズ（ざらつき、むら、すじ）が発生する場合があります。
- **【制御上限感度】** で設定したISO感度よりも **【ISO感度】** (□□132) で設定したISO感度が高い場合、**【ISO感度】** で設定したISO感度を制御上限感度として撮影します。
- フラッシュ撮影時のシャッタースピードはカスタムメニュー e1 **【フラッシュ撮影同調速度】** (□□344) と e2 **【フラッシュ時シャッタースピード制限】** (□□346) で設定した範囲内に制限されます。**【低速限界設定】** のシャッタースピードをこの範囲外に設定した場合は、シャッタースピードの下限は e2 **【フラッシュ時シャッタースピード制限】** で設定したシャッタースピードに制限されます。
- レンズ情報を登録していない非 CPU レンズ使用時は、低速限界設定を **【オート】** に設定できますが、低速限界が1/30秒に固定されます。
- 内蔵フラッシュ撮影時または別売スピードライト (□□437) の装着時にフラッシュモードをスローシンクロに設定していても、背景の明るさがより適正となるように感度自動制御が機能して感度が自動的に上がり、シャッタースピードが低速にならないことがあります。

測光・露出

測光モードを設定する

撮影モードP、S、A、Mのみ

適正な露出を得るためにカメラが被写体の明るさを測る方法（測光モード）を設定します。

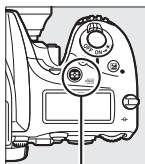
- P、S、A、M以外の撮影モードの場合、それぞれの撮影シーンに適した測光モードが自動的に選ばれます。

 マルチ パターン 測光	ほとんどの撮影状況に対応できる測光モードです。画面の広い領域を測光して、被写体の輝度（明るさ）分布、色、距離や構図などさまざまな情報を瞬時に分析するため、見た目に近い画像が得られます。
 中央部重点 測光	画面の中央部分を重点的に測光します。画面中央にメインの被写体を大きく配置して撮影する場合などに適しています。 • 露出倍数のかかるフィルターをお使いになるときは、中央部重点測光をおすすめします。 • 測光範囲はカスタムメニュー b5 [中央部重点測光範囲] (□□333) で変更できますが、非CPUレンズ使用時はφ12mm相当になります。
 スポット 測光	フォーカスポイントに重なるφ4 mm 相当（全画面の約1.5%）の部分だけを測光します。逆光時や被写体の明暗差が激しいときなど、狭い範囲での露出を基準にして撮影したい場合に適しています。 • 測光エリアは、フォーカスポイントに連動します。ただし、ファインダー撮影時のAFエリアモード (□□121) がオートエリアAFのときや、非CPUレンズ使用時は、中央のフォーカスポイントに相当する部分を測光します。
 ハイライト 重点測光	画面のハイライト部分を重点的に測光します。舞台撮影など、ハイライト部分の白とびを軽減して撮影したい場合に適しています。

■ 測光モードの設定方法

☒ (FORMAT) ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回す

- 測光モードは、表示パネルとファインダー内表示に表示されます。



☒ (FORMAT)
ボタン



メインコマンド
ダイヤル



表示パネル



ファインダー内表示

🔍 マルチパターン測光とレンズの組み合わせについて

測光モードがマルチパターン測光のときの測光方式は、レンズの種類によって変わります。

● CPUレンズ

- 「3D-RGBマルチパターン測光Ⅲ」：G、EまたはDタイプのCPUレンズ使用時の測光方式です。距離情報を利用して測光します。
- 「RGBマルチパターン測光Ⅲ」：G、EまたはDタイプ以外のCPUレンズ使用時の測光方式です。距離情報は利用しません。

● 非CPUレンズ

- セットアップメニューの「レンズ情報手動設定」(☐232) でレンズ情報を設定すると、「RGBマルチパターン測光」という測光方式になります。レンズ情報を設定しない場合は、中央部重点測光になります。

🔍 ハイライト重点測光とレンズの組み合わせについて

測光モードがハイライト重点測光のときは、一部のCPUレンズ（G、E、Dタイプ以外のAFレンズ、AI-Pニッコールレンズ）または非CPUレンズを使用すると、自動的に中央部重点測光に変更されます。

非CPUレンズ使用時の測光モードについて

〔中央部重点測光〕または〔スポット測光〕に設定した場合、セットアップメニューの〔レンズ情報手動設定〕(□□232)で焦点距離と開放絞り値を設定すると、測光の精度が向上します。

関連ページ

- マルチパターン測光時に顔検出をするかどうかを設定する →  b4〔マルチパターン測光〕(□□332)
- 中央部重点測光の測光範囲を変更する →  b5〔中央部重点測光範囲〕(□□333)
- 測光モードごとに適正露出の基準を決める →  b6〔基準露出レベルの調節〕(□□333)

AEロックして露出を固定する

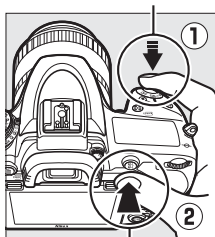
AE ロック撮影とは、被写体の特定の部分を測光して露出を決め、そのまま構図を変えて撮影する方法です。露出を合わせたい部分とその周囲とで、極端に明るさが異なる場合などに効果的です。

1 測光モードで中央部重点測光またはスポット測光を選ぶ (☐137)

2 露出を合わせたい部分にフォーカスポイントを重ねてシャッターボタンを半押ししたまま、**AE/AF**ロックボタンを押して、露出を固定する

- **AE/AF**ロックボタンを押している間は、測光モードに応じた部分の露出で固定（ロック）され、構図を変えても露出は変わりません。
- ファインダー内表示に**AE-L**マークが点灯します。
- オートフォーカス撮影時は、フォーカスロックも同時に行われますので、ピント表示（●）の点灯も確認してください。

シャッターボタン



AE/AFロックボタン



3 **AE/AF**ロックボタンを押したまま、構図を決めて撮影する



測光エリアについて

- スポット測光で、測光エリアとフォーカスポイントが連動する場合（□□137）は、選択中のフォーカスポイントの露出が記憶されます。
- 中央部重点測光に設定した場合は、ファインダー中央部（φ12 mmの円内）を重点的に測光した露出が記憶されます。

AEロック中のカメラ操作について

 AE/AFロックボタンを押している間も以下の操作ができます。

撮影モード	操作
P	プログラムシフト（□□90）
S	シャッタースピードの変更
A	絞り値の変更

- 表示パネルやファインダー内表示には、変更後のシャッタースピード、絞り値が表示されます。
- AEロック中は、測光モードは変更できません。

関連ページ

- シャッターボタンの半押しでAEロックできるようにする →  c1 [半押しAEロック]（□□333）
-  AE/AFロックボタンに別の機能を割り当てる →  f4 [AE/AFロックボタンの機能]（□□361）

露出補正して画像の明るさを調整する

撮影モードP、S、A、M、SCENE、のみ

露出補正とは、カメラが制御する適正露出値を意図的に変えることです。画像全体を明るくしたり、暗くしたいときなどに使います。露出補正を行うときは、測光モード（137）を中央部重点測光またはスポット測光にすると効果的です。



-1段補正



露出補正なし



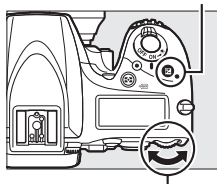
+1段補正

■■ 露出補正の設定方法

 ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回す

- 露出補正值は、表示パネルに表示されます。
- 露出補正は、1/3段ステップで±5段の範囲で設定できます。

 ボタン

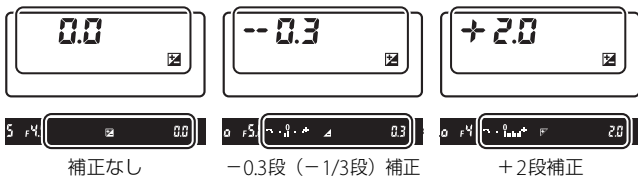


メインコマンドダイヤル



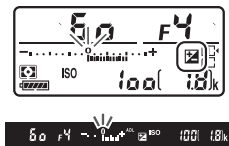
表示パネル

- **☑** ボタンを押すと、表示パネルとファインダー内表示で設定した補正量を確認できます。



(**☑** ボタンを押したとき)

- 補正量を設定すると、表示パネルとファインダー内表示に露出補正マーク **☑** が表示されます。また、**M** 以外の撮影モードでは、表示パネルとファインダー内表示に露出補正インジケータが表示され、**[0]** が点滅します。
- 被写体を明るくしたいときは+側に、暗くしたいときは-側に補正するのが基本です。
- 露出補正を解除するには、補正量を0.0にしてください。カメラの電源をOFFにしても、補正量の設定は解除されません。



🔧 撮影モードMでの露出補正について

撮影モードが**M**のときは、インジケータ表示が変わるだけで、設定したシャッタースピードと絞り値は変わりません。

🔧 撮影モードSCENEまたは**☑**で露出補正をした場合

撮影モード**SCENE**または**☑**でも露出補正ができます。**SCENE**または**☑**で露出補正を行った場合、撮影モードを切り換えると、露出補正值の設定は解除されます。

🔧 関連ページ

- 露出補正のステップ幅を変更する → **🔧** b2 [露出設定ステップ幅] (□331)
- **☑** ボタンを使わずに露出補正する → **🔧** b3 [露出補正簡易設定] (□331)
- 露出補正值を変えながら撮影する → 「AE ブラケティング、フラッシュブラケティングの撮影方法」 (□203)
- フラッシュ使用時に背景の明るさだけを補正する → **🔧** e4 [フラッシュ使用時の露出補正] (□353)

ホワイトバランス

ホワイトバランスを変更する

撮影モードP、S、A、Mのみ

光源に合わせて、画像が見た目に近い色で撮影されるようにすることを「ホワイトバランスを合わせる」といいます。初期設定の**AUTO**（オート）でほとんどの光源に対応できますが、撮影した画像が思い通りの色にならないときは、天候や光源に合わせてホワイトバランスを変更してください。

● **P、S、A、M**以外の撮影モードの場合、それぞれの撮影シーンに適したホワイトバランスが自動的に選ばれます。

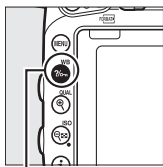
ホワイトバランス	設定される色温度	ホワイトバランス	設定される色温度
AUTO オート		 晴天	約5200K※
AUTO1 標準	約3500～8000K※	 フラッシュ	約5400K※
AUTO2 電球色を残す		 曇天	約6000K※
 電球	約3000K※	 晴天日陰	約8000K※
 蛍光灯	—	 色温度設定 (☐150)	約2500～10000K
ナトリウム灯 混合光	約2700K※	PRE プリセット マニュアル (☐153)	—
電球色蛍光灯	約3000K※		
温白色蛍光灯	約3700K※		
白色蛍光灯	約4200K※		
昼白色蛍光灯	約5000K※		
昼光色蛍光灯	約6500K※		
高色温度の 水銀灯	約7200K※		

※ 微調整が0の場合の値です。

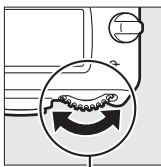
■ ホワイトバランスの設定方法

☺ (WB) ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回す

- ホワイトバランスは、インフォ画面に表示されます。



☺ (WB)
ボタン



メインコマンド
ダイヤル



インフォ画面

🔧 【ホワイトバランス】について

ホワイトバランスは静止画撮影メニュー (□308) または動画撮影メニュー (□316) でも設定できます。動画撮影メニューでは【ホワイトバランス】を【静止画の設定と同じ】に設定できます。

🔧 AUTO (オート) について

AUTO (オート) の場合は、静止画撮影メニューまたは動画撮影メニューで【AUTO1 標準】と【AUTO2 電球色を残す】から選べます。【AUTO2 電球色を残す】を選ぶと、電球色の光源下で撮影した際に暖かみのある画像の仕上がりになります。

🔧 蛍 (蛍光灯) について

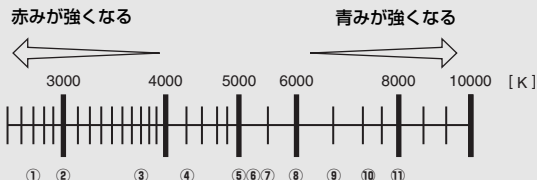
蛍 (蛍光灯) の場合は、静止画撮影メニューまたは動画撮影メニューで蛍光灯の種類を選べます。

✓ スタジオ用大型ストロボを使用する場合

スタジオ用大型ストロボを使用する場合は、AUTO (オート) に設定していても適正なホワイトバランスが得られないことがあります。その場合は、⚡ (フラッシュ) モードにして微調整を行うか、プリセットマニュアルをお使いください。

色温度について

光の色には、赤みを帯びたものや青みを帯びたものがあり、人間の主観で光の色を表すと、見る人によって微妙に異なります。そこで、光の色を絶対温度（K：ケルビン）という客観的な数字で表したのが色温度です。色温度が低くなるほど赤みを帯びた光色になり、色温度が高くなるほど青みを帯びた光色になります。



① ㊦ ナトリウム灯混合光（約2700K）	⑥ ㊧ 晴天（約5200K）
② ㊨ 電球（約3000K） ㊦ 電球色蛍光灯（約3000K）	⑦ ㊤ フラッシュ（約5400K）
③ ㊦ 温白色蛍光灯（約3700K）	⑧ ㊮ 曇天（約6000K）
④ ㊦ 白色蛍光灯（約4200K）	⑨ ㊦ 昼光色蛍光灯（約6500K）
⑤ ㊦ 昼白色蛍光灯（約5000K）	⑩ ㊦ 高色温度の水銀灯（約7200K）
	⑪ ㊧ 晴天日陰（約8000K）

ホワイトバランスを微調整する

撮影モードP、S、A、Mのみ

ホワイトバランスは、さらに微調整できます（「色温度設定」以外）。

■ メニューの【ホワイトバランス】で設定する場合

- 1 静止画撮影メニューまたは動画撮影メニューの【ホワイトバランス】で、設定したいホワイトバランスを選んでマルチセレクターの $\odot$ を押す

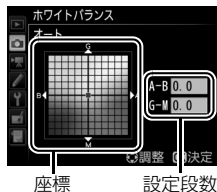


- 2 調整したい項目を選び、微調整画面が表示されるまで $\odot$ を押す

- 「プリセットマニュアル」での微調整画面の表示方法については、「プリセットマニュアルデータの微調整について」（□□163）をご覧ください。

3 微調整値を設定する

- マルチセレクターを操作すると、座標上のA（アンバー）、B（ブルー）、G（グリーン）、M（マゼンタ）の4方向で、設定段数を各方向6段まで微調整できます。
- A（アンバー）、B（ブルー）方向は、色温度の高さを0.5段単位で微調整できます。1段は約5ミレッドに相当します。
- G（グリーン）、M（マゼンタ）方向は、色補正用（CC）フィルターと同じような微調整を0.25段単位で行えます。1段は濃度約0.05に相当します。



4 微調整値を決定する

- **OK** ボタンを押して微調整値を決定すると、メニューに戻ります。

ホワイトバランスの微調整画面について

- ホワイトバランスを微調整すると、インフォ画面にアスタリスク（*）が表示されます。
- ホワイトバランスの微調整画面で表示されている色は、色温度方向の目安の色を表しています。微調整画面で設定しても、設定したそのままの色の画像にはならない場合があります。たとえば、ホワイトバランスを （電球）に設定して B（ブルー）方向に微調整しても、青色が強い画像にはなりません。



ミレッド（MIREDD）について

色温度の逆数を百万（10⁶）倍したものです。色温度は、同じ色温度差でも、色温度の低い場合では色の変化が大きく、色温度の高い場合では、色の変化が小さくなります。たとえば同じ1000ケルビンの違いでも6000ケルビン付近での変化は比較的小さく、3000ケルビン付近では1000ケルビンの違いで光色が大きく変わります。ミレッドは、その変化幅をほぼ同じに表現する尺度であり、色温度変換フィルターの単位としても利用されます。

例）色温度の差（K：ケルビン）：ミレッドの差（M：ミレッド）

4000K－3000K＝1000 K ： 83 M

7000K－6000K＝1000 K ： 24 M

関連ページ

ホワイトバランスを変えながら撮影する

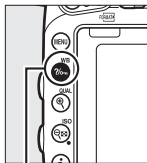
→  e6 [オートブラケットングのセット] (□353)

→ 「WB ブラケットングの撮影方法」 (□208)

■ ホワイトバランスボタンとサブコマンドダイヤルで設定する場合（アンバーおよびブルー方向のみ）

⌂ (WB) ボタンを押しながら、サブコマンドダイヤルを回す

- ホワイトバランスの微調整値は、表示パネルとインフォ画面に表示されます。



⌂ (WB) ボタン



サブコマンド
ダイヤル



表示パネル



インフォ画面

- ⌂ (WB) ボタンとサブコマンドダイヤルで微調整する場合は、A（アンバー）から B（ブルー）への横軸の方向のみ設定できます（□147）。
- サブコマンドダイヤルを左に回すと A（アンバー）方向に、右に回すと B（ブルー）方向に色温度の高さを0.5段単位で微調整できます。1段は約5ミレッドに相当します。
- ⌂ (WB) ボタンの操作では、PRE（プリセットマニュアル）のホワイトバランスは微調整できません。メニューで微調整してください（□163）。

色温度設定で色温度を指定する

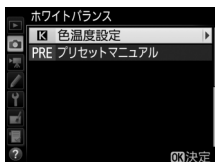
撮影モードP、S、A、Mのみ

ホワイトバランスを **K**（色温度設定）にしたときは、ホワイトバランスの色温度を直接数値で指定できます。

■メニューの【ホワイトバランス】で設定する場合

A（アンバー）、B（ブルー）方向とG（グリーン）、M（マゼンタ）方向の両方の色温度（□147）を設定できます。

- 1 静止画撮影メニューまたは動画撮影メニューの【ホワイトバランス】で、【色温度設定】を選んでマルチセクターの  を押す



- 2 A（アンバー）、B（ブルー）方向の色温度を設定する

-  または  を押して色温度を1桁ずつ選び、 または  を押して数値を設定します。



A（アンバー）、B（ブルー）方向の色温度

- 3 G（グリーン）、M（マゼンタ）方向の色温度を設定する

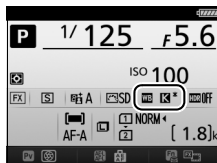
-  または  を押して、G（グリーン）、M（マゼンタ）方向の色温度にカーソルを移動し、 または  を押して数値を設定します。



G（グリーン）、M（マゼンタ）方向の色温度

4 色温度を決定する

- **OK** ボタンを押して色温度を決定すると、メニューに戻ります。
- G（グリーン）、M（マゼンタ）方向の色温度を0以外に設定すると、インフォ画面にアスタリスク（*）が表示されます。

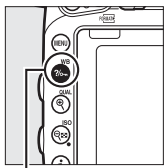


■ ボタン操作で色温度を設定する場合

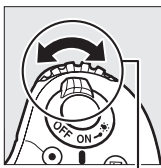
(アンバーおよびブルー方向のみ)

ホワイトバランスが  (色温度設定) のときに  (WB) ボタンを押しながら、サブコマンドダイヤルを回す、またはマルチセクターの  を押す

-  (WB) ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すと、色温度が切り替わります (ミレッド単位、 148)。
-  (WB) ボタンを押しながらマルチセクターの  または  を押すと、色温度を1桁ずつ選べます。  または  を押すと選んだ桁の数値を設定できます。



 (WB) ボタン



サブコマンド
ダイヤル



- A (アンバー)、B (ブルー) 方向の色温度のみ設定できます。
- 色温度は表示パネルとインフォ画面に表示されます。



表示パネル



インフォ画面

✓ 色温度設定についてのご注意

- 光源が蛍光灯やフラッシュのときは、色温度設定を使わず、それぞれ  (蛍光灯)、 (フラッシュ) に設定してください。
- ホワイトバランスの色温度を指定したときは、試し撮りをして、設定した色温度が撮影状況に適しているかどうかを確認することをおすすめします。

プリセットマニュアルで基準となる白を設定する

撮影モードP、S、A、Mのみ

プリセットマニュアルでは、撮影する照明下で取得したホワイトバランスデータまたは撮影済みの画像のプリセットマニュアルデータをカメラに保存し、ホワイトバランスを設定します。カクテル照明（自然光と人工照明とが混ざった室内撮影）や特殊照明下で、前記の**AUTO**（オート）や☀（電球）などの各設定や、色温度設定では望ましいホワイトバランスが得られない場合に便利です。

最大6種類のプリセットマニュアルデータ（d-1～d-6）をカメラに保存できます。プリセットマニュアルデータを保存するには、次の方法があります。

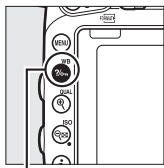
プリセットマニュアルデータをカメラで新規取得して保存する	撮影する照明下で白またはグレーの被写体を基準にして撮影を行い、撮影データから取得して保存します（□154）。静止画ライブビュー（□54）または動画ライブビュー（□66）撮影時には、液晶モニターに表示中の被写体の一部分を選んでプリセットマニュアルデータを取得できます（スポットホワイトバランス、□158）。
撮影済みの画像のホワイトバランスデータをコピーして保存する	SDカードにある画像のホワイトバランスデータをコピーして保存します（□161）。

ファインダー撮影時にプリセットマニュアルデータを新規取得する

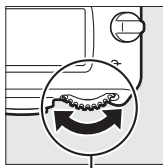
プリセットマニュアルデータを取得する前に：

- プリセットマニュアルデータを取得する場合は、あらかじめホワイトバランスをセットする照明下で、無彩色（白またはグレー）の被写体を用意しておいてください。スタジオ用大型ストロボにてホワイトバランスをセットする場合は、被写体をグレー（ホワイトバランス取得用の18%標準反射板）にすることをおすすめします。
- 無彩色（白またはグレー）の被写体を基準にプリセットマニュアルデータを取得するときは、カメラが露出を通常よりも1段オーバーになるように自動的に調整します。撮影モードが**M**の場合は、露出インジケータを確認して、適正露出になるように設定してください（□95）。

1 (WB) ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回して、インフォ画面のホワイトバランス表示をPREに合わせる



 (WB)
ボタン



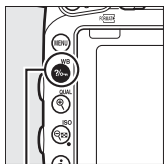
メインコマンド
ダイヤル



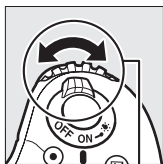
インフォ画面

2 新規取得するプリセットマニュアルデータの保存場所を選ぶ

- **WB** (WB) ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回して、これから取得するプリセットマニュアルデータの保存場所をd-1～d-6の中から選びます。



WB (WB)
ボタン



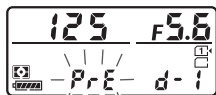
サブコマンド
ダイヤル



インフォ画面

3 プリセットマニュアル取得モードにする

- いったん **WB** (WB) ボタンから指を放し、再度 **WB** (WB) ボタンを押し続けると、プリセットマニュアル取得モードになり、表示パネルとファインダー内表示に **PRE** がそれぞれ約6秒間点滅します。



表示パネル



ファインダー内表示

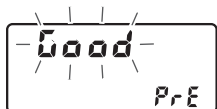
4 PrEの点滅中に白またはグレーの被写体を撮影する

- 撮影時に使う照明の下で、用意した無彩色（白またはグレー）の被写体をファインダーいっぱいにとらえてシャッターボタンを全押しすると、プリセットマニュアルデータが取得され、手順2で選んだ保存場所に保存されます。
- ピントが合わなくてもシャッターがきれ、プリセットマニュアルデータが正常に取得されます。
- シャッターボタンを押しても、SDカードに画像は記録されません。



5 正常にプリセットマニュアルデータが取得されたことを確認する

- プリセットマニュアルデータが取得されると、表示パネルに**Good**が、ファインダー内表示に**Ed**が、それぞれ約6秒間点滅し、プリセットマニュアル取得モードを終了します。



表示パネル



ファインダー内表示

- 被写体が極端に低輝度または高輝度の場合、カメラがプリセットマニュアルデータを取得できないことがあります。この場合、表示パネルとファインダー内表示に**no Ed**が、それぞれ約6秒間点滅します。このとき、シャッターボタンを半押しするとプリセットマニュアル取得モード（手順4）に戻ります。



表示パネル



ファインダー内表示

✔ プリセットマニュアル取得モードの時間制限について（ファインダー撮影時）

プリセットマニュアル取得モードは、何も操作しないままカスタムメニュー c2 [半押しタイマー]（□□334）で設定した時間が過ぎると解除されます。

✔ プリセットマニュアルデータ取得時の制限について（ファインダー撮影時）

次の場合は、プリセットマニュアルデータを取得できません：

- HDR（ハイダイナミックレンジ）撮影時（□□177）
- 多重露出撮影時（□□215）
- ライブビューセクターが Prt の場合にカスタムメニュー g4 [シャッターボタンの機能] が [動画撮影] のとき（□□374）

🔧 ホワイトバランスのプロテクト設定について

プロテクト設定（□□163）されたプリセットマニュアルデータが選ばれている場合、プリセットマニュアルデータは新規取得できません（表示パネル、ファインダー内表示およびインフォ画面で Prt が点滅します）。

🔧 プリセットマニュアルデータについて

- ご購入時のプリセットマニュアルデータ d-1～d-6 は、晴天モードと同じ色温度 5200K に設定されています。
- 静止画撮影メニューまたは動画撮影メニューから [ホワイトバランス] の [プリセットマニュアル] を選ぶと、取得したプリセットマニュアルデータが右のように表示されます。マルチセクターでプリセットマニュアルデータを選んで OK ボタンを押すと、選んだプリセットマニュアルを使って撮影できます。

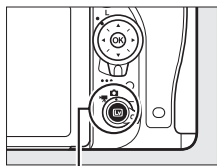


ライブビュー撮影時にスポットホワイトバランスでプリセットマニュアルデータを取得する

静止画ライブビュー（□54）または動画ライブビュー撮影時（□66）には、液晶モニターに表示されている被写体の一部分を選んでプリセットマニュアルデータを取得できます（スポットホワイトバランス）。被写体の一部に白、またはグレーの部分ががあれば、あらかじめプリセットマニュアル取得用の被写体を用意する必要はなく、望遠レンズ装着時にも、レンズを交換せずにそのままプリセットマニュアルデータを取得できます。

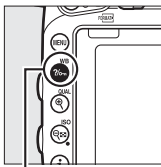
1 **Lv** ボタンを押す

- ミラーアップしてライブビューを開始します。ファインダー内が暗くなり、液晶モニターに被写体が表示されます。

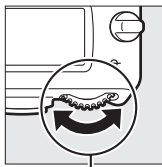


Lv ボタン

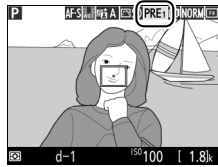
2 **WB** ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回して、液晶モニターのホワイトバランス表示をPREに合わせる



WB ボタン



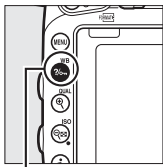
メインコマンドダイヤル



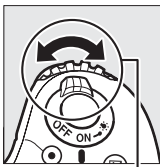
液晶モニター

3 新規取得するプリセットマニュアルデータの保存場所を選ぶ

- **WB (WB)** ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回して、これから取得するプリセットマニュアルデータの保存場所をd-1～d-6の中から選びます。



WB (WB)
ボタン



サブコマンド
ダイヤル



液晶モニター

4 プリセットマニュアル取得モードにする

- いったん **WB (WB)** ボタンから指を放し、再度 **WB (WB)** ボタンを押し続けると、プリセットマニュアル取得モードになり、液晶モニターに **PRE** が点滅します。



液晶モニター

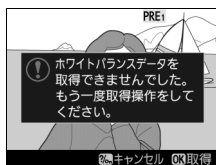
5 PREの点滅中に、マルチセクターで□を被写体の白またはグレーの部分に重ねる

- **QUAL** ボタンを押すと、被写体が拡大表示され、□で選んだ部分を細部まで確認できます。



6 OK ボタンを押すか、シャッターボタンを全押しして、プリセットマニュアルデータを取得する

- データが取得できなかった場合は、液晶モニターに右の画面が表示され、手順5の状態に戻ります。□の位置を変えるなどして、再度プリセットマニュアルデータを取得してください。



7 白 (WB) ボタンを押してプリセットマニュアル取得モードを終了する

- 静止画撮影メニューまたは動画撮影メニューから「ホワイトバランス」の「プリセットマニュアル」を選択すると、ライブビュー撮影時に取得したプリセットマニュアルデータには、ホワイトバランスを取得した範囲に枠が表示されます。



✓ プリセットマニュアル取得モードの時間制限について (ライブビュー撮影時)

ライブビュー撮影時のプリセットマニュアル取得モードの時間制限は、カスタムメニュー c4 「モニターのパワーオフ時間」の「ライブビュー表示」で設定した時間になります (□335)。

✓ プリセットマニュアルデータ取得時の制限について (ライブビュー撮影時)

次の場合は、プリセットマニュアルデータを取得できません：

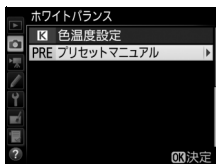
- HDR (ハイダイナミックレンジ) 撮影時 (□177)
- ライブビューセレクトが●の場合にカスタムメニュー g4 「シャッターボタンの機能」が「動画撮影」のとき (□374)

プリセットマニュアルデータを管理する

■ 撮影済み画像のホワイトバランスデータをコピーする

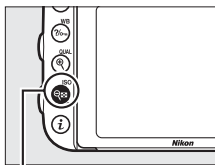
選んだプリセットマニュアルデータの保存場所に、SDカード内の画像で使用されたホワイトバランスを、プリセットマニュアルデータとしてコピーできます。

- 1 静止画撮影メニューまたは動画撮影メニューの【ホワイトバランス】で【プリセットマニュアル】を選んでマルチセクターの $\odot$ を押す



2 コピー先を選ぶ

- マルチセクターで黄色い枠を移動してd-1～d-6の中からコピー先を選びます。
- Q (ISO) ボタンを押すと設定画面が表示されます。

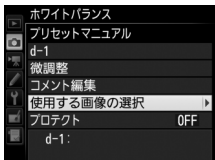


Q (ISO) ボタン



3 【使用する画像の選択】を選ぶ

- 【使用する画像の選択】を選んで $\odot$ を押すと、SDカード内の画像が一覧表示されます。



4 ホワイトバランスデータをコピーしたい画像を選ぶ

- マルチセクターで黄色い枠を移動して画像を選びます。

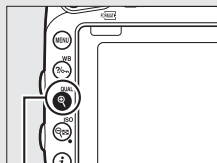


5 ホワイトバランスデータをコピーする

- Ⓚ ボタンを押すとSDカード内の画像のホワイトバランスデータがコピーされます。
- 選んだ画像に画像コメント (□385) がある場合、画像コメントもコピーされます。

🔪 ホワイトバランスデータをコピーしたい画像について

選んだ画像は、Ⓚ (QUAL) ボタンを押している間、拡大して確認できます。

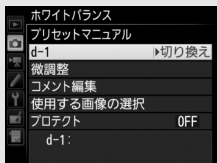


Ⓚ (QUAL) ボタン



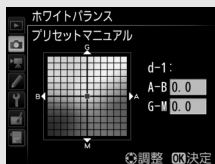
🔪 設定画面でのプリセットマニュアルデータの切り換えについて

設定画面で、マルチセクターのⓀを押してプリセットマニュアルデータ (d-1～d-6) を選び、▶を押すと、プリセットマニュアルデータが切り替わります。



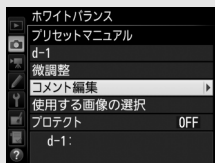
🔧 プリセットマニュアルデータの微調整について

設定画面で「**微調整**」を選ぶと、微調整画面が表示され、選択中のプリセットマニュアルデータを微調整できます (□147)。



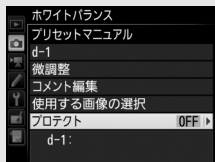
🔧 プリセットマニュアルデータにコメントを入力する

設定画面で「**コメント編集**」を選ぶと、選択中のプリセットマニュアルデータにコメント（最大36文字）を入力できます。コメントの入力方法は、「カスタムピクチャーコントロールを登録する」の手順6をご覧ください (□171)。



🔧 プリセットマニュアルデータを保護する (プロテクト)

設定画面で「**プロテクト**」を選ぶと、選択中のプリセットマニュアルデータにプロテクト（保護）を設定できます。プロテクトの設定画面で「**する**」を選んでⓧボタンを押すと、選んだプリセットマニュアルデータがプロテクト設定されます。プロテクト設定されたプリセットマニュアルデータは微調整やコメント編集ができなくなります。



画像処理

ピクチャーコントロールを使って画像の仕上がり簡単に設定したり、思い通りに調整する

撮影モードP、S、A、Mのみ

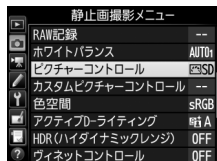
ピクチャーコントロールを選ぶ

このカメラには、被写体や撮影シーンに合わせて選ぶことのできる「ピクチャーコントロール」が搭載されています。

- P、S、A、M以外の撮影モードの場合、それぞれの撮影シーンに適したピクチャーコントロールが自動的に選ばれます。

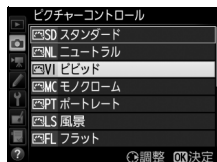
 SD スタンダード	鮮やかでバランスの取れた標準的な画像になります。 • ほとんどの撮影状況に適しています。
 NL ニュートラル	被写体の豊かな階調や色合いを自然に再現した画像になります。 • 撮影した画像を調整、加工する場合に適しています。
 VI ビビッド	メリハリのある生き生きとした色鮮やかな画像になります。 • 青、赤、緑など、原色を強調したいときに適しています。
 MC モノクローム	白黒やセピアなど、単色の濃淡で表現した画像になります。
 PT ポートレート	人物の肌が滑らかで自然な画像になります。
 LS 風景	自然の風景や街並みが色鮮やかな画像になります。
 FL フラット	シャドー部からハイライト部まで幅広く情報を保持した画像になります。 • 撮影した画像を積極的に調整、加工する場合に適しています。

1 静止画撮影メニューまたは動画撮影メニューの【ピクチャーコントロール】を選んでマルチセクターの⏻を押す



2 設定したいピクチャーコントロールを選ぶ

- Ⓚ ボタンを押して設定します。



✎ 【ピクチャーコントロール】について

動画撮影メニューの【ピクチャーコントロール】を【静止画の設定と同じ】に設定すると、静止画撮影メニューで設定したピクチャーコントロールで動画を撮影します。

✎ 【カスタムピクチャーコントロール】について

静止画撮影メニューまたは動画撮影メニューで【カスタムピクチャーコントロール】を選ぶと、調整したピクチャーコントロールに名前を付けて登録したり (□169)、SDカードを使って、同じ機種のカメラやピクチャーコントロールに対応するソフトウェアと共用する (□173) ことができます。

✎ 撮影中のピクチャーコントロールの確認について

使用しているピクチャーコントロールは、info ボタンを押すと表示されるインフォ画面で確認できます。



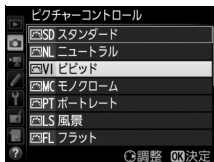
ピクチャーコントロール
マーク

ピクチャーコントロールを調整する

ピクチャーコントロールやカスタムピクチャーコントロール（□169）の設定は、撮影目的や好みに合わせて調整できます。自動的にバランスよく調整できる「クイック調整」と各項目を手動で細かく調整する「手動調整」があります。

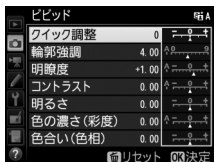
1 調整したいピクチャーコントロールを選ぶ

- ピクチャーコントロールの一覧画面（□165）で、マルチセクターの⌂を押します。



2 ピクチャーコントロールを調整する

- ⌂または⌂で調整する項目（□167）を選びます。⌂または⌂を押すと1ステップ刻みで、サブコマンドダイヤルを回すと0.25ステップ刻みで値を設定します。
- 「クイック調整」を選んで⌂または⌂を押すと、各項目のレベルを自動的に調整します（□167）。
- ⌂（FORMAT）ボタンを押すと初期設定の内容に戻ります。

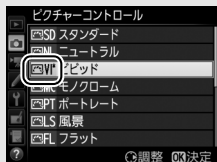


3 設定する

- OKボタンを押して設定します。

ピクチャーコントロールを調整した場合の表示について

ピクチャーコントロールを調整すると、アイコンの横にアスタリスク（*）が表示されます。



■ レベル調整の設定項目

クイック調整※1		輪郭強調、コントラスト、色の濃さ（彩度）のレベルを自動的に調整します。
手動調整	輪郭強調	輪郭の強弱を調整できます。[A]（オート）を選ぶと、自動で調整します。
	明瞭度	画像の明瞭度を調整します。[A]（オート）を選ぶと、自動で調整します※2。明瞭度の設定は、動画には反映されません。
	コントラスト	画像のコントラストを調整できます。[A]（オート）を選ぶと、自動で調整します。
	明るさ	白とびや黒つぶれを抑えながら画像の明るさを調整します。
	色の濃さ（彩度）※3	画像の彩度（色の鮮やかさ）を調整できます。[A]（オート）を選ぶと、自動で調整します。
	色合い（色相）※3	画像の色合いを調整できます。
	フィルター効果※4	白黒写真用カラーフィルターを使って撮影したときのような効果が得られます（□168）。
手動調整	調色※4	印画紙を調色したときのように、画像全体の色調を調整できます（□168）。

※1 [ニュートラル]、[モノクローム] または [フラット] はクイック調整できません。カスタムピクチャーコントロール（□169）の場合も、クイック調整できません。手動調整した後にクイック調整を行うと、手動調整で設定した値は無効になります。

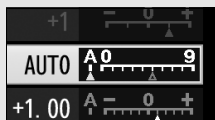
※2 設定する強度や撮影シーンによっては、明るい被写体の周辺に暗い影が出たり、暗い被写体の周辺が明るくなったりします。

※3 [モノクローム] を元にしたカスタムピクチャーコントロールや [モノクローム] のときは、表示されません。

※4 [モノクローム] を元にしたカスタムピクチャーコントロールや [モノクローム] のときのみ表示されます。

🔧 ピクチャーコントロールのレベル調整について

[輪郭強調]、[明瞭度]、[コントラスト]、[色の濃さ（彩度）] の場合、 (QUAL) ボタンを押して手動調整と [A]（オート）を切り換えられます。



▼ **【輪郭強調】、【明瞭度】、【コントラスト】、【色の濃さ（彩度）】の【A】（オート）についてのご注意**

- 同じような状況で撮影しても、被写体の位置や大きさ、露出によって、仕上がりが具合は変化します。
- 充分な効果を得るには、Gタイプ、EタイプまたはDタイプのレンズをお使いになることをおすすめします。

🔧 **ピクチャーコントロール調整時の△マークについて**

ピクチャーコントロール調整中に各項目に表示される△マークは、調整する前の値を示しています。前回調整した値を参考にして調整するときに便利です。



🔧 **【モノクローム】の【フィルター効果】について**

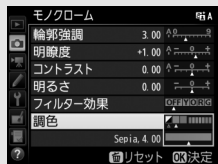
【フィルター効果】には、次のような効果があります。

Y（黄※）	コントラストを強調する効果があり、風景撮影で空の明るさを抑えたい場合などに使います。【Y】→【O】→【R】の順にコントラストが強くなります。
O（オレンジ※）	
R（赤※）	
G（緑※）	肌の色や唇などを落ち着いた感じに仕上げます。ポートレート撮影などに使います。

※市販の白黒写真用カラーフィルターの色です。【フィルター効果】で得られる効果は、市販の白黒写真用カラーフィルターよりも強くなります。

🔧 **【モノクローム】の【調色】について**

【調色】の項目（【B&W】以外）を選んでマルチセクターの🔍を押すと、さらに色の濃淡を7ステップから選べます。🔍または🔍を押すか（1ステップ刻み）、サブコマンドダイヤルを回して（0.25ステップ刻み）選んでください。

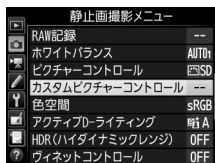


カスタムピクチャーコントロールを登録する

カメラに搭載された「ピクチャーコントロール」は、好みに合わせて調整して、「カスタムピクチャーコントロール」として登録できます。

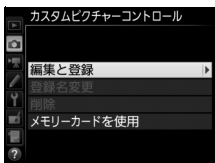
■ カスタムピクチャーコントロールの登録方法

- 1 静止画撮影メニューまたは動画撮影メニューの「カスタムピクチャーコントロール」を選んでマルチセレクターの $\odot$ を押す



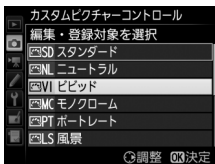
- 2 「編集と登録」を選ぶ

- 「編集と登録」を選んで $\odot$ を押すと、「編集・登録対象を選択」画面が表示されます。



- 3 元にするピクチャーコントロールを選ぶ

- ピクチャーコントロールを選んで $\odot$ を押すと、編集画面が表示されます。
- 編集を行わない場合は $\odot$ ボタンを押します。「登録先の選択」画面が表示されます (手順5へ)。



4 ピクチャーコントロールを調整する

- 項目の内容や調整方法は「ピクチャーコントロール」と同じです。
- **OK** ボタンを押すと「登録先の選択」画面が表示されます。
- **FORMAT** ボタンを押すと初期設定の内容に戻ります。



5 登録先を選ぶ

- C-1～9（カスタム1～9）の中から登録先を選びます。



6 登録名を編集する

- 登録先を選んで $\odot$ を押すと、[登録名変更] 画面が表示されます。
- 初期状態では、「(元になったピクチャーコントロール名) -XX」が名前エリアに入力されています。XXには自動的に数値が設定されます。
- 登録名は19文字まで入力できます。文字はカーソル位置に挿入されます。
- 登録名を変更しない場合は、手順7へ進みます。
- 名前エリアに新しい文字を入力する場合は、マルチセクターで入力するキーボードエリアの文字上にカーソルを移動させ、 $\odot$ ボタンを押します。
- 名前エリアのカーソルを左右に移動する場合は、 $\mathcal{Q}$ (ISO) ボタンを押しながらマルチセクターの $\leftarrow$ または $\rightarrow$ を押します。
- 名前エリアからあふれた文字は削除されます。
- 名前を1文字削除する場合は、 $\mathcal{Q}$ (ISO) ボタンを押しながら $\leftarrow$ または $\rightarrow$ を押して削除する文字の上にカーソルを移動させ、 FORMAT ボタンを押します。

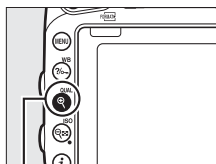


キーボード
エリア

名前エリア

7 $\mathcal{Q}$ (QUAL) ボタンを押す

- 登録名の編集が終了します。



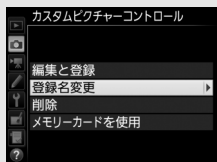
$\mathcal{Q}$ (QUAL) ボタン

- 登録したピクチャーコントロールは、ピクチャーコントロールの一覧画面に表示されます。



✎ 登録名変更について

「カスタムピクチャーコントロール」で「登録名変更」を選ぶと、登録したカスタムピクチャーコントロールの名前を変更できます。



✎ 登録したピクチャーコントロールを削除するには

「カスタムピクチャーコントロール」で「削除」を選ぶと、登録したカスタムピクチャーコントロールを削除できます。

✎ 元になったピクチャーコントロールの表示について

カスタムピクチャーコントロールの調整画面では、元になったピクチャーコントロールがアイコンで表示されます。

元になった
ピクチャーコントロール



✎ カスタム1～9で調整できる項目について

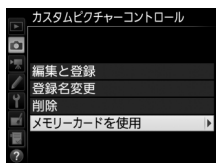
カスタム1～9を選んだ場合は、元になったピクチャーコントロールと同じ項目が調整できます。

SDカードを使ってピクチャーコントロールを 対応ソフトウェアと共有する

Picture Control Utility 2を使用すると、作成したカスタムピクチャーコントロールをSDカードからカメラに読み込んで登録したり、カメラで作成したカスタムピクチャーコントロールをSDカードにコピーすることができます。また、SDカード上の不要なカスタムピクチャーコントロールを削除することもできます。Picture Control Utility 2は、Capture NX-D (□263) や付属のViewNX 2から起動できます。

1 [カスタムピクチャーコントロール] 画面で [メモリーカードを使用] を選ぶ

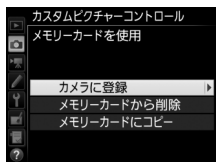
- [メモリーカードを使用] を選んでマルチセクターの①を押すと、[メモリーカードを使用] 画面が表示されます。



2 [カメラに登録]、[メモリーカードから削除] または [メモリーカードにコピー] を選ぶ

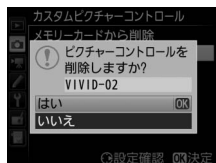
[カメラに登録] :

- SDカードにあるカスタムピクチャーコントロールをカメラに登録できます。カメラに登録したいカスタムピクチャーコントロールと登録先 (C-1～9 (カスタム1～9)) を選んで名前を付けると、選んだカスタムピクチャーコントロールがカメラに登録されます。



[メモリーカードから削除]：

- SDカードにあるカスタムピクチャーコントロールを選んで削除できます。右のような確認画面が表示されるので、[はい]を選んで OK ボタンを押すと、選んだカスタムピクチャーコントロールを削除できます。



[メモリーカードにコピー]：

- カメラにあるカスタムピクチャーコントロールをSDカードにコピーできます。SDカードにコピーしたいカスタムピクチャーコントロールとコピー先（1～99）を選んで OK ボタンを押すと、選んだカスタムピクチャーコントロールがSDカードにコピーされます。

SDカードへのコピー /SDカードからの削除について

- カメラに搭載されているピクチャーコントロールは、コピーや削除ができません。
- カメラにSDカード内のカスタムピクチャーコントロールを登録するときや、カメラ内のカスタムピクチャーコントロールをSDカードにコピーするときは、SDカードをスロット1に入れてください。スロット2に入っているSDカードは認識されません。
- SDカードに保存できるカスタムピクチャーコントロールは、99個までです。

白とびや黒つぶれを抑えて撮影する

アクティブD-ライティングで撮影する

撮影モードP、S、A、Mのみ

撮影の前にあらかじめ「アクティブD-ライティング」を設定しておく
と、ハイライト部の白とびを抑え、暗部の黒つぶれを軽減する効果があり
ます。見た目のコントラストに近い画像に仕上がります。暗い室内か
ら外の風景を撮ったり、直射日光の強い海辺など明暗差の激しい景色を
撮影するのに効果的です。アクティブD-ライティングを設定したとき
は、測光モードをマルチパターン測光に設定して撮影することをおす
めします (□137)。



アクティブD-ライティング
[しない]



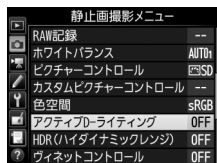
アクティブD-ライティング
[暗A オート]

🔍 静止画撮影メニュー「アクティブD-ライティング」と画像編集メ ニュー「D-ライティング」の違い

「アクティブD-ライティング」を設定してから撮影すると、撮影シーンに応じて
露出や階調を制御し、ハイライト部やシャドー部および中間調を適切に調整し
て画像を記録します。一方、「D-ライティング」(□398)は、撮影済みの画像
に対して階調を再調整してシャドー部を明るく補正します。

■ アクティブD-ライティングの設定方法

- 1 静止画撮影メニューの【アクティブD-ライティング】を選んでマルチセクターの $\odot$ を押す



- 2 効果の度合いを選び、 $\odot$ ボタンを押す

- [暗A オート]、[暗H より強め]、[暗H 強め]、[暗N 標準]、[暗L 弱め]、[しない] に設定できます。
- [暗A オート] に設定すると、撮影シーンに応じて自動的に効果の度合いを設定します。



✓ アクティブD-ライティングについてのご注意

- アクティブ D-ライティングを設定して撮影をするとき、撮影シーンによっては、ノイズ（ざらつき、むら、すじ）が強調されたり、明るい被写体の周辺に暗い影が出たり、暗い被写体の周辺が明るくなったりする場合があります。
- アクティブD-ライティングを設定していても、ISO感度がHi 0.3以上の場合、アクティブD-ライティングは機能しません。
- 撮影モードが **M** のときは、[暗A オート] に設定していても [暗N 標準] 相当の度合いに固定されます。
- 被写体によっては画像に階調とびが発生する場合があります。

🔗 関連ページ

- アクティブD-ライティングの効果の度合いを変えながら撮影する
→ 「ADLブラケットの撮影方法」(□211)
- Fn ボタンとメインコマンドダイヤルでアクティブ D-ライティングの効果の度合いを切り換える → f2 [Fnボタンの機能] (□356)

HDR（ハイダイナミックレンジ）合成を行う

1回の撮影で露出が異なる画像を2コマ撮影して合成することにより、輝度範囲の広いシーンでも白とびや黒つぶれの少ない画像を記録します。明暗差が著しい撮影シーンなどで、シャドー部からハイライト部まで幅広く再現された画像になります。HDRモードを設定したときは、測光モードをマルチパターン測光に設定して撮影することをおすすめします（□137）。



露出暗めで
撮影した画像

+



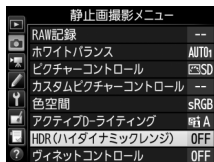
露出明るめで
撮影した画像

➡



HDRモードで
合成された画像

- 1 静止画撮影メニューの「HDR（ハイダイナミックレンジ）」を選んでマルチセクターのⓈを押す

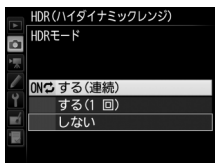


2 [HDRモード] を設定する

- [HDRモード] を選んで  を押します。



-  または  を押してHDRモードを設定し、 ボタンを押します。



ON  する (連続)	HDRモードで続けて撮影します。HDRモードを解除するには、もう一度 [HDRモード] を選んで [しない] を選択してください。
する (1回)	撮影を終了すると、HDRモードが解除されます。
しない	HDRモードを解除します。

- [する (連続)] または [する (1回)] を選ぶと、HDRモードの撮影待機状態になり、ファインダー内表示にHDRマークが点灯します。



ファインダー内表示

RAWを含む画質モードについて

RAWを含む画質モードの場合、HDR撮影はできません。

3 [HDR強度] を設定する

- [HDR強度] を選んで  を押します。

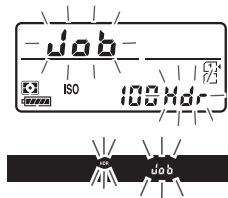


-  または  を押してHDR強度を設定し、 ボタンを押します。
- [オート]、[より強め]、[強め]、[標準]、[弱め] に設定できます。
- [オート] に設定すると、撮影シーンに応じて自動的にHDRの強度を設定します。



4 構図を決め、ピントを合わせて撮影する

- シャッターボタンを全押しすると、2回連続してシャッターがきれます。
- 合成処理中は、表示パネルに **Job Hdr** が、ファインダー内表示に **HDR Job** が点滅します。この表示が消えるまで撮影できません。
- [する (連続)] の場合、[HDRモード] で [しない] を選んでHDRモードを解除するまで、HDRモードで撮影できます。
- HDRモードが [する (1回)] の場合、1回撮影すると、HDRモードが解除され、**HDR** マークが消灯します。



▼ HDR撮影時のご注意

- 撮影した画像の画像周辺部は切り取られます。
- 動いている被写体を撮影する場合や撮影時の手ブレの量が多い場合は、正しく合成されないことがあります。三脚をお使いいただくことをおすすめします。
- 撮影シーンによっては、明るい被写体の周辺に暗い影が出たり、暗い被写体の周辺が明るくなったりします。また、HDRの効果が出にくい場合があります。
- 被写体によっては画像に階調とびが発生する場合があります。
- 測光モードが中央部重点測光またはスポット測光のときや、非CPUレンズ装着時に**[HDR強度]**を**[オート]**に設定すると、HDRの強度は**[標準]**相当の度合いに固定されます。
- 内蔵フラッシュと別売のスピードライトは発光しません。
- レリーズモード（□104）が**CL**、**CH**または**Qc**の場合にシャッターボタンを全押しし続けても連続撮影しません。
- シャッタースピードは、**bulb**（バルブ）または**-**（タイム）に設定できません。

▼ HDRモードの制限について

HDRモードは、次の機能とは同時に使用できません：

- オートブラケティング撮影（□203）
- 多重露出撮影（□215）
- 微速度撮影（□227）

🔪 HDRモードとインターバルタイマー撮影の組み合わせについて

- HDRモードを**[する(連続)]**に設定してからインターバルタイマー撮影（□221）を設定すると、**[インターバルタイマー撮影]**で設定されたインターバルでHDR撮影ができます。
- HDRモードが**[する(1回)]**の場合は、1回だけHDRモードで撮影した後、インターバルタイマーとHDRモードが解除されます。

フラッシュ撮影

内蔵フラッシュを使って撮影する

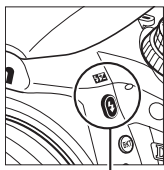
内蔵フラッシュを使うと、暗い場所や逆光下など、さまざまな場所での撮影を楽しむことができます。

内蔵フラッシュが自動的に上がる撮影モードの場合

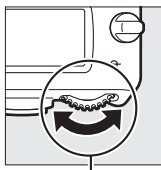
撮影モード 、、、、、、、 では、暗いときや逆光のときなど、必要に応じて自動的に内蔵フラッシュが上がり、発光します。

1 フラッシュモードを設定する

- (ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、インフォ画面のフラッシュモード表示が変わります。



() ボタン



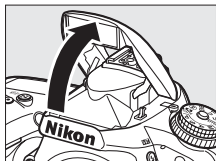
メインコマンド
ダイヤル



インフォ画面

2 シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせながら撮影する

内蔵フラッシュを収納していても、必要に応じて自動的に内蔵フラッシュが上がり、発光します（発光禁止に設定している場合を除く）。フラッシュが自動的に上がらないとき、手で無理に上げないでください。内蔵フラッシュが破損するおそれがあります。



■ 設定できるフラッシュモード

内蔵フラッシュが自動的に上がる撮影モードで設定できるフラッシュモードは次の通りです。

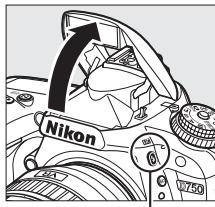
	フラッシュモード	撮影モード
	通常発光オート（自動発光）： 暗いときや逆光のときに必要に応じて発光します。	AUTO、  、  、  、  、  、 
	赤目軽減オート（自動発光）： 人物撮影に適しています。フラッシュが発光する前に、赤目軽減ランプが点灯して、人物の目が赤く写る「赤目現象」を軽減します。	AUTO、  、  、  、  、  、 
	赤目軽減オート（自動発光）＋スローシャッター： 夜景や夕景をバックにした人物撮影などに適しています。赤目軽減発光に加え、背景をきれいに写すために、自動的にシャッタースピードを遅くする「スローシャッター」が行われます。	
	通常発光オート（自動発光）＋スローシャッター： 通常発光に加え、背景をきれいに写すために、自動的にシャッタースピードを遅くする「スローシャッター」が行われます。	
	発光禁止： 発光しません。	AUTO、  、  、  、  、  、 

内蔵フラッシュを手動で上げる撮影モードの場合

撮影モードP、S、A、M、IIでは、 (B2) ボタンを押して、手動で内蔵フラッシュを上げます。

1 (B2) ボタンを押す

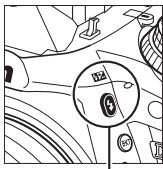
- 内蔵フラッシュが上がります。
- フラッシュモードが発光禁止に設定されている場合や別売スピードライトが装着されている場合は、内蔵フラッシュは上がりません。手順2に進んでください。



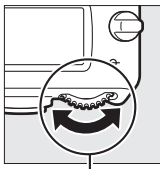
 (B2) ボタン

2 フラッシュモードを設定する

-  (B2) ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、インフォ画面のフラッシュモード表示が変わります。



 (B2) ボタン



メインコマンド
ダイヤル



インフォ画面

- IIの場合、フラッシュモードを設定する必要はありません。

3 シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせてから撮影する

- 内蔵フラッシュを上げているときは、周囲の明るさなどにかかわらず、フラッシュは常に発光します（発光禁止に設定している場合を除く）。

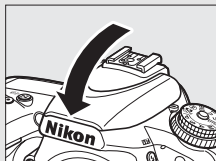
■ 設定できるフラッシュモード

内蔵フラッシュを手動で上げる撮影モードで設定できるフラッシュモードは次の通りです。

	フラッシュモード	撮影モード
	通常発光 ：撮影のたびに内蔵フラッシュが発光します。	P、S、A、M、11
	赤目軽減発光 ：人物撮影に適しています。フラッシュが発光する前に、赤目軽減ランプが点灯して、人物の目が赤く写る「赤目現象」を軽減します。	P、S、A、M
	赤目軽減発光+スローシャッター ：夜景や夕景をバックにした人物撮影などに適しています。赤目軽減発光に加え、背景をきれいに写すために、自動的にシャッタースピードを遅くする「スローシャッター」が行われます。	P、A
	通常発光+スローシャッター ：通常発光に加え、背景をきれいに写すために、自動的にシャッタースピードを遅くする「スローシャッター」が行われます。	P、A
	後幕発光+スローシャッター ：動いている被写体の後方に流れる光や軌跡などを表現したい場合などに適しています。後幕発光に加え、背景をきれいに写すために、自動的にシャッタースピードを遅くする「スローシャッター」が行われます。 • フラッシュモードを設定すると、 SLOW の文字も表示されます。	P、A
  先幕発光  後幕発光	後幕発光 ：通常発光時はシャッターが開くと同時にフラッシュが発光します（先幕発光）が、後幕発光ではシャッターが閉じる直前にフラッシュが発光します。	S、M
	発光禁止 ：発光しません。	P、S、A、M

内蔵フラッシュを収納する

内蔵フラッシュを収納するときは、カチッと音がするまで手で軽く押し下げます。バッテリーの消耗を防ぐため、使用しないときは常に収納してください。



インフォ画面のフラッシュモード表示について

インフォ画面のフラッシュモードでは、内蔵フラッシュ使用時の発光方式が、次のように表示されます。内蔵フラッシュの発光方式は、カスタムメニュー e3 [内蔵フラッシュ発光] で設定できます (□346)。

	通常発光	FP発光 (□345)
i-TTL-BL調光 スタンダードi-TTL調光		—
マニュアル発光		—
リピーティング発光		—
コマンダーモード		

🔧 測光モードと内蔵フラッシュの調光について

測光モードをマルチパターン測光、中央部重点測光またはハイライト重点測光に設定すると、i-TTL-BL調光になり、スポット測光に設定すると、スタンダードi-TTL調光になります。i-TTL モードでは次のような内蔵フラッシュ撮影ができます。

i-TTL-BL 調光	91Kピクセル（約91,000ピクセル）RGBセンサーによる測光情報を元に被写体と背景光のバランスを考慮したBL（バランス）調光を行います。シャッターボタンを押すと、内蔵フラッシュがモニター発光を行い、被写体と背景光のバランスを考慮した最適な発光量を決定します。 ● G、EまたはDタイプレンズ装着時は、レンズから得られた被写体までの距離情報も利用して最適な発光量を決定します。 ● 非 CPU レンズ装着時は、レンズ情報（開放絞り値、焦点距離）を設定することにより、より精度が向上します（□232）。
スタン ダード i-TTL調光	背景の明るさは考慮されず、撮影画面が基準露光量となるように調光します。主要被写体のみを強調する場合や、フラッシュ撮影で露出補正する場合に適しています。

✔ フラッシュ撮影時のご注意

- 内蔵フラッシュを使って撮影するときは、被写体から0.6 m以上離れてください。
- フラッシュの光がさえぎられることがあるので、レンズフードは外してください。また、マクロ付きズームレンズのマクロ領域ではお使いになれません。
- 内蔵フラッシュ撮影時は、レリーズモードを**CL**、**CH**または**Qc**に設定しても、連続撮影にはなりません。
- 内蔵フラッシュを連続して使うと、発光部を保護するため、一時的に発光が制限され、シャッターがきれなくなる場合があります。少し時間をおくと再び使えるようになります。
- i-TTLモード時のISO感度連動範囲は、100～12800です。ISO感度を100よりも低感度に設定したり、12800よりも高感度に設定した場合には、距離や絞り値によっては適正な発光量にならないことがあります。

内蔵フラッシュ撮影時のシャッタースピード制限について

内蔵フラッシュ撮影時のシャッタースピード制限は、次のようになります。

、、、、 、、	1/200～1/60秒	P、A	1/250～1/60秒
		S	1/250～30秒
	1/200～1秒	M	1/250～30秒、 bulb 、--

- 撮影モード**P、S、A、M**では、カスタムメニューe1 [フラッシュ撮影同調速度] (□344) を [1/250秒 (オートFP)] に設定すると、内蔵フラッシュ使用時でも高速側のシャッタースピードが1/250秒までフラッシュ同調します (□345)。また、カスタムメニューe1 [フラッシュ撮影同調速度] を [1/250秒 (オートFP)] または [1/200秒 (オートFP)] に設定して別売のオートFPハイスピードシンクロ対応スピードライト (□440) を装着した場合は、高速側のシャッタースピードが1/4000秒まで制御されます。

内蔵フラッシュの調光範囲 (光の届く範囲) と限界絞り値

内蔵フラッシュはISO感度と絞り値によって調光範囲 (光の届く範囲) が異なります。下表を参考にしてください。

ISO感度および絞り値								調光範囲
100	200	400	800	1600	3200	6400	12800	(m)
1.4	2	2.8	4	5.6	8	11	16	約0.7～8.5
2	2.8	4	5.6	8	11	16	22	約0.6～6
2.8	4	5.6	8	11	16	22	32	約0.6～4.2
4	5.6	8	11	16	22	32	—	約0.6～3
5.6	8	11	16	22	32	—	—	約0.6～2.1
8	11	16	22	32	—	—	—	約0.6～1.5
11	16	22	32	—	—	—	—	約0.6～1.1
16	22	32	—	—	—	—	—	約0.6～0.8

※内蔵フラッシュで調光できる最短撮影距離は0.6mです。

- 撮影モード**P**では、内蔵フラッシュ使用時に下表の絞り値よりも絞りを開くことはできません。

ISO感度と開放側の限界絞り (F)							
100	200	400	800	1600	3200	6400	12800
2.8	3.5	4	5	5.6	7.1	8	10

※制御される絞り値よりも開放絞りが暗い場合は、装着レンズの開放絞りによって制御されます。

関連ページ

- 「オートFPハイスピードシンクロについて」 (□□345)
- フラッシュの調光量を固定して撮影する → 「FVロックして調光量を固定する」 (□□191)
- 内蔵フラッシュの同調速度を変更する →  e1 [フラッシュ撮影同調速度] (□□344)
- フラッシュ時のシャッタースピードを制限する →  e2 [フラッシュ時シャッタースピード制限] (□□346)
- 内蔵フラッシュの発光方式を変更する →  e3 [内蔵フラッシュ発光] (□□346)
- 内蔵フラッシュをコマンダーモードで使用する →  e3 [内蔵フラッシュ発光] (□□346)
- 別売スピードライト (フラッシュ) を使って撮影する → 「使用できるスピードライト」 (□□437)

調光補正してフラッシュの発光量を変更する

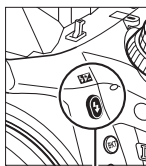
撮影モードP、S、A、M、SCENEのみ

調光補正とは、フラッシュの発光量を意図的に変えることで、背景に対する被写体の明るさを調整したいときなどに使います。発光量を多くして被写体をより明るく照らしたり、発光量を少なくして被写体に光が強く当たりすぎないようにするなど、発光量の微妙な調整ができます。

■■ 調光補正の設定方法

⚡ (Fn) ボタンを押しながら、サブコマンドダイヤルを回す

- 調光露出補正值は、表示パネル、ファインダー内表示およびインフォ画面に表示されます。
- 調光補正は、1/3 段ステップで -3 段 ~ +1 段の範囲で設定できます。



⚡ (Fn) ボタン



サブコマンド
ダイヤル

- 補正量を設定すると、表示パネルとファインダー内表示に **0.3**（調光補正）マークが表示されます。
- **⚡ (0.3)** ボタンを押すと、表示パネル、ファインダー内表示またはインフォ画面で設定した補正量を確認できます。
- 被写体を明るくしたいときは+側に、暗くしたいときは-側に補正するのが基本です。
- 調光補正を解除するには、補正量を0.0にしてください。カメラの電源をOFFにしても、補正量の設定は解除されません。



補正なし (⚡ **0.3**) ボタンを押したとき)



-0.3段 (-1/3段) 補正



+1段補正

別売スピードライトの調光補正について

カメラ側とスピードライト側で同時に調光補正を行う場合、両方の補正値を加算します。

関連ページ

- 調光補正のステップ幅を変更する → **b2** [露出設定ステップ幅] (□331)
- フラッシュ撮影時に露出補正した場合に調光量も補正するかどうかを設定する → **e4** [フラッシュ使用時の露出補正] (□353)
- 調光補正値を変えながら撮影する → 「AE ブラケットング、フラッシュブラケットングの撮影方法」 (□203)

FVロックして調光量を固定する

調光量をロック（固定）することにより、被写体に調光量を合わせたまま構図を変えたり、同じ調光量を維持したまま撮影できます。被写体が画面の中央にない場合など、自由な構図で適切な調光量のフラッシュ撮影が可能です。

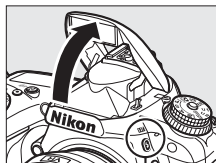
- FVロック中にカメラのISO感度や絞り値を変更しても、フラッシュの発光量が補正されることによりFVロックは維持されます。

1 カスタムメニュー f2 [Fnボタンの機能] (356) を [FV-L] に設定する



2 内蔵フラッシュを上げる

- 撮影モードP、S、A、M、またはM/で（B2）ボタンを押すと、内蔵フラッシュが上がり、フラッシュの充電が開始されます。
- 撮影モードAUTO、S、A、M、P、L、B、M、では、シャッターボタンを半押しすると、撮影状況に応じて内蔵フラッシュが自動的に上がります。



（B2）ボタン

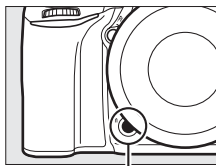
3 被写体にピントを合わせる

- 発光量を合わせたい被写体を画面の中央でとらえ、シャッターボタンを半押しして被写体にピントを合わせます。



4 モニター発光を行う

- ファインダー内表示に $\blacksquare$ が点灯していることを確認し、Fnボタンを押すと、フラッシュがモニター発光を行い、調光量を計算します。
- FVロックが行われ、ファインダー内表示に $\blacksquare$ (FVロック) マークが表示されます。



Fnボタン



5 構図を変更する



6 シャッターボタンを全押しして撮影する

- FVロック中は、被写体の露出を一定にしたまま複数のコマを撮影することができます。必要に応じて手順5～6を繰り返してください。

7 FVロックを解除する

- もう一度Fnボタンを押すと、FVロックが解除され、ファインダー内表示の $\blacksquare$ が消灯します。

内蔵フラッシュのFVロックについて

内蔵フラッシュだけを発光させてフラッシュ撮影を行う場合、FVロックを使用するときはカスタムメニュー e3 [内蔵フラッシュ発光] (□346) を [TTL モード] に設定してください。

別売スピードライトのFVロックについて

別売のスピードライト（□437）の発光モードが**TTL**、「モニター発光あり」の**AA**または**A**のいずれかに設定されている場合も、FVロックを行うことができます（別売スピードライトの発光モードについては、スピードライトの使用説明書をご覧ください）。カスタムメニュー e3 **〔内蔵フラッシュ発光〕**（□346）を**〔コマンダーモード〕**にして撮影する場合は、主灯（マスターフラッシュ）または補助灯（リモート）グループのうち、少なくとも1グループの発光モードを**〔TTL〕**または**〔AA〕**に設定してください。

別売スピードライトのFVロック時の測光エリアについて

別売スピードライトを使用したFVロック時の測光エリアは次のようになります。

撮影状態	発光モード	測光エリア
1灯撮影時	i-TTLモード	画面中央φ5 mm相当
	絞り連動外部自動調光	スピードライトの外部測光エリア
アドバンスドワイヤレスライティングによる増灯時	i-TTLモード	全画面
	絞り連動外部自動調光	スピードライトの外部測光エリア
	外部自動調光（マスタースピードライト）	

関連ページ

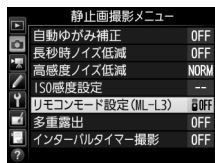
- **Pv**ボタンを押してFVロックをする →  f3**〔プレビューボタンの機能〕**（□361）
-  **AE/AF**ロックボタンを押してFVロックをする →  f4**〔AE/AFロックボタンの機能〕**（□361）

リモコン撮影

別売のリモコンML-L3を使って撮影する

別売のリモコンML-L3 (C449) を使って、カメラから離れた場所から静止画を撮影することができます。記念写真など撮影者自身も一緒に写りたいときや、シャッターボタンを押すときの手ブレを軽減したいときなどにお使いください。リモコン撮影時は、三脚などを使ってカメラを固定してください。

- 1 静止画撮影メニューの「リモコンモード設定 (ML-L3)」を選んでマルチセレクターの  を押す



2 リモコンモードを設定する

- 設定したいリモコンモードを選んで $\odot$ ボタンを押すと、リモコンモードに切り替わります。

 2s 2秒リモコン	ML-L3の送信ボタンを押すと、2秒後にシャッターがきれます。
 瞬時リモコン	ML-L3の送信ボタンを押すと、すぐにシャッターがきれます。
 MUP ミラーアップ リモコン	ML-L3の送信ボタンを押すと、ミラーアップします。もう一度ML-L3の送信ボタンを押すと、撮影できます。撮影時にミラーアップの振動によるブレを防ぐことができます。

- [しない] を選ぶと、ML-L3の送信ボタンを押しても、撮影を行いません。

3 構図を決め、ピントを合わせる

- オートフォーカスで撮影する場合、撮影を開始する前にカメラのシャッターボタンを半押しして、ピント合わせを行ってください。



✓ 別売のリモコンML-L3を初めてお使いになるときのご注意
リモコンにはさんである透明の絶縁シートを引き抜いてください。

✓ リモコンML-L3使用時の制限について

- リモコンML-L3使用時は、レリーズモードダイヤル (□104) での設定は無効になり、静止画撮影メニューの [リモコンモード設定 (ML-L3)] の内容で撮影を行います。
- ライブビューセクターが $\blacktriangle$ の場合にカスタムメニュー g4 [シャッターボタンの機能] が [動画撮影] (□374) のときは、リモコンML-L3は使えません。

4 ML-L3の送信ボタンを押す

- 5 m以内の距離から、ML-L3の送信部をカメラのリモコン受光部に向け、送信ボタンを押してください（リモコン受光部は、カメラ前面と背面の2カ所にあります、□2、4）。



5 撮影する

- 2秒リモコンモードではセルフタイマーランプが約2秒間点灯してからシャッターがきれます。
- 瞬時リモコンモードではすぐにシャッターがきれ、撮影後にセルフタイマーランプが一瞬点灯します。
- ミラーアップリモコンモードの場合、ML-L3の送信ボタンを1回押すと、ミラーアップします。もう一度送信ボタンを押すと、シャッターがきれ、撮影後にセルフタイマーランプが一瞬点灯します。
- 2秒リモコンモードと瞬時リモコンモードでの撮影時のフォーカス動作は、ファインダー撮影時のAFモード（□119）の設定によって、次のように異なります。

AF-A	ピントが合ってから約2秒後、または瞬時にシャッターがきれます。ピントが合わない場合は、待機状態に戻ります。ただし、すでにピントが合っているときはピント合わせを行わず、シャッターがきれます。
AF-S	
AF-C	ピント合わせは行わず、ML-L3の送信ボタンを押してから約2秒後、または瞬時にシャッターがきれます。

- ライブビュー撮影時、2秒リモコンモードでは、ピントが合ってから約2秒後に、瞬時リモコンモードでは瞬時にシャッターがきれます（ピントが合わなくてもシャッターはきれます）。

ミラーアップリモコンモードについて

- ミラーアップ中は、ファインダーで構図を確認できません。
- ミラーアップ中は、オートフォーカスと測光は使えません。
- ML-L3の送信ボタンを1回押してミラーアップした後約30秒経過すると、自動的にシャッターがきれます。

リモコンモード設定（ML-L3）の解除について

次の場合、リモコンモードを解除します。

- 撮影を行わないまま、カスタムメニュー c5 [リモコン待機時間（ML-L3）]（□335）で設定したリモコン待機時間が過ぎた場合
- [リモコンモード設定（ML-L3）] で [しない] を選んだ場合
- ツールボタンリセットを行った場合（□200）
- [静止画撮影メニューのリセット]（□309）を行った場合

リモコン撮影時のフラッシュについて

- 内蔵フラッシュが自動で上がる撮影モード（□181）では、リモコンの受信待機状態になるとフラッシュの充電が始まり、充電完了後にML-L3の送信ボタンを押すと、必要に応じて内蔵フラッシュが自動的に上がり発光します。フラッシュの充電中にML-L3の送信ボタンを押しても、カメラは反応しません。しばらく待ってから送信ボタンを押してください。
- 内蔵フラッシュを手動で上げる撮影モード（□183）でフラッシュを使って撮影したいときは、撮影を開始する前に  () ボタンを押して内蔵フラッシュを上げ、ファインダー内表示の  が点灯するまでお待ちください。ML-L3の送信ボタンを押した後にフラッシュを上げると、撮影は中止されます。
- 瞬時リモコンモード、ミラーアップリモコンモードの場合、赤目軽減発光（□184）を組み合わせたフラッシュモードでは、赤目軽減ランプが約1秒間点灯してからシャッターがきれます。2秒リモコンモードの場合、セルフタイマーランプが約2秒間点灯した後、赤目軽減のために赤目軽減ランプが約1秒間点灯してからシャッターがきれます。

関連ページ

- リモコン撮影の受信待機時間を変更する →  c5 [リモコン待機時間（ML-L3）]（□335）
- リモコン撮影時の電子音を設定する →  d1 [電子音設定]（□336）
- 付属のアイピースキャップを使う → 「ファインダーから顔を離して撮影するときは」（□107）

別売のワイヤレスリモートコントローラーを使って撮影する

別売のワイヤレスリモートコントローラー WR-1 (□447) や、ワイヤレスリモートコントローラー WR-R10とWR-T10 (□447) を使うと、ワイヤレスリモートコントローラーのシャッターボタンをカメラのシャッターボタンと同様に操作して撮影できます。連続撮影やセルフタイマー撮影も無線での遠隔撮影で行えます。

ワイヤレスリモートコントローラー WR-1

WR-1は、他のWR-1やWR-R10またはWR-T10と組み合わせて、送信機または受信機として使います。たとえば、受信機に設定したWR-1をカメラのアクセサリターミナルに取り付けると、送信機に設定したWR-1からの操作で、遠隔撮影したり、カメラの設定を変更したりすることができます。

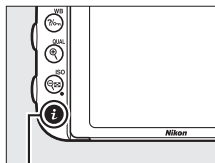
ワイヤレスリモートコントローラー WR-R10/WR-T10

WR-R10（送受信機）をカメラに取り付けると、WR-T10（送信機）からの操作で、遠隔撮影することができます。

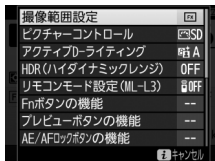
撮影の便利な機能

ファインダー撮影時に*i*ボタンを使う

ファインダー撮影時に*i*ボタンを押すと、撮影時の設定を変更できます。マルチセクターで項目を選んでOKボタンを押すと、選んだ項目の設定画面が表示されます。撮影に戻るには、再度*i*ボタンを押してください。



i ボタン



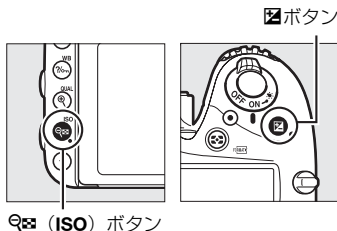
● 設定できるメニュー項目は次の通りです。

メニュー項目	📖
撮像範囲設定	109
ピクチャーコントロール	164
アクティブD-ライティング	175
HDR (ハイダイナミックレンジ)	177
リモコンモード設定 (ML-L3)	194

メニュー項目	📖
Fnボタンの機能	356
プレビューボタンの機能	361
AE/AFロックボタンの機能	361
長秒時ノイズ低減	315
高感度ノイズ低減	315

ツータンリセットで基本的な機能を初期設定に戻す

Q² (ISO) ボタンと  ボタン (それぞれのボタンに緑色の●がついています) を2秒以上同時に押すと、一瞬表示パネルの表示が消え、カメラの機能が次のように初期設定に戻ります。



画質モード	NORMAL	114
画像サイズ	サイズL	117
ホワイトバランス	AUTO1 標準	144
微調整値	A-B : 0、G-M : 0	147
ピクチャーコントロールの調整値	解除※1	166
HDR (ハイダイナミックレンジ)	解除※2	177
ISO感度		
撮影モード	P、S、A、M以外	オート
	P、S、A、M	100
感度自動制御	しない	134
リモコンモード設定 (ML-L3)	しない	194
インターバルタイマー撮影	解除※3	221

ファインダー撮影時のAF

AFモード		AF-S	119
	以外	AF-A	
AFエリアモード			
撮影モード		シングルポイントAF	121
		ダイナミックAF・51点	
		オートエリアAF	
静止画ライブビュー / 動画ライブビュー時のAF			
AFモード		シングルAFサーボ	57
AFエリアモード			
撮影モード		ワイドエリアAF	58
		ノーマルエリアAF	
		顔認識AF	
フォーカスポイント※4		中央	125
露出プレビュー		しない	61
マルチセクターによるパワー絞り		無効	71
ハイライト表示		しない	71
ヘッドホン音量		15	71
測光モード		マルチパターン測光	137
AE-L（ホールド）		解除	127、140
オートブラケット		解除※5	203
フラッシュ調光補正		解除（0.0）	189
露出補正		解除（0.0）	142
露出ディレーモード		しない	338

フラッシュモード			
撮影モード	AUTO、、、、、	通常発光オート	181
		赤目軽減オート	
		通常発光オート＋スローシャッター	
	11、P、S、A、M	通常発光	
FVロック		解除	191
多重露出		解除※6	215
プログラムシフト		解除	90
プラスRAW記録		解除	357

※1 現在選択中のピクチャーコントロールのみ解除されます。

※2 HDRモードが【**する (連続)**】または【**する (1回)**】の場合は【**しない**】に設定されます。HDR強度は初期設定には戻りません。

※3 インターバルタイマー撮影が中断されます。開始時刻、撮影間隔、撮影回数×1回のコマ数、露出平滑化は初期設定には戻りません。

※4 AFエリアモードがオートエリアAFのときは、フォーカスポイントは表示されません。

※5 撮影コマ数が0に設定されます。AE、フラッシュ、WBブラケットिंगの補正ステップは1になります。ADLブラケットिंगで撮影コマ数が2コマのときの2コマ目のアクティブD-ライティングの度合いは、【**暗Aオート**】になります。

※6 多重露出撮影が中断され、その時点までの露光結果だけを重ね合わせた画像が記録されます。また、多重露出モードが【**する (連続)**】または【**する (1回)**】の場合は【**しない**】に設定されます。コマ数と自動ゲイン補正は初期設定には戻りません。

オートブラケティングで露出や調光、ホワイトバランス、アクティブD-ライティングを変えながら撮影する

撮影モードP、S、A、Mのみ

明るさ（露出）、フラッシュの発光量、ホワイトバランス、アクティブD-ライティング（ADL）の設定をカメラが自動的に変えながら撮影します。画像の明るさやフラッシュの発光量の調整が難しい場合や複数の光源が混在していてホワイトバランスを決めにくい場合の撮影に効果的です。

■ AEブラケティング、フラッシュブラケティングの撮影方法

露出値（AE）とフラッシュの発光量を変えながら撮影します。



補正なし



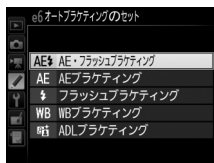
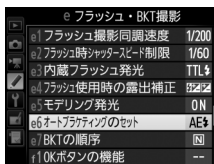
-1段補正



+1段補正

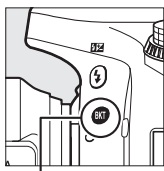
- 1 カスタムメニュー e6 [オートブラケティングのセット] で [AE・フラッシュブラケティング] を選んで **OK** ボタンを押す

- [AEブラケティング]、[フラッシュブラケティング] を選んだ場合も操作は同じです。



2 撮影コマ数を設定する

- **BKT** ボタンを押したままメインコマンドダイヤルを回すと、インフォ画面または表示パネルを確認しながら撮影コマ数を設定できます。



BKT ボタン



メインコマンド
ダイヤル

撮影コマ数



インフォ画面

オートブラケット
インジケーター

- **AF**以外に設定すると、表示パネルに**BKT**マークが、ファインダー内表示に**BKT**が点灯します。



ファインダー内表示

- インフォ画面には**AE-BKT**とオートブラケットインジケーターが表示されます。マークは、[AEブラケット] を選んだ場合は**AE-BKT**、[フラッシュブラケット] を選んだ場合は**AE-BKT**に変更されます。

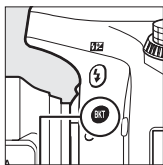
AEブラケット、フラッシュブラケットについて

[AE・フラッシュブラケット] では、AEブラケットとフラッシュブラケットを同時に行います。AEブラケットだけを行いたいときは[AEブラケット] を、フラッシュブラケットだけを行いたいときは[フラッシュブラケット] を選びます。フラッシュブラケットは、i-TTL調光時および絞り連動外部自動調光時（別売の絞り連動外部自動調光対応スピードライト使用時のみ）に使用できます（□186、439）。

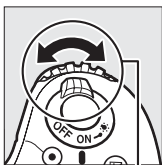
3 補正ステップを設定する

- **BKT** ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すと、インフォ画面または表示パネルを確認しながら補正ステップを設定できます。

補正ステップ



BKT ボタン



サブコマンドダイヤル



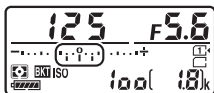
インフォ画面

- 補正ステップは、露出設定ステップ幅が「1/3段」の場合、0.3 (1/3段)、0.7 (2/3段)、1.0 (1段)、2.0 (2段)、3.0 (3段) から選ぶことができます。補正ステップを2.0または3.0に設定した場合、撮影コマ数は最大5枚です。手順2で撮影コマ数を7枚または9枚に設定していても、自動的に5枚に変更されます。
- 補正ステップが0.3のときの撮影コマ数と撮影順序は次の表の通りです。

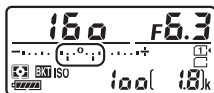
インフォ画面	オートブラケティングインジケータ	撮影コマ数	撮影順序
0F 0.3	—.....0.....+	0	0
+3F 0.3	—.....0.....+	3	0/+0.3/+0.7
-3F 0.3	—.....0.....+	3	0/-0.7/-0.3
+2F 0.3	—.....0.....+	2	0/+0.3
-2F 0.3	—.....0.....+	2	0/-0.3
3F 0.3	—.....0.....+	3	0/-0.3/+0.3
5F 0.3	—.....0.....+	5	0/-0.7/-0.3/ +0.3/+0.7
7F 0.3	—.....0.....+	7	0/-1.0/-0.7/-0.3/ +0.3/+0.7/+1.0
9F 0.3	—.....0.....+	9	0/-1.3/-1.0/-0.7/ -0.3/+0.3/+0.7/ +1.0/+1.3

4 撮影する

- 設定した撮影コマ数を撮影してください。
- シャッタースピードと絞り値は補正された値が表示されます。
- 撮影するたびに、コマ数を示す表示がオートブラケティングインジケータ上から消えます。



撮影コマ数：3
補正ステップ：0.7



1コマ撮影した状態

- AEブラケティングと露出補正 (□142) を同時に設定すると、両方の補正値が加算されたAEブラケティング撮影が行えます。

■ AEブラケティング、フラッシュブラケティング 撮影をやめるには

BKT ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回して、インフォ画面または表示パネルの撮影コマ数を (0F/**0F**) にしてください (表示パネルの **BKT** マークが消灯します)。ただし、設定した補正ステップは記憶されます。また、ツーボタンリセット (□200) でもブラケティングを解除できますが、この場合は設定した補正ステップもリセットされます。

🔗 関連ページ

- オートブラケティングの補正ステップ幅を変更する → 🖋b2 [露出設定ステップ幅] (□331)
- オートブラケティングの撮影順を変更する → 🖋e7 [BKTの順序] (□354)

AE・フラッシュブラケティング、AEブラケティング、フラッシュブラケティング撮影について

- レリーズモード (□104) を **CL**、**CH** または **Qc** にセットして連続撮影する場合、シャッターボタンを押し続けると、セットしたコマ数の撮影が終了した時点でいったん停止し、シャッターボタンを押し直すと次の連続撮影が可能になります。
- セルフタイマー撮影時 (□106) には、シャッターボタンを全押しすると、カスタムメニュー c3 [セルフタイマー] (□334) の [連続撮影間隔] で設定した撮影間隔で撮影します。ただし、c3 の [撮影コマ数] で設定した撮影コマ数にかかわらず、□204 の手順2で設定した撮影コマ数が1コマずつ撮影されます。
- 撮影中に電源をOFFにしても、再びONにすれば撮影を再開できます。
- 撮影中にSDカードの残量がなくなっても、残量のある他のSDカードに交換すれば残りを撮影できます。

AEブラケティング

AEブラケティングでは、撮影モードによって補正される内容(シャッタースピード、絞り値)が異なります。

撮影モード	変化する内容
P	シャッタースピードと絞り値※1
S	絞り値※1
A	シャッタースピード※1
M	シャッタースピード※2

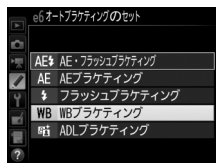
※1 静止画撮影メニュー [ISO 感度設定] の [感度自動制御] (□134) が [する] のときは、シャッタースピードや絞り値が制御範囲を超えると、自動的にISO感度が変化します。

※2 静止画撮影メニュー [ISO 感度設定] の [感度自動制御] (□134) が [する] のときは、まずISO感度を変化させて基準となる露出を適正露出に近づけてから、オートブラケティングでシャッタースピードを変化させます。

■ WBブラケティングの撮影方法

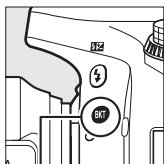
ホワイトバランスの色温度を変えながら撮影します。ホワイトバランスについての説明は、□144をご覧ください。

1 カスタムメニュー e6 [オートブラケティングのセット] で [WBブラケティング] を選ぶ



2 撮影コマ数（2コマまたは3コマ）を設定する

- **BKT** ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、インフォ画面または表示パネルを確認しながら撮影コマ数を設定できます。



BKT ボタン



メインコマンド
ダイヤル

撮影コマ数



インフォ画面

WBブラケティング
インジケーター

- **3F**以外に設定すると、表示パネルに **BKT** マークが、ファインダー内表示に **BKT** が点灯します。インフォ画面には **WB-BKT** と WBブラケティングインジケーターが表示されます。



ファインダー内表示

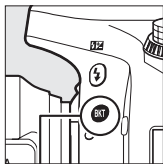
☑ WBブラケティングの制限について

WBブラケティングは、RAWを含む画質モードでは使用できません。

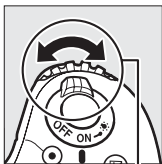
3 補正ステップを設定する

- **BKT** ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すと、インフォ画面または表示パネルを確認しながら補正ステップを設定できます。

補正ステップ



BKT ボタン



サブコマンド
ダイヤル



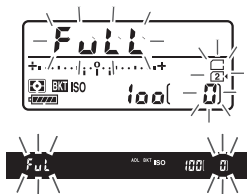
インフォ画面

- 補正ステップは、1（1段）、2（2段）、3（3段）から選ぶことができます。
- ホワイトバランス補正ステップの1段は、約5ミレッドに相当します。A方向に数が大きくなるごとにアンバーが強くなります。B方向に数が大きくなるごとにブルーが強くなります（□148）。
- 補正ステップが1のときの撮影コマ数と撮影順序は次の表の通りです。

インフォ画面	WB ブラケティングインジケーター	撮影コマ数	補正ステップ	撮影順序
B2F 1	+.....;0;.....+	2	B方向1段	0/B1
A2F 1	+.....;0;.....+	2	A方向1段	0/A1
3F 1	+.....;0;.....+	3	各方向1段	0/A1/B1

4 撮影する

- シャッターボタンを1回全押しすると、設定した全てのコマ数の画像が記録されます。
- ホワイトバランスを微調整している場合は、微調整値にWBブラケットिंगの補正ステップが加算されます。
- WBブラケットिंगの撮影コマ数が記録可能コマ数より多い場合、表示パネルに**FULL**が、ファインダー内表示に**Ful**が右図のように点滅し、シャッターがきけません（表示パネルの残量の少ないSDカードのアイコンも点滅します）。新しいSDカードに交換すると撮影できます。



■ WBブラケットिंग撮影をやめるには

BKT ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回して、インフォ画面または表示パネルの撮影コマ数を (0F/**0F**) にしてください（表示パネルの **BKT** マークが消灯します）。ただし、設定した補正ステップは記憶されます。また、ツーボタンリセット (□200) でもブラケットिंगを解除できますが、この場合は設定した補正ステップもリセットされます。

▼ WBブラケットिंग撮影について

- WBブラケットिंगでは、色温度 (A (アンバー) からB (ブルー) への横方向) の補正のみを行います (□147)。G (グリーン) からM (マゼンタ) への縦方向の補正は行いません。
- 撮影中に電源をOFFにした場合、全てのコマの記録が終了してから電源が切れます。
- セルフタイマー撮影時 (□106) には、シャッターボタンを全押しすると、カスタムメニュー c3 [セルフタイマー] の [撮影コマ数] (□334) で設定した撮影コマ数にかかわらず、□208の手順2で設定した撮影コマ数が全て記録されます。

🔗 関連ページ

「ミレッド (MIRED) について」 (□148)

■ ADLブラケットの撮影方法

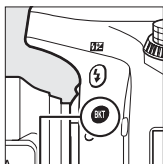
アクティブD-ライティングの効果の度合いを変えながら撮影します。アクティブD-ライティングについての説明は、□175をご覧ください。

1 カスタムメニュー e6 [オートブラケットのセット] で [ADLブラケット] を選ぶ

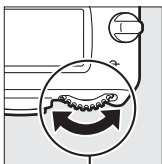


2 撮影コマ数を設定する

- **BKT** ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、インフォ画面または表示パネルを確認しながら撮影コマ数を設定できます。



BKTボタン



メインコマンドダイヤル



- **3F**以外に設定すると、表示パネルに **BKT** マークが、ファインダー内表示に **BKT** が点灯します。インフォ画面には **ADL-BKT** と ADLブラケットインジケータが表示されます。



ファインダー内表示

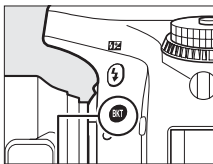
- 設定した撮影コマ数により、ブラケティングの内容が次のように異なります。

撮影 コマ数	ブラケティングの内容
2コマ	[しない] → (手順3で設定するアクティブD-ライティングの度合い) の順に撮影
3コマ	[しない] → [弱め] → [標準] の順に撮影
4コマ	[しない] → [弱め] → [標準] → [強め] の順に撮影
5コマ	[しない] → [弱め] → [標準] → [強め] → [より強め] の順に撮影

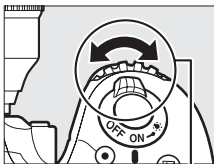
- 撮影コマ数を3コマ以上に設定した場合は、手順4に進んでください。

3 アクティブD-ライティングの度合いを設定する

- **BKT** ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すと、撮影コマ数が2コマのときの2コマ目のアクティブD-ライティングの度合いを設定できます。



BKT ボタン



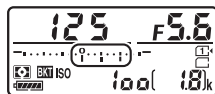
サブコマンドダイヤル

- アクティブD-ライティングの度合いは、インフォ画面または表示パネルのADLブラケットイングインジケーターで確認できます。

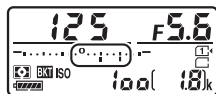
アクティブD-ライティングの度合い	インフォ画面	表示パネル
⌘A オート	<u>OFF</u> AUTO	
⌘L 弱め	<u>OFF</u> L	
⌘N 標準	<u>OFF</u> N	
⌘H 強め	<u>OFF</u> H	
⌘H+ より強め	<u>OFF</u> H+	

4 撮影する

- 設定した撮影コマ数を撮影してください。
- 撮影するたびに、コマ数を示す表示がADLブラケットイングインジケーター上から消えます。



撮影コマ数



1コマ撮影した状態

■■ ADLブラケット撮影をやめるには

BKT ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回して、インフォ画面または表示パネルの撮影コマ数を (0F/**0F**) にしてください (表示パネルの **BKT** マークが消灯します)。ただし、設定したアクティブD-ライティングの度合いは記憶されます。また、ツーボタンリセット (□200) でもブラケット撮影を解除できますが、この場合は設定したアクティブD-ライティングの度合いもリセットされます。

🔗 ADLブラケット撮影について

- レリーズモード (□104) を **CL**、**CH** または **Qc** にセットして連続撮影する場合、シャッターボタンを押し続けると、セットしたコマ数の撮影が終了した時点でいったん停止し、シャッターボタンを押し直すと次の連続撮影が可能になります。
- セルフタイマー撮影時 (□106) には、シャッターボタンを全押しすると、カスタムメニュー c3 [セルフタイマー] (□334) の [連続撮影間隔] で設定した撮影間隔で撮影します。ただし、c3の [撮影コマ数] で設定した撮影コマ数にかかわらず、□211の手順2で設定した撮影コマ数が1コマずつ撮影されます。
- 撮影中に電源をOFFにしても、もう一度ONにすれば撮影を再開できます。
- 撮影中にSDカードの残量がなくなっても、残量のある他のSDカードに交換すれば残りを撮影できます。

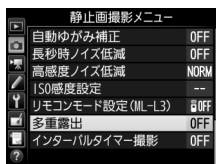
多重露出撮影で1つの画像に重ねて 写し込む

撮影モードP、S、A、Mのみ

多重露出撮影は2～3コマまで重ねて写し込み、1つの画像として記録します。RAWデータを使用して合成するため、通常のアプリケーションソフトウェアなどで画像を合成する場合と比べ、階調特性に優れた画像になります。

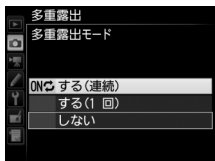
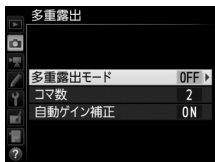
■ 多重露出の撮影方法

- 1 静止画撮影メニューの【多重露出】を選んでマルチセレクトの $\odot$ を押す



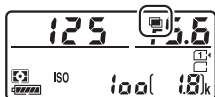
2 [多重露出モード] を設定する

- [多重露出モード] を選んで、を押します。
- またはを押して多重露出モードを設定し、ボタンを押します。



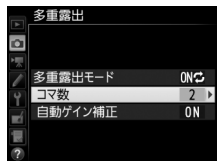
ONにする(連続)	同じ設定で続けて多重露出撮影します。多重露出撮影を解除するには、もう一度 [多重露出モード] を選んで [しない] を選択してください。
する(1回)	多重露出撮影を終了すると、多重露出が解除されます。
しない	多重露出撮影を解除します。

- [する(連続)] または [する(1回)] を選ぶと、多重露出の撮影待機状態になり、表示パネルにマークが点灯します。



3 [コマ数] (露光回数) を設定する

- [コマ数] を選んで、を押します。

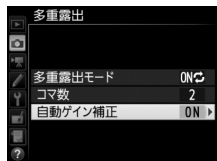


- またはを押して露光回数を設定し、ボタンを押します。

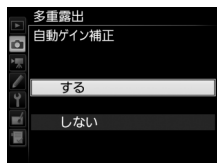


4 [自動ゲイン補正] を設定する

- [自動ゲイン補正] を選んで、を押します。



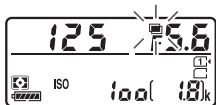
- 自動ゲイン補正の設定後、ボタンを押します。



する	重ね合わせた画像の露出が適正になるように、露光回数に合わせて自動的にゲイン（出力）を補正します。 • 各コマのゲインは、「$1 \div \text{露光回数}$」となります。たとえば、露光回数が「2コマ」の場合は1/2、「3コマ」の場合は1/3になります。
しない	ゲインを補正せず、全ての露光結果をそのまま重ね合わせます。

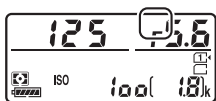
5 1回目の撮影をする

- 撮影を始めると、マークが点滅します。



6 2回目以降の撮影をする

- 「[する (連続)]」の場合、「[多重露出モード]」で「しない」を選んで多重露出モードを解除するまで、多重露出撮影できます。
- 多重露出モードが「[する (1回)]」の場合、手順3で設定したコマ数分の撮影をすると、多重露出撮影が解除され、マークが消灯します。



▼ 多重露出撮影時のご注意

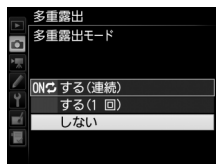
- 多重露出の撮影途中、画像の再生やメニュー画面の表示で液晶モニターを点灯した場合、液晶モニターが消灯してから操作のないまま30秒程度経過すると、画像が記録されて多重露出が解除されます。撮影間隔が長くなる場合は、カスタムメニュー c2 [半押しタイマー] (□□334) を長めに設定すると、多重露出が解除されるまでの時間が延長されます。
- 多重露出撮影中は、ライブビュー撮影ができません。
- 多重露出モードを [する (連続)] または [する (1回)] に設定していても、ライブビュー表示にすると [しない] になります。
- 自動ゲイン補正 (□□217) を [しない] に設定した場合、ノイズ (ざらつき、むら、すじ) が発生しやすくなります。
- 多重露出による撮影中は、SDカードを交換しないでください。
- レリーズモード (□□104) を **CL**、**CH** または **Qc** に設定して撮影する場合、多重露出モードが [する (1回)] のときは、シャッターボタンを押し続けると、多重露出で設定された撮影コマ数の撮影後、多重露出撮影を解除します。[する (連続)] のときは、シャッターボタンを押し続けている間、多重露出で設定された撮影コマ数で多重露出撮影を繰り返します。
- セルフタイマー撮影時 (□□106) には、シャッターボタンを全押しすると、カスタムメニュー c3 [セルフタイマー] (□□334) の [連続撮影間隔] で設定した撮影間隔で撮影します。ただし、c3 の [撮影コマ数] で設定した撮影コマ数にかかわらず、多重露出で設定した撮影コマ数の撮影が終了した時点で画像が記録されます。
- 多重露出の撮影データ (撮影日時、測光モード、シャッタースピード、絞り値、撮影モード、露出補正值、焦点距離、縦横位置情報など) は、1コマ目の内容になります。

■ 多重露出撮影を中断するには

設定したコマ数分を撮影する前に多重露出撮影を中断するには、多重露出モードを[しない]に設定します。多重露出撮影を中断すると、その時点までの露光結果だけを重ね合わせた画像が記録されます（[自動ゲイン補正]を[する]にしていたときは、露光回数に合わせてゲイン補正が行われます）。

このほか、次の場合も、多重露出は中断されます。

- ツーボタンリセット（□200）を行ったとき
- カメラの電源をOFFにしたとき
- バッテリーの残量がなくなったとき
- 多重露出中に撮影した画像を削除したとき



🔍 多重露出とインターバルタイマー撮影の組み合わせについて

多重露出を設定してから1コマ目を撮影する前にインターバルタイマー撮影（□221）を設定すると、設定されたインターバルで多重露出撮影ができます。この場合、[インターバルタイマー撮影]で設定されたインターバルで1コマずつ撮影され、[多重露出]で設定されたコマ数の撮影が終了すると、インターバルタイマー撮影を解除します。多重露出が[する（1回）]の場合は、多重露出も解除されます。

🔍 多重露出撮影時に利用できない機能について

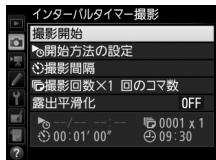
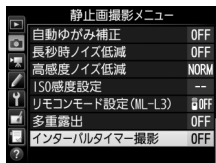
多重露出撮影中はSDカードの初期化はできません。また、一部のメニュー項目がグレーで表示されて選べません。

設定した間隔で撮影する (インターバルタイマー撮影)

設定した開始方法(即時または設定時刻)と撮影間隔で自動的に撮影を行います。インターバルタイマー撮影は、レリーズモードを**S**、**CL**、**CH**、**Q**または**QC**に設定して行ってください。

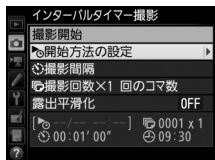
1 静止画撮影メニューの「インターバルタイマー撮影」を選ぶ

- マルチセレクトの $\odot$ を押すと、インターバルタイマー撮影の設定画面が表示されます。



2 インターバルタイマー撮影の設定をする

- 開始方法を選ぶ



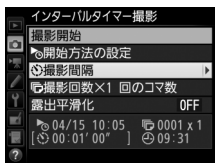
「開始方法の設定」を選んで
 $\odot$ を押す



開始方法を選んで $\odot$ ボタン
を押す

- インターバルタイマー撮影をすぐに開始する場合は、「即時スタート」を選びます。
- インターバルタイマー撮影の開始日時を設定する場合は、「開始日時設定」を選びます。表示される画面で開始日時を設定して $\odot$ ボタンを押します。

• 撮影間隔（インターバル）を設定する

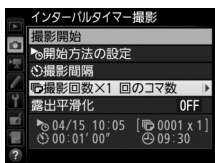


[撮影間隔]を選んで➡を押す

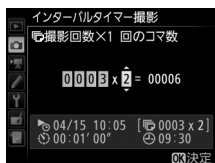


撮影間隔（時、分、秒）を設定してOKボタンを押す

• 撮影回数と1回のコマ数を設定する



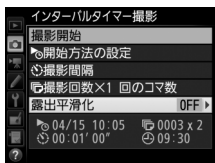
[撮影回数×1回のコマ数]を選んで➡を押す



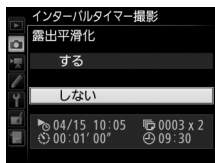
撮影回数と1回で撮影するコマ数を設定して、OKボタンを押す

- レリーズモードが**S**の場合、撮影コマ数を2コマ以上に設定すると、カスタムメニューd2 [低速連続撮影] (□337) で設定された速度で撮影します。

• 露出平滑化をするかどうかを選ぶ



[露出平滑化]を選んで➡を押す

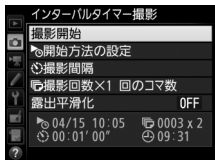


露出平滑化をするかどうかを選んでOKボタンを押す

- [する] を選ぶと、1コマ前に撮影した静止画と大きく明るさが変化しないようにカメラが自動で露出を調整します。ただし、撮影モード**M**で静止画撮影メニュー [ISO感度設定] の [感度自動制御] が [しない] の場合、露出の平滑化は行いません。

3 [撮影開始] を選んで **OK** ボタンを押す

- 手順2の[開始方法の設定]で[即時スタート]を選んでいる場合は、約3秒後に撮影を開始します。
- 手順2の[開始方法の設定]で[開始日時設定]を選んでいる場合は、設定した日時に撮影を開始します。
- 設定した撮影間隔とコマ数で撮影を繰り返します。



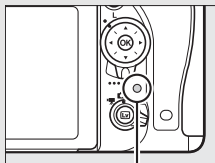
✓ インターバルタイマー撮影を開始する前に

- 試し撮りをすることをおすすめします。
- あらかじめセットアップメニューの[地域と日時] (□382) で日時が正確に設定されていることを確認してください。
- カメラを三脚に固定することをおすすめします。
- 撮影中のバッテリー切れを防ぐため、十分に充電されたバッテリーまたは別売のパワーコネクタとACアダプターをお使いください。
- ファインダーから顔を離して撮影するときは、ファインダーからの光が適正露出や画像に影響を与えることを防ぐため、付属のアイピースキャップを取り付けることをおすすめします (□107)。

🔧 インターバルタイマー撮影の待機状態について

インターバルタイマー撮影の待機状態では、SDカードアクセスランプが点滅します。撮影直前になると表示パネルのシャッタースピード表示部に残りの撮影回数を、絞り値表示部にその回の残りの撮影コマ数を、それぞれ表示します。

- 待機状態でシャッターボタンを半押しすると、残りの撮影回数と撮影コマ数を表示します。



SDカード
アクセスランプ

■ インターバルタイマー撮影を一時停止するには

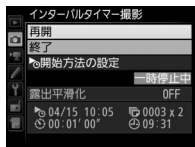
インターバルタイマー撮影を一時停止するには、次の操作を行います。

- 撮影待機中に $\odot$ ボタンを押す
- 撮影待機中に静止画撮影メニュー [インターバルタイマー撮影] で [一時停止] を選び、 $\odot$ ボタンを押す

■ インターバルタイマー撮影を再開するには

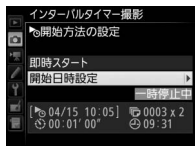
インターバルタイマー撮影を再開する手順は次の通りです。

すぐに再開する場合



[再開] を選んで $\odot$ ボタンを押す

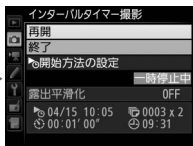
再開する日時を設定する場合



[開始方法の設定] 画面で [開始日時設定] を選び $\odot$ を押す



開始日時を設定して $\odot$ ボタンを押す



[再開] を選んで $\odot$ ボタンを押す

■ インターバルタイマー撮影を終了するには

インターバルタイマー撮影を終了するには、撮影待機中に静止画撮影メニュー [インターバルタイマー撮影] で [終了] を選び、 $\odot$ ボタンを押します。インターバルタイマー撮影終了後は通常の撮影待機状態に戻ります。

✓ インターバルタイマー撮影についてのご注意

- 撮影間隔は、想定されるシャッタースピードに1回のコマ数を掛けた値よりも長い時間を設定してください。実際のインターバルタイマー撮影には、インターバル時間の他、シャッタースピードやカメラが処理を行う時間などが含まれます。撮影間隔が十分な長さに設定されていない場合は、設定した撮影間隔で撮影できず、その回の撮影がキャンセルされることがあります。
- 撮影間隔が十分な長さに設定されていない場合は、設定した「**撮影回数×1回のコマ数**」で撮影できないことがあります。
- 設定した開始日時が現在時刻後1分以内の場合や「**撮影間隔**」が「00:00'00"」の場合、シャッタースピードが**b u l b**（バルブ）または**- -**（タイム）の場合など、インターバルタイマー撮影を開始できないときには警告メッセージを表示します。
- SD カードの残量がない場合、撮影時刻ごとにカウントは進みますが、実際の撮影は行われません。残量のあるSDカードに交換し、インターバルタイマー撮影を再開してください（□224）。
- 次の場合はインターバルタイマー撮影が一時停止状態になります。
 - 電源をOFFにして、再度ONにしたとき（電源がOFFの間にバッテリーやSDカードを交換しても、一時停止状態が持続します）
 - レリーズモードを☺または**Mup**に切り換えたとき
- インターバルタイマー撮影中にカメラの設定を変更すると、インターバルタイマー撮影が終了する場合があります。
- AFモードが**AF-S**、または**AF-A**で自動的に**AF-S**が選ばれている場合は、撮影ごとにピント合わせを行います。被写体にピントが合わないときに撮影開始予定時刻を8秒過ぎると、その回の撮影をキャンセルして次の回の撮影時刻から撮影を再開します。

✓ インターバルタイマー撮影の制限について

インターバルタイマー撮影は、次の機能とは同時に使用できません：

- ライブビュー撮影（□54、66）
- 長時間露出（バルブまたはタイム）撮影（□96）
- 微速度撮影（□227）
- カスタムメニュー g4「シャッターボタンの機能」の「動画撮影」（□374）

🔍 インターバルタイマー撮影の設定について

電源をOFFにしたり、レリーズモードを切り換えたりした場合も、設定した内容は記憶されています。

▼ 撮影コマ数について

レリーズモードに関係なく、1回の撮影ごとに設定された撮影コマ数が撮影されます。

🔪 インターバルタイマー撮影待機中の各種設定について

インターバルタイマー撮影の待機中は、各種設定やメニュー画面の操作や、画像の再生を行うことができます。ただし、メニュー画面や再生画面を表示している場合、撮影時刻の約4秒前に液晶モニターを消灯して、撮影に入ります。

🔪 オートブラケティングとインターバルタイマー撮影の組み合わせについて

- インターバルタイマー撮影とオートブラケティングを同時に行う場合は、オートブラケティングを先にセットしてからインターバルタイマーを設定してください。
- インターバルタイマー撮影時にAE・フラッシュブラケティング、AEブラケティング、フラッシュブラケティングまたはADLブラケティングを行う場合は、撮影時間ごとにオートブラケティングで設定したコマ数が撮影されます。
- インターバルタイマー撮影時にWBブラケティングを行う場合は、撮影時間ごとに1コマ撮影し、オートブラケティングで設定したコマ数が記録されます。

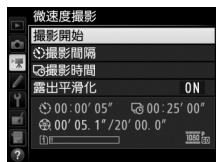
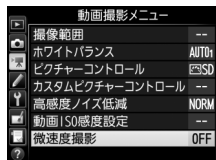
微速度撮影する

撮影モード 、、、、、のみ

微速度撮影では、設定した撮影間隔で自動的に撮影を行い、撮影した静止画をつないで動画として記録できます。撮影する静止画は、動画と同じ撮像範囲(□75)で記録されます。また、記録される動画のフレームレートは動画撮影メニューの「画像サイズ/フレームレート」(□318)で設定できます。

1 動画撮影メニューの「微速度撮影」を選ぶ

- マルチセクターのを押すと、微速度撮影の設定画面が表示されます。



2 微速度撮影の設定をする

- 撮影間隔（インターバル）を設定する



「撮影間隔」を選んでを押す



撮影間隔（分、秒）を設定してボタンを押す

- 撮影間隔は、想定されるシャッタースピードよりも長い時間を設定してください。

• 撮影時間を設定する



「撮影時間」を選んで $\odot$ を押す



撮影時間（時、分）を設定して、 $\odot$ ボタンを押す

- 撮影時間は、最長で7時間59分まで設定できます。

• 露出平滑化をするかどうかを選ぶ



「露出平滑化」を選んで $\odot$ を押す



露出平滑化をするかどうかを選んで $\odot$ ボタンを押す

- 「する」を選ぶと、明るさの変化が滑らかになり、より自然な動画を記録します。ただし、撮影モードMで静止画撮影メニュー「ISO感度設定」の「感度自動制御」が「しない」の場合、露出の平滑化は行いません。

3 「撮影開始」を選んで $\odot$ ボタンを押す

- 約3秒後に撮影を開始します。
- 手順2で設定した「撮影時間」内に、設定した「撮影間隔」で撮影を繰り返します。



■■ 微速度撮影を終了するには

- 微速度撮影を終了するには、次の操作を行います。
 - 撮影待機中に**MENU**ボタンを押し、**[終了]**を選んで**OK**ボタンを押す
 - 微速度撮影の待機状態のときに**OK**ボタンを押す
- 微速度撮影を終了すると、終了時点までの動画がSDカードに記録され、通常の撮影待機状態に戻ります。

🔪 微速度撮影を開始する前に

- ファインダー撮影時の露出で撮影します。試し撮りをして、画像を再生して確認することをおすすめします。
- カメラを三脚で固定することをおすすめします。
- 撮影中のバッテリー切れを防ぐため、別売のパワーコネクターとACアダプター、または十分に充電されたバッテリーをお使いください。
- ファインダーから顔を離して撮影するときは、ファインダーからの光が適正露出や画像に影響を与えることを防ぐため、付属のアイピースキャップを取り付けることをおすすめします（□107）。
- 内蔵フラッシュを使用する場合は、撮影モードを**P**、**S**、**A**または**M**に設定し、**⚡ (H2)** ボタンを押して内蔵フラッシュを上げてください。

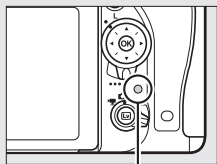
🔪 微速度撮影の記録コマ数（撮影回数）と動画の長さについて

- 手順2で設定する撮影時間を設定する撮影間隔で割った数（小数点以下切り上げ）が、記録コマ数（撮影回数）の目安になります。
- 微速度撮影で記録される動画の長さは、上記の記録コマ数÷動画撮影メニュー **[画像サイズ/フレームレート]**（□318）で選んだフレームレートで計算できます（たとえば、**[画像サイズ/フレームレート]**が**[1920×1080 24p]**のときに記録コマ数が48コマの場合、記録される動画の長さは約2秒になります）。
- 最長20分の動画を記録できます。



🔪 微速度撮影の待機状態について

- 微速度撮影の待機状態では、SDカードアクセスランプが点滅し、表示パネルに微速度撮影中マークが点灯します。撮影直前になると表示パネルのシャッタースピード表示部にその回の残りの撮影時間を表示します（時間、分）。
- 待機状態でシャッターボタンを半押しすると、残りの撮影時間を表示します。



SDカード
アクセスランプ

- 待機状態で **MENU** ボタンを押すと、液晶モニターの微速度撮影画面に撮影間隔と撮影時間、露出平滑化の設定が表示されます。また、**[終了]** を選んで微速度撮影を終了できます（☐229）。



🔪 撮影直後の画像確認について

微速度撮影中は、**▶** ボタンで画像を表示することはできません。ただし、再生メニューの**[撮影直後の画像確認]**（☐305）を**[する]**にすると、撮影のたびに自動的に画像が数秒間液晶モニターに表示されます（表示だけを行い、通常の再生時の操作は無効になります）。

🔪 微速度撮影動画の記録先について

微速度撮影で撮影した動画は、動画撮影メニューの**[ファイル記録先]**（☐317）で選んだスロットに記録されます。

🔪 レリーズモードについて

- レリーズモードに関係なく、1回の撮影ごとに1コマ撮影します。
- **☺** に設定していてもセルフタイマー撮影を行いません。

🔪 関連ページ

微速度撮影終了時に電子音が鳴るようにする → 🔪 d1 **[電子音設定]**（☐336）

✔ 微速度撮影についてのご注意

- 微速度撮影時には、音声は記録されません。
- 実際の微速度撮影には、インターバル時間の他、シャッタースピードやカメラが処理を行う時間が含まれます。そのため、設定した撮影間隔で撮影できないことがあります。
- 次のような場合には、微速度撮影を開始できません：
 - 設定した〔撮影時間〕が〔撮影間隔〕より短い場合
 - 〔撮影時間〕または〔撮影間隔〕が〔00:00'00"〕の場合
 - SDカードの残量がない場合
- 微速度撮影中は、▶ ボタンを押しても画像の再生はできません。MENU ボタンを押すと〔微速度撮影〕画面が表示され、その他のメニューは選択できません。
- 微速度撮影をする場合、ホワイトバランスをAUTO（オート）以外に設定すると色みを固定することができます（□144）。
- 微速度撮影中は、カスタムメニュー c2〔半押しタイマー〕（□334）の設定にかかわらず、半押しタイマーはオフになりません。
- AFモードがAF-S、またはAF-Aで自動的にAF-Sが選ばれている場合は、撮影ごとにピント合わせを行います。被写体にピントが合わないときは、その回の撮影をキャンセルして次の回から撮影を再開します。
- 微速度撮影中にカメラの設定を変更したり、カメラの操作を行ったり、HDMIケーブルを接続すると、終了時点までの動画を記録して微速度撮影が終了する場合があります。
- 次の場合は動画を記録せずに、微速度撮影が終了します。
 - バッテリーやACアダプターを取り外したとき
 - SDカードを取り出したとき

✔ 微速度撮影の制限について

微速度撮影は、次の機能とは同時に使用できません：

- ライブビュー撮影（□54、66）
- 長時間露出（バルブまたはタイム）撮影（□96）
- オートブラケティング撮影（□203）
- HDR（ハイダイナミックレンジ）（□177）
- 多重露出撮影（□215）
- インターバルタイマー撮影（□221）

非CPUレンズを使う (レンズ情報手動設定)

このカメラでは、非CPUレンズ装着時も撮影モード**A**または**M**で撮影ができます。非CPUレンズを使用する場合、絞り値はレンズの絞りリングで設定します。セットアップメニューの[**レンズ情報手動設定**]でレンズの情報をカメラに登録することにより、非CPUレンズを使って撮影するときに、次の機能が使用できます。

- **焦点距離を設定して使用できる機能：**
 - 別売のスピードライトのオートパワーズーム
 - 再生画面での焦点距離表示（焦点距離に*印が付きます）
- **開放絞り値（開放F値）を設定して使用できる機能：**
 - レンズで設定した絞り値表示（表示パネル、ファインダー内表示）
 - スピードライトの絞り連動外部自動調光
 - 再生画面での絞り値表示（絞り値に*印が付きます）
- **焦点距離と開放絞り値の両方を設定して使用できる機能：**
 - RGB マルチパターン測光（レフレックスニッコールなど一部のレンズでは、焦点距離と開放絞り値を設定してもRGBマルチパターン測光では十分な精度が得られない場合があります。中央部重点測光またはスポット測光に設定して撮影してください）
- **焦点距離と開放絞り値の両方を設定すると精度が向上する機能：**
 - 中央部重点測光
 - スポット測光
 - i-TTL調光

ズームレンズまたはテレコンバーター使用時のご注意

- ズームレンズ使用時やテレコンバーター使用時など、一致する焦点距離が選択項目にないときは、装着レンズの焦点距離に最も近く、かつ大きい値を選んでください。
- テレコンバーターを使用した際の開放絞り値は、合成絞り値を設定してください。

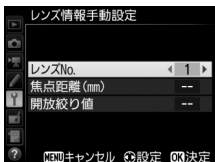
■ レンズ情報の登録方法

- 1 セットアップメニューの【レンズ情報手動設定】を選んでマルチセクターの $\odot$ を押す



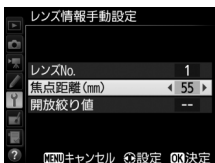
- 2 【レンズNo.】を選ぶ

- $\odot$ または $\odot$ を押して、登録したいレンズNo.を選びます。



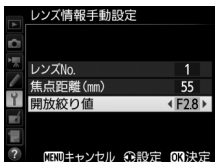
- 3 【焦点距離 (mm)】を選ぶ

- $\odot$ または $\odot$ を押して、レンズの焦点距離を選びます。



- 4 【開放絞り値】を選ぶ

- $\odot$ または $\odot$ を押して、レンズの開放絞り値を選びます。



- 5 $\odot$ ボタンを押して、設定を終了する

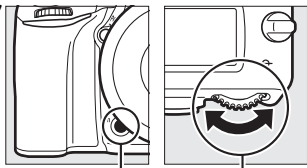
- レンズの設定が保存されて、セットアップメニュー画面に戻ります。

■ 手動設定済みレンズ情報の選択方法

1 カスタムメニュー f2 [Fnボタンの機能] の [コマンドダイヤル併用時の動作] を [手動設定済みレンズの選択] に設定する (□360)

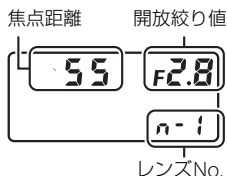
- Fnボタンとコマンドダイヤルの組み合わせに対して、レンズの選択機能が割り当てられます。

2 Fnボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回す



Fnボタン メインコマンドダイヤル

- レンズNo.は表示パネルに表示されます。使用したいレンズの番号が表示されるまでメインコマンドダイヤルを回します。



🔍 ズームレンズ装着時について

非CPUズームレンズを装着してズーミングをした場合、変化するレンズの焦点距離や開放絞り値とカメラで設定されているレンズ情報は連動しません。ズーミングを行った場合は、もう一度レンズ情報を設定してください。

🔍 関連ページ

- Pvボタンで手動設定済みレンズ情報を切り換える → 🔍 f3 [プレビューボタンの機能] (□361)
- AE/AFロックボタンで手動設定済みレンズ情報を切り換える → 🔍 f4 [AE/AFロックボタンの機能] (□361)

位置情報を画像に記録する

このカメラは、アクセサリターミナル（□2）に接続した別売のGPSユニットGP-1またはGP-1Aと通信し、画像データに撮影時の緯度、経度、標高、UTC（協定世界時）を記録できます。

■ GP-1/GP-1Aとの接続について

- カメラの電源をOFFにしてから、GP-1/GP-1Aに付属のケーブルをアクセサリターミナルに接続します（□447）。詳しくはGP-1/GP-1Aの使用説明書をご覧ください。
- GP-1/GP-1Aと通信して撮影した画像には、再生時の画像情報に位置情報のページ（□249）が追加されます。

■ GP-1/GP-1Aと接続中のカメラの設定について

セットアップメニューの[位置情報]を選んでマルチセクターのⓈを押すと、GP-1/GP-1Aとの接続時の半押しタイマー、取得した位置情報の表示、衛星による日時合わせを設定できます。

- [半押しタイマー] では、カメラとGP-1/GP-1Aを接続しているときの半押しタイマーを設定できます。

有効	カメラを操作していないときは、カスタムメニュー c2 [半押しタイマー]（□334）で設定された時間でオフになります。
	- カメラのバッテリーの消耗を少なくすることができます。 - GP-1/GP-1Aとの接続時には、電源をONにした直後または半押しタイマーがオンになった直後は、カメラが位置情報を取得できるまで半押しタイマーがさらに最大1分間延長されます。
無効	GP-1/GP-1Aと接続中は、半押しタイマーがオフになりません。

- [情報表示] では、GP-1/GP-1A接続時に取得した情報を表示します。

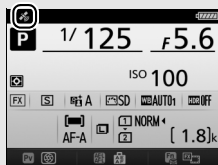
緯度	緯度を表示
経度	経度を表示
標高	標高を表示
UTC	UTC（協定世界時）を表示。UTC（Coordinated Universal Time＝協定世界時）は、GP-1/GP-1Aと接続して取得された世界標準時で、カメラで設定されている時刻とは別に記録されます。

- [衛星 による日時合わせ] が [する] の場合、GP-1/GP-1A接続時に取得した日時の情報でカメラの内蔵時計を合わせます。GP-1/GP-1Aを使用して日時を合わせないときは、[しない] を選んでください。

GP-1/GP-1A使用時の表示について

GP-1/GP-1Aとの通信状態は、インフォ画面の衛星受信状態マークで確認できます。

-  (点灯) : GP-1/GP-1Aとの通信中です。
-  (点滅) : GP-1/GP-1Aが取得している情報が確定していないため、位置情報は記録されません。が点灯するまでお待ちください。
-  (消灯) : GP-1/GP-1Aとの通信が2秒以上途絶えたと、が消灯します。この状態で撮影した画像データには位置情報は記録されません。

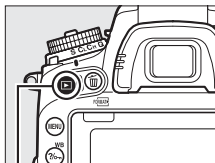


画像の再生

画像を再生する

画像を1コマずつ再生する（1コマ表示モード）

▶ボタンを押すと、最後に撮影した画像が液晶モニターに表示されます。



▶ボタン



1コマ表示モードでの操作方法

前後の画像を見る		マルチセレクトターの $\leftarrow$ を押すと前の画像が、 $\rightarrow$ を押すと次の画像が表示されます。
画像情報を切り換える		$\uparrow$ または $\downarrow$ を押すと、画像の再生時に画像情報の切り換えができます（□242）。
撮影に戻る		液晶モニターが消灯し、すぐに撮影できます。
動画を再生する		▶マークが表示されている画像の場合、動画を再生します（□80）。

縦位置で撮影した画像の場合

再生メニューの「縦位置自動回転」(305) を「する」に設定すると、縦位置で撮影された画像を、右のように縦位置で再生します。

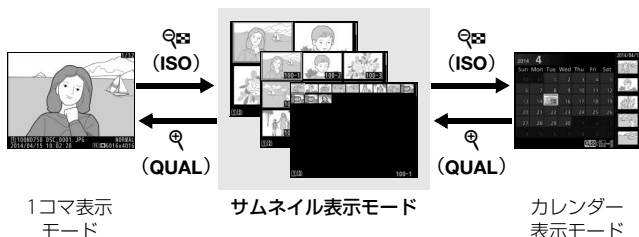


撮影直後の画像確認について

- 再生メニューの「撮影直後の画像確認」(305) を「する」に設定すると、
▶ ボタンを押さなくても、撮影した画像を自動的に液晶モニターに表示します。
- リリースモードが **CL**、**CH** または **Qc** のときは、撮影終了後に、最初のコマから順次画像を表示します。
- 縦位置で撮影した状態のまま画像確認がしやすいように、再生メニューの「縦位置自動回転」を「する」に設定しても、撮影直後の画像確認時は自動回転しません。

複数の画像を一覧表示する (サムネイル表示モード)

1コマ表示モードのときに $\mathcal{Q}$ (ISO) ボタンを押すと、複数の縮小画像 (サムネイル画像) を表示する「サムネイル表示モード」に切り替わります。

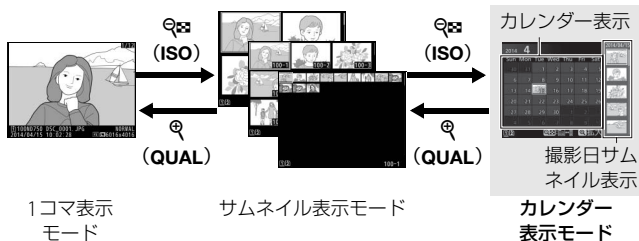


■ サムネイル表示モードでの操作方法

画像を選ぶ		マルチセレクトアを操作すると、黄色の枠(カーソル)が動いて、拡大表示 (□251) や削除 (□254)、プロテクト (□253) の対象となる画像を選べます。
1コマ表示する		サムネイル表示モードを終了して、1コマ表示モードに戻ります。
撮影に戻る		液晶モニターが消灯し、すぐに撮影できます。

撮影した日付ごとに画像を表示する (カレンダー表示モード)

72コマ表示時(□239)に $\mathcal{Q}$ (ISO) ボタンを押すと、撮影した日付ごとに縮小画像を表示する「カレンダー表示モード」に切り替わります。



■ カレンダー表示モードでの操作方法

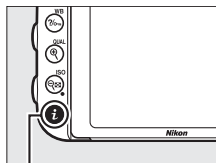
表示を切り換える	$\mathcal{Q}$ (ISO) / OK	- カレンダー表示時に$\mathcal{Q}$ (ISO) ボタンまたは$\odot$ ボタンを押すと、黄色い枠が撮影日サムネイル表示に移動し、選択中の日付に撮影した画像が選べます。 - 撮影日サムネイル表示時に$\mathcal{Q}$ (ISO) ボタンを押すと、カレンダー表示に戻り、日付を選べます。
72コマ表示に戻る/ 画像を拡大する	$\mathcal{Q}$ (QUAL)	- カレンダー表示時は 72 コマ表示に切り替わります。 - 撮影日サムネイル表示時は、$\mathcal{Q}$ (QUAL) ボタンを押している間、拡大表示をします。
日付を選ぶ/ 画像を選ぶ		- カレンダー表示時は、マルチセクターを操作すると黄色の枠(カーソル)が動いて、撮影した日付を選べます。 - 撮影日サムネイル表示時は、マルチセクターの$\odot$または$\odot$を押して1コマ表示(□237)や拡大表示(□251)、プロテクト(□253)、削除(□254)の対象となる画像を選べます。

1コマ表示 する		撮影日サムネイル表示時に OK ボタンを押すと、選択した画像を1コマ表示します。
撮影に戻る		液晶モニターが消灯し、すぐに撮影できます。

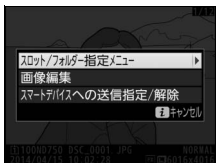
i ボタンを使う

1コマ表示モードまたはサムネイル表示モードで **i** ボタンを押すと、次の機能を使用できます。項目を選んでマルチセクターの **▶** を押すと、選んだ項目の設定画面が表示されます。

- 動画再生の一時停止中に **i** ボタンを押すと、動画の編集 (□83) を行えます。
- 再生画面に戻るには、再度 **i** ボタンを押してください。



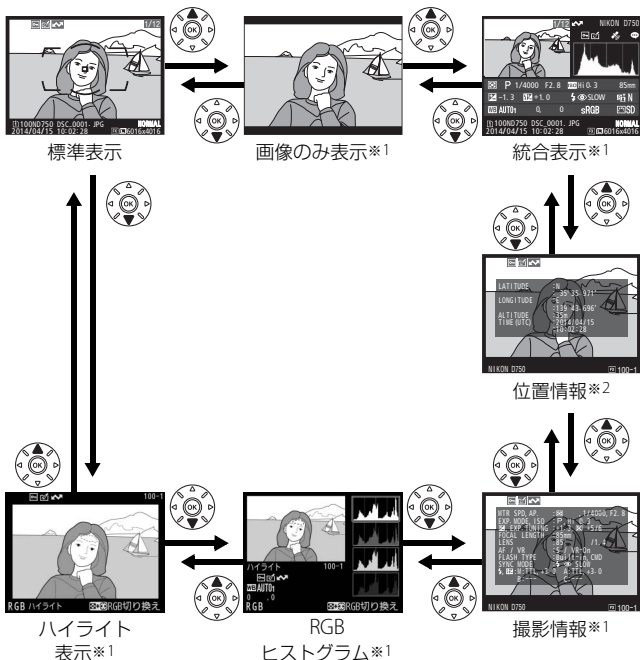
i ボタン



スロット/フォルダー 指定メニュー	スロットとフォルダーを切り換えられます。スロットを選んで ▶ を押すと、選んだスロット内のフォルダーの一覧が表示されます。フォルダーを選んで OK ボタンを押すと、フォルダー内の画像が表示されます。
画像編集	選んだ静止画を編集できます (□396)。
動画編集	選んだ動画を編集できます (□83)。
スマートデバイスへ の送信指定/解除	スマートデバイスに取り込みたい静止画を送信指定することができます (□286)。

画像情報を表示する

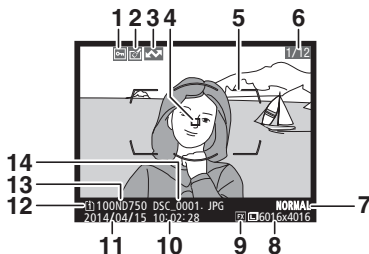
1コマ表示モードでは、画像についての詳しい情報を見ることができます。マルチセクターの $\odot$ または ∇ を押すと、次のように撮影情報の表示が切り替わります。



※1 再生メニューの[再生画面設定] (□300) で設定している場合のみ表示します。

※2 GP-1/GP-1A (□235) を使用して撮影した画像の場合のみ表示します。

標準表示



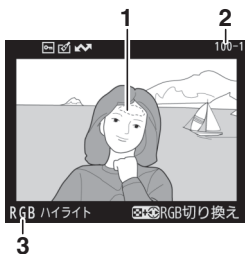
1	プロテクト設定の有無.....	253	8	画像サイズ.....	117
2	画像編集の有無.....	395	9	撮像範囲.....	109
3	送信指定の有無.....	286	10	撮影時刻.....	27、382
4	フォーカスポイント※1、2	125	11	撮影日付.....	27、382
5	AFエリアフレーム※1.....	34	12	スロット.....	118
6	コマ番号/フォルダー内全画像数		13	フォルダー名.....	309
7	画質モード.....	114	14	ファイル名.....	311

※1 再生メニューの[再生画面設定] (□300) で[フォーカスポイント]を設定している場合のみ表示します。

※2 表示されるフォーカスポイントは、撮影時の設定により、次のように異なります。

- ファインダー撮影時のAFモードがAF-S、またはAF-Aで自動的にAF-Sが選ばれた場合、最初にロックしたフォーカスポイントを赤く表示します。
- ファインダー撮影時のAFモードがAF-C、またはAF-Aで自動的にAF-Cが選ばれていて、AFエリアモード (□121) がシングルポイントAF、ダイナミックAF、3D-トラッキングまたはグループエリアAFの場合、ピントが合ったときはフォーカスポイントを赤く表示し、ピントが合っていないときは表示しません。
- ファインダー撮影時のAFモードがAF-C、またはAF-Aで自動的にAF-Cが選ばれていて、オートエリアAFの場合、フォーカスポイントを表示しません。

■ ハイライト表示

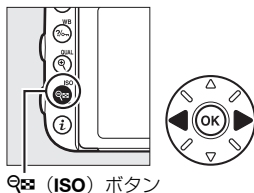


1 画像のハイライト部分（画像の中の非常に明るい部分）を各色ごとに点滅表示します※

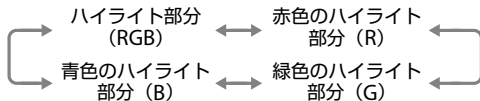
2 フォルダ番号-コマ番号
..... 309

3 ハイライト部分が点滅表示している色※

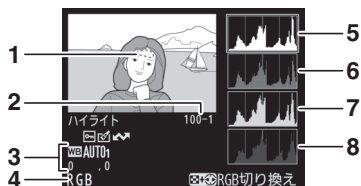
※ **ISO** ボタンを押しながらマルチセレクトの または を押すと、次のように点滅表示するハイライト部分が切り替わります。



ISO ボタン

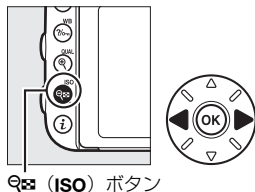


■ RGBヒストグラム

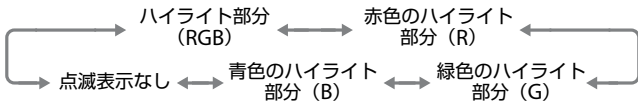


- | | |
|---|--|
| <p>1 画像のハイライト部分を各色ごとに点滅表示します※
..... 244</p> <p>2 フォルダー番号-コマ番号
..... 309</p> <p>3 ホワイトバランス..... 144
 ホワイトバランス色温度 150
 ホワイトバランス微調整 147
 プリセットマニュアル 153</p> | <p>4 ハイライト部分が点滅表示している色※</p> <p>5 RGBのヒストグラム</p> <p>6 赤色 (R) のヒストグラム</p> <p>7 緑色 (G) のヒストグラム</p> <p>8 青色 (B) のヒストグラム</p> |
|---|--|

※ **Q (ISO)** ボタンを押しながらマルチセレクターの **④** または **⑤** を押すと、次のように点滅表示するハイライト部分が切り替わります。



Q (ISO) ボタン



拡大ヒストグラム表示について

RGBヒストグラム表示で $\mathcal{Q}$ (QUAL) ボタンを押すと、ヒストグラム表示のまま拡大画面になります。拡大ヒストグラム表示では、拡大領域のヒストグラムを表示することができます。また、拡大表示中にマルチセレクトを操作すると画面をスクロールして見たい部分に移動できます。 $\mathcal{Q}$ (ISO) ボタンを押すと画像を縮小表示します。



ヒストグラムについて

ヒストグラムとは、画像の明るさ（輝度）の分布を表すグラフのことです。横軸は明るさ、縦軸は明るさごとのピクセル数を示しています。

- いろいろな明るさの被写体が写っている画像では、グラフの山が全体的に分布したヒストグラムになります。
- 暗い画像はヒストグラムの分布が左側に寄った形になります。
- 明るい画像はヒストグラムの分布が右側に寄った形になります。



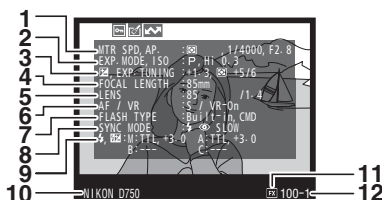
露出補正を+側にすれば山が右側に寄り、-側にすれば山が左側に寄ります。屋外などで周りが明るすぎて液晶モニターでは画像の明るさが確認しにくいときでも、ヒストグラムから画像全体の露出傾向を確認することができます。

ヒストグラム表示について

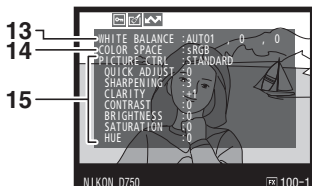
- RGBヒストグラムは明るさ（輝度）を表示しています。
- ヒストグラム表示は、画像加工アプリケーションで表示されるヒストグラムと異なることがあります。目安としてお使いください。

■■ 撮影情報

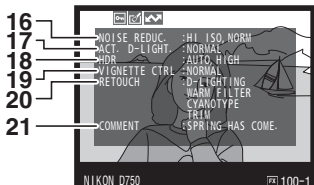
撮影時の設定の詳細を表示します。



- | | |
|--|--|
| <p>1 測光モード 137
シャッタースピード 91、94
絞り値 92、94</p> <p>2 撮影モード 33、40、45、89
ISO感度※¹ 132</p> <p>3 露出補正值 142
基準露出レベルの調節値※²
..... 333</p> <p>4 焦点距離 232、436</p> <p>5 レンズ情報 232</p> <p>6 フォーカスモード
..... 57、119、130
レンズのVR (手ブレ補正) 機能
のON/OFF※³</p> | <p>7 フラッシュの種類 181、437
コマンダーモードの有無 348</p> <p>8 フラッシュモード 181</p> <p>9 フラッシュ発光方式
..... 346、439、441
フラッシュ調光補正值 189</p> <p>10 カメラ名</p> <p>11 撮像範囲 109</p> <p>12 フォルダー番号-コマ番号 ... 309</p> |
|--|--|

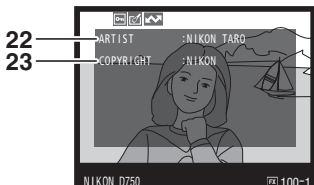


- | | |
|--|--|
| <p>13 ホワイトバランス 144
ホワイトバランス色温度 150
ホワイトバランス微調整 147
プリセットマニュアル 153</p> | <p>14 色空間 312</p> <p>15 ピクチャーコントロール※⁴
..... 164</p> |
|--|--|



16	高感度ノイズ低減.....	315
	長秒時ノイズ低減.....	315
17	アクティブD-ライティング	175
18	HDR強度	179
19	ヴィネットコントロール	313

20	画像編集メニュー (□395) で行 われた画像編集の内容が一覧表 示されます。 複数の画像編集が行われた場合 は、順番に表示されます。
21	画像コメント 385



22	撮影者名※5	386
23	著作権者名※5	386

※1 感度自動制御した画像の場合、ISO感度を赤く表示します。

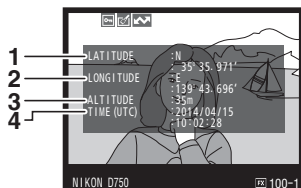
※2 カスタムメニュー b6 [基準露出レベルの調節] (□333) を0以外に設定している場合のみ表示します。

※3 VRレンズ装着時のみ表示します。

※4 表示される項目は、撮影時に設定したピクチャーコントロールによって異なります。

※5 セットアップメニューの [著作権情報] (□386) を設定して撮影した画像の場合のみ表示します。

■■ 位置情報 (📖235) ※



1 緯度

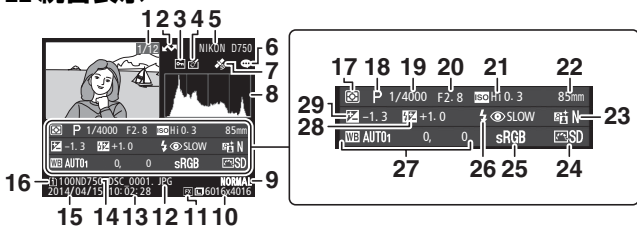
2 経度

3 標高

4 UTC (協定世界時)

※ 動画の場合は、動画撮影開始時に取得した情報を表示します。

■ 統合表示

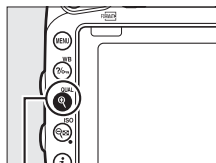


1	コマ番号/フォルダー内全画像数	17	測光モード	137
2	送信指定の有無	18	撮影モード	33、40、45、89
3	プロテクト設定の有無	19	シャッタースピード	91、94
4	画像編集の有無	20	絞り値	92、94
5	カメラ名	21	ISO感度※	132
6	画像コメントの有無	22	焦点距離	232、436
7	位置情報の有無	23	アクティブD-ライティングの 強度	176
8	画像のヒストグラムを表示します (□246)。 横軸は明るさ、縦軸は明るさごとのピクセル数を表します。	24	ピクチャーコントロール	164
9	画質モード	25	色空間	312
10	画像サイズ	26	フラッシュモード	181
11	撮像範囲	27	ホワイトバランス	144
12	ファイル名		ホワイトバランス色温度	150
13	撮影時刻		ホワイトバランス微調整	147
14	フォルダー名		プリセットマニュアル	153
15	撮影日付	28	フラッシュ調光補正值	189
16	スロット		コマンダーモードの有無	348
		29	露出補正值	142

※感度自動制御された画像の場合、ISO感度を赤く表示します。

画像を拡大表示する

1コマ表示モードのときに Q (QUAL) ボタンを押すと、拡大表示されます。拡大できる最大の大きさ（長さ比）は、画像サイズが**L**の場合は約38倍、**M**では約28倍、**S**では約19倍です（撮像範囲が**[FX (36×24) 1.0×]**の場合）。拡大表示中に人物の顔を認識した場合は、顔を白枠で囲み、サブコマンドダイヤルを回して順次移動することができます。



Q (QUAL) ボタン

■■ 拡大表示中の操作方法

拡大率を上げる	Q (QUAL)	ボタンを押すごとに拡大率が上がります。	 拡大表示中は、画面の右下にナビゲーションウィンドウが表示され、拡大表示中の部分が黄色い枠で囲って示されます。ナビゲーションウィンドウの下には拡大率を示すバーが表示され、拡大率が100%の場合、バーの色が緑で表示されます。ナビゲーションウィンドウは数秒すると消えます。
拡大率を下げる	Q ISO	ボタンを押すごとに拡大率が下がります。	
画面をスクロール（移動）させる		画面をスクロールさせて、見たい部分に移動できます。マルチセクターを押し続けると、高速で移動します。	

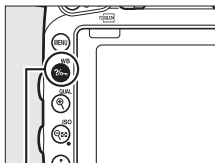
人物の顔へ 移動させる		拡大表示中に人物の顔を認識すると、画面右下のナビゲーションウィンドウに白枠が表示されます。サブコマンドダイヤルを回すと、認識した顔に順次移動します。	
前後の画像 を見る		メインコマンドダイヤルを回すと、そのままの拡大率と表示範囲で、前後の静止画を表示します（動画を選ぶと、拡大表示を終了します）。	
撮影に戻る	 	液晶モニターが消灯し、すぐに撮影できます。	

プロテクトで画像を削除できないように保護をする

大切な画像を誤って削除しないために、画像にプロテクト（保護）を設定できます。ただし、SDカードを初期化（フォーマット：□376）すると、プロテクトを設定した画像も削除されますのでご注意ください。

- マルチセレクトで画像を選んで

?/○ (WB) ボタンを押すと、画像にプロテクトを設定します。



?/○ (WB) ボタン

- プロテクトを設定した画像には **🔒** アイコンが表示されます。
- 画像のプロテクトを解除するには、解除する画像を表示（選択）して、**?/○ (WB)** ボタンを押します。



プロテクトの一括解除について

画像の再生中に、**?/○ (WB)** ボタンと **🔑 (MENU)** ボタンを同時に2秒以上押し続けると、再生メニューの「再生フォルダー設定」で設定されているフォルダー内の全ての画像のプロテクトを一括で解除できます。

画像を削除する

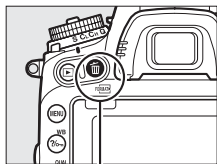
SDカードに記録された画像を削除します。削除した画像は元には戻らないのでご注意ください。ただし、プロテクトおよび非表示設定されている画像は削除できません。

ボタン操作で画像を削除する

🗑️ (FORMAT) ボタンを押すと、表示中の画像を1コマ削除できます。

1 マルチセレクターで削除する画像を選んで🗑️ (FORMAT) ボタンを押す

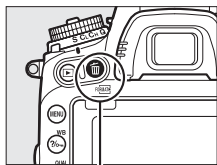
- 削除確認の画面が表示されます。
- ▶️ ボタンを押すと、画像の削除はキャンセルされます。



🗑️ (FORMAT) ボタン

2 もう一度🗑️ (FORMAT) ボタンを押す

- 表示中の画像が削除されます。



🗑️ (FORMAT) ボタン

🔪 選んだ日付の画像を削除するには

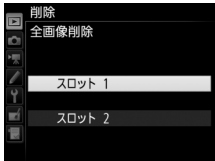
カレンダー表示モードのカレンダー表示時に、日付を選んで🗑️ (FORMAT) ボタンを押すと、選んだ日付の画像を全て削除します。

🔪 関連ページ

画像の削除後に表示される画像を変更する → ▶️ [削除後の次再生画像] (□305)

複数の画像をまとめて削除する

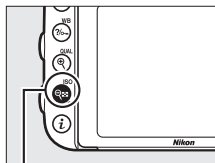
再生メニューの「削除」では、複数の画像を一括して削除できます。たくさん画像を削除するときは、時間がかかることがあります。

 選択画像 削除	選択した画像を削除します。	
DATE 日付選択	選択した日付に撮影した画像を一括で削除します (□256)。	
ALL 全画像 削除	[再生フォルダー設定] (□298) で設定したフォルダー内の全ての画像を削除します。 SD カードを 2 枚使用している場合は、画像を削除するスロットを選択できます。	

■「選択画像削除」を選んだ場合

1 削除する画像を選ぶ

- マルチセクターで画像を選び、 (ISO) ボタンを押すと、が表示されて削除設定されます。もう一度 (ISO) ボタンを押すと解除されます。
- 削除する画像全てに設定してください。

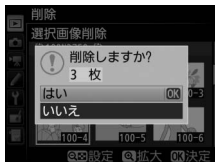


 (ISO) ボタン



2 画像を削除する

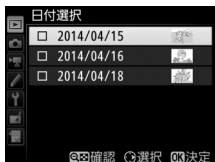
- **OK** ボタンを押すと、確認画面が表示されます。
- 確認画面で **はい** を選んで **OK** ボタンを押すと、選択した画像が全て削除されます。



■【日付選択】を選んだ場合

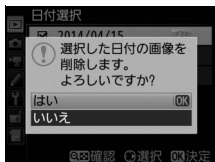
1 日付を選ぶ

- マルチセクターで日付を選んで **決定** を押すと、日付の横にチェック ☒ が入ります。もう一度 **決定** を押すと解除されます。
- 削除する日付全てにチェックを入れてください。



2 画像を削除する

- **OK** ボタンを押すと、確認画面が表示されます。
- 確認画面で **はい** を選んで **OK** ボタンを押すと、選択した日付の画像が全て削除されます。



パソコン、プリンター、 テレビとの接続

ViewNX 2をインストールする

付属のソフトウェアをインストールして、画像をパソコンに取り込めば、静止画や動画の表示、編集ができます。インストールを始める前に、お使いのパソコンの環境が□□259の動作環境に合っているか確認してください。

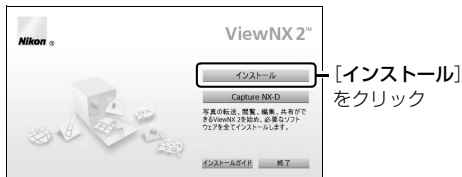
1 パソコンを起動し、ViewNX 2 CD-ROMをCD-ROMドライブに入れ、インストーラーを起動する

- 次の画面で言語を選びます。



2 インストールを開始する

- 画面の指示に従ってインストールしてください。



3 インストールを終了する

Windows



「はい」をクリック

Mac



「OK」をクリック

4 CD-ROMをCD-ROMドライブから取り出す

✓ 必ず最新バージョンのソフトウェアをお使いください

- お使いのカメラに対応していないバージョンのソフトウェアを使用すると、RAW画像をカメラからパソコンへ正常に転送できないことがあります。必ず最新バージョンのViewNX 2をお使いください。
- 最新版のViewNX 2は、当社ホームページ (□xxi) からダウンロードしてインストールすることもできます。

🔗 ニコンホームページへのアクセスについて (Windowsのみ)

ViewNX 2をインストールした後、Windowsの「スタート」メニューから「すべてのプログラム」→「Link to Nikon」の順にクリックすると、当社のホームページにアクセスできます (インターネットに接続できる環境が必要です)。

ViewNX 2の動作環境について (Windows)

プロセッサ (CPU)	• 静止画：Intel Celeron/Pentium4/Coreシリーズ1.6GHz以上 • 動画： - 再生時：Pentium D 3.0GHz以上 - 編集時：Intel Core i5以上 • 1280×720ピクセル以上でフレームレート30fps以上、または1920×1080ピクセル以上で動画再生をする場合：Intel Core i5以上を推奨
OS※	Windows 8.1、Windows 7、Windows Vista • 全てプリインストールされているモデルに対応
実装メモリー (RAM)	• 32ビット版 Windows 8.1、Windows 7、Windows Vista：1 GB 以上（2 GB以上推奨） • 64ビット版 Windows 8.1、Windows 7、Windows Vista：2 GB 以上（4 GB以上推奨）
ハードディスク	OS起動ディスクの空き容量が1 GB以上（3 GB以上推奨）
モニター	• 解像度：1024×768ピクセル（XGA）以上（1280×1024ピクセル以上推奨） • 表示色数：24ビットカラー以上
インターフェース (USB)	標準装備された USB ポートが必要です。ハブを介してカメラとパソコンを接続すると、正しく動作しないことがあります。

※対応OSに関する最新情報は、当社ホームページのサポート情報（[□xxi](#)）でご確認ください。

ViewNX 2の動作環境について (Mac)

プロセッサ (CPU)	• 静止画：Intel Coreシリーズ/Xeonシリーズ • 動画： - 再生時：Core Duo 2GHz以上 - 編集時：Intel Core i5以上 • 1280×720ピクセル以上でフレームレート30fps以上、 または1920×1080ピクセル以上で動画再生をする場合： Intel Core i5以上を推奨
OS※	OS X 10.9、10.8、10.7
実装メモリー (RAM)	2 GB以上 (4 GB以上推奨)
ハードディスク	OS起動ディスクの空き容量が1 GB以上 (3 GB以上推奨)
モニター	• 解像度：1024×768ピクセル (XGA) 以上 (1280×1024ピクセル以上推奨) • 表示色数：1670万色以上
インターフェース (USB)	標準装備された USB ポートが必要です。ハブを介してカメラとパソコンを接続すると、正しく動作しないことがあります。

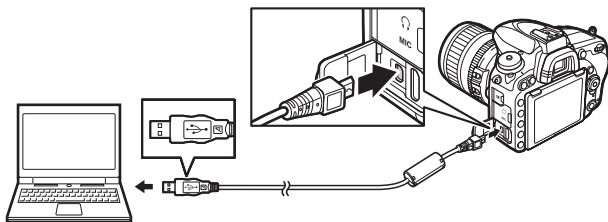
※ 対応OSに関する最新情報は、当社ホームページのサポート情報 (□□xxi) でご確認ください。

ViewNX 2を使う

パソコンに画像を取り込む

1 パソコンに接続する

- SDカードを入れたカメラの電源をOFFにしてから、付属のUSBケーブルでカメラとパソコンを接続し、カメラの電源をONにします。



2 ViewNX 2のNikon Transfer 2が起動する

- 起動するプログラム（ソフトウェア）を選ぶ画面がパソコンに表示されたときは、Nikon Transfer 2を選びます。

3 画像をパソコンに取り込む

- 「転送開始」をクリックすると、記録されている画像がパソコンに取り込まれます（ViewNX 2の初期設定）。



「転送開始」

4 接続を解除する

- カメラの電源をOFFにして、USBケーブルを抜きます。

Windows 7をお使いの場合

図のような画面が表示されたときは、次の手順でNikon Transfer 2を選びます。

1 「画像とビデオのインポート」で使用するプログラムにNikon Transfer 2を選ぶ

- 「画像とビデオのインポート」の「プログラムの変更」をクリックすると表示される画面で、「画像ファイルを取り込む -Nikon Transfer 2使用」を選んで、「OK」をクリックします。

2 「画像ファイルを取り込む」をダブルクリックする

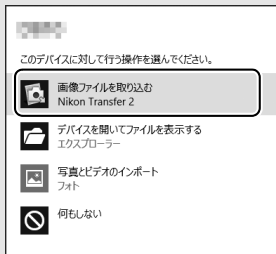
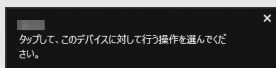


Windows 8.1をお使いの場合

Windows 8.1の設定によっては、図のようなダイアログが表示されます。この場合は次の手順でNikon Transfer 2を選びます。

1 ダイアログをクリックする

2 「画像ファイルを取り込む - Nikon Transfer 2」をクリックする



ViewNX 2を手動で起動するには

- Windows：デスクトップの「ViewNX 2」のショートカットアイコンをダブルクリックする
- Mac：Dockの「ViewNX 2」アイコンをクリックする

ViewNX 2の詳しい使い方は

ViewNX 2のヘルプを参照してください。

✔ パソコンとの接続時のご注意

- カメラとパソコンが通信している間は、カメラの電源を OFF にしたり、USB ケーブルを抜いたりしないでください。
- ケーブルを接続するときは、端子の挿入方向を確認して無理な力を加えずに、まっすぐに差し込んでください。端子を引き抜くときも、まっすぐに引き抜いてください。
- ケーブルを抜き差しするときは、必ずカメラの電源がOFFになっていることを確認してください。
- カメラとパソコンを接続するときは、十分に充電されたバッテリーをお使いになることをおすすめします。

✔ USBハブについて

USBハブを使ってカメラをパソコンやプリンターに接続すると、正しく動作しないことがあります。

✎ 画像を編集するには

Capture NX-Dを使用すると、パソコンに取り込んだ画像を編集したり、RAW現像したりできます。また、イメージダストオフ機能を使用してRAW画像からゴミの写り込みを取り除くこともできます。

- Capture NX-Dは、ViewNX 2インストーラー（□□257）に表示されているリンクからダウンロードしてインストールできます。

有線LAN/無線LANを使ってパソコンに画像を転送する

このカメラは、別売の通信ユニットUT-1（□□446）をカメラに付属のUSBケーブルで接続することにより、有線LANでパソコンやFTPサーバーと通信できます。さらに、UT-1にワイヤレストランスミッターWT-5（□□446）を取り付けると、無線LANで通信を行えます。

■ 有線LAN/無線LAN接続時に使える機能

FTP画像送信モード	SDカードに記録した静止画および動画や、撮影直後の静止画をパソコンやFTPサーバーに保存できます。
PC画像送信モード	
カメラコントロールモード	別売のCamera Control Pro 2で、カメラをコントロールしたり、撮影した静止画および動画をパソコンに保存できます。
HTTPサーバーモード	パソコンやiPhoneのWebブラウザからSDカードに記録した画像などの閲覧やリモート撮影ができます。

- UT-1およびWT-5の使用方法については、各製品の使用説明書をよくお読みください。
- UT-1およびWT-5のファームウェアや関連するソフトウェアは、必ず最新版にバージョンアップしてお使いください。

画像送信モード

FTP画像送信モードやPC画像送信モードでUT-1を接続しているときは、画像再生時に **i** ボタンを押して、選択画像を転送できます（接続していないときは、転送設定のみを行います）。このため、**【編集前後の画像表示】**（□□422）など、画像再生時に **i** ボタンを押す操作（□□396）は使えなくなります。画像の転送以外に **i** ボタンを使うときは、接続設定を削除してください。接続設定を削除する方法については、UT-1の使用説明書をご覧ください。

画像転送状態でのご注意

画像転送状態のときは、動画の記録および再生はできません。（画像転送状態とは、UT-1が接続されており、画像を転送中、または、転送予定の画像が残っている状態のことです）。

動画の転送について

動画は画像送信モードでパソコンに転送できます。ただし、**【オプション】** の **【撮影後自動送信】** および **【フォルダー送信】** で動画を転送することはできません。

HTTPサーバーモードについて

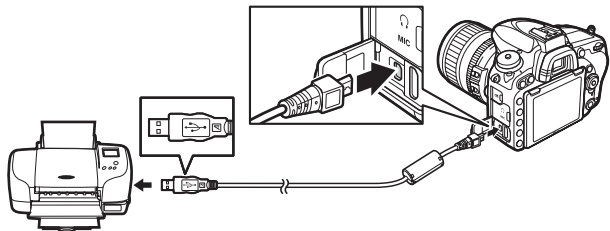
HTTPサーバーモードでは、カメラ本体での動画の記録および再生はできません。

画像をプリンターで印刷する

PictBridge (ピクトブリッジ：□492) 対応プリンターをお使いの場合、パソコンを使わずに、カメラとプリンターを付属のUSBケーブルで直接接続してSDカード内の画像をプリントできます (ダイレクトプリント)。

カメラとプリンターを接続する

USBケーブルは、無理な力を加えず、端子にまっすぐ差し込んでください。



- カメラとプリンターの電源をONにすると、液晶モニターにPictBridgeのロゴが表示された後、撮影された画像が表示されます。

✓ ダイレクトプリントの前に

- ダイレクトプリント時は、残量が充分にあるバッテリーをお使いください。別売のパワーコネクターとACアダプターをお使いになることをおすすめします。
- 直接プリントする画像は、静止画撮影メニューの「色空間」を「sRGB」に設定して撮影してください (□312)。

✓ USBハブについて

USBハブに接続した場合の動作は保証していません。

✓ ダイレクトプリントについてのご注意

- RAW画像 (□114) はダイレクトプリントできません。RAW画像の場合は画像編集メニューの「RAW現像」(□408) で作成したJPEG画像をプリントしてください。
- 「フチ設定」と「範囲指定」は、それぞれの機能に対応していないプリンターでは選べません。なお、「範囲指定」で狭い範囲を大きくプリントした場合は、画像が粗くプリントされる場合があります。

1コマだけプリントする

1 プリントしたい画像を選んで $\odot$ OKボタンを押す

- マルチセレクトターの $\odot$ または $\odot$ を押してプリントしたい画像を選びます。
- 1コマ表示中に $\odot$ (QUAL) ボタンを押すと、表示中の画像を拡大表示します (□251)。 $\odot$ ボタンを押すと、1コマ表示に戻ります。
- $\odot$ (ISO) ボタンを押して6コマ表示に切り換えて、画像を選ぶことができます。 $\odot$ (QUAL) ボタンを押すと、1コマ表示に戻ります。

2 プリント設定の項目を設定する

- [プリント設定] 画面で設定したい項目を選んで $\odot$ を押すと、それぞれの設定画面が表示されます。設定方法については、「プリント設定項目について」 (□268) をご覧ください。

3 プリントを開始する

- [プリント実行] を選んで、 $\odot$ OKボタンを押すとプリントが始まります。
- プリントを中断したいときは、もう一度 $\odot$ OKボタンを押してください。

■ ■ プリント設定項目について

用紙設定※	プリントする用紙のサイズを選んで OK ボタンを押します。プリンターが対応する用紙サイズのみが表示されます。
枚数指定	プリントする枚数(1～99枚)を設定して OK ボタンを押します。
フチ設定※	[あり] を選んで OK ボタンを押すと、画像にフチを付けてプリントします。
日付プリント※	[あり] を選んで OK ボタンを押すと、画像に日付をプリントします。
範囲指定	[する] を選んで、マルチセクターの ▶ を押すと、[範囲指定] 画面が表示されます。プリント範囲（黄色の枠）は ISO ボタンを押すと狭くなり、 QUAL ボタンを押すと広がります。マルチセクターを操作するとプリント範囲が移動します。プリント範囲を決定するには OK ボタンを押します。

※ プリンターの設定を優先したいときは、それぞれの設定時に「**プリンターの設定**」を選んでください。

複数の画像をプリントする

1 カメラとプリンターを接続し (☐266)、撮影した画像が表示されたらMENUボタンを押す

2 プリント方法を選んで、プリントする画像や枚数を設定する

- プリント方法を選んでマルチセクターの(🔍)を押します。

プリント 画像選択	プリントする画像と枚数を選んでプリントします。 • マルチセクターでプリントする画像を選び、Q (ISO) ボタンを押しながら(🔍)または(🔍)を押して枚数(1 ~ 99 枚)を設定して、OK ボタンを押します。 • Q (QUAL) ボタンを押している間、選択中の画像を拡大表示します。 • プリントしない画像は枚数を0 にします。
日付選択	指定した日付に撮影した全ての画像を1 枚ずつプリントします。 • プリントする日付を選び、(🔍)を押して設定します。 • Q (ISO) ボタンを押すと、選択している日付に撮影した画像をサムネイル表示します。 • もう一度Q (ISO) ボタンを押すと、日付選択画面に戻ります。 • サムネイル表示中に Q (QUAL) ボタンを押すと、ボタンを押している間、選んだ画像を拡大表示します。 • 日付を設定したら、OK ボタンを押します。
DPOF プリント	再生メニューの[プリント指定 (DPOF)] (☐271) で設定した画像をプリントします。プリント指定した画像と枚数を確認してからOK ボタンを押します。
INDEX プリント	SDカードの中のJPEG画像 (☐114) を一覧できる「インデックス」をプリントします。 • [INDEXプリント] 画面が表示されたら、OK ボタンを押します。 • インデックスプリントできるのは256コマまでです。SDカード内に257コマ以上の画像がある場合は、印刷されない画像があります (確認画面が表示されます)。 • 用紙サイズによってはプリントできない場合があります (警告メッセージが表示されます)。

3 プリント設定の項目を設定する

- [プリント設定] 画面で設定したい項目を選んで $\blacktriangleright$ を押すと、それぞれの設定画面が表示されます。[用紙設定]、[フチ設定]、[日付プリント]を設定できます。設定方法については、「プリント設定項目について」(□268)をご覧ください。

4 プリントを開始する

- [プリント実行] を選んで $\textcircled{\text{OK}}$ ボタンを押すと、プリントが始まります。
- プリントを中断したいときは、もう一度 $\textcircled{\text{OK}}$ ボタンを押してください。

関連ページ

プリント時のエラーについては、「警告メッセージ」(□474)をご覧ください。

プリントしたい画像を指定する (プリント指定)

SDカードをプリンターのカードスロットに挿入して印刷するときや、プリントサービス店に持ち込んでプリントを依頼するとき、またはカメラとプリンターを直接接続してダイレクトプリントするとき（□266）に、どの画像を何枚プリントするかをあらかじめ指定できます（プリンターやプリントサービス店がDPOF規格に対応している必要があります）。プリント指定の方法は次の通りです。

1 再生メニューの【プリント指定（DPOF）】で【設定】を選んでマルチセクターの $\odot$ を押す



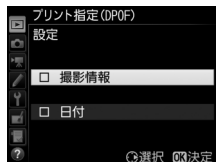
2 プリントする画像と枚数を設定する

- マルチセクターでプリントする画像を選び、 ISO ボタンを押しながら $\odot$ または $\odot$ を押して枚数（1～99枚）を設定して、 OK ボタンを押します。
- QUAL ボタンを押している間、選択中の画像を拡大表示します。
- プリントしない画像は枚数を0にします。



3 プリント指定の項目を設定する

- 指定した画像全てに撮影情報や日付をプリントしたい場合は、**〔撮影情報〕** または **〔日付〕** を選び、**〔OK〕** を押してチェックボックスをオン ☒ にします。



4 **〔OK〕** ボタンを押して、プリント指定を終了する

✔ プリント指定についてのご注意

- ダイレクトプリント時には、**〔プリント指定 (DPOF)〕** の **〔撮影情報〕** と **〔日付〕** の設定は無効になります。ダイレクトプリントで日付をプリントしたい場合は、ダイレクトプリントの **〔日付プリント〕** を **〔あり〕** にしてください。
- SDカードの残量が充分にないときは、プリント指定ができない場合があります。
- RAW画像 (□□114) は、プリント指定ができません。画像編集メニューの **〔RAW現像〕** (□□408) で作成したJPEG画像をプリントしてください。
- プリント指定を行った SD カード内のデータを、このカメラ以外で削除しないでください。正しくプリントできなくなる場合があります。

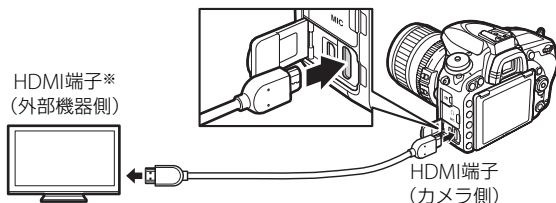
🔧 設定したプリント指定を一括で解除したいときは

前ページの手順1の画面で **〔一括解除〕** を選べると、**〔プリント指定 (DPOF)〕** で設定した内容を全て解除します。

画像をテレビで見る

HDMIケーブルを使ってハイビジョンテレビと接続する

カメラをHDMI端子のあるハイビジョンテレビなどと接続できます。接続には、別売のHDMI端子用ケーブル（□446）または市販のHDMI端子用ケーブル（Type C）が必要です。別途お買い求めください。HDMIケーブルを抜き差しするときは、必ずカメラの電源をOFFにしてください。



※使用する外部機器の端子に合ったケーブルをお使いください。

- テレビの入力をHDMI入力に切り換え、カメラの電源をONにして▶ボタンを押すと、撮影した画像がテレビの画面に表示されます。
- テレビで動画を再生するときは、音量をテレビ側で調節してください。カメラ側では音量調節できません。

HDMI対応機器との接続時の設定を変更する

セットアップメニュー（□375）の[HDMI]で、HDMI対応機器との接続時の設定を変更したり、HDMI-CEC対応テレビのリモコンから制御できるように設定できます。

■ 出力解像度

HDMI対応機器への出力解像度を設定できます。

- [出力解像度] が [オート] の場合、出力先の映像信号形式を自動的に検出します。



■ 機器制御

HDMI-CEC 対応テレビのリモコンを使って、1コマ表示とスライドショー再生のカメラ操作を行えます。

1 カメラとHDMI-CEC対応テレビを接続する

2 HDMI-CEC対応テレビとカメラの電源をONにする

- [機器制御] が [する] の場合、カメラのマルチセクターやⓀ ボタンの代わりにHDMI-CEC対応テレビのリモコンを使ってカメラを操作できるようになります。
- [機器制御] が [しない] の場合は、HDMI-CEC対応テレビのリモコンでカメラは動作しません。

■ 詳細設定

出力レンジ	ビデオ信号の色階調の入力範囲（RGBレンジ）は、HDMI対応機器によって異なります。通常は、HDMI対応機器に合わせて自動で出力レンジを切り換える［オート］をお使いください。HDMI対応機器のRGBレンジを識別できない場合は、次のいずれかを選んでください。 • リミテッドレンジ：RGBレンジが16～235の機器に適しています。画面で黒色がつぶれて表示される場合に選びます。 • フルレンジ：RGBレンジが0～255の機器に適しています。黒色が明るく表示されたり、薄く表示されたりする場合に選びます。
出力画面サイズ	HDMI対応機器の画面に出力する範囲を、95%と100%から選びます（いずれも上下左右とも）。
ライブビュー時の情報表示	HDMI接続してライブビュー撮影をするときに、HDMI対応機器に撮影情報を表示するかどうかを設定します。［しない］の場合は、撮影情報が表示されません。
モニターの同時表示	HDMI対応機器との接続時に、カメラの液晶モニターを点灯するかどうかを設定します。［しない］を選ぶと、液晶モニターが消灯するため、カメラのバッテリーの消耗を少なくすることができます。 • ［ライブビュー時の情報表示］が［しない］の場合、［モニターの同時表示］は［する］に固定されます。

🔧 HDMI、HDMI-CECとは

「HDMI」とは、High-Definition Multimedia Interfaceの略で、マルチメディアインターフェースのひとつです。「HDMI-CEC」とは、HDMI-Consumer Electronics Controlの略で、対応機器間での連携動作を可能にします。

🔧 HDMI-CEC対応テレビとの接続時の表示

HDMI-CEC対応テレビとの接続時には、表示パネルの記録可能コマ数表示部に**【E】**が表示されます。

🔧 機器制御について

詳しくは、テレビの使用説明書などをご覧ください。

テレビでの画像の再生について

- 画像の再生方法は、液晶モニターで再生するときと同じです。
- テレビ画面では、画像の周辺部が一部クラテ表示される場合があります。その場合は、セットアップメニュー [HDMI] → [詳細設定] → [出力画面サイズ] (□275) を [95%] に設定してください。
- テレビでの再生などでカメラを長時間使うときは、別売のパワーコネクタとACアダプターをお使いになることをおすすめします。

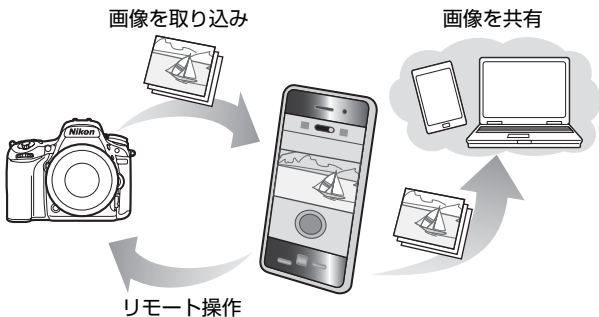
HDMIケーブル接続時のライブビュー撮影と動画撮影について

- HDMI ケーブルでカメラとテレビをつなぐと、テレビ画面を見ながら静止画ライブビュー撮影や動画ライブビュー撮影を行えます (□54、66)。
- [画像サイズ/フレームレート] (□318) を [1920×1080 60p] に設定して動画を記録しながらHDMI出力するには、次の条件を全て満たす必要があります。
 - [HDMI] > [出力解像度] : [オート] または [1080p (プログレッシブ)]
 - [HDMI] > [詳細設定] > [出力画面サイズ] : [100%]
 - [HDMI] > [詳細設定] > [ライブビュー時の情報表示] : [しない]
- その他の設定にした場合、動画記録中に [HDMI] (□274) の [出力解像度] や [出力画面サイズ] の設定、フレームレートが変更されてHDMI出力されることがあります。

Wi-Fiを使う

Wi-Fiを使ってできること

このカメラは、専用ソフトウェアWireless Mobile UtilityをインストールしたスマートデバイスとWi-Fi（無線LAN）で通信できます（□278）。スマートデバイスからカメラをリモートで操作して、撮影およびスマートデバイスへの画像の取り込みを行ったり、取り込んだ画像をインターネット経由で共有したりできます。また、カメラ側から画像を選んでスマートデバイスに送信することもできます（□286）。



☒ Wi-Fi（無線LAN）機能について

D750（K）にはWi-Fi機能は搭載されていません。

カメラとスマートデバイスを接続する

Wi-Fi（無線LAN）を使う前に、Android OS またはiOS のスマートデバイスに専用ソフトウェアWireless Mobile Utilityをインストールしてから、スマートデバイスとカメラを接続してください。スマートデバイスとカメラを接続する方法は、お使いのスマートデバイスの種類によって異なります。

Android OS	WPS プッシュボタン方式 ：スマートデバイスがWPS接続に対応している場合（スマートデバイスの 〔Wi-Fi設定〕 に 〔WPSボタン接続〕 がある場合）、簡単な操作でカメラとスマートデバイスを接続できます。	☞ 280
	WPS PINコード方式 ：スマートデバイスがWPS接続に対応している場合、スマートデバイスのPINコードをカメラに入力することで、カメラとスマートデバイスを接続できます。	☞ 281
	SSIDの表示 ：スマートデバイスがWPS接続に対応していなくても、カメラに表示されるSSIDをスマートデバイス側で選ぶことで、カメラとスマートデバイスを接続できます。	☞ 283
iOS	SSIDの表示 ：カメラに表示されるSSIDをスマートデバイス側で選ぶことで、カメラとスマートデバイスを接続できます。	☞ 283

スマートデバイスにWireless Mobile Utilityをインストールする

Google PlayサービスまたはApp Storeで「Wireless Mobile Utility」を検索し、スマートデバイスにインストールしてください。ソフトウェアの検索方法については、お使いのスマートデバイスの説明書をご覧ください。

- Wireless Mobile Utilityの詳しい操作方法は、下記のホームページから使用説明書（PDF形式）をダウンロードしてご覧ください。

- Android OS : <http://nikonimglib.com/ManDL/WMAU/>



- iOS : <http://nikonimglib.com/ManDL/WMAU-ios/>



セキュリティー設定について

初めてカメラとスマートデバイスを接続するときにWPSを使用しない場合、パスワードなどのセキュリティは設定されません。セキュリティの設定は、接続後にWireless Mobile Utilityを使って行うことができます。設定方法については、Wireless Mobile Utilityの説明書をご覧ください。

- Wireless Mobile Utilityの使用説明書（PDF）は、下記のホームページからダウンロードしてご覧ください。

- Android OS : <http://nikonimglib.com/ManDL/WMAU/>

- iOS : <http://nikonimglib.com/ManDL/WMAU-ios/>

WPSプッシュボタン接続でスマートデバイスと接続する（Android OSのみ）

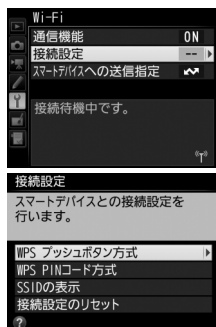
1 Wi-Fiの【通信機能】を【有効】にする

- セットアップメニューの【Wi-Fi】を選んでマルチセクターの▶を押します。
- 【通信機能】を選んで▶を押し、【有効】を選んでOKボタンを押します（通信機能が有効になるまで、数秒間かかります）。



2 カメラ側とスマートデバイス側で同時にWPSボタン接続操作をする

- カメラ側：
 - 【接続設定】を選んで▶を押します。
- スマートデバイス側：
 - 【WPS プッシュボタン方式】を選んで▶を押すと、カメラが約2分間接続待機状態になります。
 - 接続待機状態を延長するには、OKボタンを押してください。



3 スマートデバイスにインストールしたWireless Mobile Utilityを起動する

- スマートデバイスにWireless Mobile Utilityのトップ画面が表示されます。

スマートデバイスのPINコードをカメラに入力して接続する（Android OSのみ）

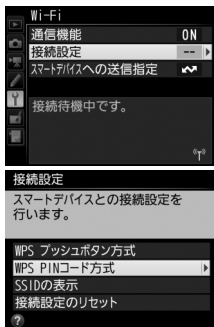
1 Wi-Fiの「通信機能」を「有効」にする

- セットアップメニューの「Wi-Fi」を選んでマルチセクターの $\odot$ を押します。
- 「通信機能」を選んで $\odot$ を押し、「有効」を選んで $\odot$ ボタンを押します（通信機能が有効になるまで、数秒間かかります）。



2 [接続設定] で [WPS PINコード方式] を選ぶ

- [接続設定] を選んで  を押します。



- [WPS PINコード方式] を選んで  を押します。

3 スマートデバイスのPINコードを入力する

-  または  を押して桁を選び、 または  を押して数値を設定し、 ボタンを押します。

4 スマートデバイスにインストールしたWireless Mobile Utilityを起動する

- スマートデバイスにWireless Mobile Utilityのトップ画面が表示されます。

カメラのSSIDをスマートデバイスで選んで接続する（Android OS/iOS）

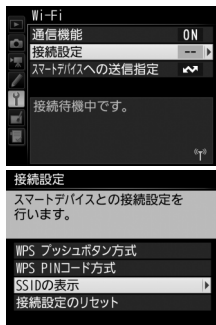
1 Wi-Fiの【通信機能】を【有効】にする

- セットアップメニューの【Wi-Fi】を選んでマルチセクターの $\blacktriangleright$ を押します。
- 【通信機能】を選んで $\blacktriangleright$ を押し、【有効】を選んで $\odot$ ボタンを押します（通信機能が有効になるまで、数秒間かかります）。



2 カメラのSSIDを表示する

- 【接続設定】を選んで $\blacktriangleright$ を押します。
- 【SSIDの表示】を選んで $\blacktriangleright$ を押します。



3 スマートデバイスのWi-Fi設定でカメラのSSIDを選ぶ

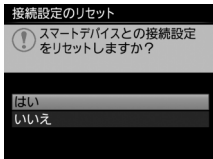
- スマートデバイスのWi-Fi接続に関連する設定メニューで、カメラの液晶モニターに表示されているSSIDを選びます。

4 スマートデバイスにインストールしたWireless Mobile Utilityを起動する

- スマートデバイスにWireless Mobile Utilityのトップ画面が表示されます。

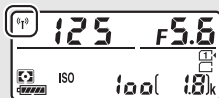
■ Wi-Fi接続設定をリセットするには

[Wi-Fi] の [接続設定] で [接続設定のリセット] を選んで  を押すと、確認画面が表示されます。[はい] を選んで  ボタンを押すと、接続先などの接続設定が、工場出荷時の設定にリセットされます。



Wi-Fi通信表示について

Wi-Fiの [通信機能] を [有効] にすると、表示パネルで  (Wi-Fi通信表示) が点滅します。スマートデバイスとカメラの接続が完了し、Wireless Mobile Utilityで通信している間は、 が点灯します。



✔ Wi-Fi接続についてのご注意

- Wi-Fi (無線LAN) をお使いの前に、「Wi-Fi (無線LAN) 機能について」(□xxiv)をお読みください。
- 電波の出力が禁止されている場所では、[Wi-Fi] の [通信機能] を [無効] にしてください。
- カメラのWi-Fi機能は、SDカードを挿入していないと使えません。USBケーブルまたはHDMIケーブルを接続しているときも使えません。
- スマートデバイスからWireless Mobile Utilityでカメラと通信している間は、半押しタイマーはオフになりません (通信を行わずに約5分経過すると、半押しタイマーがオフになります)。
- Wi-Fi接続中は、Eye-Fiカードでデータを送信できません。
- 操作中のバッテリー切れを防ぐため、十分に充電されたバッテリーをお使いください。
- 次の場合に、Wi-Fiの通信機能が無効になります。
 - セットアップメニュー [Wi-Fi] の [通信機能] で [無効] を選んだとき
 - 別売の通信ユニットUT-1を接続したとき
 - カメラの電源をOFFにしたとき
 - 動画撮影を開始したとき

スマートデバイスに取り込みたい画像をカメラで送信指定する

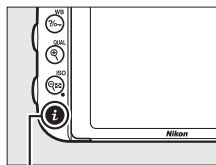
スマートデバイスに取り込みたい静止画をあらかじめカメラで選んで送信指定することができます。動画は送信指定できません。

表示中の画像を送信指定する

1 送信指定する画像を選ぶ

- 1コマ表示モードのときは、送信指定する画像を表示します。
- サムネイル表示モードまたはカレンダー表示モードのときは、送信指定する画像を選びます。

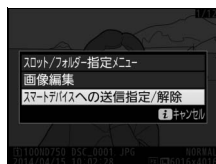
2 *i* ボタンを押す



i ボタン

3 [スマートデバイスへの送信指定/解除] を選んで **OK** ボタンを押す

-  アイコンが表示されます。



送信指定を解除するには

解除したい画像を選んで、手順2と3を行います。

複数の画像をまとめて送信指定する

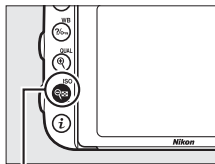
セットアップメニュー [Wi-Fi] の [スマートデバイスへの送信指定] では、複数の画像をまとめて送信指定できます。

- 1 セットアップメニューの [Wi-Fi] で [スマートデバイスへの送信指定] を選んでマルチセクターの  を押す



2 送信指定する画像を選ぶ

- マルチセクターで画像を選び、 (ISO) ボタンを押すと、 が表示されて送信指定されます。もう一度  (ISO) ボタンを押すと解除されます。
- 送信指定する画像全てに設定してください。
-  (QUAL) ボタンを押している間、選んだ画像を拡大表示します。



 (ISO) ボタン



3 設定を完了する

-  ボタンを押して、設定を完了します。

メニューガイド

初期設定一覧

再生、静止画撮影、動画撮影、カスタム、セットアップの各メニューの初期設定は次の通りです。ツープタンリセット (□□200)、静止画撮影メニュー[静止画撮影メニューのリセット] (□□309)、動画撮影メニュー[動画撮影メニューのリセット] (□□317)、またはカスタムメニュー[カスタムメニューのリセット] (□□324) を行うと、それぞれの項目の設定をリセットできます。ツープタンリセットで初期設定に戻る項目については、「ツープタンリセットで基本的な機能を初期設定に戻す」(□□200) をご覧ください。

再生メニューの初期設定

再生メニュー項目	初期設定
[再生フォルダー設定] (□□298)	ND750
[撮影直後の画像確認] (□□305)	しない
[削除後の次再生画像] (□□305)	後ろのコマ
[縦位置自動回転] (□□305)	する
[スライドショー] (□□306)	
[再生画像の種類] (□□306)	静止画と動画
[インターバル設定] (□□306)	2 秒

■■ 静止画撮影メニューの初期設定

ご購入時の設定に戻すには、静止画撮影メニューの「静止画撮影メニューのリセット」を行います (□309)。

メニュー項目		初期設定
[ファイル名設定] (□311)		DSC
[スロット2の機能] (□118)		順次記録
[画質モード] (□114)		NORMAL
[画像サイズ] (□117)		サイズL
[撮像範囲] (□109)		
[撮像範囲設定] (□109)		FX (36×24) 1.0×
[DX自動切り換え] (□110)		する
[JPEG圧縮] (□116)		サイズ優先
[RAW記録] (□116)		
[記録方式] (□116)		ロスレス圧縮RAW
[記録ビットモード] (□116)		14ビット記録
[ホワイトバランス] (□144)		オート：標準
微調整値 (□147)		A-B：0、G-M：0
色温度設定 (□150)		5000K
プリセットマニュアル (□153)		d-1
[ピクチャーコントロール] (□164)		スタンダード
[色空間] (□312)		sRGB
[アクティブ D-ライティング] (□176)	P、S、A、M、  、  、  、  、  、  、  、 	しない
	その他の撮影モード	オート
[HDR (ハイダイナミックレンジ)] (□177)		
[HDRモード] (□178)		しない
[HDR強度] (□179)		オート
[ヴィネットコントロール] (□313)		標準
[自動ゆがみ補正] (□314)		しない
[長秒時ノイズ低減] (□315)		しない
[高感度ノイズ低減] (□315)		標準

メニュー項目		初期設定
[ISO感度設定] (□132)		
[ISO感度] (□132)	P、S、A、M	100
	その他の撮影モード	オート
[感度自動制御] (□134)		しない
[リモコンモード設定 (ML-L3)] (□194)		しない
[多重露出] (□215) ※		
[多重露出モード] (□216)		しない
[コマ数] (□217)		2
[自動ゲイン補正] (□217)		する
[インターバルタイマー撮影] (□221)		
開始方法の設定 (□221)		即時スタート
撮影間隔 (□222)		1分
撮影回数×1回のコマ数 (□222)		0001×1
露出平滑化 (□222)		しない

※ 多重露出撮影中は、1コマ目を撮影してから解除されるまで **[静止画撮影メニューのリセット]** を選択できません。

■■ 動画撮影メニューの初期設定

ご購入時の設定に戻すには、動画撮影メニューの「動画撮影メニューのリセット」を行います (□317)。

メニュー項目	初期設定
「ファイル名設定」 (□311)	DSC
「ファイル記録先」 (□317)	スロット1
「画像サイズ/フレームレート」 (□318)	1920×1080 60p
「動画の画質」 (□318)	標準
「マイク感度」 (□319)	マイク感度 オート
「録音帯域」 (□319)	広帯域
「風切り音低減」 (□320)	しない
「撮像範囲」 (□75)	
「撮像範囲設定」 (□109)	FX (36×24) 1.0×
「DX自動切り換え」 (□110)	する
「ホワイトバランス」 (□144)	
微調整値 (□147)	A-B : 0、G-M : 0
色温度設定 (□150)	5000K
プリセットマニュアル (□153)	d-1
「ピクチャーコントロール」 (□164)	
「高感度ノイズ低減」 (□315)	標準
「動画ISO感度設定」 (□321)	
「Mモード時のISO感度設定」 (□321)	100
「Mモード時の感度自動制御」 (□321)	しない
「制御上限感度」 (□321)	12800
「微速度撮影」 (□227)	
撮影間隔 (□227)	5秒
撮影時間 (□228)	25分
露出平滑化 (□228)	する

■ カスタムメニューの初期設定

ご購入時の設定に戻すには、カスタムメニューの「カスタムメニューのリセット」を行います (□324)。

カスタムメニュー項目		初期設定
a1	[AF-Cモード時の優先] (□325)	リリース
a2	[AF-Sモード時の優先] (□325)	フォーカス
a3	[AFロックオン] (□326)	3 (標準)
a4	[フォーカスポイント表示] (□327)	
	[マニュアルフォーカス時の表示]	する
	[ダイナミックAFモード時の表示]	しない
	[グループエリアAFモード時の表示]	⦿
a5	[フォーカスポイント照明] (□328)	オート
a6	[フォーカスポイント循環選択] (□328)	しない
a7	[AF点数切り換え] (□328)	51点
a8	[縦/横位置フォーカスポイント切換] (□329)	しない
a9	[内蔵AF補助光の照射設定] (□330)	する
b1	[ISO感度設定ステップ幅] (□331)	1/3 段
b2	[露出設定ステップ幅] (□331)	1/3 段
b3	[露出補正簡易設定] (□331)	しない
b4	[マルチパターン測光] (□332)	顔認識する
b5	[中央部重点測光範囲] (□333)	φ 12 mm
b6	[基準露出レベルの調節] (□333)	
	[マルチパターン測光]	0
	[中央部重点測光]	0
	[スポット測光]	0
	[ハイライト重点測光]	0

カスタムメニュー項目		初期設定
c1	[半押しAEロック] (□333)	しない
c2	[半押しタイマー] (□334)	6 秒
c3	[セルフタイマー] (□334)	
	[時間]	10 秒
	[撮影コマ数]	1
	[連続撮影間隔]	0.5 秒
c4	[モニターのパワーオフ時間] (□335)	
	[画像の再生]	10 秒
	[メニュー表示]	1 分
	[インフォ画面表示]	10 秒
	[撮影直後の画像確認]	4 秒
c5	[ライブビュー表示]	10 分
	[リモコン待機時間 (ML-L3)] (□335)	1 分
d1	[電子音設定] (□336)	
	[音量]	電子音なし
	[音の高さ]	低音
d2	[低速連続撮影] (□337)	3 コマ/ 秒
d3	[連続撮影コマ数] (□337)	100
d4	[露出ディレーモード] (□338)	しない
d5	[フラッシュ使用推奨表示] (□338)	する
d6	[連番モード] (□338)	する
d7	[ファインダー内格子線表示] (□339)	しない
d8	[ISO感度の簡易設定] (□339)	しない
d9	[インフォ画面の表示設定] (□340)	自動
d10	[イルミネーター点灯] (□340)	しない
d11	[MB-D16電池設定] (□341)	アルカリ単3形電池
d12	[電池の使用順序] (□343)	MB-D16から

カスタムメニュー項目		初期設定
e1	[フラッシュ撮影同調速度] (□344)	1/200 秒
e2	[フラッシュ時シャッタースピード制限] (□346)	1/60 秒
e3	[内蔵フラッシュ発光] / [外付けフラッシュ発光] (□346)	TTLモード
e4	[フラッシュ使用時の露出補正] (□353)	全体を補正
e5	[モデリング発光] (□353)	する
e6	[オートブラケティングのセット] (□353)	AE・フラッシュブラケティング
e7	[BKTの順序] (□354)	[0] → [-] → [+]
f1	[OKボタンの機能] (□354)	
	[撮影モード] (□354)	フォーカスポイント 中央リセット
	[再生モード] (□355)	1コマとサムネイルの 切り換え
	[ライブビュー] (□355)	フォーカスポイント 中央リセット
f2	[Fnボタンの機能] (□356)	
	[押し時の動作] (□356)	設定しない
	[コマンドダイヤル併用時の動作] (□360)	撮像範囲選択
f3	[プレビューボタンの機能] (□361)	
	[押し時の動作] (□361)	プレビュー
	[コマンドダイヤル併用時の動作] (□361)	設定しない
f4	[AE/AFロックボタンの機能] (□361)	
	[押し時の動作] (□362)	AE-L/AF-L
	[コマンドダイヤル併用時の動作] (□362)	設定しない

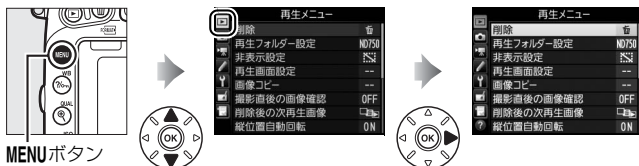
カスタムメニュー項目		初期設定
f5	[コマンドダイヤルの設定] (□363)	
	[回転方向の変更] (□363)	露出補正の設定時: □、 シャッタースピード/ 絞り値の設定時: □
	[メインとサブの入れ換え] (□363)	露出設定: しない AF設定: しない
	[絞り値の設定方法] (□364)	サブコマンドダイヤル
	[再生/メニュー画面で使用] (□365)	しない
	[サブコマンドダイヤルで画像送り] (□365)	10コマ
f6	[ボタンのホールド設定] (□366)	しない
f7	[カードなし時リリース] (□367)	リリース許可
f8	[インジケータの+/-方向] (□367)	
f9	[動画撮影ボタンの機能] (□368)	
	[コマンドダイヤル併用時の動作]	設定しない
f10	[MB-D16の罫ボタンの機能] (□369)	AE-L/AF-L
f11	[リモコン (WR) のFnボタンの機能] (□370)	設定しない
g1	[Fnボタンの機能] (□372)	
	[押し時の動作]	設定しない
g2	[プレビューボタンの機能] (□373)	
	[押し時の動作]	インデックスマーキング
g3	[AE/AFロックボタンの機能] (□374)	
	[押し時の動作]	AE-L/AF-L
g4	[シャッターボタンの機能] (□374)	静止画撮影

■ セットアップメニューの初期設定

セットアップメニュー項目	初期設定
[ユーザーセッティングの登録] (□100)	
[U1に登録]	撮影モードPの初期設定
[U2に登録]	撮影モードPの初期設定
[モニターの明るさ] (□377)	0
[モニターのカラースタマイズ] (□378)	A-B : 0、G-M : 0
[イメージセンサークリーニング] (□453)	
[電源スイッチに連動] (□454)	電源ONとOFFで実行
[フリッカー低減] (□381)	オート
[地域と日時] (□382)	
[夏時間の設定] (□382)	しない
[縦横位置情報の記録] (□383)	する
[HDMI] (□274)	
[出力解像度] (□274)	オート
[機器制御] (□274)	する
[詳細設定] (□275)	出力レンジ：オート 出力画面サイズ：100% ライブビュー時の 情報表示：する モニターの同時表示：する
[位置情報] (□235)	
[半押しタイマー] (□235)	有効
[衛星による日時合わせ] (□236)	する
[Wi-Fi] (□278)	
[通信機能]	無効
[Eye-Fi送信機能] (□393)	有効

再生メニュー：再生で使える便利な機能

MENUボタンを押して、タブの再生メニューアイコンを選ぶと、再生メニューが表示されます。



再生メニュー項目一覧

再生メニューの項目は、次の通りです。

メニュー項目	ページ	メニュー項目	ページ
削除	255	撮影直後の画像確認	305
再生フォルダー設定	298	削除後の次再生画像	305
非表示設定	298	縦位置自動回転	305
再生画面設定	300	スライドショー	306
画像コピー	300	プリント指定 (DPOF)	271

関連ページ

「再生メニューの初期設定」(P288)

再生フォルダー設定

MENUボタン → 再生メニュー

画像はSDカード内のフォルダーに保存されます。

画像の再生（□237）時に表示するフォルダーを設定します。

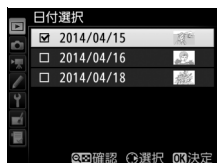
ND750	D750で作成された全てのフォルダー内の画像を再生します。
全てのフォルダー	SDカード内の全てのフォルダーの画像を再生します。
記録中のフォルダー	画像の記録に実際に使われているフォルダーの画像を再生します。

非表示設定

MENUボタン → 再生メニュー

非表示設定した画像は、非表示設定画面以外では表示されません。

設定	画像ごとに非表示設定します。
日付選択	選択した日付に撮影した画像を一括で非表示設定します。 - 非表示設定したい日付を選び、マルチセレクターの$\odot$を押すと、日付の左側のチェックボックスがオン$\square$になります。 - もう一度$\odot$を押すと、チェックボックスがオフ$\square$になります。 $\odot$ボタンを押すと、設定を完了します。
一括解除	非表示設定を一括で解除します。



■ 画像ごと而非表示設定する

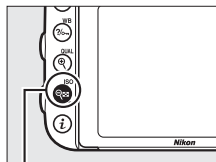
1 「設定」を選ぶ

- 「設定」を選んでマルチセクターの  を押すと、画像の選択画面が表示されます。



2 非表示する画像を選ぶ

- マルチセクターで画像を選び、 (ISO) ボタンを押して設定します。設定すると  が表示されます。もう一度  (ISO) ボタンを押すと、 が消えます。
- 非表示にする画像全てに設定してください。
-  (QUAL) ボタンを押している間、選んだ画像を拡大表示します。



 (ISO) ボタン



3 設定を完了する

-  ボタンを押して、設定を終了します。

✓ 非表示設定についてのご注意

- SDカードを初期化すると、非表示設定した画像も削除されますのでご注意ください。
- プロテクトと非表示の両方を設定した画像の非表示設定を解除すると、プロテクト設定も解除されます。

再生画面設定

MENUボタン → 再生メニュー

標準表示画面(□243)で、選んだフォーカスポイントまたはピント合わせに使用したフォーカスポイントを表示するかどうかを設定できます。また、1コマ表示時の画像情報表示に、画像のみ表示、ハイライト表示、RGBヒストグラム表示、撮影情報表示、統合表示を追加します。

- 追加したい項目を選び、マルチセクターのⓈを押してチェックボックスをオン☑にします。もう一度Ⓢを押すと、チェックボックスがオフ□になります。
- OKボタンを押すと、設定を完了します。

画像コピー

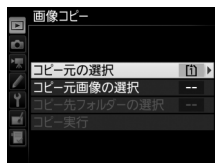
MENUボタン → 再生メニュー

SDカードを2枚使用しているときに、SDカード内の画像をもう一方のSDカードにコピーできます。

コピー元の選択	コピーしたい画像があるスロットを選びます。
コピー元画像の選択	コピーしたい画像を選びます。
コピー先フォルダーの選択	[コピー元の選択]で選ばなかったスロットにあるフォルダーを画像のコピー先として選びます。
コピー実行	コピーを実行します。

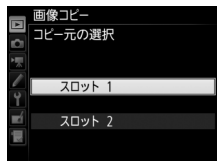
■ 画像のコピー方法

- 1 [コピー元の選択]を選んでマルチセクターのⓈを押す



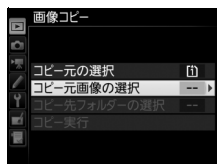
2 コピーしたい画像があるスロットを選ぶ

- コピーしたい画像が入っているカードのスロットを選んで **OK** ボタンを押すと、[画像コピー] 画面に戻ります。



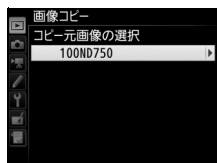
3 [コピー元画像の選択] を選ぶ

- [コピー元画像の選択] を選んでマルチセクターの **▶** を押すと、[コピー元画像の選択] 画面が表示されます。



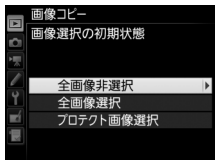
4 コピー元画像があるフォルダーを選ぶ

- コピー元画像のあるフォルダーを選んで **▶** を押すと、[画像選択の初期状態] 画面が表示されます。



5 画像の選択方式を選ぶ

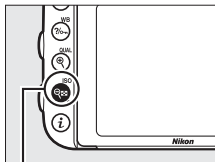
- コピー画像の選び方は、次の3通りがあります。



全画像非選択	フォルダー内全ての画像が選ばれていない状態で表示されます。 コピーする画像を 1 枚ずつ自分で選びたい場合に適しています。
全画像選択	フォルダー内の全ての画像が選ばれた状態で表示されます。 フォルダー内の全画像をコピーしたい場合に適しています。
プロテクト 画像選択	フォルダー内のプロテクトされている画像だけが選ばれた状態で表示されます。

6 コピーする画像を選ぶ

- マルチセクターで画像を選び、**ISO** ボタンを押すと、✓が表示されます。もう一度**ISO** ボタンを押すと、✓が消えます。
- QUAL** ボタンを押している間、選択中の画像を拡大表示します。
- コピーしたい全ての画像に✓を入れてから**OK** ボタンを押すと、[画像コピー] 画面に戻ります。

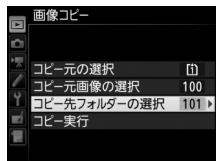


ISO ボタン



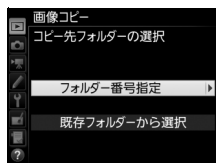
7 [コピー先フォルダーの選択] を選ぶ

- [コピー先フォルダーの選択] を選んで  を押すと、[コピー先フォルダーの選択] 画面が表示されます。



8 コピー先フォルダーの選択方法を選ぶ

- コピー先フォルダーの選択方法を選んで  を押します。



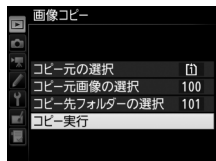
フォルダー番号指定	コピー先のフォルダー番号を入力して指定します (□□309)。指定したフォルダー番号のフォルダーがない場合は、フォルダーを新規作成します。	
既存フォルダーから選択	既存フォルダーの一覧表示から、コピー先フォルダーを選びます。	

9 コピー先フォルダーを選ぶ

- それぞれの画面で、フォルダー番号を指定または選んで  ボタンを押すと、コピー先フォルダーを設定して [画像コピー] 画面に戻ります。

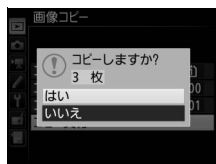
10 [コピー実行] を選ぶ

- [コピー実行] を選んで **OK** ボタンを押すと、コピーの確認画面が表示されます。



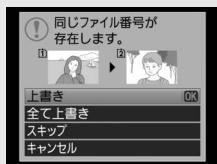
11 [はい] を選ぶ

- [コピーしますか?] というメッセージと、コピーする枚数が表示されます。
- [はい] を選んで **OK** ボタンを押すと、コピーを実行します。
- コピーが終了したら、もう一度 **OK** ボタンを押してコピーを完了します。



✓ 画像コピーについてのご注意

- コピー先SDカードの残量がない場合、コピーできません。
- コピー先フォルダーに同じファイル番号が存在する場合、右のような画面が表示されます。このとき、**上書き** または **全て上書き** を選ぶと、コピー元の画像に上書きされますのでご注意ください。ただし、コピー先の画像にプロテクトまたは非表示が設定されている場合は、上書きできません。**スキップ** を選ぶと、上書きせずに残りの画像のコピーを続けます。**キャンセル** を選ぶと、コピーを中止します。
- プロテクト設定はコピー先の画像に引き継がれます。
- **[プリント指定 (DPOF)]** (□271) で設定した情報は、コピー先画像には引き継がれません。
- 非表示設定した画像はコピーできません。
- 動画をコピーするときは、バッテリー切れを防ぐため、十分に充電されたバッテリーをお使いください。



撮影直後の画像確認

MENU ボタン →  再生メニュー

撮影直後に画像を自動的に表示するかどうかを設定します。[しない]を選んだ場合に撮影画像を表示確認するには、 ボタンを押してください。

削除後の次再生画像

MENU ボタン →  再生メニュー

画像を削除した後に表示する画像を設定できます。

 後ろのコマ	削除した画像の次に撮影した画像を表示します。 最後の画像を削除した場合は、1つ前の画像を表示します。
 前のコマ	削除した画像の前に撮影した画像を表示します。 最初の画像を削除した場合は、次に撮影した画像を表示します。
 直前コマ送り 方向に従う	- 直前のコマ送りが前の画像から後の画像の順番のときは、[後ろのコマ]と同じ動作になります。 - 直前のコマ送りが後の画像から前の画像の順番のときは、[前のコマ]と同じ動作になります。

縦位置自動回転

MENU ボタン →  再生メニュー

縦位置で撮影した画像を、自動的に回転して表示します。

✔ 縦位置自動回転についてのご注意

- ・[縦位置自動回転] を [する] に設定しても、セットアップメニューの[縦横位置情報の記録] (□383) を [しない] にして撮影した画像は、全て横位置で表示されます。
- ・縦位置で撮影した状態のまま画像確認がしやすいように、[縦位置自動回転] を [する] に設定しても、撮影直後の画像確認時は自動回転しません。

スライドショー

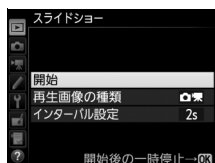
MENUボタン → 再生メニュー

撮影した画像を記録された順番に1コマずつ連続再生します。[再生フォルダー設定] (□□298) で設定されたフォルダー内の画像が記録された順番で再生されます。ただし、[非表示設定] (□□298) されている画像は再生されません。

開始	スライドショーを開始します。
再生画像の種類	スライドショーで再生する画像の種類を[静止画と動画]、[静止画のみ]、[動画のみ] から選べます。
インターバル設定	1コマの画像を表示する時間を設定します。

■ スライドショーを再生する

[開始] を選んでOKボタンを押すと、スライドショーが始まります。スライドショーの再生中は、次の操作が可能です。



1コマ進む/ 戻る		マルチセレクトターの $\odot$ を押すと前の画像が、 $\odot$ を押すと次の画像が表示されます。
画像情報を 切り換える		$\odot$ または $\odot$ を押すと、静止画再生時に画像情報の切り換えができます(□□242)。画像情報を「画像のみ」に切り換えると、画像だけをスライドショーで再生できます。
一時停止する		スライドショーが一時停止します。[再開]を選んでOKボタンを押すと、スライドショーが再開します。
動画再生中に 音量を調節する	$\odot$ (QUAL) / $\odot$ (ISO)	$\odot$ (QUAL) ボタンを押すと音量が大きくなり、 $\odot$ (ISO) ボタンを押すと小さくなります。

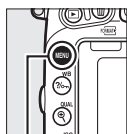
再生メニュー に戻る	MENU	スライドショーを中止して、再生メニューに戻ります。
通常再生に戻る		スライドショーを中止して、1コマ表示モード (□237)、サムネイル表示モード (□239) またはカレンダー表示モード (□240) に戻ります。
撮影に戻る		液晶モニターが消灯し、すぐに撮影できます。

再生が終わると、右のような画面が表示されます。[再開] を選んで **OK** ボタンを押すと、スライドショーが再開します。[終了] を選んで **OK** ボタンを押すと、スライドショーが終了します。

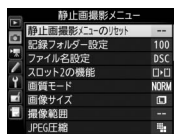
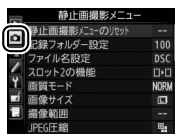


静止画撮影メニュー： **静止画撮影で使える便利な機能**

MENUボタンを押して、タブの  アイコンを選ぶと、静止画撮影メニューが表示されます。



MENU ボタン



静止画撮影メニュー項目一覧

静止画撮影メニューの項目は次の通りです。

メニュー項目	📖	メニュー項目	📖
静止画撮影メニューのリセット※	309	色空間	312
記録フォルダー設定※	309	アクティブD-ライティング	175
ファイル名設定	311	HDR (ハイダイナミックレンジ)	177
スロット2の機能	118	ヴィネットコントロール	313
画質モード	114	自動ゆがみ補正	314
画像サイズ	117	長秒時ノイズ低減	315
撮像範囲※	109	高感度ノイズ低減	315
JPEG圧縮	116	ISO感度設定	132
RAW記録	116	リモコンモード設定(ML-L3)※	194
ホワイトバランス	144	多重露出※	215
ピクチャーコントロール	164	インターバルタイマー撮影※	221
カスタムピクチャーコントロール※	169		

※ ユーザーセッティングモード **U1**、**U2** (□100) に機能を登録できません。

設定できない静止画撮影メニュー項目について

撮影モードやカメラの状態によって、設定できないメニュー項目があります。この場合、その項目はグレーで表示されて選べません。

静止画撮影メニューのリセット

MENUボタン → 静止画撮影メニュー

静止画撮影メニューをリセットして初期設定に戻します。

関連ページ

「静止画撮影メニューの初期設定」(□289)

記録フォルダー設定

MENUボタン → 静止画撮影メニュー

記録フォルダーの新規作成や既存フォルダーからの選択を行います。
[フォルダー番号指定] では、フォルダーを新規作成できます。[既存フォルダーから選択] では、既存フォルダーの一覧から選べます。

■ フォルダー番号指定

記録するフォルダー番号を指定します。フォルダーが存在しない場合は新しく作成します。

1 [フォルダー番号指定] を選ぶ

- [フォルダー番号指定] を選んでマルチセクターの $\odot$ を押すと、[フォルダー番号指定] 画面が表示されます。
- [フォルダー番号指定] 画面の右上には、フォルダーを作成するスロットが下線で強調されて表示されます。

フォルダーを作成するスロットは、静止画撮影メニュー [スロット2の機能] (□118) の設定によって異なります。



2 フォルダー番号の桁を選ぶ

- $\odot$ または $\odot$ を押して、フォルダー番号の変更したい桁を選びます。

3 フォルダー番号を変更する

-  または  を押して、フォルダー番号の数値を変更します。

4 フォルダー番号を設定する

-  ボタンを押すと、新規フォルダーを作成してメニュー画面に戻ります。
- 次に撮影する画像は、作成した新規フォルダーに保存します。
- 作成済みのフォルダー番号を指定すると、フォルダー番号の左にフォルダーマーク (, , ) が表示されます。
 または  が表示されたフォルダーを選んで  ボタンを押すと、指定したフォルダーを記録フォルダーに設定してメニューに戻ります。
- キャンセルしたい場合は、**MENU** ボタンを押すとメニューに戻ります。

フォルダーマークについて

[フォルダー番号指定] 画面では、フォルダー番号の左に、画像の入っていないフォルダーのときは 、フォルダー内のファイル数が999個またはファイル番号が9999に達しているフォルダーのときは 、その他のフォルダーのときは  のフォルダーマークが表示されます。 が表示されているフォルダーには、画像は記録できません。

■■ 既存フォルダーから選択

既存のフォルダーから選びます。

1 [既存フォルダーから選択] を選ぶ

- [既存フォルダーから選択] を選んでマルチセクターの  を押すと、[既存フォルダーから選択] 画面が表示されます。



2 フォルダーを選ぶ

-  または  を押して、画像を記録するフォルダーを選びます。

3 画像を記録するフォルダーを設定する

- **OK** ボタンを押すと、設定が有効になりメニュー画面に戻ります。
- 次に撮影する画像は、選んだフォルダーに保存します。

✓ フォルダー番号およびファイル番号についてのご注意

フォルダー番号が999に達しているときに、ファイル番号が9999に達するか、このフォルダー内のファイル数が999個に達した場合は、それ以上フォルダーを作成できず、シャッターがきれなくなります。ただし、次の場合、SDカードにまだ空き容量があれば、さらに撮影を続けられます。

- フォルダー番号が999以下で、その内のファイル数が999に達していないフォルダーを記録フォルダーとして選んだ場合
- フォルダー番号が999以下のフォルダーを新規に作成し、それを記録フォルダーとして選んだ場合

✍ 大容量のSDカードを使用する場合

すでにたくさんのフォルダーや画像が記録されているSDカードを使用する場合、SDカードを挿入したときや、カメラの電源をONにしたときなどに行われるファイル検索に時間がかかるため、撮影や再生ができるまでに時間がかかることがあります。

ファイル名設定

MENU ボタン →  静止画撮影メニュー /  動画撮影メニュー

このカメラで撮影した画像には、自動的にDSC_nnnn.xxxというファイル名が付きます。[ファイル名設定]では、「DSC」の3文字を任意に変更できます。ファイル名の設定方法は、「カスタムピクチャーコントロールを登録する」の手順6をご覧ください(□171)。

ファイル名について

- このカメラで撮影された画像にはDSC_nnnn.xxxという名称が付きます。nnnnには0001～9999までの数字が入ります。xxxには選んだ画質モードによって、次の拡張子が入ります。
 - NEF：RAWの場合
 - JPG：FINE/NORMAL/BASICの場合
 - MOV：動画の場合
 - NDF：イメージダストオフデータの場合
- 静止画撮影メニューの[色空間]で[Adobe RGB]（□312）を選んだ場合は_DSCnnnn.xxxという名称が付きます。
- 同時記録されたRAW画像とJPEG画像のファイル名は同じですが、拡張子がそれぞれNEF、JPGになります。

色空間

MENUボタン →  静止画撮影メニュー

記録する画像の色空間を指定します（色空間とは、モニターやプリンターで表現できる色の範囲のことです）。[sRGB] 色空間は、再生やプリントなど、一般的な用途で画像を楽しむのに適しています。[Adobe RGB] 色空間は[sRGB] 色空間に比べて色域が広いので、商業印刷などの業務用途に適しています。

色空間についてのご注意

Capture NX-Dまたは付属のViewNX 2をお使いになると、正しい色空間での処理が自動的に行われます。他社製の画像閲覧用または画像編集用ソフトウェアを使うと、正しく色が表示されないことがあります。

Adobe RGB色空間について

適切な色再現には、カラーマネジメント機能に対応したアプリケーション、モニター、プリンターなどの環境が必要です。

ヴィネットコントロール

MENU ボタン →  静止画撮影メニュー

ヴィネットコントロールは、レンズの特性による周辺光量の低下をレンズに応じて軽減します。特に開放絞り側で撮影した場合に効果的です。Gタイプ、Eタイプ、またはDタイプレンズを装着しているときのみ機能します（PCレンズを除く）。

☐ H 強め	
☐ N 標準	効果が強い順に、[強め]、[標準]、[弱め] になります。
☐ L 弱め	
☐ しない	周辺光量の低下を補正しません。

✓ ヴィネットコントロールについてのご注意

- 次の場合、ヴィネットコントロールの効果は適用されません。
 - 静止画撮影メニューの [多重露出] (□□215) を設定しているとき
 - 動画撮影時
 - DX レンズを装着して静止画撮影メニュー [撮像範囲] の [DX 自動切り換え] (□□110) を [しない] に、[撮像範囲設定] (□□111) を [DX (24×16) 1.5×] 以外に設定しているとき
 - FX レンズを装着して静止画撮影メニュー [撮像範囲] の [撮像範囲設定] を [DX (24×16) 1.5×] に設定しているとき
- JPEG画像の場合、使用するレンズ、撮影条件や撮影シーンの組み合わせによっては、周辺光量が過剰に補正されて画像周辺部が明るくなったり補正が不足して暗くなったり、画像にノイズ（むら）が発生することがあります。また、調整したピクチャーコントロールやカスタムピクチャーコントロールを設定している場合も、適切な補正ができない場合があります。試し撮りをして、撮影状況に適した設定を選択することをおすすめします。

自動ゆがみ補正

MENUボタン →  静止画撮影メニュー

〔する〕にすると、広角レンズ使用時のたる型のゆがみや、望遠レンズ使用時の糸巻き型のゆがみを補正して撮影します。

- **〔自動ゆがみ補正〕**は、Gタイプ、Eタイプ、またはDタイプレンズを装着した場合のみ機能します。ただし、PCレンズ、フィッシュアイレンズ、その他一部のレンズを装着した場合は機能しません。また、対応レンズ以外を装着した場合については、動作を保証しません。

自動ゆがみ補正についてのご注意

- 〔する〕の場合、シャッターをきってから、記録が始まるまで時間がかかる場合があります。
- ゆがみを大きく補正するほど、画像周辺部は切り取られます。
- DXレンズを装着している場合は、自動ゆがみ補正を行う前に、**〔DX自動切り換え〕**を〔する〕に設定するか、**〔撮像範囲設定〕**を**〔DX (24×16) 1.5×〕**に設定してください (□109)。その他の撮像範囲で撮影すると、画像周辺部が大きく切り取られたり、DXフォーマットの外側の部分が特に強く補正されることがあります。
- 動画撮影時は、自動ゆがみ補正の効果は適用されません。

関連ページ

撮影した画像のゆがみを補正する →  **〔ゆがみ補正〕** (□414)

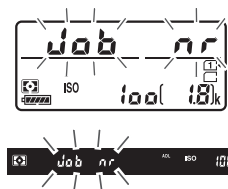
長秒時ノイズ低減

MENUボタン → 静止画撮影メニュー

低速シャッタースピードになったときに発生するノイズ（ざらつき、むら、輝点）を低減します。

する	シャッタースピードが1秒より低速になった場合に、長秒時ノイズの低減処理を行います。
しない	長秒時ノイズの低減処理を行いません。

長秒時ノイズ低減処理は、撮影後に行われます。処理中は、表示パネルとファインダー内表示に **Job nr** が点滅します。この表示が消えるまで、撮影はできません。長秒時ノイズの低減処理を行う場合、画像を記録するまでの時間は、長秒時ノイズ低減を行わない場合の約2倍になります。



☑ 長秒時ノイズ低減についてのご注意

- 連続撮影速度は遅くなり、連続撮影可能コマ数も少なくなります。
- 処理中に電源をOFFにすると、処理は行われず、長秒時ノイズの低減処理を行う前の画像が保存されます。

高感度ノイズ低減

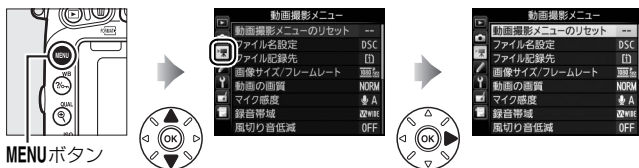
MENUボタン → 静止画撮影メニュー / 動画撮影メニュー

静止画または動画の撮影時に、感度が高くなるほど発生しやすいノイズ（ざらつき）を低減します。

強め	全てのISO感度で高感度ノイズの低減処理を行います。ISO感度が高くなるほど、効果的です。
標準	
弱め	
しない	ノイズが発生しやすい条件で撮影する場合のみ、ノイズ低減処理を行います。ノイズ低減の効果は「弱め」よりもさらに弱くなります。

● 動画撮影メニュー： 動画撮影で使える便利な機能

MENU ボタンを押して、タブの●アイコンを選ぶと、動画撮影メニューが表示されます。



動画撮影メニュー項目一覧

動画撮影メニューの項目は次の通りです。

メニュー項目	📖	メニュー項目	📖
動画撮影メニューのリセット※	317	撮像範囲※	75
ファイル名設定	311	ホワイトバランス	144
ファイル記録先	317	ピクチャーコントロール	164
画像サイズ/フレームレート	318	カスタムピクチャー コントロール※	169
動画の画質	318	高感度ノイズ低減	315
マイク感度	319	動画ISO感度設定	321
録音帯域	319	微速度撮影※	227
風切り音低減	320		

※ ユーザーセッティングモード **U1**、**U2** (□100) に機能を登録できません。

🔍 設定できない動画撮影メニュー項目について

撮影モードやカメラの状態によって、設定できないメニュー項目があります。この場合、その項目はグレーで表示されて選べません。

動画撮影メニューのリセット

MENUボタン → 動画撮影メニュー

動画撮影メニューをリセットして初期設定に戻します。

関連ページ

「動画撮影メニューの初期設定」(P.291)

ファイル記録先

MENUボタン → 動画撮影メニュー

SDカードを2枚使用している場合に動画を記録するスロットを設定します。

- それぞれのカードで動画を記録できる残り時間が表示されます。
- 選んだファイル記録先のSDカードの残量がなくなると、撮影は自動的に終了します。



画像サイズ/フレームレート

MENUボタン → 映像撮影メニュー

「画像サイズ/フレームレート」では、動画を記録するときの画像サイズ（ピクセル）とフレームレートを設定します。

	【画像サイズ/ フレームレート】※1	最大ビットレート （【動画の画質】※2： ★高画質/標準）	最長記録時間 （【動画の画質】※2： ★高画質/標準）
	1920×1080 60p	42 Mbps/24 Mbps	10分/ 20分
	1920×1080 50p		
	1920×1080 30p	24 Mbps/12 Mbps	20分/ 29分59秒
	1920×1080 25p		
	1920×1080 24p		
	1280×720 60p		
	1280×720 50p		

※1 60p：59.94コマ/秒、50p：50コマ/秒、30p：29.97コマ/秒、25p：25コマ/秒、24p：23.976コマ/秒

※2 【動画の画質】が高画質の場合は、アイコンに★が表示されます。

【画像サイズ/フレームレート】について

「画像サイズ/フレームレート」の設定によっては、撮影した動画のノイズ（ざらつき、むら、輝点）の見え方が異なります。

動画の画質

MENUボタン → 映像撮影メニュー

動画の画質を高画質と標準から選べます。

- 「画像サイズ/フレームレート」と「動画の画質」との組み合わせで、動画の最大ビットレートと最長記録時間が変わります。

マイク感度

MENUボタン → 動画撮影メニュー

内蔵マイクまたは別売のステレオマイクロホン（□447）の感度の程度を設定します。

マイク感度 オート	カメラが自動的にマイク感度を調整します。
マイク感度 マニュアル	マイク感度を手動調整します。[1] ~ [20] の調整ができます。数字が大きいほど感度が高く、小さいほど低くなります。
録音しない	音は記録しません。

音が記録されていない動画の表示について

「マイク感度」を「録音しない」にして撮影した動画の場合、再生時に🔊（音なしマーク）が表示されます。



録音帯域

MENUボタン → 動画撮影メニュー

内蔵マイクまたは別売のステレオマイクロホン（□447）の周波数特性を設定します。

WIDE 広帯域	低音域から高音域まで録音します。楽器演奏や街のざわめきの録音など、幅広いシーンに適しています。
VOICE 音声帯域	主に人の声を録音したいときに適しています。

風切り音低減

MENUボタン → 映像動画撮影メニュー

「**する**」を選ぶと、ローカットフィルター機能により、内蔵マイクに吹き付ける風の音を抑えて記録できます。ただし、風切り音以外の音も聞こえにくくなることがあります。

- 別売のステレオマイクロホンをお使いの場合は、カメラ側で「**風切り音低減**」を「**する**」に設定しても風切り音は低減されません。ステレオマイクロホン側で設定してください。

ホワイトバランス

MENUボタン → 映像動画撮影メニュー

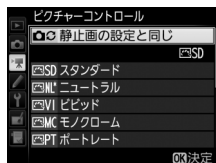
動画撮影時のホワイトバランス (□144) を設定できます。「**静止画の設定と同じ**」を選ぶと、静止画撮影時と同じ設定になります。



ピクチャーコントロール

MENUボタン → 映像動画撮影メニュー

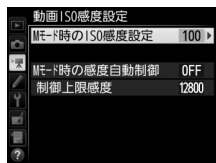
動画撮影時のピクチャーコントロール (□164) を設定できます。「**静止画の設定と同じ**」を選ぶと、静止画撮影時と同じ設定になります。



動画ISO感度設定

MENUボタン → 動画撮影メニュー

動画撮影時のISO感度に関する設定ができます。



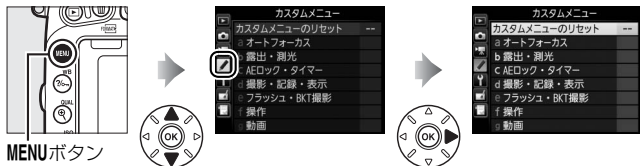
Mモード時のISO感度設定	撮影モードMでの動画撮影時のISO感度（100～Hi 2）を設定できます。
Mモード時の感度自動制御	[する] を選ぶと、撮影モードがMのときもカメラが自動的に動画撮影時のISO感度を変更します。[しない] を選ぶと、撮影モードがMのときに、[Mモード時のISO感度設定] で設定したISO感度に固定されます。 撮影モードがM以外の場合は常に感度自動制御が動作します。
制御上限感度	- 感度自動制御するときにISO感度が高くなりすぎないように、上限感度（200～Hi 2）を設定できます。 - 撮影モードがP、SまたはAの場合と、撮影モードMで[Mモード時の感度自動制御] が[する] の場合は、ここで設定した感度が自動制御の上限になります。

感度自動制御についてのご注意

- ISO感度が上がると、被写体によっては、ノイズ（ざらつき、むら、すじ）が発生することがあります。
- ISO感度が上がると、ピントが合いにくくなることがあります。
- 上記の現象が発生する場合は、[動画ISO感度設定] の[制御上限感度] を下げて撮影してください。

カスタムメニュー： 撮影に関するさらに詳細な設定

MENU ボタンを押して、タブの  アイコンを選ぶと、カスタムメニューが表示されます。



カメラの各種設定を撮影者の好みに合わせて変更できます。カスタムメニュー画面は、2つの階層で構成されています。

<第1階層>



<第2階層>



カスタムメニュー項目一覧

カスタムメニューの項目は次の通りです。

メニュー項目	📖
カスタムメニューのリセット	324
a オートフォーカス	
a1 AF-Cモード時の優先	325
a2 AF-Sモード時の優先	325
a3 AFロックオン	326
a4 フォーカスポイント表示	327
a5 フォーカスポイント照明	328
a6 フォーカスポイント循環 選択	328
a7 AF点数切り換え	328
a8 縦/横位置フォーカスポイ ント切換	329
a9 内蔵AF補助光の照射設定	330
b 露出・測光	
b1 ISO感度設定ステップ幅	331
b2 露出設定ステップ幅	331
b3 露出補正簡易設定	331
b4 マルチパターン測光	332
b5 中央部重点測光範囲	333
b6 基準露出レベルの調節	333
c AEロック・タイマー	
c1 半押しAEロック	333
c2 半押しタイマー	334
c3 セルフタイマー	334
c4 モニターのパワーオフ 時間	335
c5 リモコン待機時間(ML-L3)	335
d 撮影・記録・表示	
d1 電子音設定	336

メニュー項目	📖
d2 低速連続撮影	337
d3 連続撮影コマ数	337
d4 露出ディレーモード	338
d5 フラッシュ使用推奨表示	338
d6 連番モード	338
d7 ファインダー内格子線 表示	339
d8 ISO感度の簡易設定	339
d9 インフォ画面の表示設定	340
d10 イルミネーター点灯	340
d11 MB-D16電池設定	341
d12 電池の使用順序	343
e フラッシュ・BKT撮影	
e1 フラッシュ撮影同調速度	344
e2 フラッシュ時シャッター スピード制限	346
e3 内蔵フラッシュ発光	346
e4 フラッシュ使用時の露出 補正	353
e5 モデリング発光	353
e6 オートブラケティングの セット	353
e7 BKTの順序	354
f 操作	
f1 OKボタンの機能	354
f2 Fnボタンの機能	356
f3 プレビューボタンの機能	361
f4 AE/AFロックボタンの 機能	361
f5 コマンドダイヤルの設定	363

メニュー項目	📖
f6 ボタンのホールド設定	366
f7 カードなし時リリース	367
f8 インジケーターの+/-方向	367
f9 動画撮影ボタンの機能	368
f10 MB-D16の📷ボタンの機能	369
f11 リモコン (WR) のFnボタンの機能	370

メニュー項目	📖
g 動画	
g1 Fnボタンの機能	372
g2 プレビューボタンの機能	373
g3 AE/AFロックボタンの機能	374
g4 シャッターボタンの機能	374

※ 設定内容が初期設定と異なる場合、変更されたメニュー項目の左上にアスタリスク (＊) を表示します。

🔗 設定できないカスタムメニュー項目について

撮影モードやカメラの状態によって、設定できないメニュー項目があります。この場合、その項目はグレーで表示されて選べません。

🔗 関連ページ

「カスタムメニューの初期設定」(📖292)

カスタムメニューのリセット

MENUボタン → 📷 カスタムメニュー

カスタムメニューをリセットして初期設定に戻します。

a : オートフォーカス

a1 : AF-Cモード時の優先

MENUボタン →  カスタムメニュー

ファインダー撮影時のAFモードが**AF-C**のとき (□119) にシャッターボタンを全押しした場合の動作を設定できます。

 リリース	ピント状態に関係なく撮影優先でシャッターをきることができます。
 フォーカス	ピントが合うまで、シャッターボタンを全押ししてもシャッターをきるできません。

- AFモードが**AF-C**のときは、[**AF-Cモード時の優先**] の設定にかかわらず、ピント表示 (●) が点灯してもフォーカスロックは行われず、シャッターをきるまでピント合わせの動作を続けます。

a2 : AF-Sモード時の優先

MENUボタン →  カスタムメニュー

ファインダー撮影時のAFモードが**AF-S**のとき (□119) にシャッターボタンを全押しした場合の動作を設定できます。

 リリース	ピント状態に関係なく撮影優先でシャッターをきることができます。
 フォーカス	ピントが合うまで、シャッターボタンを全押ししてもシャッターをきるできません。

- AFモードが**AF-S**のときは、[**AF-Sモード時の優先**] の設定にかかわらず、ピント表示 (●) が点灯した状態でシャッターボタンの半押しを続けると、シャッターをきるまでフォーカスロックが行われます。

a3 : AFロックオン

MENUボタン →  カスタムメニュー

ファインダー撮影時のAFモードが**AF-C**のときや、**AF-A**に設定していて自動的に**AF-C**に切り替わったときに、被写体との距離が瞬時に大きく変わった場合のピント合わせの動作について設定できます。

AF  5 (強め)	被写体との距離が瞬時に大きく変わったとき、一定時間経過してから被写体を追従するピント合わせを行います。被写体とカメラの間を障害物が横切るような撮影など、意図に反して障害物にピント合わせを行うことを防止します。 被写体との距離が瞬時に大きく変わってから、追従するピント合わせを開始するまでの時間が長い順に、[5 (強め)]、[4]、[3 (標準)]、[2]、[1 (弱め)] になります。
AF  4	
AF  3 (標準)	
AF  2	
AF  1 (弱め)	
しない	

- AFエリアモードが3D-トラッキングまたはオートエリアAFの場合は、**[2]**、**[1 (弱め)]**、**[しない]** に設定していても、**[3 (標準)]** を選んだときと同じ動作になります。

a4：フォーカスポイント表示

MENUボタン →  カスタムメニュー

ファインダー内のフォーカスポイントの表示に関する設定ができます。

■ マニュアルフォーカス時の表示

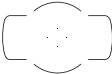
[する] に設定すると、マニュアルフォーカスでの撮影時にフォーカスポイントが常に点灯します。[しない] に設定すると、フォーカスポイントを移動したときのみ一瞬点灯します。

■ ダイナミックAFモード時の表示

[する] に設定すると、ダイナミックAFモード（□121）時に自分で選んだフォーカスポイントと周辺のフォーカスポイントを同時に表示します。[しない] に設定すると、自分で選んだフォーカスポイントのみを表示します。

■ グループエリアAFモード時の表示

グループエリアAFモード（□122）時の、ファインダー内のフォーカスポイントの見え方を選べます。

	フォーカスポイントを四角で表示します。	
	フォーカスポイントを点で表示します。	

[ダイナミックAFモード時の表示] を [する] に設定した場合の 3D-トラッキングについて

[ダイナミックAFモード時の表示] を [する] に設定してAFエリアモードを3D-トラッキングにすると、フォーカスポイントの中央に点が表示されます（）。

a5：フォーカスポイント照明

MENUボタン → 鉛筆アイコン カスタムメニュー

ファインダー内のフォーカスポイントの照明方法を設定できます。

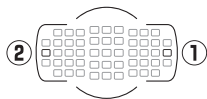
オート	被写体または背景が暗いときは、自動的にフォーカスポイントを赤色に照明します。
する	被写体または背景の明るさにかかわらず常にフォーカスポイントが赤色に照明します。背景が明るいときは、照明が見えづらい場合があります。
しない	フォーカスポイントを照明しません。

a6：フォーカスポイント循環選択

MENUボタン → 鉛筆アイコン カスタムメニュー

フォーカスポイントをマルチセクターで選ぶときに、上下左右端で循環するように設定できます。

「[する]」を選んだ場合、一番端のフォーカスポイント (①) を選んでいるときに、さらにマルチセクターを同方向 (右図の場合は ④) に押すと、反対側の端のフォーカスポイント (②) に移動します。



a7：AF点数切り換え

MENUボタン → 鉛筆アイコン カスタムメニュー

手動で選べるフォーカスポイントの数を設定できます。

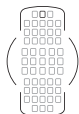
AF51 51点	51点全てのフォーカスポイントを選べます。	
AF11 11点	11点のフォーカスポイントから選べます。フォーカスポイントの位置を素早く動かしたいときに便利です。	

a8：縦/横位置フォーカスポイント切換

MENUボタン →  カスタムメニュー

カメラを正位置（横位置）にしたとき、時計回りの縦位置と反時計回りの縦位置にしたときで個別にフォーカスポイントを設定できます。

- [しない] に設定した場合、横位置と縦位置で同じフォーカスポイントを使います。



縦位置

反時計回りに90° 回転



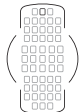
横位置



縦位置

時計回りに90° 回転

- [する] に設定すると、横位置と縦位置で個別にフォーカスポイントを設定できます。

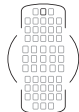


縦位置

反時計回りに90° 回転



横位置



縦位置

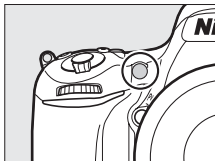
時計回りに90° 回転

a9：内蔵AF補助光の照射設定

MENUボタン →  カスタムメニュー

被写体が暗いときなど、シャッターボタンを半押しすると、ピント合わせのためにAF補助光を自動的に照射します。

暗い場所でもAF補助光を自動的に照射させないように設定できます。



する	ファインダー撮影時に、オートフォーカスでのピント合わせの際に、次の条件が全て満たされた場合に、自動的にAF補助光を照射します。 • 被写体が暗い場合 • AFモードが AF-S、または AF-A で自動的に AF-S が選ばれた場合 (□□119) • オートエリアAF以外のAFエリアモード (□□121) で、中央のフォーカスポイントを選択したとき、またはオートエリアAFのとき
しない	AF補助光を照射しません。被写体が暗いときなどは、オートフォーカスでのピント合わせはできなくなる場合があります。

AF補助光について

- AF補助光が届く距離範囲の目安は約0.5～3mです。
- AF補助光使用時は、レンズフードを取り外してください。

b : 露出・測光

b1 : ISO感度設定ステップ幅

MENUボタン →  カスタムメニュー

ISO感度のステップ幅を設定できます。ISO感度のステップ幅を変更したとき、設定されているISO感度に変更後のステップ幅に存在しない場合は、最も近い値に変更されます。

b2 : 露出設定ステップ幅

MENUボタン →  カスタムメニュー

シャッタースピード、絞り値、オートブラケティング補正量、露出補正量、および調光補正量のステップ幅を設定できます。

b3 : 露出補正簡易設定

MENUボタン →  カスタムメニュー

 ボタンを使用せずに、コマンドダイヤルだけで露出補正できるように設定を変更できます。

露出補正簡易設定を「**する（自動リセット）**」または「**する**」に設定すると、露出インジケータの「0」が点滅します。

する (自動リセット)	コマンドダイヤルだけで露出補正値を設定できます。 コマンドダイヤルだけを使って設定した露出補正値は、電源をOFFにするか、半押しタイマーがオフになると、リセットされます。
する	コマンドダイヤルだけで露出補正値を設定できます。 電源をOFFにしても、半押しタイマーがオフになっても、設定した露出補正値はリセットされません。
しない	 ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回して露出補正を設定します。

🔧 b3 [露出補正簡易設定] と f5 [メインとサブの入れ換え] の併用について

[露出補正簡易設定] とカスタムメニュー f5 [コマンドダイヤルの設定] (□363) の [メインとサブの入れ換え] との併用により、次の表で記載しているコマンドダイヤルで露出補正ができます。

カスタムメニュー f5→メインとサブの入れ換え			
		しない	する
撮影モード	P	サブコマンドダイヤル	サブコマンドダイヤル
	S	サブコマンドダイヤル	メインコマンドダイヤル
	A	メインコマンドダイヤル	サブコマンドダイヤル
	M	機能しません	

🔧 b3 [露出補正簡易設定] と d8 [ISO感度の簡易設定] について
 カスタムメニュー b3 [露出補正簡易設定] の [する (自動リセット)] と [する] は、d8 [ISO感度の簡易設定] (□339) とは併用できません。メッセージが表示され、先に設定していた内容が [しない] にリセットされます。

b4 : マルチパターン測光

MENUボタン → 📷 カスタムメニュー

測光モード (□137) がマルチパターン測光の場合、カメラが人物の顔を認識したときに顔の明るさに合わせて露出を決定するかどうかを選べます。この設定は、ファインダー撮影時のみ有効です。

📷ON 顔認識する	カメラが認識した顔を優先して測光を行います。
📷OFF 顔認識しない	顔を優先した測光は行いません。

b5：中央部重点測光範囲

MENUボタン →  カスタムメニュー

中央部重点測光は、ファインダー中央部を重点的に測光して、露出値を決定します。中央部重点測光の範囲を変更できます。

- 非CPUレンズを装着しているときの測光範囲は、 $\phi 12\text{mm}$ 相当になります。

b6：基準露出レベルの調節

MENUボタン →  カスタムメニュー

適正露出の基準を撮影者の好みに合わせ、測光モードごとに明るめ（＋側）または暗め（－側）に調節できます。1/6段ステップ幅で±1段の範囲で設定できます。初期設定は0です。

☒ 基準露出レベルの調節について

- カスタムメニュー b6 [基準露出レベルの調節] を0以外に設定しても、 マークは表示されませんのでご注意ください。設定した基準露出レベルは、カスタムメニュー b6の画面でのみ確認できます。
- 基準露出レベルの調節の設定は、ソーボタンリセットでは解除できません。

c：AEロック・タイマー

c1：半押しAEロック

MENUボタン →  カスタムメニュー

シャッターボタンを半押ししたときにAEロックを行うかどうかを設定できます。

c2：半押しタイマー

MENUボタン →  カスタムメニュー

シャッターボタンを半押ししてから何も操作しないで一定時間が過ぎると、待機状態に入ります。この待機状態になるまでの時間を変更できます。

- 待機状態になると、表示パネルのシャッタースピードと絞り値の表示とファインダー内の表示が消灯します。
- 半押しタイマーを延長すると、バッテリーの消耗が早くなります。

c3：セルフタイマー

MENUボタン →  カスタムメニュー

セルフタイマー撮影時（□106）にシャッターボタンを全押ししてからシャッターがきれるまでの時間と、撮影するコマ数、連続撮影するときの撮影間隔を設定できます。

時間	シャッターがきれるまでの時間を選べます。
撮影コマ数	マルチセレクトターの $\odot$ または $\ominus$ を押して、1コマ～9コマの間で設定できます。
連続撮影間隔	〔撮影コマ数〕を2コマ以上に設定した場合に、連続撮影するときの撮影間隔を選べます。

c4：モニターのパワーオフ時間

MENUボタン →  カスタムメニュー

液晶モニターが自動的に消灯するまでの時間を変更できます。

- [画像の再生]、[メニュー表示]、[インフォ画面表示]、[撮影直後の画像確認]、[ライブビュー表示] で液晶モニターが自動的に消灯するまでの時間を個別に設定できます。
- 初期設定は、[画像の再生] と [インフォ画面表示] は10秒、[メニュー表示] は1分、[撮影直後の画像確認] は4秒、[ライブビュー表示] は10分です。
- 液晶モニターの表示時間を延長すると、バッテリーの消耗が早くなります。

c5：リモコン待機時間（ML-L3）

MENUボタン →  カスタムメニュー

リモコンモード（) 194) に設定してから、カメラがリモコンからの信号を待ち受ける時間を設定します。

- リモコン待機時間を長くすると、カメラのバッテリーの消耗が早くなります。
- リモコンモードにしてから、リモコン撮影をしないままで受信待機時間が過ぎると、リモコンモードが解除され、静止画撮影メニュー [リモコンモード設定 (ML-L3)] が [しない] になります。

d：撮影・記録・表示

d1：電子音設定

MENUボタン →  カスタムメニュー

電子音の音の高さや音量を設定できます。

■ 音量

電子音の音量を設定できます。

- **〔電子音なし〕** を選ぶと、電子音は鳴りません。
- **〔音量〕** を **〔電子音なし〕** 以外に設定すると、次の場合に電子音が鳴ります。
 - セルフタイマー作動中
 - 2秒リモコン撮影 (□195) の作動中
 - 瞬時リモコン撮影またはミラーアップリモコン撮影 (□195) の完了時
 - 微速度撮影終了時 (□229)
 - オートフォーカスのピントが合ったとき (ただし、AFモード (□119) が **AF-C** のとき、または **AF-A** で自動的に **AF-C** が選ばれた場合、電子音は鳴りません)
 - 「LOCK」したSD カードをカメラに入れてシャッターをきろうとしたとき (□32)

■ 音の高さ

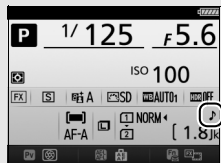
電子音の音の高さを **〔高音〕** と **〔低音〕** から選べます。

✓ 動画ライブビュー時および静音撮影時の電子音について

動画ライブビュー時（□66）およびリリースモードが**Q**または**Qc**（□104）の場合は、[電子音設定] の設定にかかわらず、ピントが合ったときの電子音は鳴りません。

✎ 電子音設定時の表示について

[音量] が [電子音なし] 以外の場合はインフォ画面に♪（電子音あり）マークが表示されます。



d2：低速連続撮影

MENUボタン → ✎ カスタムメニュー

リリースモードが**CL**のときの連続撮影速度を [6コマ/秒] ～ [1コマ/秒] の間で設定できます（□104）。

d3：連続撮影コマ数

MENUボタン → ✎ カスタムメニュー

連続撮影を最大何コマまで継続できるかを設定できます。マルチセレクトの⬆️または⬆️を押して、1コマ～100コマの間で設定します。

- シャッタースピードが4秒以上の場合は、連続撮影のコマ数は制限されません。

✎ 連続撮影コマ数について

カスタムメニュー d3 [連続撮影コマ数] で設定するコマ数は、連続撮影を継続できる最大のコマ数です。ただし、連続撮影速度を維持したまま連続撮影できるコマ数には、画質モードなどによって上限があります（□495）。このコマ数を超えると「」と表示され、連続撮影速度は低下します。

d4：露出ディレーモード

MENUボタン →  カスタムメニュー

顕微鏡撮影時などのカメラブレを最小限に抑えるため、シャッターボタンを押すと最初にミラーが作動し、約1～3秒後にシャッターがきれるように変更できます。

d5：フラッシュ使用推奨表示

MENUボタン →  カスタムメニュー

被写体が暗いときや逆光など、フラッシュが必要な撮影条件でフラッシュを使わずに撮影しようとした場合に、ファインダー内のレディーライト  が点滅してフラッシュの使用をおすすめします。[しない] を選ぶと、撮影状況にかかわらず、 は点滅しません。

d6：連番モード

MENUボタン →  カスタムメニュー

ファイル名に使われるファイル番号の連番について設定できます。

する	SDカードを交換したり、画像を記録するフォルダーを変更しても、連番でファイル番号を付けます。複数のカードを使って撮影してもファイル番号が重複しないため、撮影後の画像ファイルを管理しやすくなります。
しない	SDカードや画像を記録するフォルダーを変更するたびに、ファイル番号が「0001」に戻ります。画像を記録するフォルダー内にすでに画像ファイルがある場合は、次の番号からファイル番号が付きます。 • 連番モードを [する] から [しない] に変更しても、カメラはファイル番号を記憶しています。次に [する] に切り換えたときは、以前記憶した番号からの連番でファイル名が付きます。
リセット	[する] を設定したときのファイル番号をリセットします。リセットした後に撮影を行うと、現在選択中のフォルダーに画像ファイルがない場合は0001から連番で画像が記録されます。すでにファイルがある場合には、そのファイル番号の次の番号からファイル番号が付きます。

🔍 ファイル番号について

- ファイル番号が 9999 に達したときに撮影を行うと、自動的に新規フォルダーが作成され、ファイル番号が 0001 番に戻ります。
- フォルダー番号が 999 に達しているときにファイル番号が 9999 に達するか、このフォルダー内のファイル数が 999 個に達すると、それ以上フォルダーを作成できず、シャッターがきけなくなります。この場合は、カスタムメニュー d6 [連番モード] を [リセット] した後、SD カードを初期化するか、交換してください。

✔ フォルダーの自動作成について

- 撮影中に記録フォルダー内に 999 個のファイルが記録された場合、SD カード内に存在する最大フォルダー番号 + 1 という番号のフォルダーを自動的に作成して、記録フォルダーとしてそのフォルダーを選びます。
- 撮影中にファイル番号が 9999 となった場合、SD カード内に存在する最大フォルダー番号 + 1 の番号のフォルダーを自動的に作成して、記録フォルダーとしてそのフォルダーを選びます。

d7 : ファインダー内格子線表示

MENU ボタン → 🖋 カスタムメニュー

ファインダー内に構図用格子線 (□ 10) を表示するかしないかを設定できます。

d8 : ISO 感度の簡易設定

MENU ボタン → 🖋 カスタムメニュー

[する] を選べると、コマンドダイヤルの操作だけで ISO 感度を変更できます。

する	撮影モードが P 、 S 、 A のときのみコマンドダイヤルで ISO 感度を変更できます。 • 撮影モード P、S : サブコマンドダイヤルで ISO 感度を変更します。 • 撮影モード A : メインコマンドダイヤルで ISO 感度を変更します。
しない	🔍 (ISO) ボタンを押しながら、コマンドダイヤルを回して ISO 感度を設定します。

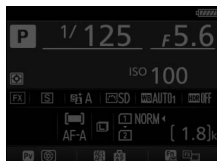
d9：インフォ画面の表示設定

MENUボタン → 鉛筆アイコン カスタムメニュー

明るい場所や暗い場所で液晶モニターが見づらいときにインフォ画面（□12）の見え方を設定できます。



黒文字表示



白文字表示

AUTO 自動	インフォ画面の表示を見やすくするように、カメラが自動的に白黒反転します。明るい場所では黒文字表示に、暗い場所では明るさを抑えた白文字表示に切り替わります。	
	手動でインフォ画面の表示を切り換えます。	
手動	B 黒文字	明るい場所で撮影するときにインフォ画面が見やすいように、文字を黒く表示します。
	W 白文字	暗い場所で撮影するときにインフォ画面が見やすいように、文字を白く表示します。

d10：イルミネーター点灯

MENUボタン → 鉛筆アイコン カスタムメニュー

〔しない〕に設定すると、電源スイッチを $\star$ に合わせたときだけ表示パネルのイルミネーター（照明）が点灯します（□3）。〔する〕に設定すると、電源スイッチを $\star$ に合わせなくても、半押しタイマー（□38）の作動中には表示パネルのイルミネーター（照明）を常に点灯します。ただし、バッテリーの消耗は早くなります。

d11 : MB-D16電池設定

MENUボタン →  カスタムメニュー

別売のマルチパワーバッテリーパックMB-D16に単3形電池を入れて使用するとき、カメラが電池残量をより正確に表示できるように、電池の種類を指定してください。ただし、Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL15を使用する場合は、設定する必要がありません。

MB-D16で使える市販の単3形電池は、アルカリ電池、ニッケル水素充電電池、リチウム電池です。次の表に合わせて正しく設定してください。

- 電池設定を正しく設定していない場合、カメラが正常に作動しないおそれがあります。

	対応する電池
 LR6 アルカリ単3形電池	アルカリ単3形電池
 Ni-MH Ni-MH単3形充電電池	ニッケル水素単3形充電電池
 FR6 リチウム単3形電池	リチウム単3形電池

単3形電池の使用について

別売のマルチパワーバッテリーパックMB-D16に単3形電池（アルカリ電池、ニッケル水素充電電池、リチウム電池）を電源として使用するときは、次のことにご注意ください。

- アルカリ電池を電源として使用した場合、他の電源を使用した場合と比較して撮影できるコマ数が極端に減少します。通常の撮影では他の電源を使用し、アルカリ電池は緊急用として使用してください。また、低温時は使用しないでください。
- 電池のメーカーや銘柄によっては、撮影できるコマ数が少なかったり、使用できない場合があります。
- 周囲の温度が20℃よりも低い環境では、撮影できるコマ数が極端に減少する場合があります。
- 電池の使用推奨期間内であっても、保管状態によっては撮影できるコマ数が減少したり、使用できない場合があります。
- 単3形電池を使っているときは、表示パネルとファインダー内の電池残量表示は次のようになります。

表示パネル	ファインダー	意味
	表示なし	バッテリーは充分に残っています。
		バッテリーが残り少なくなりました。バッテリー交換の準備をしてください。
 (点滅)	 (点滅)	撮影できません。バッテリーを交換してください。

d12：電池の使用順序

MENUボタン → 鉛筆アイコン カスタムメニュー

別売のマルチパワーバッテリーパックMB-D16装着時に、MB-D16に入っている電池から使用するか、カメラに入っているバッテリーから使用するかを設定します。

鉛筆アイコン マルチパワーバッテリーパックMB-D16について

- 別売のマルチパワーバッテリーパックMB-D16をカメラに装着すると、インフォ画面のMB-D16のバッテリー種別表示は、使用しているバッテリーにより、次のように変わります。



MB-D16の バッテリー種別表示	MB-D16で使用しているバッテリー
EL15	Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL15
LR6/AA	アルカリ単3形電池
Ni-MH/AA	ニッケル水素単3形充電電池
FR6/AA	リチウム単3形電池

- 別売のパワーコネクタとACアダプターをMB-D16に接続している場合は、カスタムメニュー d12 [電池の使用順序] の設定にかかわらず、常にACアダプターを使用します。

e : フラッシュ・BKT撮影

e1 : フラッシュ撮影同調速度

MENUボタン →  カスタムメニュー

フラッシュ撮影時の同調速度を設定できます。

1/250秒 (オートFP)	フラッシュ撮影時の同調速度を1/250秒または1/200秒に設定します。別売のオートFPハイスピードシンクロ対応スピードライト (□440) 使用時は1/250秒または1/200秒より速いシャッタースピードでは自動的にFP発光に切り替わります。※
1/200秒 (オートFP)	
1/200秒	
1/160秒	
1/125秒	フラッシュ撮影時の同調速度を、1/200～1/60秒の範囲で設定できます。
1/100秒	
1/80秒	
1/60秒	

※撮影モード**P**または**A**で、表示パネルまたはファインダー内表示のシャッタースピードがカスタムメニューe1 [フラッシュ撮影同調速度] で設定した同調速度を示す場合、実際に制御されるシャッタースピードが同調速度よりわずかでも高速側であれば、FP発光に切り替わります。

シャッタースピードの同調速度を固定するには

撮影モード**S**または**M**のときに、シャッタースピードの同調速度をカスタムメニューe1 [フラッシュ撮影同調速度] で設定した値に固定するには、最も低速側 (30秒または-) の次の位置を選んでください。表示パネルとファインダー内表示に**X** (フラッシュシンクロマーク) と設定した同調速度が表示されます。

■ オートFPハイスピードシンクロについて

カスタムメニュー e1 [フラッシュ撮影同調速度] (□344) を [1/250秒 (オートFP)] または [1/200秒 (オートFP)] に設定すると、内蔵フラッシュや別売のスピードライト (□439) を使って1/250秒または1/200秒までフラッシュ同調ができます。また、別売のオートFP ハイスピードシンクロ対応スピードライト使用時にシャッタースピードが1/250秒または1/200秒より速くなると、自動的にFP発光に切り替わります。

シャッター スピード	1/250秒 (オートFP)		1/200秒 (オートFP)		1/200秒	
	内蔵 フラッシュ	スピード ライト (別売)	内蔵 フラッシュ	スピード ライト (別売)	内蔵 フラッシュ	スピード ライト (別売)
1/4000～ 1/250秒 より高速側	—	FP発光	—	FP発光	—	—
1/250～ 1/200秒 より高速側	フラッシュ 同調 *	フラッシュ 同調 *	—	FP発光	—	—
1/200～ 30秒	フラッシュ 同調	フラッシュ 同調	フラッシュ 同調	フラッシュ 同調	フラッシュ 同調	フラッシュ 同調

※ ガイドナンバーは、シャッタースピードが速くなるほど小さくなりますが、FP発光時よりは大きくなります。

🔍 FP発光について

フラッシュ撮影時のシャッタースピードをカメラの最高速度まで設定できます (□187)。[1/250秒 (オートFP)] や [1/200秒 (オートFP)] に設定すると、シャッタースピードがフラッシュ撮影同調速度よりも高速側になった場合、自動的にFP発光に切り替わります。日中でも、レンズの絞りを開いて背景をぼかした撮影ができます。

- FP 発光に切り替わると、インフォ画面のフラッシュモードに「FP」が表示されます (□185、444)。

e2：フラッシュ時シャッタースピード制限

MENUボタン → カスタムメニュー

撮影モードが**P**または**A**の場合のフラッシュ撮影時のシャッタースピードの低速側の制限を設定できます。

- スローシンクロモード、後幕シンクロモード、赤目軽減スローシンクロモード時や撮影モードが**S**または**M**の場合には、カスタムメニューe2「フラッシュ時シャッタースピード制限」の設定にかかわらず、シャッタースピードの低速側の制限は30秒になります。

e3：内蔵フラッシュ発光

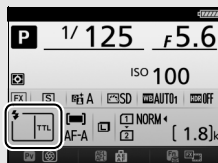
MENUボタン → カスタムメニュー

内蔵フラッシュの発光方式を設定できます。

TTL  TTLモード	内蔵フラッシュの光量は、撮影状況に応じて自動的に調節されます。
M  マニュアル発光モード	指定した発光量で内蔵フラッシュが発光します (□347)。モニター発光は行いません。
RPT  リピーティング発光モード	1回の露光中に、内蔵フラッシュを繰り返し連続発光させて、被写体の連続的な動きを分解写真のように写し込みます (□347)。
CMD  コマンダーモード	内蔵フラッシュを、カメラから離れた別売のスピードライトで構成される補助灯(リモート)グループをワイヤレス制御するためのコマンダーとして利用します (□348)。

内蔵フラッシュの発光方式について

内蔵フラッシュの発光方式は、インフォ画面のフラッシュモードで確認できます (□14、185)。



調光補正マークの表示について

「マニュアル発光モード」または「リピーティング発光モード」に設定すると、表示パネルとファインダー内表示に**1/2**マークが点滅します。

別売スピードライトSB-500、SB-400またはSB-300を装着している場合について

別売スピードライトSB-500、SB-400、SB-300を装着してスピードライトの電源をONにすると、カスタムメニュー e3 「内蔵フラッシュ発光」がe3 「外付けフラッシュ発光」に変わります。SB-500装着時はスピードライトの発光方式を「TTLモード」、「マニュアル発光モード」または「コマンダーモード」に設定できます。SB-400またはSB-300装着時は「TTLモード」または「マニュアル発光モード」に設定できます。

■ マニュアル発光モード

発光量を選べます。

- 「Full」（フル発光）に設定した場合、内蔵フラッシュのガイドナンバーは約12（ISO 100・m、20℃）となります。

■ リピーティング発光モード

「リピーティング発光モード」を選べると、右のような画面が表示されます。



マルチセクターの $\odot$ または $\odot$ で「発光量」、「回数」、「間隔」の各設定項目を切り換え、 $\odot$ または $\odot$ で数値を設定してください。

発光量	1回あたりの発光量を設定します。発光量は、1/4～1/128で設定できます。
回数	1回の露光中に発光する回数を設定します。設定できる発光回数は、発光量によって変わります。
間隔	発光間隔を、Hz（ヘルツ：1秒あたりの発光回数）単位で設定します。

リピーティング発光モードの発光回数について

- [回数] で設定する数値は、最大の発光回数です。シャッタースピードを高速にしたり、発光間隔を長くすると、実際の発光回数は設定よりも少なくなることがあります。
- 設定できる発光回数は、[発光量] によって次のように変わります。

発光量	回数													
	2	3	4	5	6	7	8	9	10	15	20	25	30	35
1/4	○													
1/8	○	○	○	○										
1/16	○	○	○	○	○	○	○	○	○					
1/32	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
1/64	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
1/128	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

コマンダーモード

内蔵フラッシュを主灯（マスターフラッシュ）として、カメラから離れた別売のスピードライトで構成される補助灯（リモート）グループをワイヤレス（アドバンスドワイヤレスライティング、439）で制御するためのモードです。

内蔵フラッシュや2つの補助灯グループのスピードライトに、それぞれ発光モードと調光補正量（または発光量）を設定できます。

[コマンダーモード] を選べると、右のような画面が表示されます。



マルチセクターの④または⑤で項目を切り換え、⑥または⑦で発光モードや補正量（または発光量）を設定してください。

	発光 モード	内容
内蔵 フラッシュ	TTL	内蔵フラッシュは、i-TTL調光を行います。右側の〔補正量〕欄で、内蔵フラッシュの調光補正量を設定（1/3 段ステップで±3 段）します。
	M	内蔵フラッシュはマニュアル調光を行います。右側の〔補正量〕欄で、内蔵フラッシュの発光量を選びます。
	--	内蔵フラッシュは発光せず、補助灯だけが発光します。ただし、撮影時にモニター発光を行えるよう、  (Fn) ボタンを押して内蔵フラッシュを上げておいてください。
Aグループ	TTL	A グループの全ての補助灯が、i-TTL 調光を行います。右側の〔補正量〕欄で、Aグループの補助灯の調光補正量を設定（1/3 段ステップで±3 段）します。
	AA※	Aグループの全ての補助灯が、絞り連動外部自動調光を行います。右側の〔補正量〕欄で、Aグループの補助灯の調光補正量を設定（1/3 段ステップで±3 段）します。
	M	Aグループの全ての補助灯が、マニュアル調光を行います。右側の〔補正量〕欄で、Aグループの補助灯の発光量を選びます。
	--	Aグループの補助灯は発光しません。
Bグループ		Bグループの補助灯について、Aグループと同様の設定を行います。
チャンネル		補助灯と通信を行うためのチャンネルを、1～4のいずれかに設定します。全ての補助灯のチャンネルを、ここで設定したチャンネルに合わせる必要があります。

※ 絞り連動外部自動調光対応スピードライトの場合のみ発光します（□439）。

別売スピードライトSB-500について

別売スピードライトSB-500の装着時は、〔コマンダーモード〕内の〔内蔵フラッシュ〕が〔外付けフラッシュ〕に変わります。

コマンダーモードでの撮影手順は、次の通りです。

1 右の画面で、[内蔵フラッシュ] の
[発光モード] と [補正量] を設定
する

- 発光モードを [---] (非発光) にした場合、[補正量] が設定できません。



2 同様に [A グループ] の [発光
モード] と [補正量] を設定する



3 Bグループの補助灯を使用する場
合は、同様に [Bグループ] の
[発光モード] と [補正量] を設
定する



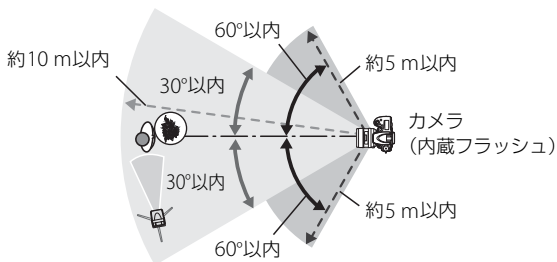
4 [チャンネル] を設定する



5 (OK) ボタンを押して設定を有効にする

6 構図を決め、カメラと補助灯（別売のスピードライト）を配置する

- 補助灯は下図の範囲内に配置してください。



補助灯のワイヤレスリモートセンサー窓をカメラ側に向けて設定してください。

- 周辺環境により、上図内の距離は多少変化します。

7 使用する全ての補助灯の電源をONにし、グループとチャンネルを設定する

- 補助灯の設定方法については、スピードライトの使用説明書をご覧ください。
- 補助灯のチャンネルは、必ずカメラで設定したものと同一チャンネル（1～4）に設定してください。

8 ボタンを押して、内蔵フラッシュを上げる

- 内蔵フラッシュの「発光モード」を「--」に設定した場合も、撮影時にモニター発光を行えるよう、内蔵フラッシュを上げておいてください。

9 カメラのファインダー内表示と全ての補助灯でレディーライトが点灯していることを確認し、ピントを合わせて撮影する

- コマンダーモードはFVロック（ 191）と組み合わせて撮影することもできます。

🔧 内蔵フラッシュを発光させない場合の表示について

手順1で[内蔵フラッシュ]の[発光モード]を[--]にして内蔵フラッシュを上げると、インフォ画面のフラッシュモード表示から🔧が消灯します。

🔧 コマンドモード時の調光補正と表示について

- コマンドモード時に、🔧 (🔧) ボタンとサブコマンドダイヤルで調光補正を行うと、[内蔵フラッシュ]、[A グループ]、[B グループ]のそれぞれの[補正量]に加算されます。
- [内蔵フラッシュ]、[Aグループ]、[Bグループ]のいずれかを[TTL]または[AA]にして補正量を0以外に設定すると、表示パネルとファインダー内表示に🔧が点灯します。
- [内蔵フラッシュ]を[M]に設定すると、表示パネルとファインダー内表示に🔧が点滅します。

🔍 コマンドモードについてのご注意

- 補助灯は、内蔵フラッシュの光がセンサー窓に入る位置（通常はカメラより被写体に近い位置）に置きます。特に、手持ちで撮影するときには、内蔵フラッシュの光が確実にセンサー窓に入るように、補助灯はカメラより前に構えてください。
- 補助灯の直接光または強い反射光が、カメラの撮影レンズ（[TTL]設定時）や他の補助灯の外部自動調光用受光窓（[AA]設定時）に入らないようにしてください。光が入ると、適正露出が得られません。
- 同時に使用できる補助灯の台数に制限はありません。しかし、センサーに他の補助灯の強い光が入ると、正常動作できない場合があるため、実用上は3台程度が限度です。
- [内蔵フラッシュ]の[発光モード]を[--]にした場合でも、補助灯の発光タイミングを合わせるため、モニター発光とは別に、撮影中に内蔵フラッシュが少量発光を行います。近距離撮影を行う場合、この少量発光が画像に写り込む場合があります。画像への影響を防ぐには、低いISO感度、または小さい絞り（大きい絞り値）で撮影するか、別売の内蔵フラッシュ用赤外パネルSG-3IRをお使いください。少量発光の光量が大きくなる後幕シンクロ撮影では、内蔵フラッシュ用赤外パネルSG-3IRをお使いください。
- 撮影準備と配置が終わったら、必ずテスト撮影を行って、画像を確認してください。

e4：フラッシュ使用時の露出補正

MENUボタン →  カスタムメニュー

フラッシュ撮影時に露出補正を設定した場合のフラッシュの調光を設定できます。

  全体を補正	露出と調光量を同時に補正します。全体の露出が変化します。
 背景のみ補正	背景の露出だけを補正します。

e5：モデリング発光

MENUボタン →  カスタムメニュー

内蔵フラッシュや別売のニコンクリエイティブライティングシステム対応スピードライト (□437) 使用時にカメラのPvボタンを押したときに (□93)、陰影の状況を把握するためのモデリング発光を行わないように設定できます。

e6：オートブラケットिंगのセット

MENUボタン →  カスタムメニュー

オートブラケットिंग (□203) の種類を設定できます。

 AE・フラッシュ ブラケットिंग	露出値 (AE) とフラッシュの発光量を変えながら撮影します。
AE AEブラケットिंग	露出値を変えながら撮影します。
 フラッシュ ブラケットिंग	フラッシュの発光量を変えながら撮影します。
WB WBブラケットिंग (□208)	1回の撮影でホワイトバランス (WB) を変えた画像を記録します。複数の光源が混在しているなど、ホワイトバランスを決めにくいときや、微妙な白の色みを好みで選びたいときなどに便利です。RAW画像を含む画質モードを設定したときは、WBブラケットिंगは使用できません。
 ADLブラケットिंग (□211)	アクティブD-ライティング (□175) の効果の度合いを変えながら撮影します。

e7 : BKTの順序

MENUボタン →  カスタムメニュー

オートブラケットの補正順序を変更できます。

[N] [0] → [-] → [+]	「補正なし」→「－側に補正」→「＋側に補正」の順になります。
→+ [-] → [0] → [+]	「－側に補正」→「補正なし」→「＋側に補正」の順になります。

- カスタムメニュー e6 [オートブラケットのセット] が [ADLブラケット] の場合、e7の設定を変更しても補正順序は変わりません。

f : 操作

f1 : OKボタンの機能

MENUボタン →  カスタムメニュー

ファインダー撮影時とライブビュー撮影時または再生時に  ボタンを押したときの機能を設定できます（1コマ表示中の画像が動画の場合、[再生モード] の設定にかかわらず、 ボタンを押すと動画を再生します）。

■■ 撮影モード

RESET フォーカスポイント 中央リセット	 ボタンを押すと、フォーカスポイントが中央に移動します。
 選択フォーカス ポイント表示	 ボタンを押すと、選択中のフォーカスポイントが点灯します。
設定しない	 ボタンは機能しません。

再生モード

 1コマとサムネイルの切り換え	OK ボタンを押すごとに、1コマ表示とサムネイル表示（4コマ、9コマ、72コマ）を切り換えます。
 ヒストグラム表示	OK ボタンを押している間、ヒストグラム（□246）を表示します。サムネイル表示時もヒストグラム表示できます。
 拡大画面との切り換え	OK ボタンを押すと、撮影時のフォーカスポイントを中心に、設定した拡大率で拡大表示します。もう一度OK ボタンを押すと、元の表示に戻ります。 • [拡大画面との切り換え] を選んで$\blacktriangleright$を押すと、拡大率を[低倍率（50%）]、[等倍（100%）]、[高倍率（200%）] から選べます。 • サムネイル表示時も拡大表示できます。
 スロット/ フォルダー指定	OK ボタンを押すと、[スロット/フォルダー指定メニュー] 画面（□241）が表示され、画像を再生するスロットとフォルダーを指定できます。

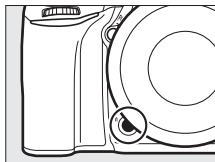
ライブビュー

RESET フォーカスポイント 中央リセット	ライブビュー表示中にOK ボタンを押すと、フォーカスポイントが画面中央に移動します。
 拡大画面との切り換え	ライブビュー表示中にOK ボタンを押すと、フォーカスポイントを中心に、設定した拡大率で拡大表示します。もう一度OK ボタンを押すと、元の表示に戻ります。 • [拡大画面との切り換え] を選んで$\blacktriangleright$を押すと、拡大率を[低倍率（50%）]、[等倍（100%）]、[高倍率（200%）] から選べます。
設定しない	OK ボタンは機能しません。

f2 : Fnボタンの機能

MENUボタン → カスタムメニュー

Fn ボタンを単独で押したときの機能と、**Fn** ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回したときの機能を設定できます。



■ 押し時の動作

Fn ボタンを単独で押したときの機能を設定できます。

 プレビュー	ファインダー撮影時に Fn ボタンを押し続けると、レンズの絞り羽根が絞り込まれ、 Fn ボタンを押している間、被写界深度が確認できます (□93)。静止画ライブビュー時に Fn ボタンを1回押すと開放絞りになり、ピントを確認しやすくなります。もう一度 Fn ボタンを押すと、設定した絞り値に絞り込まれます (□56)。
 FV-L	内蔵フラッシュまたは別売のスピードライト (□440) 使用時は、 Fn ボタンを1回押すとFVロック (□191) を行い、もう一度 Fn ボタンを押すと解除します。
 AE-L/AF-L	Fn ボタンを押している間、AEロックとフォーカスロックを同時に行います。
 AE-L	Fn ボタンを押している間、AEロックを行います。
 AE-L (ホールド)	Fn ボタンを1回押すとAEロックを行い、AEロック状態が維持されます。シャッターをきいてもAEロックは解除されません。ただし、もう一度 Fn ボタンを押すか、半押しタイマーがオフになると、AEロックを解除します。
 AF-L	Fn ボタンを押している間、フォーカスロックを行います。
 AF-ON	Fn ボタンを押すと、オートフォーカスが作動します。この場合、シャッターボタンの半押しではオートフォーカスは作動しません。

 フラッシュ 発光禁止	Fn ボタンを押している間、フラッシュは発光禁止になります。
BKT  BKT自動連写	カスタムメニュー e6 [オートブラケットングのセット] が [WBブラケットング] 以外の場合でリリースモードが CL 、 CH 、または QC のときは、 Fn ボタンを押しながらシャッターボタンを全押ししている間、1 回分のブラケットング設定コマ数を撮影し終えた後も、引き続きブラケットング撮影をします。また、リリースモードが S または Q のときは、 Fn ボタンを押しながらシャッターボタンを全押しし続けると、1 回分のブラケットング設定コマ数を連続撮影します。 [オートブラケットングのセット] が [WBブラケットング] の場合は、 Fn ボタンを押しながらシャッターボタンを全押ししている間連続撮影して、各コマに対して WB ブラケットングを行います。
+RAW  プラスRAW記録	画質モードが JPEG (FINE)、JPEG (NORMAL)、JPEG (BASIC) の場合、 Fn ボタンを押すとファインダーにプラスRAW記録マークが表示され、押してから1回の撮影のみRAW画像がJPEG画像と同時に記録されます。撮影後シャッターボタンから指を放すか、もう一度 Fn ボタンを押すと [プラスRAW記録] を解除します。
 マルチパターン 測光簡易設定	Fn ボタンを押している間、測光モードがマルチパターン測光になります。
 中央部重点測光 簡易設定	Fn ボタンを押している間、測光モードが中央部重点測光になります。
 スポット測光 簡易設定	Fn ボタンを押している間、測光モードがスポット測光になります。
 * ハイライト重点 測光簡易設定	Fn ボタンを押している間、測光モードがハイライト重点測光になります。
 ファインダー内 格子線表示	Fn ボタンを1回押すと、ファインダーに格子線を表示します (□10)。もう一度 Fn ボタンを押すと、格子線表示を終了します。
 ファインダー内 水準器	Fn ボタンを1回押すと、ファインダーにローリング方向の水準器インジケータを表示します (□359)。もう一度 Fn ボタンを押すと、水準器表示を終了します。
 マイメニュー	Fn ボタンを押すと、マイメニュー (□424) を表示します。

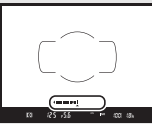
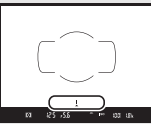
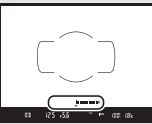
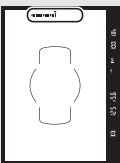
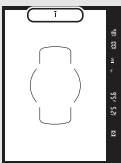
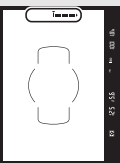
 マイメニューの トップ項目先へ ジャンプ	Fn ボタンを1回押すと、マイメニューの最上位に登録してある項目へジャンプします。よく使うメニュー項目をマイメニューの最上位に登録して、この機能を使うと便利です。
 再生	Fn ボタンに  ボタンと同じ機能を割り当てます。望遠レンズなどを使用していて、  ボタンを左手で操作できないときに便利です。
設定しない	Fn ボタンは機能しません。

【押し時の動作】と【コマンドダイヤル併用時の動作】が併用できない場合について

【押し時の動作】と【コマンドダイヤル併用時の動作】の機能が同時に設定できない場合は、メッセージが表示され、先に設定していた内容が【設定しない】に変更されます。

水準器インジケータについて

[押し時の動作] を [ファインダー内水準器] に設定して **Fn** ボタンを押すと、カメラに内蔵している傾斜センサーを使って、ファインダーにローリング方向の水準器インジケータを表示します。この「水準器インジケータ」の見方は次の通りです。

	カメラが時計回りに傾いている場合	カメラが正位置の場合（傾いていない場合）	カメラが反時計回りに傾いている場合
横位置撮影時 			
縦位置撮影時 			

- カメラを前または後ろに大きく傾けると、水準器の誤差が大きくなりますのでご注意ください。
- セットアップメニューの [水準器表示] (□390) では、液晶モニターに水準器を表示できます。

■ コマンドダイヤル併用時の動作

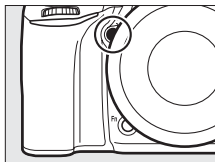
Fn ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回したときの機能を設定できます。

 撮像範囲選択	Fn ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、 [撮像範囲設定] (□109) の設定を切り換えられます。
 シャッター・絞り値1段選択	カスタムメニュー b2 [露出設定ステップ幅] の設定にかかわらず、シャッタースピードまたは絞り値を1段ステップで設定できます。 - 撮影モードがSまたはMのとき、Fn ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、シャッタースピードを1段ステップで設定します。 - 撮影モードがAまたはMのとき、Fn ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すと、絞り値を1段ステップで設定します。
Non-CPU 手動設定済みレンズの選択	Fn ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、現在使用中のレンズの情報を、セットアップメニューの [レンズ情報手動設定] (□232) で設定したレンズNo.のものに切り換えます。
 アクティブ D-ライティング 設定	Fn ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、アクティブ D-ライティング (□175) の効果の度合いが切り替わります。
HDR HDR (ハイダイナミックレンジ)	Fn ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、 [HDRモード] が切り替わります (□177)。 Fn ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すと、 [HDR強度] を変更できます。
 露出ディレーモード	Fn ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、露出ディレーモード (□338) の設定を切り換えられます。
設定しない	Fn ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回しても機能しません。

f3：プレビューボタンの機能

MENUボタン →  カスタムメニュー

Pv ボタンを単独で押したときの機能と、コマンドダイヤルを併用したときの機能を設定できます。



■ 押し時の動作

Pv ボタンを単独で押したときの機能は、カスタムメニュー f2 [Fnボタンの機能] → [押し時の動作] (□356) と同じです。初期設定は [プレビュー] です。

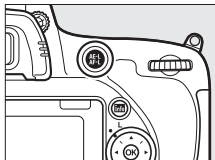
■ コマンドダイヤル併用時の動作

Pv ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回したときの機能は、カスタムメニュー f2 [Fnボタンの機能] → [コマンドダイヤル併用時の動作] (□360) と同じです。初期設定は [設定しない] です。

f4：AE/AFロックボタンの機能

MENUボタン →  カスタムメニュー

 AE/AFロックボタンを単独で押したときの機能と、 AE/AFロックボタンを押しながらコマンドダイヤルを回したときの機能を設定できます。



■ 押し時の動作

AE/AF ロックボタンを単独で押したときの機能を設定できます。

 AE-L/AF-L	AE/AF ロックボタンを押している間、AE ロックとフォーカスロックを同時に行います。
 AE-L	AE/AF ロックボタンを押している間、AE ロックを行います。
 AE-L (ホールド)	AE/AF ロックボタンを1回押すとAE ロックを行い、AE ロック状態が維持されます。シャッターをきいてもAE ロックは解除されません。ただし、もう一度AE/AF ロックボタンを押すか、半押しタイマーがオフになると、AE ロックを解除します。
 AF-L	AE/AF ロックボタンを押している間、フォーカスロックを行います。
 AF-ON	AE/AF ロックボタンを押すと、オートフォーカスが作動します。この場合、シャッターボタンの半押しではオートフォーカスは作動しません。
 FV-L	内蔵フラッシュまたは別売のスピードライト (□437) 使用時は、AE/AF ロックボタンを1回押すとFV ロック (□191) を行い、もう一度AE/AF ロックボタンを押すと解除します。
設定しない	AE/AF ロックボタンは機能しません。

■ コマンドダイヤル併用時の動作

AE/AF ロックボタンを押しながらコマンドダイヤルを回したときの機能を設定できます。

 撮像範囲選択	AE/AF ロックボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、[撮像範囲設定] (□109) の設定を切り換えられます。
Non-CPU 手動設定済みレンズの選択	AE/AF ロックボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、現在使用中のレンズの情報を、セットアップメニューの[レンズ情報手動設定] (□232) で設定したレンズNo.のものに切り換えます。
設定しない	AE/AF ロックボタンを押しながらコマンドダイヤルを回しても機能しません。

f5：コマンドダイヤルの設定

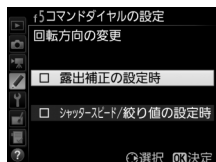
MENUボタン → 鉛筆アイコン カスタムメニュー

メインコマンドダイヤルとサブコマンドダイヤルの機能を変更できます。

■■ 回転方向の変更

露出補正の設定時またはシャッタースピード/絞り値の設定時に、メインコマンドダイヤルとサブコマンドダイヤルを操作するときの回転方向を逆方向に変更できます。

- [露出補正の設定時] または [シャッタースピード/絞り値の設定時] を選んでマルチセクターの  を押すと、項目の左側のチェックボックスがオン ☒ になります。もう一度  を押すと、チェックボックスがオフ ☐ になります。
-  ボタンを押すと、設定が完了します。
- 別売のマルチパワーバッテリーパックMB-D16のコマンドダイヤルの回転方向も変更されます。



■■ メインとサブの入れ換え

メインコマンドダイヤルとサブコマンドダイヤルの機能を入れ換えられます。

露出設定	[する] を選ぶと、メインコマンドダイヤルで絞り値を、サブコマンドダイヤルでシャッタースピードを設定します。[する(Aモード)] を選ぶと、撮影モードAのときのみ、メインコマンドダイヤルで絞り値を設定します。
AF設定	[する] を選ぶと、AFモードボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回してAFエリアモードを、サブコマンドダイヤルを回してAFモードを設定します。

- 別売のマルチパワーバッテリーパックMB-D16のコマンドダイヤルの機能も入れ替わります。

■■ 絞り値の設定方法

CPUレンズの装着時に、撮影モード**A**または**M**でレンズの絞りリングを使って絞り値を設定できるように変更できます。

サブコマンドダイヤル	サブコマンドダイヤルで絞り値をセットします（[メインとサブの入れ換え]の[露出設定]を[する]に設定した場合は、メインコマンドダイヤルで絞り値をセットします）。
絞りリング	レンズの絞りリングで絞り値をセットします。絞りリングによる中間絞りの設定は可能ですが、絞り値の表示は1段ステップになります。

- 絞りリングのないレンズ（Gタイプ、Eタイプレンズ）装着時は、[絞り値の設定方法]での設定にかかわらず、絞り値はサブコマンドダイヤルで設定します。
- 非CPUレンズ装着時は、[絞り値の設定方法]での設定にかかわらず、絞り値はレンズの絞りリングで設定します。

再生/メニュー画面で使用

画像のコマ送りやメニュー操作を、マルチセクターでの操作から、メインコマンドダイヤルとサブコマンドダイヤルの操作でも行えるように変更できます。

する	再生時： 1コマ表示時には、メインコマンドダイヤルで撮影画像をコマ送りします。サブコマンドダイヤルを回すと、[サブコマンドダイヤルで画像送り]で設定した方法でコマ送りします。 - サムネイル表示時には、メインコマンドダイヤルを回すと、黄色の枠（カーソル）が左右に移動し、サブコマンドダイヤルを回すと、ページを切り換えます。 メニュー画面表示時※： メインコマンドダイヤルで選択項目を切り換えます。サブコマンドダイヤルを時計方向に回すと、サブメニューに移動します。反時計回りに回すと、前の画面に戻ります。
ON  する（撮影後確認時を除く）	[する] と同じ内容ですが、撮影直後の画像確認時は操作できません。
しない	再生時の表示画像の切り換え、画像の選択、およびメニュー画面での項目の選択は、マルチセクターを操作して行います。

※ サブコマンドダイヤルでは項目を決定することはできません。項目を決定するには、 ボタンかマルチセクターの  を押してください。

サブコマンドダイヤルで画像送り

[再生/メニュー画面で使用] で [する] または [する（撮影後確認時を除く）] に設定した場合、1コマ表示時にサブコマンドダイヤルを回したときのコマ送りの方法を設定できます。

10コマ	10コマずつコマ送りします。
50コマ	50コマずつコマ送りします。
 フォルダー	再生フォルダーを切り換えます。

f6：ボタンのホールド設定

MENUボタン → カスタムメニュー

〔する〕に設定して対象のボタンを1回押すと、ボタンを放しても設定できる状態が維持され、コマンドダイヤル単独で設定できます。もう一度ボタンを押すか、シャッターボタンを半押しするか、半押しタイマーがオフになると、解除されます。対象のボタンは次の通りです。

対象のボタン	□
ボタン	142
(BKT) ボタン	181
(ISO) ボタン	132
(QUAL) ボタン	114、117
(WB) ボタン	145、149、 152、154、 158
AFモードボタン	57、59、 120、123
(FORMAT) ボタン	138

対象のボタン	□
BKTボタン	204、208、 211
F _n ボタン※1	356
P _v ボタン※2	361
AE/AFロックボタン※3	361
動画撮影ボタン※4	368

- ※1 カスタムメニュー f2 [F_nボタンの機能] の [コマンドダイヤル併用時の動作] で [手動設定済みレンズの選択]、[アクティブD-ライティング設定]、[HDR (ハイダイナミックレンジ)]、[露出ディレーモード] のいずれかがF_nボタンに割り当てられている場合
- ※2 カスタムメニュー f3 [P_vボタンの機能] の [コマンドダイヤル併用時の動作] で [手動設定済みレンズの選択]、[アクティブD-ライティング設定]、[HDR (ハイダイナミックレンジ)]、[露出ディレーモード] のいずれかがP_vボタンに割り当てられている場合
- ※3 カスタムメニュー f4 [AE/AF ロックボタンの機能] の [コマンドダイヤル併用時の動作] で [手動設定済みレンズの選択] がAE/AFロックボタンに割り当てられている場合
- ※4 カスタムメニュー f9 [動画撮影ボタンの機能] で [ホワイトバランス] または [ISO感度] が動画撮影ボタンに割り当てられている場合

f7：カードなし時リリース

MENUボタン →  カスタムメニュー

カメラにSDカードを入れていないときのリリース操作を設定できます。

LOCK リリース禁止	SDカードを入れていないときは、シャッターはきれません。
OK リリース許可	SDカードを入れていないときでも、シャッターがきれます。再生時には「デモモード」と表示され、画像は記録できません。

f8：インジケータの+/-方向

MENUボタン →  カスタムメニュー

ファインダー内表示、表示パネルおよびインフォ画面（）での露出、露出補正、オートブラケティングのインジケータの+と-方向を入れ換えることができます。

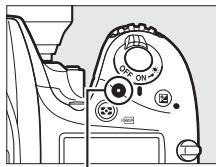
+0- 	インジケータの+側を左に、-側を右に表示します。
-0+ 	インジケータの-側を左に、+側を右に表示します。

f9：動画撮影ボタンの機能

MENUボタン → 鉛筆アイコン カスタムメニュー

■ コマンドダイヤル併用時の動作

ファインダー撮影時または静止画ライブビュー時に、動画撮影ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回したときの機能を設定できます。



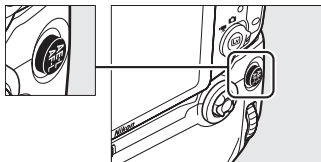
動画撮影ボタン

WB ホワイトバランス	動画撮影ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、ホワイトバランスを変更できます (□144)。
ISO ISO感度	動画撮影ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、ISO感度を変更できます (□132)。
 撮像範囲選択	動画撮影ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、撮像範囲を変更できます (□109)。
設定しない	動画撮影ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回しても機能しません。

f10 : MB-D16のAE/AFロックボタンの機能

MENUボタン → カスタムメニュー

別売のマルチパワーバッテリーパックMB-D16のAE/AFロックボタンの機能を設定します。



AE-L/AF-L	AE/AFロックボタンを押している間、AEロックとフォーカスロックを同時に行います。
AE-L	AE/AFロックボタンを押している間、AEロックを行います。
AE-L (ホールド)	AE/AFロックボタンを1回押すとAEロックを行い、AEロック状態が維持されます。シャッターをきってもAEロックを解除しません。ただし、もう一度AE/AFロックボタンを押すか、半押しタイマーがオフになると、AEロックを解除します。
AF-L	AE/AFロックボタンを押している間、フォーカスロックを行います。
AF-ON	AE/AFロックボタンを押すと、オートフォーカスが作動します。この場合、シャッターボタンの半押しではオートフォーカスは作動しません。
FV-L	内蔵フラッシュまたは別売のスピードライト (□440) 使用時は、AE/AFロックボタンを1回押すとFVロック (□191) を行い、もう一度AE/AFロックボタンを押すと解除します。
Fnボタンと同じ	Fnボタンと同じ機能になります (□356)。

f11：リモコン（WR）のFnボタンの機能

MENUボタン → 鉛筆アイコン カスタムメニュー

ワイヤレスリモートコントローラーのFnボタンを押したときの機能を設定できます。



 プレビュー	ファインダー撮影時にFnボタンを押し続けると、レンズの絞り羽根が絞り込まれ、Fnボタンを押している間、被写界深度が確認できます（□93）。静止画ライブビュー時にFnボタンを1回押すと開放絞りになり、ピントを確認しやすくなります。もう一度Fnボタンを押すと、設定した絞り値に絞り込まれます（□56）。
 FV-L	内蔵フラッシュまたは別売のスピードライト（□440）使用時は、FVロック（□191）を行い、もう一度Fnボタンを押すと解除します。
 AE-L/AF-L	Fnボタンを押している間、AEロックとフォーカスロックを同時に行います。
 AE-L	Fnボタンを押している間、AEロックを行います。
 AE-L （ホールド）	Fnボタンを1回押すとAEロックを行い、AEロック状態が維持されます。シャッターをきってもAEロックは解除されません。ただし、もう一度Fnボタンを押すか、半押しタイマーがオフになると、AEロックを解除します。
 AF-L	Fnボタンを押している間、フォーカスロックを行います。
 フラッシュ 発光禁止	Fnボタンを押している間、フラッシュは発光禁止になります。
 プラスRAW 記録	画質モードがJPEG（FINE）、JPEG（NORMAL）、JPEG（BASIC）の場合、Fnボタンを押すとファインダーにプラスRAW記録マークが表示され、押してから1回の撮影のみRAW画像がJPEG画像と同時に記録されます。撮影後シャッターボタンから指を放すか、もう一度Fnボタンを押すと【プラスRAW記録】を解除します。

Lv ライブビュー	Fn ボタンを押すと、ライブビューを開始します。もう一度 Fn ボタンを押すと、ライブビューを終了します。
= Fn カメラの Fn ボタンと同じ	カメラの Fn ボタンと同じ機能 (□356) になります。
= Pv カメラのプレビューボタンと同じ	カメラの Pv ボタンと同じ機能 (□361) になります。
= AE-L/AF-L カメラの AE-L/AF-L ボタンと同じ	カメラの AE-L/AF-L ボタンと同じ機能 (□361) になります。
設定しない	Fn ボタンは機能しません。

g1 : Fnボタンの機能

MENUボタン →  カスタムメニュー

■■ 押し時の動作

動画ライブビューでFnボタンを押したときの機能を設定できます。初期設定は「設定しない」です。

 パワー絞り (開放絞り側)	Fn ボタンを押している間、開放絞り側に絞りが動きます。カスタムメニュー g2 [プレビューボタンの機能] の [押し時の動作] が [パワー絞り (最小絞り側)] のときは、自動的にこの項目が選ばれます (□373)。
 インデックス マーキング	動画撮影中に Fn ボタンを押すと、撮影中の動画にインデックスマークを付けることができます。インデックスマークを付けると、動画の再生時や編集時に目的の場所へ素早く移動できます (□69)。
 静止画撮影 情報の表示	Fn ボタンを押すと、動画ライブビューで静止画を撮影するときの撮影情報が表示されます。もう一度 Fn ボタンを押すと元の画面に戻ります。
 AE-L/AF-L	Fn ボタンを押している間、AEロックとフォーカスロックを同時に行います。
 AE-L	Fn ボタンを押している間、AEロックを行います。
 AE-L (ホールド)	Fn ボタンを1回押すとAEロックを行い、AEロック状態が維持されます。シャッターをきってもAEロックは解除されません。ただし、もう一度 Fn ボタンを押すと、解除されます。
 AF-L	Fn ボタンを押している間、フォーカスロックを行います。
 AF-ON	Fn ボタンを押すと、オートフォーカスが作動します。この場合、シャッターボタンの半押しではオートフォーカスは作動しません。
設定しない	Fn ボタンは機能しません。

パワー絞りについて

- 撮影モードAまたはMのときのみ動作します。
- 静止画撮影情報の表示中は、パワー絞りは動作しません。
- マークが液晶モニターに表示されているときは、パワー絞りは動作しません。
- 使用するレンズによっては、パワー絞りが動作しない場合があります。
- カメラの電源をOFFにするか、動画ライブビューを終了して半押しタイマーがオフになると、パワー絞りは無効になります。

g2：プレビューボタンの機能

MENUボタン →  カスタムメニュー

■■ 押し時の動作

動画ライブビューでPvボタンを押したときの機能を設定できます。初期設定は「インデックスマーキング」です。

 パワー絞り (最小絞り側)	Pvボタンを押している間、最小絞り側に絞りが動きます。カスタムメニュー g1 [Fnボタンの機能] の「押し時の動作」が「パワー絞り (開放絞り側)」のときは、自動的にこの項目が選ばれます (□372)。
 インデックス マーキング	動画撮影中にPvボタンを押すと、撮影中の動画にインデックスマークを付けることができます。インデックスマークを付けると、動画の再生時や編集時に目的の場所へ素早く移動できます (□69)。
 静止画撮影 情報の表示	Pvボタンを押すと、動画ライブビューで静止画を撮影するときの撮影情報が表示されます。もう一度Pvボタンを押すと元の画面に戻ります。
 AE-L/AF-L	Pvボタンを押している間、AEロックとフォーカスロックを同時に行います。
 AE-L	Pvボタンを押している間、AEロックを行います。
 AE-L (ホールド)	Pvボタンを1回押すとAEロックを行い、AEロック状態が維持されます。シャッターをきってもAEロックは解除されません。ただし、もう一度Pvボタンを押すと、解除されます。
 AF-L	Pvボタンを押している間、フォーカスロックを行います。
 AF-ON	Pvボタンを押すと、オートフォーカスが作動します。この場合、シャッターボタンの半押しではオートフォーカスは作動しません。
設定しない	Pvボタンは機能しません。

g3 : AE/AFロックボタンの機能

MENUボタン →  カスタムメニュー

■■ 押し時の動作

動画ライブビュー時で^{AE/AF}AE/AFロックボタンを押したときの機能を設定できます。^{AE/AF}AE/AFロックボタンに割り当てられる機能は、カスタムメニュー g1 [Fn ボタンの機能] とほぼ同じですが、[パワー絞り（開放絞り側）] は選べません。初期設定は [AE-L/AF-L] です。

g4 : シャッターボタンの機能

MENUボタン →  カスタムメニュー

ライブビューセレクトが[●]の場合に、シャッターボタンを押したときの機能を設定できます。

 静止画撮影	シャッターボタンを全押しすると、アスペクト比（縦横比）16:9の静止画を撮影します（撮影中の動画は終了します）。静止画の画像サイズ（ピクセル）については、「動画ライブビュー時に撮影できる静止画の画像サイズ」（□76）をご覧ください。
 動画撮影	シャッターボタンを半押しすると、動画ライブビューを開始します。動画ライブビュー中にシャッターボタンを半押しすると、フォーカスモードセレクトがAFの場合はピンント合わせを行います。また、全押しすると、動画撮影を開始します。もう一度シャッターボタンを押すと、動画撮影を終了します。 ● [動画撮影] に設定すると、動画撮影以外のシャッターボタンを使う操作は行えません。 ● 動画ライブビューを終了するには、 ボタンを押してください。 ● 別売のリモコンML-L3は使えません。 ● 別売のワイヤレスリモートコントローラー（□447）またはリモートコード（□447）使用時には、ワイヤレスリモートコントローラーやリモートコードのシャッターボタンを半押しして動画ライブビューを開始したり、全押しして動画撮影の開始と終了を行えます。

Y セットアップメニュー： カメラを使いやすくする基本設定

MENU ボタンを押して、タブのYアイコンを選ぶと、セットアップメニューが表示されます。



MENU ボタン

セットアップメニュー項目一覧

セットアップメニューの項目は次の通りです。

メニュー項目	📖	メニュー項目	📖
カードの初期化（フォーマット）	376	画像コメント	385
ユーザーセッティングの登録	100	著作権情報	386
ユーザーセッティングのリセット	103	カメラ設定の保存と読み込み	387
モニターの明るさ	377	水準器表示	390
モニターのカラーカスタマイズ	378	レンズ情報手動設定	232
イメージセンサークリーニング	453	AF微調節	391
クリーニングミラーアップ※1	455	HDMI	274
イメージダストオフデータ取得	379	位置情報	235
フリッカー低減	381	Wi-Fi	277
地域と日時	382	ネットワーク	264
言語（Language）	383	Eye-Fi送信機能※2	393
縦横位置情報の記録	383	認証マークの表示	394
電池チェック	384	ファームウェアバージョン	394

※1 バッテリー残量表示が🔋以下のときは選べません。

※2 この機能に対応したEye-Fiカードを挿入したときのみ表示されます。

🔗 関連ページ

「セットアップメニューの初期設定」（📖296）

カードの初期化（フォーマット）

MENUボタン →  セットアップメニュー

SDカードを初期化（フォーマット）します。初期化したいスロットを選んで〔はい〕を選ばと、選んだスロットのSDカードを初期化します。初期化すると、カード内のデータは全て削除されます。カード内に必要なデータが残っている場合は、初期化の前にパソコンなどに保存してください（□261）。

☑ カードの初期化についてのご注意

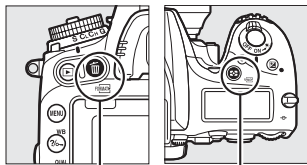
〔カードの初期化（フォーマット）中です。〕のメッセージが液晶モニターに表示されている間は、電源をOFFにしたり、SDカードを取り出さないでください。

■ ボタン操作でSDカードを初期化（フォーマット）する

 (FORMAT) ボタンと  (FORMAT) ボタンで初期化することもできます。

1 2つの ボタンを同時に押す

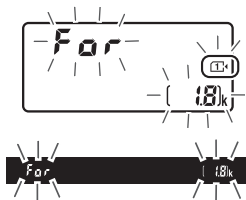
- 赤色の  マークがついた  (FORMAT) ボタンと  (FORMAT) ボタンを同時に2秒以上押します。



 (FORMAT) ボタン

 (FORMAT) ボタン

- 表示パネルとファインダー内表示に **For**（フォーマット）が点滅します。
- SDカードが2枚入っている場合は、表示パネルで点滅している側のSDカードを初期化します。**For**が点滅しているときにメインコマンドダイヤルを回すと、初期化するスロットを切り換えられます。



- **For**が点滅状態のまま約6秒経過すると、初期化はキャンセルされます。 (**FORMAT**) ボタンと  (**FORMAT**) ボタン以外のボタンを押したときも、初期化をキャンセルします。

2 **For**が点滅している間に、もう一度 (**FORMAT**) ボタンと (**FORMAT**) ボタンを同時に押す

- 初期化が始まります。初期化中は、電源をOFFにしたり、バッテリーやSDカードを取り出したりしないでください。
- 初期化が完了すると、表示パネルとファインダー内表示の記録可能コマ数表示部にこれから撮影できるコマ数が表示されます。

カメラにSDカードが2枚入っている場合

カメラにSDカードが2枚入っているときに初期化する場合は、スロット1 (□30) のSDカードマークが先に点滅します。

モニターの明るさ

MENUボタン →  セットアップメニュー

画像の再生時、メニュー表示時、インフォ画面表示時の液晶モニターの明るさをマルチセクターの  または  を押して調整できます。+にすると明るく、-にすると暗くなります。

静止画ライブビューまたは動画ライブビュー中の液晶モニターの明るさについて

- [モニターの明るさ] で設定した液晶モニターの明るさは、静止画ライブビューまたは動画ライブビュー中の明るさには反映されません。ライブビュー表示中の液晶モニターの明るさを設定するには、「 ボタンを使う」(□61、70) をご覧ください。
- 非常に明るい場所で液晶モニターが見えにくいときは、液晶モニターの明るさを [+4] 以上に設定すると、液晶モニターが見やすくなりますが、黄色が黄緑に見えることがあります。色の確認を行うときは [+3] 以下に設定することをおすすめします。

モニターのカラーカスタマイズ

MENUボタン →  セットアップメニュー

カメラの液晶モニターの色調を好みに合わせて変更できます。

- 右のような画面が表示され、マルチセクターで液晶モニターの色みを調整できます。 ボタンを押すと決定します。

グリーンが強くなる



マゼンタが強くなる



- 液晶モニターの色みを調整すると、メニュー表示や画像再生時、静止画ライブビューまたは動画ライブビュー中の表示全てに反映されますが、撮影した画像には反映されません。
- 最後に撮影した画像または最後に再生した画像がサンプルとして表示されます。撮影した画像がSDカード内がない場合、グレーで表示されます。
-  (ISO) ボタンを押すと、画像の選択画面が表示されます。画像を選んで  ボタンを押すと、選んだ画像がサンプルとして表示されます。
- 画像の選択画面で  (QUAL) ボタンを押している間、選んだ画像を拡大表示します。



イメージダストオフデータ取得

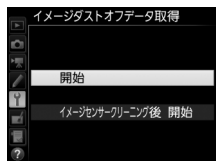
MENUボタン →  セットアップメニュー

Capture NX-D (□263) の「イメージダストオフ機能」を使うためのデータを取得します。イメージダストオフとは、カメラの撮像素子の前面にあるローパスフィルターに付いたゴミの写り込みをRAW画像から取り除く機能です。イメージダストオフ機能については、Capture NX-Dのヘルプをご覧ください。

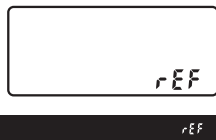
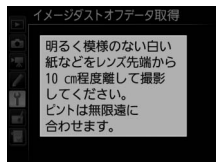
■ イメージダストオフデータ取得の手順

1 イメージダストオフデータの取得方法を選ぶ

- [開始] を選んで  ボタンを押すと、
[イメージダストオフデータ取得]
画面が表示されます。



- [イメージセンサークリーニング後 開始] を選んで  ボタンを押すと、
すぐにイメージセンサークリーニング
を実行します。イメージセンサー
クリーニングの実行後に、[イメ
ージダストオフデータ取得] 画面が表
示されます。
- 表示パネルとファインダー内表示に
は、右のように表示されます。
- データ取得を取り消したいときは、
MENUボタンを押してください。

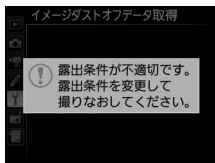


2 レンズ先端から10cm 程度離れた、明るく白い無地の被写体を画面いっぱいにとらえ、シャッターボタンを半押しする

- オートフォーカスのときは、カメラが自動的に無限遠にピントを合わせます。
- マニュアルフォーカスのときは、手動で無限遠に合わせてください。

3 シャッターボタンを全押しして撮影する

- シャッターボタンを押すと、液晶モニターが消灯します。
- 被写体が明るすぎ、または暗すぎたために、データが取得できなかった場合は、液晶モニターに右の画面が表示され、手順1の状態に戻ります。被写体の明るさを変えて、もう一度撮影してください。



🔍 イメージセンサークリーニングについてのご注意

イメージセンサークリーニングを実行する前に取得したイメージダストオフデータは、クリーニング実行後に撮影した画像とゴミの位置が一致しなくなるため、Capture NX-Dのイメージダストオフ機能を使用できません。イメージセンサークリーニング機能とイメージダストオフ機能を併用する場合は、**「イメージセンサークリーニング後 開始」**を選択後に撮影することをおすすめします。

✓ イメージダストオフデータ取得についてのご注意

- 非CPUレンズをお使いの場合は、[イメージダストオフデータ取得] を選べません。
- お使いになるCPUレンズは、焦点距離が50mm以上のレンズ（DXレンズを除く）をおすすめします（□430）。
- ズームレンズは望遠側にしてください。
- 取得したイメージダストオフデータは、データ取得後にレンズや絞り値を変更して撮影した画像にも適用できます。
- イメージダストオフデータは画像処理ソフトウェアなどで開けません。
- イメージダストオフデータをカメラで再生すると、右の画面が表示されます。



フリッカー低減

MENUボタン →  セットアップメニュー

蛍光灯や水銀灯などの光源下で、ライブビュー表示中（□54）や動画撮影時（□66）に画面にちらつきや横縞が生じる「フリッカー現象」を低減できます。通常はカメラが自動的に電源周波数を選ぶ[オート]をお使いください。[オート]にしても、フリッカー低減効果が得られない場合は、お使いの地域の電源周波数に応じて、[50 Hz]と[60 Hz]から選びます。東日本など電源周波数が50 Hzの地域では[50 Hz]を選び、西日本など電源周波数が60 Hzの地域では[60 Hz]を選んでください。

✓ フリッカー低減についてのご注意

- [オート] に設定してもフリッカー低減効果が得られない場合や電源周波数がわからない場合は、設定を切り換えて試し撮りをするをおすすめします。
- 被写体が非常に明るい場合、フリッカー低減効果が得られない場合があります。絞りを絞り込んで（より大きい数値にして）ください。

地域と日時

MENUボタン →  セットアップメニュー

現在地と日時、年月日の表示順を設定します。



現在地の設定	現在地のタイムゾーンを選びます。現在地のタイムゾーンを変更すると、[日時の設定] で設定された日時が、時差に合わせて自動的に更新されます。	
日時の設定	[現在地の設定] で選ばれているタイムゾーンの時刻を設定します。	
日付の表示順	液晶モニターに表示される、日付の年、月、日の表示順を、[年/月/日]、[月/日/年]、[日/月/年] から選びます。	
夏時間の設定	現在地で夏時間（サマータイム制）が実施されている場合は[する]に、そうでない場合は[しない]に設定します。[する]にすると、時刻が1時間進みます。初期設定は[しない]です。	

- カメラの内蔵時計の設定が初期化されている場合、インフォ画面に⊙マークが点滅して警告します。

言語 (Language)

MENUボタン →  セットアップメニュー

メニュー画面やメッセージの表示言語を選びます。

縦横位置情報の記録

MENUボタン →  セットアップメニュー

撮影時のカメラの縦横位置情報を画像に記録できます。

する	液晶モニターやCapture NX-Dまたは付属のViewNX 2で画像を再生するときに、記録した縦横位置情報を利用して、自動的に回転表示されます。 記録されるカメラの縦横位置情報は、次の3種類です。  横位置  縦位置 時計回りに 90°回転  縦位置 反時計回りに 90°回転
しない	縦横位置情報は記録されず、再生時には常に横位置で表示します。

✓ 縦横位置情報記録についてのご注意

カメラを上向きまたは下向きにして撮影したり流し撮りすると、縦横位置情報が正しく得られない場合があります。

再生メニュー [縦位置自動回転]

再生メニューの [縦位置自動回転] (□305) では、[縦横位置情報の記録] を [する] に設定して縦位置で撮影された画像を、液晶モニターに縦位置で表示するように変更できます。

電池チェック

MENUボタン →  セットアップメニュー

カメラに装着中のバッテリーの情報を表示します。



残容量	バッテリーの残量を1%単位で表示します。
撮影回数	充電後にシャッターをきった回数を表示します。
劣化度	バッテリーの劣化度合いが5段階のバーグラフで表示されます。 • バーグラフが「0」(NEW)のときは、バッテリーは劣化していません。 • バーグラフが「4」(4)のときは、バッテリーの寿命です。新しいバッテリーと交換してください。

撮影回数について

〔撮影回数〕に表示される回数は、シャッターをきった回数です。ホワイトバランスのプリセットマニュアルデータ取得など、実際に画像がSDカードに記録されない場合でも、シャッターをきるごとに1ずつ加算されます。

低温で充電した場合の劣化度表示について

一般的な電池特性として、周囲の温度が下がるにつれ、バッテリーに充電できる容量は少なくなります。新品のバッテリーでも、約5℃以下の低温で充電した場合、〔電池チェック〕で劣化度が「1」と表示されることがありますが、約20℃以上で再充電すると劣化度の表示は「0」に戻ります。

マルチパワーバッテリーバックMB-D16装着時の表示について

別売のマルチパワーバッテリーバックMB-D16を装着している場合、MB-D16に入れたバッテリーがLi-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL15のときは、カメラに装着したバッテリーと同様に表示されます。単3形電池を使用している場合は、残容量にバッテリー残量表示のアイコンが表示され、その他の項目は表示されません。



画像コメント

MENUボタン → Y セットアップメニュー

あらかじめコメントを登録しておき、撮影する画像に添付できます。添付されたコメントは、Capture NX-Dまたは付属のViewNX 2のメタデータで確認できます。

■ コメント入力

36文字までのコメントを登録できます。[コメント入力] を選んでマルチセクターの  を押しと、画像コメントの入力画面が表示されます。入力画面での文字の入力方法については、「カスタムピクチャーコントロールを登録する」の手順6をご覧ください (□171)。

■ コメント添付

登録したコメントを画像に添付したいときは、[コメント添付] を選んで  を押し、チェックボックスをオン ☒ にします。OK ボタンを押すと、設定が有効になり、その後撮影した画像には全てコメントが添付されます。



画像情報に表示される画像コメントについて

入力・添付された画像コメントは、「撮影情報」の「画像コメント」に表示されます (□248)。

撮影した画像に著作権情報を添付することができます。添付された著作権情報は、Capture NX-Dまたは付属のViewNX 2のメタデータで確認できます。

■ 撮影者名入力、著作権者名入力

36文字までの撮影者名と、54文字までの著作権者名を登録できます。[撮影者名入力] または [著作権者名入力] を選んでマルチセクターの $\odot$ を押すと名前を入力画面が表示されます。入力画面での文字の入力方法については、「カスタムピクチャーコントロールを登録する」の手順6をご覧ください（□171）。

■ 著作権情報添付

登録した著作権情報を画像に添付したいときは、[著作権情報添付] を選んで $\odot$ を押し、チェックボックスをオン $\square$ にします。 $\odot$ OKボタンを押すと、設定が有効になり、その後撮影した画像には全て著作権情報が添付されます。



✓ 著作権情報に関するご注意

- カメラを貸したり譲渡したりする場合は、撮影者名や著作権者名の違法な使用を防ぐため、[著作権情報添付] の設定を必ず解除してください。また、撮影者名と著作権者名は空欄にしてください。
- [著作権情報] の使用によって生じたトラブルや損害など、当社は一切責任を負いません。

📷 画像情報に表示される著作権情報について

入力・添付された著作権情報は、「撮影情報」に表示されます（□247）。

カメラ設定の保存と読み込み

MENUボタン →  セットアップメニュー

カメラの各機能の設定データをSDカードに保存できます。また、SDカードに保存されている設定データをカメラで読み込むこともできるので、複数のD750を同じ設定で使う場合などに便利です。カメラ設定の保存と読み込みに使用するSDカードは、スロット1に入れてください。

設定を保存、読み込みできる機能は次の通りです。

再生 メニュー	再生画面設定
	撮影直後の画像確認
	削除後の次再生画像
	縦位置自動回転
静止画撮影 メニュー	ファイル名設定
	スロット2の機能
	画質モード
	画像サイズ
	撮像範囲
	JPEG圧縮
	RAW記録
	ホワイトバランス(微調整値、プリセットマニュアルデータ)
	ピクチャーコントロール(登録されたカスタムピクチャーコントロールは「スタンダード」で保存します)
	色空間
	アクティブD-ライティング
	ヴェネットコントロール
	自動ゆがみ補正
	長秒時ノイズ低減
	高感度ノイズ低減
	ISO感度設定
	リモコンモード設定 (ML-L3)

動画撮影 メニュー	ファイル記録先
	画像サイズ/フレームレート
	動画の画質
	マイク感度
	録音帯域
	風切り音低減
	撮像範囲
	ホワイトバランス (微調整値、プリセットマニュアルデータ)
	ピクチャーコントロール (登録されたカスタムピクチャーコントロールは「スタンダード」で保存します)
	高感度ノイズ低減
	動画ISO感度設定
カスタムメニュー	[カスタムメニューのリセット] を除く全メニュー
セットアップ メニュー	イメージセンサークリーニング
	フリッカー低減
	地域と日時 (日時の設定を除く)
	言語 (Language)
	縦横位置情報の記録
	画像コメント
	著作権情報
	レンズ情報手動設定
	HDMI
	位置情報
マイメニュー / 最近設定した項目	Wi-Fi
	Eye-Fi送信機能
	マイメニューに登録したメニュー項目
	最近設定したメニュー項目
	このタブの機能変更

■■ 保存

カメラの設定データをSDカードに保存します。SDカードに空き容量がない場合は、エラーメッセージが表示され、設定データは保存されません。保存された設定データは他機種のカメラとの互換性はありません。

■■ 読み込み

SDカードからカメラの設定データを読み込みます。SDカードが装着されていないときや、SDカードに設定データが記録されていないときは、**「読み込み」** は選べません。

✓ 設定データについてのご注意

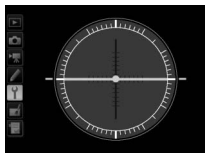
SDカードに保存したカメラの設定データのファイル名は「NCSETUPG」です。ファイル名を変更すると、設定データを読み込めなくなるためご注意ください。

水準器表示

MENUボタン →  セットアップメニュー

カメラに内蔵している傾斜センサーを使って、液晶モニターにローリング方向とピッチング方向の水準器を表示します。

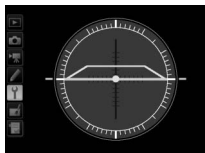
- カメラを正位置（傾きのない状態）にすると、ローリング方向の場合は水準器表示の基準線が緑色に変わります。ピッチング方向の場合は中央の●が緑色に変わります。
- 水準器の1目盛は、約5°を表します。



カメラがローリング方向、ピッチング方向とも正位置の場合



カメラがローリング方向に傾いている場合



カメラがピッチング方向に傾いている場合

✓ 水準器の精度について

カメラを前または後ろに大きく傾けると、水準器の誤差が大きくなりますのでご注意ください。測定できない状態までカメラを傾けると、水準器の目盛が消灯します。

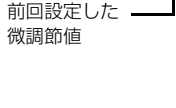
関連ページ

- ファインダーにローリング方向の水準器インジケータを表示する
→  f2 [Fnボタンの機能] (□357、359)
- 静止画ライブビュー、動画ライブビュー時に水準器を表示する→「静止画ライブビュー時の表示を切り換える」(□64)、「動画ライブビュー時の表示を切り換える」(□74)

AF微調節

MENUボタン →  セットアップメニュー

装着したレンズごとに最適なピント合わせを行いたいときに、自分でピント位置を調節できます。通常はAF微調節を行う必要はありません。必要な場合のみ調節を行ってください。正常なレンズを調整すると、ピントが合わなくなる場合がありますのでご注意ください。

AF微調節 (する/しない)	する	AF微調節の設定が有効になります。
	しない	AF微調節を行いません。
個別レンズ の登録	装着しているCPUレンズの微調節値を登録できます。マルチセクターの  または  を押して、+20～-20の範囲で調節できます。最大12種類のレンズを登録できます。 • 非CPUレンズや、すでに登録してあるレンズと同じ種類のレンズは登録できません。	今回の微調節値  ピントが合う位置がカメラから遠ざかります。
その他レンズ の登録	【個別レンズの登録】で登録していないCPUレンズを装着したときに、一律で微調節する値を設定します。  または  を押して、+20～-20の範囲で調節できます。	前回設定した微調節値  ピントが合う位置がカメラに近づきます。
個別レンズ 登録リスト	【個別レンズの登録】で登録したレンズを一覧表示します。登録リストからレンズを選んで  を押すと、右の画面が表示されます。 • 【識別番号入力】画面では、レンズの識別番号を変更できます。  または  を押して識別番号を選んで、  ボタンを押します。【個別レンズの登録】は同じ種類のレンズを複数登録できないため、たとえば、同じレンズを数本所有しているときに登録したレンズのシリアル番号の末尾2桁などを設定しておく、どのレンズで登録したかを識別できるので便利です。	

✓ AF微調節設定時のご注意

AF微調節を行うと、レンズの無限遠側または至近側で、ピントが合わなくなる場合がありますのでご注意ください。

✓ ライブビュー撮影時のAF微調節について

ライブビュー撮影時にオートフォーカスでピント合わせを行うときは、[AF微調節] で設定した微調節値は適用されません。

🔧 個別レンズの登録について

同じ種類のレンズは複数登録できませんが、テレコンバーターを装着した場合は違うレンズとして個別登録できます。

🔧 登録したレンズを削除するには

[個別レンズの登録] で登録したレンズを削除するには、[個別レンズ登録リスト] 画面の一覧表示から削除したいレンズを選んで、🗑️ (DELETE) ボタンを押します。

Eye-Fi送信機能

MENUボタン →  セットアップメニュー

このメニューは、市販のEye-Fiカードをカメラに挿入したときのみ、表示されます。

有効	カメラで作成した画像を、あらかじめ設定した保存先へ送信します。
無効	Eye-Fi送信機能を使用しません。

- 電波の状態が悪い場合、[有効] に設定していても送信できないことがあります。
- 電波の出力が禁止されている場所では、設定を[無効] にしてください。

Eye-Fi送信機能が無効のときの警告表示について

[無効] に設定しているときでも、電波が出力される場合があります。液晶モニターに警告メッセージ(□478)が表示された場合は、カメラの電源をOFFにしてEye-Fiカードを取り出してください。

Eye-Fiカード使用時の表示について

カメラ内のEye-Fiカードの通信状態は、インフォ画面のEye-Fi通信マークで確認できます。

-  : [Eye-Fi 送信機能] が [無効] に設定されています。
-  (点灯) : 画像の送信を待っています。
-  (点滅) : 画像の送信中です。
-  : 未送信の画像がありません。
-  : エラーが発生しました。Eye-Fiカードをコントロールできません。
 - 表示パネルとファインダー内表示の記録可能コマ数表示部で **Err** が点滅している場合は、□478をご覧ください。
 - **Err** が点滅していない場合は、続けて撮影できます。ただし、Eye-Fi 送信機能の設定を変更できないことがあります。



▼ Eye-Fiカードを使用するときの注意

- Eye-Fiカードの使用方法はEye-Fiカードの使用説明書をご覧ください。Eye-Fiカードに関する不具合は、カードメーカーにお問い合わせください。
- スロット1とスロット2の両方にEye-Fiカードを使用すると、転送が不安定となるためおすすめしません。
- このカメラには Eye-Fi カードの通信機能を ON/OFF する機能がありますが、Eye-Fiカードの全ての機能を保障するものではありません。
- Eye-Fiカードは、ご購入された国でのみ使用が認められています。使用する国の法律に従ってお使いください。
- Eye-Fiカードを使う場合は、カスタムメニュー c2 [半押しタイマー] を30秒以上に設定してください。
- Eye-Fiカードの販売の有無は地域によって異なりますので、カードメーカーにお問い合わせください。
- Eye-Fiカードのファームウェアを最新版にバージョンアップしてお使いください。

認証マークの表示

MENUボタン →  セットアップメニュー

このカメラが取得している認証マークの一部を表示します。

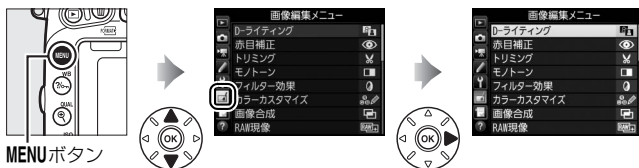
ファームウェアバージョン

MENUボタン →  セットアップメニュー

カメラを制御する「ファームウェア」のバージョンを表示します。

画像編集メニュー： 撮影した画像に行う編集機能

MENU ボタンを押して、タブの  アイコンを選ぶと、画像編集メニューが表示されます。



画像編集メニュー項目一覧

画像編集メニューでは、SD カード内の撮影済み画像を編集することができます。編集された画像は、元の画像とは別に、新しい画像として記録されます。画像編集メニューの項目は次の通りです。

- カメラに SD カードが入っていない場合や SD カードに画像が記録されていない場合は、画像編集メニューはグレーで表示されて選択できません。

メニュー項目		メニュー項目	
 D-ライティング	398	 傾き補正	413
 赤目補正	399	 ゆがみ補正	414
 トリミング	400	 魚眼効果	415
 モノトーン	401	 塗り絵	415
 フィルター効果	402	 カラースケッチ	416
 カラーカスタマイズ	403	 アオリ効果	417
 画像合成※ ¹	404	 ミニチュア効果	418
 RAW 現像	408	 セレクトカラー	419
 リサイズ	410	 動画編集	83
 簡単レタッチ	413	 編集前後の画像表示※ ²	422

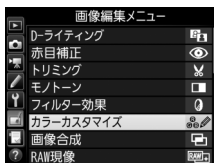
※¹ MENU ボタンを押して、タブの  アイコンを選んだときのみ選べます。

※² 編集前または編集後の画像を 1 コマ表示して  ボタンを押して、[画像編集] を選んだときのみ表示されます。

■ 画像編集の操作方法

1 画像編集メニューでメニュー項目を選ぶ

マルチセクターの $\odot$ または $\odot$ でメニュー項目を選び、 $\rightarrow$ を押します。



2 画像を選ぶ

- マルチセクターで画像を選びます。
- $\oplus$ (QUAL) ボタンを押している間、選んだ画像を拡大表示します。
- 画像を選んで $\odot$ ボタンを押すと、編集画面が表示されます。



3 画像を編集する

- 画像の編集方法については、各項目の説明をご覧ください。
- 画像編集を途中でやめるには、**MENU**ボタンを押してください。画像編集メニューに戻ります。

4 編集した画像を記録する

- $\odot$ ボタンを押すと、編集した画像が記録されます。
- 画像編集した画像には $\checkmark$ が付きます。



i ボタンを押して画像編集メニューを表示する

1コマ表示モード (□237) で静止画を選んでから **i** ボタンを押して「画像編集」を選ぶと、画像編集メニューが表示され、選んだ画像を編集できます。

✔ 画像編集についてのご注意

- RAW画像とJPEG画像を1枚のSDカードに同時記録した場合（□115）、RAW画像が画像編集の対象になります。
- このカメラ以外で撮影または編集した画像やパソコンで編集した画像は、このカメラでは再生または編集できないことがあります。
- 画像編集中に何も操作しないまましばらく経過すると、液晶モニターが消灯し、編集中の画像は保存されません。カスタムメニューc4 [モニターのパワーオフ時間]（□335）の[メニュー表示]の時間を長く設定することをおすすめします。

✔ 繰り返し画像編集する場合のご注意

- 画像編集によって作成した画像に、さらに画像編集を行うこともできますが、画像が粗くなったり、退色したりする場合があります。
- 同じ画像編集を繰り返し行うことはできません（[画像合成]、[動画編集]の[始点/終点の設定]を除く）。
- 画像編集の組み合わせによっては繰り返し編集できないものもあります。
- 選択中の画像に使用できない画像編集項目は、画像編集メニューでグレーで表示されて選べません。

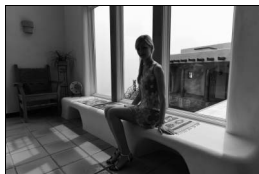
✍ 画質モードと画像サイズについて

[D-ライティング]、[赤目補正]、[モノトーン]、[フィルター効果]、[カラーカスタマイズ]、[簡単レタッチ]、[傾き補正]、[ゆがみ補正]、[魚眼効果]、[塗り絵]、[カラースケッチ]、[アオリ効果]、[ミニチュア効果]、[セレクトカラー]で作成した画像は、元画像と同じ画質モードと画像サイズで記録します。ただし、元画像がRAWを含む画質モードで撮影された画像の場合、[画質モード]が[FINE]、[画像サイズ]が[サイズL]のJPEG画像を作成します。また、どの画質モードで撮影した画像も、[JPEG圧縮]は[サイズ優先]になります。

D-ライティング

MENUボタン →  画像編集メニュー

D-ライティングでは、画像の暗い部分を明るく補正できます。逆光で撮影したために顔の部分だけが暗くなった画像や、フラッシュの光量不足で暗くなった画像などに効果的です。



D-ライティング前



D-ライティング後

編集画面では、D-ライティング効果の適用前と適用後のプレビュー画像を表示します。

- マルチセレクトターの  または  を押すと、効果の度合いを選べます。効果の度合いは、設定画面のプレビュー画像で確認できます。
-  ボタンを押すと、編集した画像が記録されます。



赤目補正

MENU ボタン →  画像編集メニュー

フラッシュ撮影時の「赤目現象」によって人物の瞳の部分が赤くなってしまった画像を補正できます。

- フラッシュを発光しないで撮影した画像は選べません。
- カメラが赤目現象を検出できない画像は補正されません。

編集画面では、プレビュー画像が表示され、次の操作ができます。

拡大率を上げる	 (QUAL)	 (QUAL) ボタンを押すごとにプレビュー画像の拡大率が上がります。	拡大表示中にこれらの操作を行うと、画面の右下に画像全体が表示され、拡大部分が黄色い枠で囲んで示されます。数秒すると消えますが、もう一度操作すると表示されます。
拡大率を下げる	 (ISO)	プレビュー画像の拡大再生中は、  (ISO) ボタンを押すごとに、プレビュー画像の拡大率が下がります。	
画面をスクロール(移動)する		プレビュー画像の拡大再生中は、画面をスクロールして、見たい部分に移動できます。マルチセレクトキーを押し続けると、高速で移動します。	
拡大表示を終了する		拡大表示中に  ボタンを押すと、拡大表示を終了します。	
画像を保存する		補正した画像が記録されます。	

✓ 赤目補正についてのご注意

赤目補正を行う場合は、次のことにご注意ください。

- 画像によっては、望ましい結果が得られないことがあります。
- ごくまれに赤目以外の部分が補正されることがあります。

赤目補正を行う場合は、画像を保存する前に、プレビュー画像で効果をよく確認してください。

トリミング

MENUボタン →  画像編集メニュー

画像の必要な部分だけを切り抜きます。

編集画面では、トリミング範囲の黄色い枠が表示され、次の操作ができます。



切り抜く範囲を狭くする	 (ISO)	 (ISO) ボタンを押すごとにトリミングで切り抜かれる範囲は狭くなります。
切り抜く範囲を広くする	 (QUAL)	 (QUAL) ボタンを押すごとにトリミングで切り抜かれる範囲は広がります。
画像のアスペクト比(縦横比)を変更する		メインコマンドダイヤルを回すと、アスペクト比を変更できます。
切り抜く範囲を移動する		トリミングで切り抜く範囲を移動します。マルチセレクトターを押し続けると、高速で移動します。
トリミングを実行して画像を保存する		トリミングした画像が記録されます。

✓ トリミング画像についてのご注意

- トリミング画像は、拡大表示できないことがあります。
- トリミング画像の画質モード ( 114) は、元画像の画質モードがRAWを含む画質モードのときは **[FINE]** になり、**[FINE]**、**[NORMAL]**、**[BASIC]** のときは元画像と同じ画質モードになります。



- トリミング画像の画像サイズは編集画面の左上に表示されます。画像サイズは、トリミング時の拡大率とアスペクト比(横:縦)により変わります。

モノトーン

MENUボタン →  画像編集メニュー

モノトーンの画像(1種類の色の明暗のみで構成される画像)を作成します。

「モノトーン」を選ぶと、右のメニューが表示され、色調を選ぶことができます。



白黒	モノクロになります。
セピア	セピア色（褐色）のモノトーンになります。
クール	ブルー系のモノトーンになります。

- 編集画面では、プレビュー画像を表示します。

- 「セピア」または「クール」を選んだ場合は、マルチセクターで色の濃さを調整できます。を押すと色が濃くなり、を押すと色が薄くなります。調整した色の濃さはプレビュー画像に反映されます。

濃くする



薄くする



-  ボタンを押すと、編集した画像が記録されます。

フィルター効果

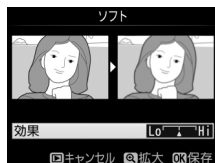
MENUボタン →  画像編集メニュー

画像全体の色調を演出できます。

スカイ ライト	スカイライトフィルターのよう に、画像の青みを抑える効 果があります。	
ウォーム トーン	画像を暖色にする効果あり ます。	編集画面では、プレビュー画像を 表示します。
赤強調	赤色が強調されます。	 マルチセクターで強調の度合い (色の濃さ)を調整できます。  を押 すと色が濃くなり、  を押すと 色が薄くなります。
緑強調	緑色が強調されます。	
青強調	青色が強調されます。	
クロス スクリーン	クロスフィルターのように、 太陽の反射や街灯などの光源 から、放射状に光の筋が伸び る効果があります。 ● 【光線の本数】：光線の本数 を、3種類から選べます。 ● 【クロスの量】：クロスフ ィルターがかかる光源の量を 3段階から選べます。 ● 【光線の傾き】：光線の傾き を3段階から選べます。 ● 【光線の長さ】：放射状に伸 びる光の長さを3段階から 選べます。	 【確認】 を選んで $\odot$ ボタンを押 すと、現在設定している内容を画 像に反映します。 $\odot$ (QUAL) ボタ ンを押している間、1コマ表示モ ードと同じ大きさで画像を確認で きます。保存する場合は 【保存 を選んで $\odot$ ボタンを押してくだ さい。

ソフト

ソフトフィルターのよう
に、画像をソフトな雰
囲気に仕上げます。



④または⑤を押すと、効果の度合
いを選べます。効果の度合いは、設
定画面のプレビュー画面で確認で
きます。

- OK ボタンを押すと、編集した画像が記録されます。

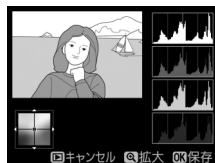
カラーカスタマイズ

MENU ボタン → 画像編集メニュー

画像全体の色調を調整できます。

右のような画面が表示され、マルチセ
クターで画像全体の色調を調整でき
ます。⑥⑦⑧⑨を押すたびに、画面全
体の色調が次のように変わります。

グリーンが強くなる



色調を操作すると、プレビュー画
像と画面右側のRGBヒストグラ
ム(色の分布図: □245)に反映
されます。

- OK ボタンを押すと、編集した画像が記録されます。

プレビュー画像の拡大表示について

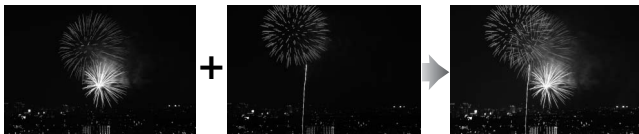
調整画面で $\mathcal{Q}$ (QUAL) ボタンを押すと、プレビュー画像を拡大表示し、拡大領域のヒストグラムを表示することができます。拡大表示中に $\mathcal{W}$ (WB) ボタンを押すと、色調の調整と拡大表示の操作を切り換えられます。拡大表示中にマルチセクターで画面をスクロールして、見たい部分に移動できます。 $\mathcal{I}$ (ISO) ボタンを押すと画像を縮小表示します。



画像合成

MENU ボタン → 画像編集メニュー

SDカードに記録されているRAW 画像2コマを重ね合わせて1コマの画像に合成できます。RAWデータを使用して合成するため、通常のアプリケーションソフトウェアなどで画像を合成する場合と比べ、階調特性に優れた画像になります。



1 画像編集メニュー画面で「画像合成」を選ぶ

- 「画像合成」を選んでマルチセクターの $\odot$ を押すと、右のような画面が表示され、「画像1」欄がハイライト表示されます。



2 合成する画像の1コマ目を選ぶ

- **OK** ボタンを押すと表示されるRAW画像のサムネール一覧から、1コマ目の画像を選びます。
- **QUAL** ボタンを押している間、選択中の画像を拡大表示します。



3 1コマ目の画像を決定する

- **OK** ボタンを押すと、選んだ画像が1コマ目に設定され、[画像1] 欄にプレビューが表示されます。



4 2コマ目の画像を選ぶ

- **QUAL** ボタンを押して [画像2] を選び、手順2～3と同じ手順で2コマ目の画像を選びます。



5 ゲインを調節する

- プレビュー欄に「画像1」と「画像2」を合成した画像が表示されます。プレビュー欄で確認しながら、合成画像の明るさが適正になるように、「画像1」または「画像2」を選んでから $\odot$ または $\ominus$ を押してゲイン（出力）を設定します。
- ゲインは0.1～2.0の範囲で、0.1ステップで設定できます。
- 各数値は初期設定の1.0（補正なし）を基準にした比率です。たとえば0.5にするとゲインは約半分になります。



6 [プレビュー] 欄に移動する

- $\odot$ または $\ominus$ を押して、プレビュー欄に移動します。
- 合成画像を確認せずに画像を保存したいときは、「保存」を選んで $\odot$ ボタンを押してください。



7 合成画像を確認する

- 「合成」を選び、 $\odot$ ボタンを押すと、合成画像の確認画面が表示されます。
- 設定をやり直したいときは、 ISO ボタンを押してください。手順6の画面に戻ります。



8 合成画像を保存する

- もう一度 $\odot$ ボタンを押すと、合成画像が保存され、合成画像が表示されます。



▼ 画像合成についてのご注意

- 合成できる画像は、このカメラで撮影したRAW 画像だけです。機種の異なるカメラやRAW 以外の画質モードで撮影した画像は選べません。
- 合成画像の画質モード（□□114）と画像サイズ（□□117）は、合成時のカメラの設定と同じになります。画像合成をする前に、これらの設定を確認してください。合成した画像をさらに別のRAW 画像と合成したいときは、画質モードをRAWに設定してください。
- **【撮像範囲】**と**【記録ビットモード】**が同じRAW画像のみ合成できます。
- 合成時に RAW を含む画質モードが選ばれている場合、元画像と同じ記録ビットモードになります。また、記録方式は合成時のカメラの設定になります。
- 合成時の画質モードがJPEGの場合、**【JPEG圧縮】**は**【サイズ優先】**になります。
- 合成画像のホワイトバランス、ピクチャーコントロール、撮影データ（撮影日時、測光モード、シャッタースピード、絞り値、撮影モード、露出補正值、焦点距離、縦横位置情報など）は、**【画像1】**で選んだ画像の内容を引き継ぎます。ただし、著作権情報は引き継ぎません。また、合成された画像には、画像合成時にカメラに設定されている画像コメントが添付されます。

RAW現像

(パソコンを使わずにRAW画像をJPEG画像に変換する)

MENUボタン →  画像編集メニュー

RAWを含む画質モード（□114）で記録したRAW画像を、カメラでRAW現像してJPEG画像を作成できます。

1 画像編集メニュー画面で「RAW現像」を選ぶ

- 「RAW現像」を選んでマルチセクターの $\odot$ を押すと、RAW画像がサムネイル表示されます。

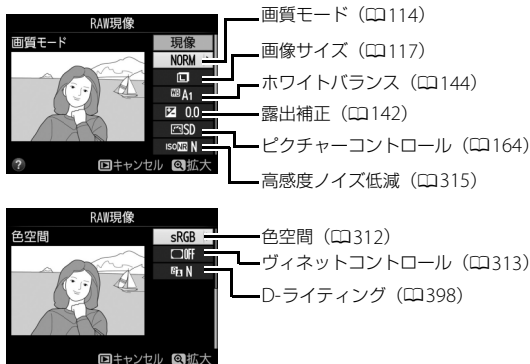


2 RAW現像する画像を選ぶ

- マルチセクターでRAW現像する画像を選び、 $\odot$ ボタンを押します。
- $\oplus$ (QUAL) ボタンを押している間、選択中の画像を拡大表示します。



3 表示されている項目をそれぞれ設定する



4 RAW現像する

- [現像] を選んで **OK** ボタンを押すと、JPEG画像を保存します。
- RAW現像後のJPEG画像が保存されます。
- キャンセルして画像編集メニューに戻るときは、**MENU** ボタンを押してください。



✓ RAW現像についてのご注意

- RAW現像できる画像は、このカメラで撮影したRAW画像だけです。機種の異なるカメラで撮影したRAW画像やRAW以外の画質モードで撮影した画像は選べません。
- 多重露出撮影した画像や [画像合成] で編集した画像の場合、[ホワイトバランス] と [ヴィネットコントロール] は選べません。
- [露出補正] で設定できる明るさ (−2〜+2) は、通常の露出補正の段数とは異なります。

リサイズ

MENUボタン →  画像編集メニュー

サイズの小さい画像を作成します。SDカードを2枚使用している場合は、記録先のスロットも指定できます。

■ 複数の画像を選んでリサイズ画像を作成する

MENUボタンを押して画像編集メニューを選んだ場合、複数の画像のリサイズ画像を一度に作成できます。

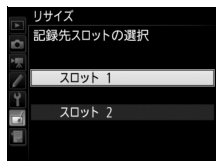
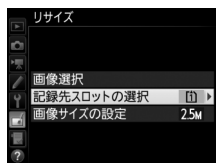
1 画像編集メニュー画面で「リサイズ」を選ぶ

- 「リサイズ」を選んでマルチセクターの  を押します。



2 記録先のスロットを選ぶ

- SDカードを2枚使用している場合は、「記録先スロットの選択」を選んで  を押します。
- SDカードが1枚しか入っていない場合は、「記録先スロットの選択」を選べません。手順3に進んでください。
-  または  でスロットを選び、 ボタンを押します。



3 画像サイズを設定する

- 「画像サイズの設定」を選んで $\blacktriangleright$ を押します。

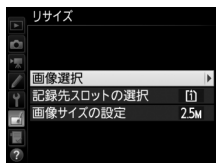


- $\odot$ または $\ominus$ で画像サイズを選び、 OK ボタンを押します。



4 「画像選択」を選ぶ

- 「画像選択」を選んで $\blacktriangleright$ を押すと、画像の選択画面が表示されます。



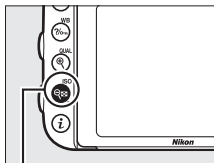
5 リサイズしたい画像を選ぶ

- マルチセクターでリサイズしたい画像を選びます。
- QUAL (QUAL) ボタンを押している間、選んだ画像を拡大表示します。



6 設定する

- **ISO** ボタンを押すと、**ISO** が表示されます。もう一度 **ISO** ボタンを押すと、**ISO** が消えます。
- リサイズする画像全てに設定したら、**OK** ボタンを押します。

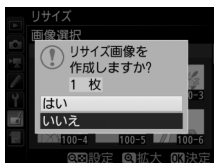


ISO ボタン



7 リサイズ画像を作成する

- 確認画面で **はい** を選んで、**OK** ボタンを押すと、リサイズ画像が保存されます。



リサイズ画像についてのご注意

- リサイズ画像は、拡大表示できないことがあります。
- リサイズ画像の画質モード (□114) は、元画像の画質モードがRAWを含む画質モードのときは **[FINE]** になり、**[FINE]**、**[NORMAL]**、**[BASIC]** のときは元画像と同じ画質モードになります。

簡単レタッチ

MENUボタン → 画像編集メニュー

コントラストと色の鮮やかさを高めた画像を簡単に作成できます。

カメラがD-ライティングの機能を使って、画像の暗い部分を明るく補正したり、コントラストと彩度（色の鮮やかさ）を高めたりします。

- マルチセクターの または を押すと、効果の度合いを選べます。効果の度合いは、設定画面のプレビュー画面で確認できます。
- **OK** ボタンを押すと、編集した画像が記録されます。

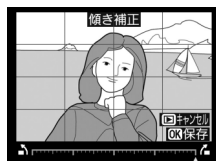


傾き補正

MENUボタン → 画像編集メニュー

画像の傾きを±5°の範囲（約0.25°ステップ）で補正できます。

- 編集画面では、プレビュー画面を表示します。
- 補正する傾きが大きくなるほど、画像周辺部は切り取られます。

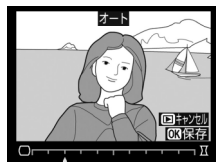


傾きを補正する		マルチセクターの を押すと時計回りに傾き、 を押すと反時計回りに傾きます。
傾き補正を実行して画像を保存する		傾き補正した画像が記録されます。

ゆがみ補正

MENUボタン →  画像編集メニュー

広角レンズ使用時のたる型のゆがみや、望遠レンズ使用時の糸巻き型のゆがみを補正できます。[オート]を選ぶと選択した画像のゆがみを自動的に判別して補正しますが、好みに応じて微調整することもできます。[マニュアル]を選ぶと自分でゆがみを補正できます。



- 編集画面では、プレビュー画面を表示します。
- [オート] は、Gタイプ、Eタイプ、またはDタイプレンズで撮影した画像のみ機能します。ただし、PCレンズ、フィッシュアイレンズ、その他一部のレンズで撮影した画像には機能しません。また、対応レンズ以外で撮影した画像については、動作を保証しません。
- [自動ゆがみ補正] (□314) を行った画像の場合、[マニュアル]のみ選べます。

ゆがみを補正する		- たる型のゆがみを補正するには、マルチセクターの  を押します。 - 糸巻き型のゆがみを補正するには、 を押します。
ゆがみ補正を実行して画像を保存する		ゆがみ補正した画像が記録されます。

✓ ゆがみ補正についてのご注意

- 補正するゆがみが大きくなるほど、画像周辺部は切り取られます。
- DXレンズを装着し、撮像範囲を [DX (24×16) 1.5×] 以外に設定して撮影した画像の場合、画像周辺部が大きく切り取られたり、DXフォーマットの外側の部分が特に強く補正されることがあります。

魚眼効果

MENU ボタン →  画像編集メニュー

フィッシュアイ（魚眼）レンズで撮影したような画像になります。

- 編集画面では、プレビュー画面を表示します。
- 魚眼効果が大きくなるほど、画像周辺部は切り取られます。



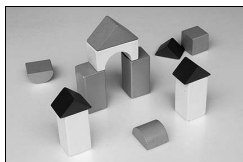
魚眼効果を調節する		マルチセクターの  を押すほど、魚眼効果は大きくなり、  を押すほど小さくなります。
魚眼効果を実行して画像を保存する		魚眼効果の画像が記録されます。

塗り絵

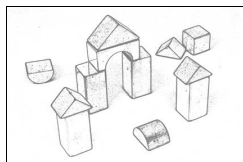
MENU ボタン →  画像編集メニュー

輪郭を抽出して塗り絵の原画風の画像を作成できます。

- 編集画面では、プレビュー画像を表示します。
-  ボタンを押すと、編集した画像が記録されます。



塗り絵処理前



塗り絵処理後

カラスケッチ

MENUボタン →  画像編集メニュー

輪郭を抽出して色をつけることで、スケッチ風の画像を作成できます。

- 編集画面では、プレビュー画面を表示します。



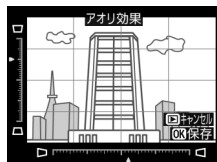
色の濃さを変える		マルチセレクトの  または  を押して「色の濃さ」を選んでから、  を押すと色が濃くなり、  を押すと薄くなります。
線の濃さを変える		 または  を押して「線の濃さ」を選んでから、  を押すと線が濃くなり、  を押すと薄くなります。「線の濃さ」を濃くすると、画像全体の色も濃くなります。
カラスケッチ画像を保存する		カラスケッチ画像が記録されます。

アオリ効果

MENU ボタン →  画像編集メニュー

高層ビルを見上げて撮影したときなどに生じる、遠近感による被写体のゆがみを補正します。

- 編集画面では、プレビュー画像を表示します。
- アオリ効果が大きくなるほど、画像周辺部は切り取られます。



アオリ効果を 調節する		マルチセクターの     でアオリの効果を変更できます。
アオリ効果を 実行して 画像を保存する		アオリ効果の画像が記録されます。



アオリ効果処理前



アオリ効果処理後

ミニチュア効果

MENUボタン →  画像編集メニュー

ミニチュア（模型）を接写したように加工します。ミニチュア効果には、高いところから見下ろして撮影した画像が適しています。

- [ミニチュア効果] を選ぶと、黄色い枠（ぼかさない範囲）が表示されます。

効果をかける方向を変える	 (ISO)	 (ISO) ボタンを押すと、効果をかける方向を縦と横から選べます。
ぼかさない範囲を決める		横方向に効果をかける場合、マルチセレクターの  または  を押して枠を動かし、ぼかさないではっきりと見せる範囲を選びます。
		縦方向に効果をかける場合、  または  を押して枠を動かし、ぼかさないではっきりと見せる範囲を選びます。
効果をかける幅を変える		横方向に効果をかける場合、  または  で効果をかける幅の広さを選びます。
		縦方向に効果をかける場合、  または  で効果をかける幅の広さを選びます。
プレビューを表示する	 (QUAL)	プレビューが表示され、効果を確認できます。



ミニチュア効果
を実行して
画像を
保存する



ミニチュア効果の画像が記録されます。

セレクトカラー

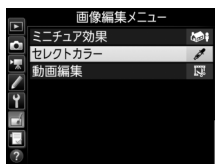
MENUボタン →  画像編集メニュー

選択した色のみを残し、それ以外の色をモノトーン(白黒)に加工します。

1 画像編集メニュー画面で

【セレクトカラー】を選ぶ

- 【セレクトカラー】を選んでマルチセレクトターの $\odot$ を押すと、画像の選択画面が表示されます。



2 加工する画像を選ぶ

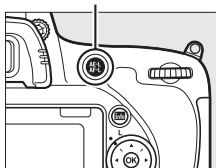
- マルチセレクトターで画像を選び、 $\odot$ ボタンを押します。
- QUAL (QUAL) ボタンを押している間、選択中の画像を拡大表示します。



3 残したい色を抽出する

- マルチセクターで色取得の枠を画像の残したい色の上に重ねます。
- Ⓚ (QUAL) ボタンを押すと拡大表示され、残したい色を細部まで確認できます。Ⓜ (ISO) ボタンを押すと縮小表示します。
- 残したい色の彩度によっては、抽出しにくい場合があります。彩度の高い色の抽出をおすすめします。
- AE/AFロックボタンを押すと、色の枠に抽出した色が表示されます。

AE/AFロックボタン



色 色取得



4 色の感度の枠を選ぶ

- メインコマンドダイヤルを回して、色の感度の枠を選びます。
- 抽出した色以外の色は、モノトーンで表示されます。



色の感度



5 抽出する色の感度を設定する

- または ● を押して、抽出する色の感度を [1] ～ [7] から設定します。数値が大きいほど抽出する色の色相が広くなり、小さいほど狭くなります。
- 色の感度を高く設定しすぎると、選択した色に近い色相の色も抽出されます。



6 抽出する色を追加する

- メインコマンドダイヤルを回して、別の色の枠と感度の枠を選び、手順3～5と同じ手順で色を抽出し、色の感度を設定します。
- 最大3色まで設定できます。
- 抽出した色の枠を選んで **FORMAT** ボタンを押すと、抽出した色をリセットします。
- 抽出した全ての色を削除したい場合は、**FORMAT** ボタンを押し続けます。確認画面で **はい** を選んで **OK** ボタンを押すと、全ての色をリセットします。



7 決定する

- **OK** ボタンを押すと、セレクトカラー画像が保存され、1コマ表示になります。



編集前後の画像表示

画像編集を行った画像を、編集元の画像と並べて表示して、画像編集の効果を確認できます。このメニュー項目は、編集元または編集後の画像を1コマ表示してから*i* ボタンを押して、**「画像編集」** を選んだときのみ表示されます。

■ 編集前後の画像表示方法

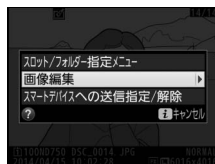
1 1コマ表示モードで画像を選ぶ

- 画像編集で作成した画像（が表示されている画像）または画像編集の元画像のみを選べます。



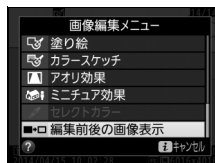
2 「画像編集」を選ぶ

- *i* ボタンを押し、**「画像編集」** を選んで **OK** ボタンを押します。



3 「編集前後の画像表示」を選ぶ

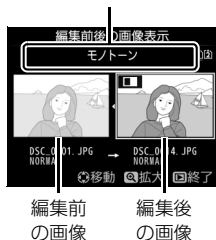
- **「編集前後の画像表示」** を選んで **OK** ボタンを押すと、**「編集前後の画像表示」** 画面を表示します。



4 編集前と編集後の画像を比較する

- 編集前の画像を左側、編集後の画像を右側に表示します。
- 画像編集の内容は、2つの画像の上に表示されます。
- マルチセレクトの $\odot$ または $\odot$ で、編集前/編集後の画像を切り換えられます。
- 画像合成の元画像の場合、 $\odot$ または $\odot$ で2枚の元画像を切り換えられます。
- 1枚の元画像から複数の画像編集を行った場合、 $\odot$ または $\odot$ で編集後の画像を切り換えられます。
- QUAL ボタンを押している間、選択中の画像を拡大表示します。
- OK ボタンを押すと、黄色の枠で選択中の画像を1コマ表示モードで再生します。
- ▶ ボタンを押すと、再生画面に戻ります。

画像編集の内容



✓ 編集前後の画像表示についてのご注意

- プロテクト (□253) が設定されている画像を編集した場合、編集前の画像は表示されません。
- 編集元の画像を削除した場合や非表示設定 (□298) にした場合、画像の入ったカードが画像編集時とは違うスロットに入っている場合も、編集前の画像は表示されません。

マイメニュー / 最近設定した項目

MENUボタンを押して、タブのアイコンを選ぶと、[マイメニュー] 画面が表示されます。



マイメニュー：よく使うメニューを登録する

再生、静止画撮影、動画撮影、カスタム、セットアップ、画像編集の各メニューから、よく使う項目だけを選んで、20項目までマイメニューに登録できます。登録した項目は、削除したり、表示順序を変えたりできます。

■ マイメニューに登録する

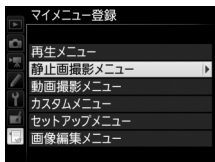
1 [マイメニュー] 画面で [マイメニュー登録] を選ぶ

- [マイメニュー登録] を選んで、マルチセクターのOKを押します。



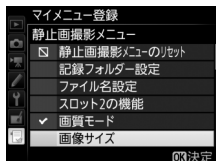
2 登録したいメニューを選ぶ

- 登録したいメニューを選んでOKを押すと、選んだメニューが一覧表示されます。



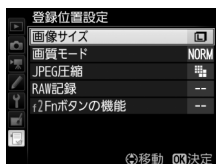
3 マイメニューに登録する項目を選ぶ

- マイメニューに登録する項目を選んでOKボタンを押します。



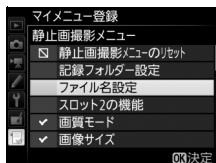
4 登録する項目の表示位置を選ぶ

- ⬆ または ⬇ で登録する項目の表示位置を選んで、OKボタンを押します。



5 マイメニューに表示したい全ての項目を登録する

- ✓が表示されている項目は、すでにマイメニューに登録済みです。
- 左横に☑が表示されている項目は、マイメニューに登録できません。
- 手順1～4を繰り返して、マイメニューに表示したい項目を登録します。



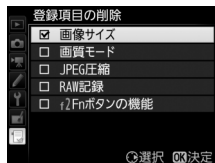
■ 登録した項目を削除する

1 [マイメニュー] 画面で [登録項目の削除] を選ぶ

- [登録項目の削除] を選び、マルチセクターの **OK** を押します。

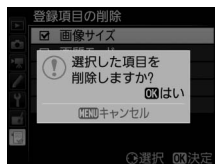
2 削除したいメニュー項目を選ぶ

- **OK** を押すと、項目の左側のチェックボックスが ☒ になります。
- 削除したい全ての項目に **✓** を入れます。



3 選んだ項目を削除する

- **OK** ボタンを押すと、確認画面が表示されます。もう一度 **OK** ボタンを押すと、選んだ項目が削除されます。



✎ ボタン操作で登録した項目を削除するには

[マイメニュー] 画面で削除したい項目を選んで **FORMAT** ボタンを押すと、確認画面が表示されます。もう一度 **FORMAT** ボタンを押すと、選んだ項目を削除します。

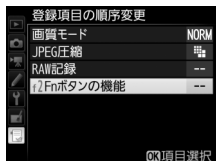
■ 登録した項目の表示順序を変える

1 [マイメニュー] 画面で [登録項目の順序変更] を選ぶ

- [登録項目の順序変更] を選び、マルチセクターの  を押します。

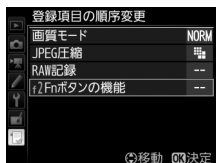
2 順番を変えたい項目を選ぶ

- 順番を変えたい項目を選んで、 ボタンを押します。



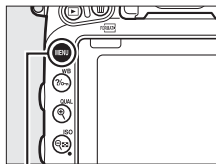
3 選んだ項目を移動したい位置を選ぶ

-  または  で移動したい位置を選んで、 ボタンを押すと、マイメニューの中で位置が変わります。
- 必要に応じて手順2～3を繰り返します。



4 [マイメニュー] 画面に戻る

MENU ボタンを押すと、[マイメニュー] 画面に戻ります。



MENU ボタン



■「マイメニュー」を「最近設定した項目」に変更する

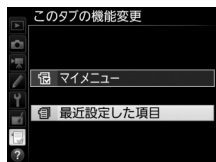
1 「マイメニュー」画面で「このタブの機能変更」を選ぶ

- 「このタブの機能変更」を選び、マルチセクターの⏮を押します。



2 「最近設定した項目」を選ぶ

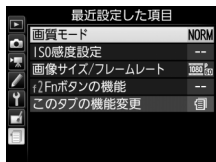
- 「このタブの機能変更」画面で「最近設定した項目」を選んで、Ⓚボタンを押します。
- 「マイメニュー」が「最近設定した項目」に切り替わります。



📄 最近設定した項目：最近設定したメニューをたどる

■「最近設定した項目」の設定方法

メニューを設定するたびに「最近設定した項目」に追加されます。最大20項目まで登録されます。



🔪 最近設定した項目を削除するには

「最近設定した項目」画面で削除したい項目を選んで🗑️ (REMOVE) ボタンを押すと、確認画面が表示されます。もう一度🗑️ (REMOVE) ボタンを押すと、選んだ項目を削除します。

🔪 「最近設定した項目」から「マイメニュー」に戻すには

「最近設定した項目」の「このタブの機能変更」を選ぶと、「マイメニュー」を「最近設定した項目」に変更する」(📄428) の手順2と同じ画面が表示されます。「マイメニュー」を選んで👉 ボタンを押すと、「マイメニュー」に切り替わります。

資料

このカメラで使えるアクセサリやカメラの主な仕様など、カメラを使うときに役立つ情報を記載しています。また、カメラの動作がおかしいときや警告メッセージが表示されたときの対処方法についても説明しています。

使用できるレンズ

CPUレンズ（IXニッコールを除く）をおすすめします。特にGタイプ、Eタイプ、Dタイプレンズは、カメラの機能を最大限に引き出すことができます。

レンズ	モード	フォーカスモード		撮影モード		測光モード		
		AF (オート フォーカス)	M (フォーカス エイド) ※1	P S	A M	測光モード		□*
						3D- RGB	RGB	
CPUレンズ※2	Gタイプレンズ※3、 Eタイプレンズ※3、 Dタイプレンズ※3、 AF-Iレンズ、 AF-Sレンズ	○	○	○	○	○	×	○※4
	PC-E NIKKOR シリーズ※5	×	○※6	○※6	○※6	○※6	×	○※4、6
	PCマイクロ 85mm F2.8D※7	×	○※6	×	○※8	○	×	○※4、6
	AF-S/AF-Iテレ コンバーター※9	○	○	○	○	○	×	○※4
	Gタイプ、Eタイプ、 Dタイプ以外のAF レンズ（F3AF用を 除く）	○※10	○※10	○	○	×	○	○※4
	AI-Pニッコール	×	○※11	○	○	×	○	○※4

☑=マルチパターン測光、⊙=中央部重点測光、□=スポット測光、□*=ハイライト重点測光

モード レンズ	モード	フォーカスモード		撮影モード		測光モード			
		AF (オート フォーカス)	M (フォーカス エイド) ※1	P S	A M				
						3D- RGB	RGB		
非CPUレンズなど※12	AI-S、AI、 AI改造レンズ、 シリーズEレンズ※13	×	○※11	×	○※14	×	○※15	○※16	×
	メディカル120mm f/4	×	○	×	○※17	×	×	×	×
	レフレックス レンズ	×	×	×	○※14	×	×	○※16	×
	PCニッコール	×	○※6	×	○※18	×	×	○	×
	AI-S、AIテレ コンバーター※19	×	○※20	×	○※14	×	○※15	○※16	×
	ベローズアタッチメン トPB-6 ※21	×	○※20	×	○※22	×	×	○	×
	オート接写リング (PK-11A、12、13、 PN-11)	×	○※20	×	○※14	×	×	○	×

- ※1 M (マニュアルフォーカス) は全てのレンズで使用可能です。
- ※2 IXレンズは装着できません。
- ※3 このカメラはVRレンズのVR (手ブレ補正) 機能に対応しています。
- ※4 フォーカスポイントの選択によりスポット測光エリアの移動が可能 (□137)。
- ※5 PC-E NIKKOR 24mm f/3.5D EDを装着してレボルビング操作をすると、レンズのシフトノブがカメラボディに接触する場合があります。この場合、シフトノブを小型に交換することで接触を回避できます。詳しくはニコンサービス機関にお問い合わせください。
- ※6 アオリ操作をしていない場合のみ可能。
- ※7 カメラの測光モード、および調光制御機能は、アオリ操作 (シフトまたはティルト) をしているとき、または開放絞り以外に絞り値が設定されているときには、正しく機能しません。
- ※8 撮影モードはMで使用可能。
- ※9 AF-Sレンズ、AF-Iレンズ専用です (□434)。オートフォーカスとフォーカスエイド可能なフォーカスポイントについては、□434をご覧ください。

- ※10 AF80–200mm f/2.8S、AF35–70mm f/2.8S、AF28–85mm f/3.5–4.5S (New)、AF28–85mm f/3.5–4.5Sレンズを使用し、ズームの望遠側かつ至近距離で撮影した場合、ファインダースクリーンのマット面の像とオートフォーカスのピント表示が合致しない場合があります。このような場合は、マニュアルフォーカスによりファインダースクリーンのマット面を利用してピントを合わせて撮影してください。
 - ※11 開放F値がF5.6以上明るいレンズのみ使用可能。
 - ※12 一部装着不可能なレンズ (□435) があります。
 - ※13 AI ED80–200mm f/2.8Sの三脚座を回転するとカメラと干渉するため、回転方向に制限があります。AI ED200–400mm f/4Sをカメラに装着したままでのフィルター交換はできません。
 - ※14 レンズ情報手動設定 (□232) でレンズの開放絞り値を設定することにより表示パネル、ファインダー内表示に絞り値が表示されます。
 - ※15 レンズ情報手動設定 (□232) でレンズの焦点距離、開放絞り値を設定することにより可能です。一部のレンズでは焦点距離と開放絞り値を設定しても十分な精度が得られない場合があります。この場合は中央部重点測光またはスポット測光を選んで撮影してください。
 - ※16 レンズ情報手動設定 (□232) で焦点距離、開放絞り値を設定することにより、測光の精度が向上します。
 - ※17 撮影モードが **M** でフラッシュ同調シャッタースピードより1段以上低速のシャッタースピードのときに使えます。
 - ※18 絞り込み測光で使います。撮影モードが**A**の場合はレンズ側で絞りプリセットを行い、AEロック後にアオリ操作を行ってください。撮影モードが**M**の場合はレンズ側で絞りプリセットを行い、あおる前に測光して露出を決定してください。
 - ※19 AI 28–85mm f/3.5–4.5S、AI 35–105mm f/3.5–4.5S、AI 35–135mm f/3.5–4.5S、AF-S 80–200mm f/2.8Dレンズの組み合わせによっては、露出補正を行う必要があります。
 - ※20 合成絞り値がF5.6以上明るい場合に使用可能。
 - ※21 オート接写リングPK-12またはPK-13を併用すると装着できます。カメラの姿勢、位置によりPB-6Dが必要です。
 - ※22 絞り込み測光で使用可能、撮影モードが**A**の場合はベローズアタッチメント側で絞り込みを行い、測光後撮影してください。
- 複写装置PF-4へはカメラアダプター PA-4を併用すると装備できます。
 - レンズによっては高感度撮影時には、オートフォーカス作動中にノイズ (すじ) が発生することがあります。この場合は、マニュアルフォーカスまたはフォーカスロックを利用して撮影してください。

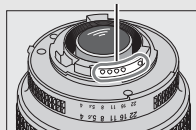
🔍 レンズの開放F値とは

レンズの明るさを示す数値で、そのレンズで最も絞りを開いたときの絞り値を意味します。レンズ名称の最後のほうに「f/2.8」「f/3.5-5.6」などと記されています。

🔍 CPUレンズ、Gタイプレンズ、Eタイプレンズ、Dタイプレンズの見分け方

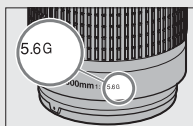
CPUレンズにはCPU信号接点があります。Gタイプレンズには「G」マークが、Eタイプレンズには「E」のマークが、Dタイプレンズには「D」マークが付いています。GタイプレンズとEタイプレンズには、絞りリングがありません。

CPU信号接点

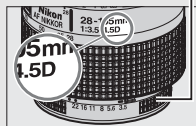


CPUレンズ

絞りリング



G/Eタイプレンズ



Dタイプレンズ

AF-S/AF-Iテレコンバーター使用時のフォーカスポイントについて

- AF-S/AF-Iテレコンバーターを装着して撮影を行う場合、オートフォーカスとフォーカスエイドが可能なフォーカスポイントは、次の図の通りです（合成絞り値がF5.6より暗い場合は、コントラストの低い被写体や輝度の低い被写体の撮影時にピントが合わないことがあります）。

テレコンバーター	装着レンズの開放F値	フォーカスポイント
TC-14E/TC-14E II/ TC-14E III	F4まで	
	F5.6	 ※1
TC-17E II	F2.8まで	
	F4	 ※1
	F5.6	— ※2
TC-20E/TC-20E II/ TC-20E III	F2.8まで	
	F4	 ※3
	F5.6	— ※2
TC-800-1.25EED	F5.6	 ※1

※1 AFエリアモード（□58）が3D-トラッキングまたはオートエリアAFの場合、シングルポイントAFに変更されます。

※2 この組み合わせの場合、オートフォーカス撮影はできません。

※3 中央のフォーカスポイント以外はラインセンサーによってピント情報を取得します。

- AF-S VR Micro-Nikkor 105mm f/2.8G IF-EDをお使いの場合、オートフォーカス撮影はできません。

非CPUレンズを使用する場合は

- 非CPUレンズを使用する場合は、セットアップメニューの[レンズ情報手動設定] (□□232) でレンズの焦点距離と開放絞り値を設定することによって、絞り値表示、RGBマルチパターン測光などの機能が使用できるようになります。レンズの焦点距離と開放絞り値を設定しない場合、測光モードをマルチパターン測光に設定しても、自動的に中央部重点測光になります。
- 絞り値はレンズの絞りリングでのみ設定できます。[レンズ情報手動設定] でレンズの開放絞り値を設定しない場合、表示パネルとファインダー内表示の絞り値表示が開放からの絞り込み段数表示となりますので、絞り値は、レンズの絞りリングで確認してください。

使用できないレンズ

次の非CPUレンズは使用できません。無理に装着しようとすると、カメラやレンズを破損しますのでご注意ください。

- AFテレコンバーター TC-16AS
- AI改造をしていないレンズ (AI方式以前の連動爪を使用するタイプ)
- フォーカシングユニットAU-1を必要とするレンズ (400mm f/4.5、600mm f/5.6、800mm f/8、1200mm f/11)
- フィッシュアイ (6mm f/5.6、7.5mm f/5.6、8mm f/8、OP10mm f/5.6)
- 2.1cm f/4
- K2リング
- ED180-600mm f/8 (製品No.174041~174180)
- ED360-1200mm f/11 (製品 No.174031~174127)
- 200-600mm f/9.5 (製品 No.280001~300490)
- F3AF用 (AF80mm f/2.8、AF ED200mm f/3.5、テレコンバーター TC-16S)
- PC28mm f/4 (製品 No.180900以前の製品)
- PC35mm f/2.8 (製品 No.851001~906200)
- 旧PC35mm f/3.5
- 旧レフレックス1000mm f/6.3
- レフレックス1000mm f/11 (製品 No.142361~143000)
- レフレックス2000mm f/11 (製品 No.200111~200310)

赤目軽減モードについてのご注意

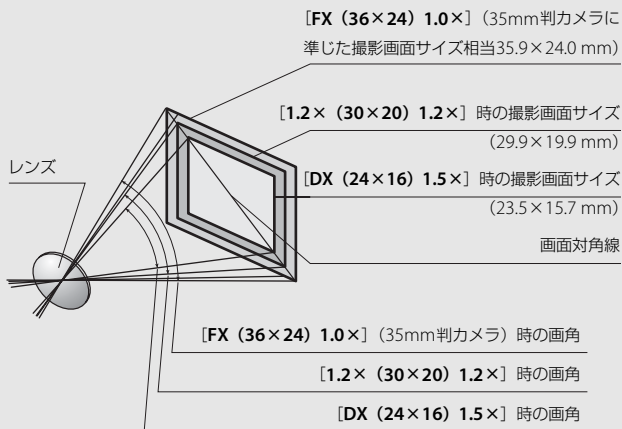
レンズの種類によっては、赤目軽減ランプの光がさえぎられ、フラッシュ撮影時に十分な赤目軽減効果が得られない場合があります。

🔪 レンズの画角と焦点距離について

D750では、さまざまな当社製35mm判カメラ用レンズが使用できます。[DX自動切り換え] (□110) を [する] に設定している場合、35mm判カメラのレンズを装着すると、35mm判カメラと同じ画角（フィルム面に写し込む範囲）の [FX (36×24) 1.0×] で撮影できます。DXレンズを装着すると、カメラが判別して自動的に [DX (24×16) 1.5×] に切り換えます。

[DX自動切り換え] の設定を変えて、使用しているレンズと異なる画角で撮影することもできます。たとえば、35mm判カメラのレンズの使用時に、[DX (24×16) 1.5×] や [1.2× (30×20) 1.2×] に設定し、画角を狭くして撮影することもできます。

このため、[撮像範囲] の設定によっては、同じレンズで撮影しても、画角と画面サイズが異なることにご注意ください。



35mm判カメラの撮影画面サイズは、対角線の長さで [DX (24×16) 1.5×] のときの約1.5倍、[1.2× (30×20) 1.2×] のときの約1.2倍です。したがって、D750に35mm判カメラのレンズを装着したときのレンズに表記されている焦点距離は、[DX (24×16) 1.5×] のときが約1.5倍、[1.2× (30×20) 1.2×] のときが約1.2倍に相当します。たとえば、焦点距離50 mmのレンズを装着したときは、[DX (24×16) 1.5×] では約75 mm、[1.2× (30×20) 1.2×] では約60 mmの焦点距離に相当する画角になります。

使用できるスピードライト

このカメラは、ニコンクリエイティブライティングシステム対応スピードライトとの組み合わせで、さまざまな機能が利用できます。

ニコンクリエイティブライティングシステム (CLS) について

ニコンクリエイティブライティングシステム (CLS) は、ニコンのスピードライトとカメラのデータ通信方式を改良したシステムで、スピードライト撮影に新たな可能性を開く、さまざまな機能を提供します。

■ ニコンクリエイティブライティングシステム対応 スピードライトの主な仕様

	ガイドナンバー (ISO 100・m、20℃)
SB-910/ SB-900※1	34 (照射角35mm、スタンダード配光時)
SB-800	38 (照射角35mm時)
SB-700※1	28 (照射角35mm、スタンダード配光時)
SB-600	30 (照射角35mm時)
SB-500※2	24
SB-400※3	21
SB-300※3	18
SB-R200※4	10

※1 カメラのホワイトバランスを **AUTO** (オート) または  (フラッシュ) に設定し、SB-910、SB-900、またはSB-700用カラーフィルターを装着して撮影すると、カメラが自動的にフィルターを識別し、最適なホワイトバランスを設定します。

※2 SB-500のLEDライト機能を使用するときは、カメラのホワイトバランスを**AUTO**またはに設定すると、カメラが自動的に最適なホワイトバランスを設定します。

※3 ワイヤレス機能はありません。

※4 リモート発光用スピードライトSB-R200を使用するには、内蔵フラッシュをコマンドモードに設定するか、SB-910、SB-900、SB-800、SB-700、SB-500、またはワイヤレススピードライトコマンド SU-800が必要です。

■ SU-800について

ワイヤレススピードライトコマンダーSU-800は、ワイヤレスでSB-910、SB-900、SB-800、SB-700、SB-600、SB-500、SB-R200を制御するコマンダーです。スピードライトを3つのグループに分けて制御できます。SU-800には発光機能はありません。

ガイドナンバーとは

フラッシュの光量を示す値で、大きいほど光が遠くまで届きます。「ガイドナンバー＝絞り値×撮影距離（m）」（ISO感度が100の場合）という関係があります。ガイドナンバーが34（ISO感度100、20℃）のスピードライトの場合、ISO感度が100で絞り値がF5.6なら、 $34 \div 5.6 \approx 6.1$ mまでフラッシュの光が届くことになります。また、実効ガイドナンバーはISO感度が2倍になると約1.4倍（ $\sqrt{2}$ 倍）になります。たとえば、ISO感度が200の場合、絞り値がF5.6なら $34 \div 5.6 \times 1.4 \approx 8.6$ mまで光が届きます。

■ ニコンクリエイティブライティングシステム対応 スピードライトとの組み合わせで利用できる機能

			SB-910	SB-900	SB-800	SB-700	SB-600	SB-500	SU-800	SB-R200	SB-400	SB-300
1灯	i-TTL	i-TTL-BL調光※1	○	○	○	○	○	○	—	—	○	○
		スタンダード i-TTL調光	○※2	○	○※2	○	○	○	—	—	○	○
	AA	絞り連動外部 自動調光	○※3	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	A	外部自動調光	○※3	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	GN	距離優先 マニュアル発光	○	○	—	—	—	—	—	—	—	—
	M	マニュアル発光	○	○	○	○※4	—	—	○※4	○※4	○※4	○※4
	RPT	リピーティング フラッシュ	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—
アドバンスドワイヤレスライティング 主灯	リモートフラッシュへの 発光指示		○	○	—	○※4	○	—	—	—	—	—
	i-TTL	i-TTL 調光	○	○	—	○※4	—	—	—	—	—	—
	[A:B]	クイック ワイヤレス コントロール	—	○	—	—	○※5	—	—	—	—	—
	AA	絞り連動外部 自動調光	○※6	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	A	外部自動調光	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	M	マニュアル発光	○	○	—	○※4	—	—	—	—	—	—
	RPT	リピーティング フラッシュ	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—

			SB-910	SB-900	SB-800	SB-700	SB-600	SB-500	SU-800	SB-R200	SB-400	SB-300
アドバンストワイヤレスライティング	補助灯	i-TTL	i-TTL 調光	○	○	○	○	○	—	○	—	—
		[A:B]	クイックワイヤレスコントロール	○	○	○	○	—	○	—	—	—
		AA	絞り連動外部自動調光	○※6	—	—	—	—	—	—	—	—
		A	外部自動調光	○	—	—	—	—	—	—	—	—
		M	マニュアル発光	○	○	○	○	—	○	—	—	—
		RPT	リピーティングフラッシュ	○	○	○	○	—	—	—	—	—
			発光色温度情報伝達 (フラッシュ)	○	○	○	○	—	—	○	○	○
			発光色温度情報伝達 (LEDライト)	—	—	—	○	—	—	—	—	—
			オートFPハイスピードシンクロ ※7	○	○	○	○	○	○	—	—	—
			FVロック ※8	○	○	○	○	○	○	○	○	○
			マルチポイントAF補助光	○	○	○	—	○※9	—	—	—	—
			赤目軽減発光	○	○	○	○	—	—	○	—	—
			カメラ起動モデリング発光	○	○	○	○	○	○	—	—	—
			カメラからの発光モード設定	—	—	—	○	—	—	○	○	○
			カメラからのスピードライトファームアップ	○※10	○	—	○	—	—	—	○	○

※1 スポット測光時は設定できません。

※2 スピードライト側でも設定できます。

※3 AAモードとAモードの選択は、スピードライトのカスタム設定で行います。また、セットアップメニューの「**レンズ情報手動設定**」でレンズの開放絞り値と焦点距離を設定していない非CPUレンズを装着した場合はAモードになります。

※4 カメラ側でのみ設定できます。

※5 クローズアップ撮影時のみ設定できます。

※6 スピードライトのカスタム設定にかかわらず、セットアップメニューの「**レンズ情報手動設定**」でレンズの開放絞り値と焦点距離を設定していない非CPUレンズを装着した場合はAモードになります。

※7 発光モードがi-TTL、AA、A、GN、Mの場合のみ動作します。

※8 発光モードがi-TTL、AA、Aの場合のみ動作します。

※9 コマンダー撮影時のみ設定できます。

※10 SB-910とSB-900のみカメラからのスピードライトファームアップが可能です。

その他のスピードライトとの組み合わせで利用できる機能

次のスピードライトを使用する場合、外部自動調光（**A**）あるいはマニュアル発光撮影となります。装着レンズによって機能が変わることはありません。

スピードライト			SB-80DX SB-28DX	SB-50DX※1	SB-28 SB-26 SB-25 SB-24	SB-30 SB-27※2 SB-22S SB-22 SB-20 SB-16B SB-15	SB-23 SB-29※3 SB-21B※3 SB-29S※3
区分	A	外部自動調光	○	—	○	○	—
	M	マニュアル発光	○	○	○	○	○
	閃	マルチフラッシュ	○	—	○	—	—
	REAR※4	後幕シンクロ	○	○	○	○	○

※1 撮影モードを**P**、**S**、**A**、**M**に設定し、内蔵フラッシュを収納した状態にして内蔵フラッシュが光らないようにしてください。内蔵フラッシュが自動的に上がって光ることがあるため、その他の撮影モードは使用しないでください。

※2 このカメラと SB-27 を組み合わせると自動的に **TTL** モードになりますが、**TTL**モードでは使えません。SB-27を**A**モードに設定し直してください。

※3 SB-29・21B・29Sでオートフォーカスができるレンズは、AF-S VR Micro-Nikkor 105mm f/2.8G IF-EDとAF-S Micro NIKKOR 60mm F2.8G EDのみです。

※4 カメラ側のフラッシュモードで設定してください。

▼ スピードライト使用時のご注意

- 詳細はお使いになる各スピードライトの使用説明書をご覧ください。
- ニコンクリエイティブライティングシステム対応のスピードライトの使用説明書にカメラ分類表が記載されている場合は、ニコンクリエイティブライティングシステム対応デジタル一眼レフに該当する箇所をお読みください。なお、このカメラはSB-80DX、SB-28DX、SB-50DXの使用説明書に記載のデジタル一眼レフカメラには該当しません。
- 別売のスピードライト使用時は、フラッシュモード(□182)の**AUTO**(オート：自動発光)機能は解除され、内蔵フラッシュは発光しません。
- スピードライトを使うと、④、⑤、⑥を除く全ての撮影モードでフラッシュ撮影できます。
- ニコンクリエイティブライティングシステム対応スピードライト使用時には、i-TTL や外部自動調光モードにおいて、フル発光でも露出不足になる可能性のある場合に、発光直後にレディーライトが約3秒間点滅して露出アンダー警告を行います。その他のスピードライトの場合、充電完了表示と露出アンダー警告は、スピードライト側で確認してください。詳細はお使いになる各スピードライトの使用説明書をご覧ください。
- i-TTL モード時のISO 感度連動範囲はISO 100~12800相当です。
- ISO感度を100よりも低感度に設定したり、12800よりも高感度に設定した場合には、距離や絞り値によっては適正な発光量にならないことがあります。
- 撮影モードがPの場合、下表の絞り値よりも絞りを開くことはできません。

ISO感度と開放側の限界絞り (F)							
100	200	400	800	1600	3200	6400	12800
4	4.8	5.6	6.7	8	9.5	11	13

※ 制御される絞り値よりも開放絞りが暗い場合は、装着レンズの開放絞りによって制御されます。

- スピードライト SB-910、SB-900、SB-800、SB-700、SB-600、SB-500、SB-400の使用時に、フラッシュモードが赤目軽減、赤目軽減スローシンクロモードの場合は、スピードライト側で赤目軽減発光が行われます。
- スピードライト SB-910、SB-900、SB-800、SB-700、SB-600、ワイヤレススピードライトコマンダー SU-800の使用時に、AF補助光の照射条件が満たされると、スピードライト側のAF補助光を自動的に照射します。

- スピードライトSB-910、SB-900のAF補助光は、17～135mmまでのAFレンズに対応しています。各焦点距離でオートフォーカス可能なフォーカスポイントは、次の図の通りです。

焦点距離が17mmから 19mmの場合	焦点距離が20mmから 105mmの場合	焦点距離が106mmから 135mmの場合
		

- スピードライトSB-800、SB-600、ワイヤレススピードライトコマンダーSU-800のAF補助光は、24～105mmまでのAFレンズに対応しています。各焦点距離でオートフォーカス可能なフォーカスポイントは、次の図の通りです。

焦点距離が24mmから 34mmの場合	焦点距離が35mmから 49mmの場合	焦点距離が50mmから 105mmの場合
		

- スピードライトSB-700のAF補助光は、24～135mmまでのAFレンズに対応しています。各焦点距離でオートフォーカス可能なフォーカスポイントは、次の図の通りです。

焦点距離が24mmから 27mmの場合	焦点距離が28mmから 135mmの場合
	

- 使用するレンズや撮影シーンによっては、オートフォーカスによるピント合わせができずにシャッターがきれなかったり、ピントが合わなくてもピント表示（●）が点灯してシャッターがきれることがあります。
- i-TTLモード時に、調光コードSC-17、SC-28、SC-29を使用してカメラからスピードライトを離して撮影する場合、スタンダードi-TTL調光以外では適正露出を得られない場合があります。この場合は、スタンダードi-TTL調光に切り換えて撮影してください。また、あらかじめテスト撮影を行ってください。
- i-TTLモード時に、発光面に内蔵パネルまたは付属のパウンスアダプター以外の部材（拡散板など）を装着しないでください。カメラ内の演算に誤差が生じ、適正露出とならない場合があります。

🔧 インフォ画面のフラッシュモード表示について

インフォ画面のフラッシュモードでは、別売のスピードライト使用時の発光方式が、次のように表示されます。

	通常発光	FP発光 (📖 345)
i-TTL-BL調光 スタンダードi-TTL調光		
絞り連動外部自動調光 (AA)		
外部自動調光 (A)		
距離優先マニュアル発光 (GN)		
マニュアル発光		
リピーティング発光		—
アドバンストワイヤレス ライティング		

🔧 ホットシューアダプター AS-15

別売のホットシューアダプター AS-15を装着すると、シンクロターミナルが利用できます。

✔ 他社製フラッシュについてのご注意

他社製のフラッシュ（カメラのX接点に250V以上の電圧がかかるものや、アクセサリーシュー部の接点をショートさせてしまうもの）を使用しないでください。カメラの正常な機能が発揮できないだけでなく、カメラおよびフラッシュのシンクロ回路を破損することがあります。

使用できるアクセサリー

D750Iには撮影領域を広げるさまざまなアクセサリーが用意されています。詳しくは最新のカatalogや当社のホームページなどでご確認ください。

電源

- **Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL15** (□□23、25)
ニコンデジタルカメラD750用のバッテリーです。
 - **バッテリーチャージャー MH-25a** (□□23)
Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL15用のチャージャーです。
- MH-25aの代わりにバッテリーチャージャー MH-25も使えます。
 - **マルチパワーバッテリーパックMB-D16**
MB-D16には縦位置シャッターボタンとメインコマンドダイヤル、サブコマンドダイヤル、マルチセクター、AE/AFロックボタンが装備されているので、縦位置での撮影に便利です。カメラ本体のMB-D16用接点カバーを取り外して装着します。
 - **パワーコネクター EP-5B、ACアダプター EH-5b***
ACアダプターを使用すると、長時間カメラを使用するときに安定して電源を供給できます。
- このカメラは、カメラ本体とACアダプターを接続するためにパワーコネクター EP-5Bが必要です。カメラとパワーコネクター、ACアダプターを接続する方法については、「カメラとパワーコネクター、ACアダプターの接続方法」(□□450)をご覧ください。
- EH-5bの代わりにACアダプター EH-5/EH-5aも使えます。
- マルチパワーバッテリーパックMB-D16をカメラに装着してACアダプターを使用する場合、EP-5Bは、カメラではなくMB-D16に入れてください。なお、カメラとMB-D16の両方にEP-5Bを入れて使用しないでください。
- ※ 日本国外でお使いになるには、別売の電源コードが必要です。

無線/有線 LAN アダプター (□264)	● 通信ユニットUT-1 USBケーブルでUT-1をカメラに接続してから、LANケーブルをUT-1に接続することにより、カメラで撮影した画像を有線でパソコンやFTPサーバーに転送したり、別売のCamera Control Pro 2を使ってパソコンからカメラを遠隔操作できます。さらに、パソコンやiPhoneのWebブラウザーから画像を開覧したり、リモート撮影することもできます。 ● ワイヤレストランスミッター WT-5 カメラに接続したUT-1に取り付けることにより、UT-1の機能を無線LANで使えます。 通信ユニットおよびワイヤレストランスミッターをお使いいただく場合は、有線LAN、無線LANの知識および環境が必要です。通信ユニットおよびワイヤレストランスミッターに関連するソフトウェアは、必ず最新版にバージョンアップしてお使いください。
HDMI ケーブル (□273)	● HDMIケーブルHC-E1 カメラ側がType C、HDMI機器側がType AのHDMIケーブルです。
アクセサリ シューカバー	● アクセサリシューカバー BS-1 スピードライトを取り付けるアクセサリシューを保護するためのカバーです。
ボディー キャップ	● ボディーキャップBF-1B、BF-1A レンズを取り外したカメラボディーに取り付けることにより、ゴミやほこりの付着を防ぎ、カメラ内部を保護します。

ファインダー
用アクセサ
リー

• 接眼補助レンズDK-20C

遠視、近視の方のための補助レンズで、接眼部に差し込むだけで簡単に取り換えることができます。－5、－4、－3、－2、0、＋0.5、＋1、＋2、＋3m⁻¹の9種類が用意されていますが、いずれもこのカメラの視度調節ダイヤルが基準位置（－1m⁻¹）の場合の値です。視度補正は個人差が大きいため店頭で実際に取り付けてお選びください。このカメラには視度調節機能がついています（－3～＋1m⁻¹）ので、この範囲外の視度補正が必要なときにお使いください。なお、接眼補助レンズを使用している場合は、接眼目当てでは使用できません。

• マグニファイングアイピースDK-21M

このカメラのファインダー倍率を約1.17倍（50 mm F 1.4レンズ使用時・∞・－1.0 m⁻¹のとき）に拡大します。

• マグニファイヤー DG-2

ファインダー中央部の像を拡大します。より厳密なピント合わせが必要なときに使用します。

• アイピースアダプター DK-22

上記DG-2を取り付けるためのアダプターです。

• 角窓用変倍アングルファインダー DR-6

カメラの接眼部に取り付けると、撮影レンズと直角の方向（水平方向に向けたカメラの真上など）からファインダー内の画像を確認できます。

アクセサ
リーターミ
ナル

アクセサリーターミナルに次のアクセサリーを接続することができます。

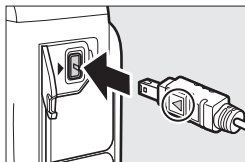
• ワイヤレスリモートコントローラー WR-R10 (☎198、449)

• ワイヤレスリモートコントローラー WR-1 (☎198、449)

• リモートコードMC-DC2 (☎99)

• GPSユニットGP-1/GP-1A (☎235)

図のようにアクセサリーターミナルの▷マークとコネクターの◁マークを合わせて、コネク터를アクセサリーターミナルに接続します。



使用しないときは、カメラの端子カバーを必ず閉じてください。ゴミ等が入ると、誤作動の原因となることがあります。

外部マイク

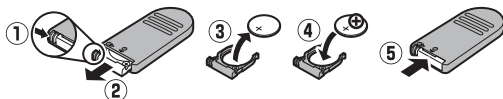
• ステレオマイクロホンME-1 (☎72)

フィルター	• フィルターをレンズ保護のために常用する場合は、NCフィルターをお使いください。 • カメラ測光系の特性上、従来の偏光フィルター（Polar）は使用できません。円偏光フィルター（C-PL、C-PL II）をお使いください。 • 逆光撮影や、輝度の高い光源を画面に入れて撮影する場合は、フィルターによって画像上にゴーストが発生するおそれがあります。このような場合は、フィルターを外して撮影することをおすすめします。 • 露出倍数のかかるフィルター（Y44、Y48、Y52、O56、R60、X0、X1、C-PL（円偏光フィルター）、ND25、ND45、ND4、ND85、ND8、ND400、A2、A12、B2、B8、B12）を使用する場合、RGBマルチパターン測光、または3D-RGBマルチパターン測光の効果が得られない場合がありますので、測光モードを中央部重点測光に切り換えて撮影することをおすすめします。詳しくは、各フィルターの使用説明書をご覧ください。 • 特殊フィルターなどを使用する場合は、オートフォーカスやフォーカスエイドが行えないことがありますのでご注意ください。
ニコンデジタルカメラ専用ソフトウェア	• Camera Control Pro 2 パソコンからカメラを操作して静止画や動画を撮影したり、撮影した画像を直接パソコンへ保存したりできる、カメラコントロール用ソフトウェアです。Camera Control Pro 2で画像の記録先の設定が【PC】になっている場合、カメラとパソコンを接続してCamera Control Pro 2を起動すると、表示パネルにPC接続中マークが表示されます。 • ソフトウェアは必ず最新版にバージョンアップしてお使いください。ご使用のパソコンがインターネットに接続されている場合、OSログオン後に所定時間を経過すると、ニコンメッセージセンター 2はソフトウェアの更新情報などを確認します（初期設定）。更新情報がある場合は、「通知の画面」が自動的に表示されます。 • 対応OSについては、当社ホームページのサポート情報（□xxi）でご確認ください。

リモコン
(☎194) /
ワイヤレス
リモート
コントロー
ラー
(☎198)

• リモコンML-L3

リモコン用電池（CR2025型3Vリチウム電池）の交換方法



電池室のノブを右側に押しながら (①)、隙間に爪などを差し込んで手前に引き出して (②) ください。リチウム電池を入れる際は、「+」と「-」の向きをよくご確認ください (④)。

• ワイヤレスリモートコントローラー WR-R10/WR-T10

ワイヤレスリモートコントローラー WR-R10をカメラのアクセサリターミナルに装着すると、ワイヤレスリモートコントローラー WR-T10からの操作で無線での遠隔撮影を行えます。

• ワイヤレスリモートコントローラー WR-1

WR-1は、他のWR-1やWR-R10またはWR-T10と組み合わせて、送信機または受信機として使います。たとえば、受信機に設定したWR-1をカメラのアクセサリターミナルに取り付けると、送信機に設定したWR-1からの操作で、遠隔撮影したりカメラの設定を変更したりすることができます。

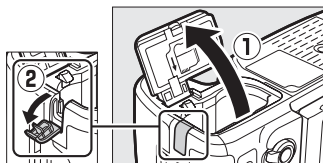
 使用できるアクセサリーについて

- 国または地域によって、販売していない場合があります。
- アクセサリーの最新情報は、当社ホームページやカタログなどでご確認ください。

カメラとパワーコネクター、ACアダプターの 接続方法

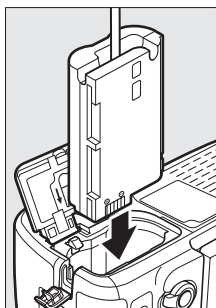
カメラとパワーコネクター、ACアダプターを接続する前に、カメラ本体の電源がOFFになっていることを確認してください。

1 カメラのバッテリー室 カバー（①）とパワーコ ネクターカバー（②）を 開ける



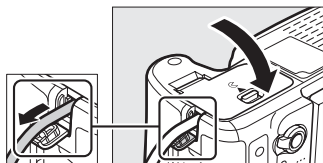
2 パワーコネクター EP-5Bを入れる

- パワーコネクターは、接点の向きに注意しながら入れてください。
- オレンジ色のバッテリーロックレバーをパワーコネクター側面で押しながら、パワーコネクターを奥まで入れると、バッテリーロックレバーがパワーコネクターに掛かり、パワーコネクターがロックされます。



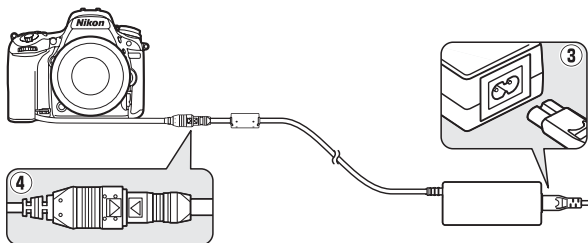
3 カメラのバッテリー室 カバーを閉じる

- パワーコネクターのコードがパワーコネクターカバーを開けた部分から出るように注意して、バッテリー室カバーを閉じます。



4 パワーコネクターとACアダプター EH-5bを接続する

- 電源コードのACプラグを、ACアダプターのACプラグ差し込み口に差し込みます (③)。
- パワーコネクターのDCプラグコネクターにACアダプターのDCプラグを差し込みます (④)。
- パワーコネクターとACアダプターの使用時には、液晶モニター上のバッテリー残量表示が  に変わります。



カメラのお手入れについて

保管について

長期間カメラを使用しないときは、必ずバッテリーを取り出してください。バッテリーを取り出す前には、カメラの電源がOFFになっていることを確認してください。

カメラを保管するときは、下記の場所は避けてください。

- 換気の悪い場所や湿度が60%を超える場所
- テレビやラジオなど強い電磁波を出す装置の周辺
- 温度が50℃以上、または-10℃以下の場所

クリーニングについて

カメラ本体	ほこりや糸くずをブローで払い、柔らかい乾いた布で軽く拭きます。海辺でカメラを使用した後は、砂や塩を真水で湿らせた布で軽く拭き取り、よく乾かします。 ご注意：カメラ内部にゴミ、ほこりや砂などが入り込むと故障の原因となります。この場合、当社の保証の対象外となりますのでご注意ください。
レンズ・ミラー・ファインダー	ガラスは傷つきやすいので、ほこりや糸くずをブローで払い、スプレー缶タイプのブローは、缶を傾けずにお使いください（中の液体が気化されずに吹き出し、レンズ・ミラー・ファインダーを傷つけることがあります）。指紋や油脂などの汚れは、柔らかい布にレンズクリーナーを少量付けて、ガラスを傷つけないように注意して拭きます。
液晶モニター	ほこりや糸くずをブローで払います。指紋や油脂などの汚れは、表面を柔らかい布かセーム革で軽く拭き取ります。強く拭くと、破損や故障の原因となることがありますのでご注意ください。

アルコール、シンナーなど揮発性の薬品はお使いにならないでください。

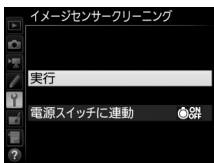
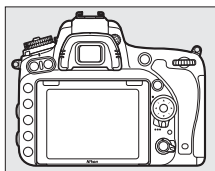
ローパスフィルターのお手入れについて

レンズを取り付けるときなどに、撮像素子の前面にあるローパスフィルターにゴミやほこりが付くと、画像に影が写り込むことがあります。イメージセンサークリーニングを作動させると、ローパスフィルターを振動させてゴミをふるい落とすことができます。

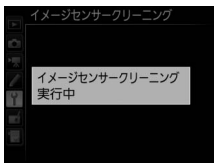
イメージセンサークリーニングは、メニューから操作する方法と、電源のON/OFF時に自動的に行う方法があります。

■ セットアップメニューの【イメージセンサークリーニング】から操作する

- 効果的にゴミをふるい落とせるように、カメラを正位置（横位置で構えるときの向き）にしてください。
- セットアップメニューの【イメージセンサークリーニング】を選び、【実行】を選んでOK ボタンを押すと、イメージセンサークリーニングが開始されます。実行中は、表示パネルに**ぶす**が点滅し、撮像素子のチェックも行われます。



- イメージセンサークリーニング実行中は、カメラの操作はできません。バッテリーやACアダプターを取り外さないでください。
- クリーニングが完了すると、セットアップメニュー画面に戻ります。

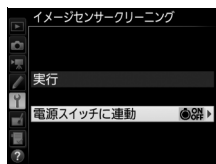


■ 電源のON/OFF時にイメージセンサークリーニング する

 ON 電源ONで実行	電源ONと同時にイメージセンサークリーニングが作動します。
 OFF 電源OFFで実行	電源OFFと同時にイメージセンサークリーニングが作動します。
 ON/OFF 電源ONとOFFで実行	電源ON、OFFと同時にイメージセンサークリーニングが作動します。
実行しない	電源ON、OFFしてもイメージセンサークリーニングは作動しません。

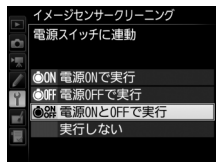
1 [イメージセンサークリーニング] 画面で[電源スイッチに連動]を選ぶ

- [電源スイッチに連動]を選んでマルチセクターのを押すと、[電源スイッチに連動]画面が表示されます。



2 イメージセンサークリーニングの方法を選ぶ

-  ボタンを押して設定します。



▼ イメージセンサークリーニングについてのご注意

- 電源スイッチに連動してイメージセンサークリーニングが作動しているときにカメラを操作すると、イメージセンサークリーニングは中断します。
- カメラの電源ON時に内蔵フラッシュの充電が行われるときは、カメラの電源ONと同時にイメージセンサークリーニングが作動する設定になっていても、イメージセンサークリーニングを行わないことがあります。
- 完全にゴミを取り除けないことがあります。そのときは、ローパスフィルターを市販のプロアーで掃除する（□□455）か、ニコンサービス機関にご相談ください。
- イメージセンサークリーニングを連続で行うと、内部の回路を保護するため、一時的に作動しなくなる場合があります。少し時間をおくと再び作動ようになります。

■■ ローパスフィルターをブローで掃除する

イメージセンサークリーニング (□453) でゴミやほこりを取りきれないときは、ローパスフィルターを次の手順でクリーニングできます。ただし、ローパスフィルターは非常に傷つきやすいため、ニコンサービス機関にクリーニングをお申し付けくださることをおすすめします。

- 作業中のバッテリー切れを防ぐため、十分に充電されたバッテリー、または別売のパワーコネクターとACアダプターを組み合わせお使いください。
- セットアップメニューの[クリーニングミラーアップ]を使用します。バッテリー残量表示が以下の場合、[クリーニングミラーアップ]は操作できません。

1 カメラの電源をOFFにしてからレンズを取り外す

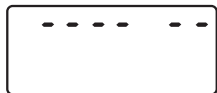
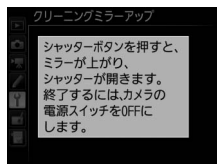
レンズを取り外したら、カメラの電源をONにしてください。

2 セットアップメニューで[クリーニングミラーアップ]を選んでマルチセクターのを押す



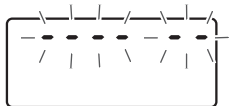
3 ボタンを押す

- クリーニングミラーアップの待機状態になります。
- 液晶モニター、表示パネル、ファインダー内表示に右のように表示されます。
- ローパスフィルターのお手入れを止めるには、カメラの電源をOFFにしてください。



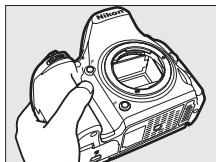
4 シャッターボタンを全押しする

- ミラーが上がり、シャッターが開いた状態になります。
- このとき、表示パネルは右のような点滅表示になります。ファインダー内の表示は消灯します。



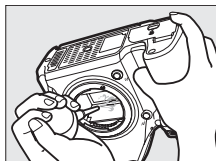
5 ローパスフィルターに光が当たるようにカメラを持ち、ゴミやほこりが付いていないかどうかを点検する

- ゴミやほこりが付いていない場合は、手順7にお進みください。



6 ローパスフィルターに付いたゴミやほこりをブローアで払う

- ブラシの付いていないブローアをお使いください。ブラシでローパスフィルターの表面に傷が付くことがあります。
- ブローアで取り除けない汚れがある場合は、ニコンサービス機関にクリーニングをお申し付けください。絶対に、手でこすったり、布で拭き取ったりしないでください。



7 カメラの電源をOFFにし、付属のボディーキャップを付ける

- ミラーがダウンしてシャッター幕が閉じます。

✓ 作業中のシャッター幕の破損を防ぐために

カメラのシャッター幕は非常に破損しやすい部品です。シャッター幕はカメラに電源の供給がなくなると、自動的に閉じる構造になっています。作業中に不意にシャッター幕が閉じて破損することを防ぐために、次の点にご注意ください。

- 作業中に電源をOFFにしないでください。
- 作業中にバッテリーやACアダプターを取り外さないでください。
- ミラーアップ中にバッテリー残量が少なくなった場合、電子音が鳴り、セルフタイマーランプが点滅してお知らせします。約2分経過するとシャッター幕が閉じてミラーがダウンするので、ただちに作業を終了してください。

✓ ローパスフィルターに付着するゴミなどについて

ローパスフィルターには、カメラからレンズまたはボディーキャップを取り外した際に外部からカメラ内に入ったゴミや、まれにカメラ内部の潤滑剤や細粉などが付着することがあり、撮影条件によってはローパスフィルターに付着したゴミや潤滑剤、細粉などが撮影画像に写り込む場合があります。カメラ内へのゴミの侵入を防止するため、ほこりの多い場所でのレンズ交換やボディーキャップの着脱は避け、カメラ本体のマウント部およびレンズのマウント部、ボディーキャップのゴミを除去してからカメラに取り付けてください。レンズを外してカメラを保管するときは、必ず付属のボディーキャップを装着してください。ローパスフィルターに付着したゴミなどをイメージセンサークリーニング（□453）で取り除ききれないときは、455ページの手順でクリーニングしていただくか、ニコンサービス機関にクリーニングをお申し付けください。なお、ゴミの写り込みは、画像加工アプリケーションなどで修正できます。

✓ 定期点検、オーバーホールのおすすめ

カメラは精密機械ですので、1～2年に1度は定期点検を、3～5年に1度はオーバーホールすることをおすすめします（有料）。

- 特に業務用にお使いの場合は、早めに点検整備を受けてください。
- より安心してご愛用いただけるよう、お使いのレンズやスピードライトなども併せて点検依頼されることをおすすめします。

カメラとバッテリーの取り扱い上のご注意

カメラの使用上のご注意

● 強いショックを与えない

カメラやレンズを落としたり、ぶつけたりしないようにご注意ください。強い衝撃や振動を加えると、破損したり精密に調整された部分に悪影響を及ぼします。

● 水にぬらさない

カメラは水にぬらさないようにご注意ください。カメラ内部に水滴が入ったりすると部品がさびついてしまい、修理費用が高額になるだけでなく、修理不能になることがあります。

● 急激な温度変化を与えない

極端に温度差のある場所に急にカメラを持ち込むと、カメラ内外に水滴が生じ、故障の原因となります。カメラをバッグやビニール袋などに入れて、周囲の温度になじませてからお使いください。

● 強い電波や磁気の発生する場所で撮影しない

強い電波や磁気を発生するテレビ塔などの周囲や、強い静電気の周囲では、記録データが消滅したり、撮影画像へのノイズ混入等、カメラが正常に機能しないことがあります。

● 長時間、太陽に向けて撮影または放置しない

太陽などの高輝度被写体に向けて長時間直接撮影したり、放置したりしないでください。過度の光照射は撮像素子の褪色・焼き付きを起こすおそれがあります。また、その際撮影された画像に、真っ白くにじみが生じることがあります。

● カメラ本体のお手入れについて

カメラ本体のお手入れの際は、プロアーでゴミやほこりを軽く吹き払ってから、乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。特に、海辺で使った後は、真水を数滴たらした柔らかい清潔な布で塩分を拭き取ってから、乾いた柔らかい布で軽く拭いて乾かしてください。まれに、ブラシなどで表示パネルを拭いた場合に、静電気が表示パネルが点灯したり、黒く変色したりすることがありますが、故障ではありません。しばらくすると元に戻ります。

● ミラーやレンズの手入れ方法について

ミラーやレンズは傷付きやすいので、ゴミやほこりが付いているときは、プロアーで軽く吹き払う程度にしてください。なお、スプレー缶タイプのプロアーの場合、スプレー缶を傾けずにお使いください（中の液体が気化されずに吹き出し、ミラーやレンズを傷つける場合があります）。レンズに万一指紋などが付いてしまった場合は、柔らかい清潔な布に市販のレンズクリーナーを少量湿らせて、軽く拭き取ってください。

● ローパスフィルターの手入れ方法について

撮像素子の前面にあるローパスフィルターのクリーニングの方法については□453、455ページをご覧ください。

● レンズの信号接点について

レンズの信号接点を汚さないようにご注意ください。

● シャッター幕に触れない

シャッター幕は非常に薄いため、押さえたり、突いたり、プロアーなどで強く吹くなどは、絶対にしないでください。傷や変形、破損などの原因となります。

● 風通しのよい場所に保管する

カビや故障などを防ぐため、風通しのよい乾燥した場所を選んでカメラを保管してください。防虫剤があるところ、磁気を発生する器具のそば、高温となる夏季の車内、使用しているストープの前などにカメラを置かないでください。故障の原因になります。

● 長期間使用しないときは、バッテリーを取り出し、乾燥剤と一緒に保管する

カメラを長期間使用しないときは、バッテリーの液もれなどからカメラを保護するために、必ずカメラからバッテリーを取り出しておいてください。保管する際は、カメラをポリエチレン袋などに乾燥剤と一緒に入れておくことより安全です。ただし、皮ケースをビニール袋に入れると、変質することがありますので避けてください。バッテリーは高温、多湿となる場所を避けて保管してください。乾燥剤（シリカゲル）は湿気を吸うと効力がなくなるので、ときどき交換してください。カメラを長期間使用しないまま放置しておく、カビや故障の原因となることがあるので、月に一度を目安にバッテリーを入れ、カメラを操作することをおすすめします。

● バッテリーやACアダプターを取り外すときは、必ずカメラの電源をOFFにする

カメラの電源がONの状態、バッテリーを取り出したり、ACアダプターを取り外すと、故障の原因となります。特に撮影中や記録データの削除中に前記の操作は行わないでください。

● 液晶モニターについて

- モニター画面は、非常に精密度の高い技術で作られており、99.99%以上の有効ドットがありますが、0.01%以下でドット抜けするものがあります。そのため、常時点灯（白、赤、青、緑）あるいは非点灯（黒）の画素が一部存在することがありますが、故障ではありません。また、記録される画像には影響ありません。あらかじめご了承ください。
- 屋外では日差しの加減で液晶モニターが見えにくい場合があります。
- 液晶モニター表面を強くこすったり、強く押しついたりしないでください。液晶モニターの故障やトラブルの原因になります。もしゴミやほこり等が付着した場合は、ブローで吹き払ってください。汚れがひどいときは、柔らかい布やセーム革等で軽く拭き取ってください。万一、液晶モニターが破損した場合、ガラスの破片などでケガをするおそれがあるので充分ご注意ください。中の液晶が皮膚や目に付着したり、口に入ったりしないよう、充分ご注意ください。

バッテリーの使用上のご注意

お使いになる前に、必ず「安全上のご注意」(□xiv～xx)をお読みになり、記載事項をお守りください。

- バッテリーの使用方法を誤ると液もれにより製品が腐食したり、バッテリーが破裂したりするおそれがあります。次の使用上の注意をお守りください。
 - バッテリーはカメラの電源をOFFにしてから入れる。
 - バッテリーを長時間使用した後は、バッテリーが発熱していることがあるので注意する。
 - バッテリーの端子は、汚さないように注意する。
 - 必ず指定のバッテリーを使う。
 - バッテリーを火の中に投入したり、ショートさせたり、分解したりしない。
 - カメラやチャージャーから取り外したバッテリーには、必ず端子カバーを付ける。
- カメラの使用直後など、バッテリーの温度が高くなっている場合は、温度が下がるのを待ってから充電してください。バッテリー内部の温度が高い状態では、充電ができなかったり、または不完全な充電になるばかりでなく、バッテリーの性能が劣化する原因になります。
- しばらく使わない場合は、カメラでバッテリーを使い切った状態でカメラから取り外し、涼しいところで保管してください。周囲の温度が15℃～25℃くらいの乾燥したところをおすすめします。暑いところや極端に寒いところは避けてください。
- 使用後のバッテリーは半年以内に充電するようおすすめします。長期間保管する場合は、半年に一回程度充電した後、カメラでバッテリーを使い切ってから涼しいところで保管してください。

- 使用しないときは必ずバッテリーをカメラやチャージャーから取り外してください。付けたままにしておくと、電源が切れていても微少電流が流れていますので、過放電になり使えなくなるおそれがあります。
- バッテリーは0℃～40℃の範囲を超える場所ではお使いにならないでください。バッテリーの性能が劣化したり、故障の原因となります。周囲の温度が5℃～35℃の室内で充電してください。バッテリーの温度が0℃以下、60℃以上のときは、充電をしません。
- バッテリーの温度が0℃～15℃、45℃～60℃のときは、充電できる容量が少なくなる、または充電時間が長くなることがあります。
- 一般的な電池特性として、周囲の温度が下がるにつれ、バッテリーに充電できる容量は少なくなります。新品のバッテリーでも、約5℃以下の低温で充電した場合、セットアップメニューの【電池チェック】(□384)で劣化度が「1」と表示されることがありますが、約20℃以上で再充電すると劣化度の表示は「0」に戻ります。
- 一般的な電池特性として、周囲の温度が下がるにつれ、使用できるバッテリー容量は少なくなります。このカメラでは、温度変化に対して使用できる容量も的確にバッテリー残量として表示します。そのため、充分に充電したバッテリーでも、充電したときよりも温度が低くなると、充電直後から残量が減り始めた表示になることがあります。
- カメラの使用後は、バッテリーが熱くなっていることがあります。取り出しの際はご注意ください。

● 撮影前にバッテリーをあらかじめ充電する

撮影前にバッテリーを充電してください。付属のバッテリーは、ご購入時にはフル充電されていません。

● 予備バッテリーを用意する

撮影の際は、充電された予備のバッテリーをご用意ください。特に、海外の地域によってはバッテリーの入手が困難な場合があるので、ご注意ください。

● 低温時にはフル充電したバッテリーを使用し、予備のバッテリーを用意する

低温時に消耗したバッテリーを使用すると、カメラが作動しないことがあります。低温時にはフル充電したバッテリーを使用し、保温した予備のバッテリーを用意して暖めながら交互に使用してください。低温のために一時的に性能が低下して使えなかったバッテリーでも、常温に戻ると使えることがあります。

● バッテリーの残量について

- 電池残量がなくなったバッテリーをカメラに入れたまま、何度も電源のON/OFFを繰り返すと、バッテリーの寿命に影響を及ぼすおそれがあります。電池残量がなくなったバッテリーは、充電してお使いください。

- 十分に充電したにもかかわらず、室温での使用状態でバッテリーの使用時間が極端に短くなってきた場合は、バッテリーの寿命です。新しいリチャージャブルバッテリーをお求めください。

● **充電が完了したバッテリーを続けて再充電しない**

バッテリー性能が劣化します。

● **小型充電式電池のリサイクル**

不要になった充電式電池は、貴重な資源を守るために、廃棄しないで充電式電池リサイクル協力店へお持ちください。



Li-ion00

数字の有無と数値は、
電池によって異なります。

チャージャーの使用上のご注意

- 充電中にチャージャーをゆすったり、充電中のバッテリーに触れたりすると、振動や静電気の影響により、きわめてまれではありますが、未充電にもかかわらず充電完了表示になる場合があります。このような場合にはバッテリーを取り外し、再度セットして充電を再開してください。
- チャージャーの端子をショートさせないでください。発熱、破損の原因となります。
- バッテリーをカメラやチャージャーから取り外しておくときは、ショートを防止するため、付属の端子カバーを取り付けてください。
- チャージャーを使用しないときは、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- バッテリーチャージャーMH-25aに対応していないバッテリーは、バッテリーチャージャー MH-25aで充電しないでください。

撮影モードによって設定に制限がある 機能一覧

次の機能については、✓が付いている撮影モードでのみ設定が可能です。

	AUTO 		P、S、A、M 											
静止画撮影メニュー / 動画撮影メニュー	ホワイトバランス	—	—	✓	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	ピクチャーコントロール	—	—	✓	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	アクティブ D-ライティング	— ※1	— ※1	✓	— ※1	— ※1	—	—	—	—	—	—	—	—
	HDR (ハイダイナミックレンジ)	—	—	✓	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	長秒時ノイズ低減	✓	✓	✓	✓	✓	—	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
	高感度ノイズ低減	✓	✓	✓	✓	✓	—	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
	ISO感度設定	✓ ※2	✓ ※2	✓	✓ ※2	✓ ※2	—	✓ ※2	✓ ※2	✓ ※2	✓ ※2	✓ ※2	✓ ※2	✓ ※2
	多重露出	—	—	✓	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
撮影関連の設定	動画ISO感度設定	—	—	✓	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	微速度撮影	✓	✓	✓	✓	✓	—	—	—	—	—	—	—	—
	測光モード	—	—	✓	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	露出補正	—	—	✓	✓	✓	✓	—	—	—	—	—	—	—
	オートブラケティング	—	—	✓	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	フラッシュモード	✓	—	✓	✓	—	—	✓	—	—	—	—	—	—
	調光補正	—	—	✓	✓	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	FVロック	✓	—	✓	✓	—	—	✓	—	—	—	—	—	—
撮影関連の設定	ファインダー撮影時のAFモード	✓	✓	✓	✓	✓	✓	—	—	—	—	—	✓	✓
	ファインダー撮影時のAFエリアモード	✓	✓	✓	✓	✓	—	✓	—	✓	✓	✓	✓	✓

				P、S、A、M							
撮影関連の設定	ライブビュー / 動画撮影時のAFモード	✓	✓	✓	✓	✓	✓	—	—	✓	✓
	ライブビュー / 動画撮影時のAFエリアモード	✓	✓	✓	✓	✓	※3	※3	—	※3	✓
カスタムメニュー	a9：内蔵AF補助光の照射設定	✓	✓	✓	✓※4	✓※5	✓	✓	—	✓	✓
	b3：露出補正簡易設定	—	—	✓	—	—	—	—	—	—	—
	b4：マルチパターン測光	—	—	✓	—	—	—	—	—	—	—
	b5：中央部重点測光範囲	—	—	✓	—	—	—	—	—	—	—
	d5：フラッシュ使用推奨表示	—	—	✓	—	—	—	—	—	—	—
	e2：フラッシュ時シャッタースピード制限	—	—	✓	—	—	—	—	—	—	—
	e3：内蔵フラッシュ発光 / 外付けフラッシュ発光	—	—	✓	—	—	—	—	—	—	—
	e4：フラッシュ使用時の露出補正	—	—	✓	—	—	—	—	—	—	—
	e5：モデリング発光	—	—	✓	—	—	—	—	—	—	—
e6：オートブラケティングのセット	—	—	✓	—	—	—	—	—	—	—	
e7：BKTの順序	—	—	✓	—	—	—	—	—	—	—	

※1 アクティブD-ライティングは、常に「オート」になります。

※2 「感度自動制御」は設定できません。

※3 ターゲット追尾AFには設定できません。

※4 撮影モードが📷のときは設定できません。

※5 撮影モードが📷、📷、📷のときのみ設定できます。

📷 撮影モードによって設定に制限がある機能について

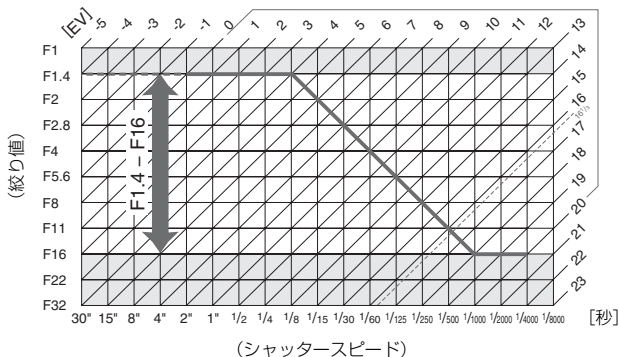
上記以外にも、組み合わせによっては設定できない機能があります。

撮影モードP（プログラムオート）のプログラム線図

次のグラフは、撮影モードが**P**のとき（□90）の露出制御プログラム（ISO 100の場合）を表しています。

ISO 100、開放絞りF1.4・最小絞りF16のレンズ
（例：AF 50mm f/1.4D）の場合

測光範囲：EV 0～20



- 測光範囲により、EV値の両端に制限があります。
- マルチパターン測光では、ISO 100の場合 $16\frac{1}{3}$ を超えるEV値では、全て $16\frac{1}{3}$ として制御されます。

故障かな？と思ったら

カメラの動作がおかしいときは、ご購入店やニコンサービス機関にお問い合わせになる前に、次の項目をご確認ください。

電源・表示関連

● 電源ONの状態、カメラの操作ができない

- 画像や動画の記録などの処理が終わるまでお待ちください。
- 操作できない状態が続くときは、電源をOFFにする操作をしてください。
- 電源がOFFにならない場合は、バッテリーを入れ直してください。
- ACアダプター使用時は付け直してください。
 - 記録中であったデータは保存されません。
 - 保存済みのデータはバッテリーやACアダプターの取り外しでは失われません。

● ファインダー内がはっきり見えない

- ファインダー内の見え方は、視度調節ダイヤルを回して調節できます (□□28)。
- 視度調節しても被写体がはっきり見えない場合は、AFモード (□□119) を**AF-S**、AFエリアモード (□□121) をシングルポイントAFに設定します。次に、中央のフォーカスポイントを選んで、コントラストの高い被写体にオートフォーカスでピントを合わせます。その状態で被写体が最もはっきり見えるように調節してください。
- 視度調節ダイヤルの範囲を超える補正が必要な場合は、別売の接眼補助レンズをお使いになることをおすすめします (□□447)。

● ファインダー内が暗い

バッテリー残量は充分ですか？ バッテリーが入っていない場合や、入っていても残量がない場合は、ファインダー内が暗く表示される場合があります (□□23、25)。

● ファインダー内や表示パネル、液晶モニターの表示が、すぐに消えてしまう

カスタムメニュー c2 [半押しタイマー] や c4 [モニターのパワーオフ時間] で、表示が消えるまでの時間を設定できます (□□334、335)。

● 表示パネルやファインダー内の表示が薄い、表示が遅い

低温や高温のときは液晶表示の濃度が変わったり、応答速度が遅くなることがあります。

● ファインダー内に線や模様が見える

液晶の特性上、フォーカスポイントなどから外側に延びる細い線が見えたり、フォーカスポイントを照明するときにファインダー内が赤くなることがありますが、いずれも故障ではありません。

撮影関連（全撮影モード共通）

● 電源をONにしてから、撮影できる状態になるまでに時間がかかる

SDカード内にフォルダーや画像が大量にあるときは、ファイル検索のため時間がかかる場合があります。

● シャッターがきれない

- 残量のあるSDカードが入っていますか？（□25）
 - SDカードがロックされていませんか？（□32）
 - カスタムメニュー f7 [カードなし時リリース] が [リリース禁止] になっていませんか？（□367）
 - 内蔵フラッシュの充電中はシャッターがきれません（□186）。
 - ピント表示（●）は点灯していますか？
 - Gタイプ、Eタイプレンズ以外のCPUレンズを装着している場合は、レンズの絞りリングを最小絞り（最も大きい数値）に設定しないとシャッターがきれません。表示パネルに **fE E** と表示されている場合、カスタムメニュー f5 [コマンドダイヤルの設定] の [絞り値の設定方法] を [絞りリング] に設定すると、レンズの絞りリングで絞り値を設定できます（□364）。
 - CPUレンズが装着されていますか？ 非CPUレンズは撮影モード **A** または **M** 以外ではお使いになれません（□435）。
-

● シャッターがきれるのが遅い

カスタムメニュー d4 [露出ディレイモード] を [しない] にしてください（□338）。

● リモコンの送信ボタンを押しても撮影できない

- リモコンの電池残量はありますか？（□449）
 - リモコンモードに設定されていますか？（□194）
 - フラッシュの充電中は、シャッターがきれません（□186）。
 - 送信ボタンを押す前にカスタムメニュー c5 [リモコン待機時間 (ML-L3)] を過ぎると、リモコンモードはリセットされます（□335）。シャッターボタンを半押ししてください。
 - 極端な逆光状態などでは、リモコン撮影ができない場合があります。
-

● 連続撮影できない

内蔵フラッシュが発光する場合は、連続撮影できません（□186）。

● ピントが合わない

- マニュアルフォーカスになっていませんか？ オートフォーカスで撮影するには、フォーカスモードセレクトを**AF**に合わせてください (□119)。
- 次のような被写体では、オートフォーカスではピントが合わせづらい場合があります。マニュアルフォーカス、フォーカスロックを利用して撮影してください (□127、130)。

明暗差がはっきりしない/遠くのものとか近くのが混在する/連続した繰り返しパターン/輝度差が著しく異なる/背景に対して主要被写体が小さい/絵柄が細かい

● シャッターボタンを半押ししても、フォーカスロックされない

AFモードが**AF-C**または**AF-A**で自動的に**AF-C**が選ばれたときは、**AE/AF**ロックボタンを押してフォーカスをロックしてください (□127)。

● フォーカスポイントを選べない

- フォーカスポイントロックレバー (マルチセレクト) が **L** (ロック) の位置になっていませんか？ (□125)
- AFエリアモードがオートエリアAFのときは、選べません (□121)。
- AFエリアモードを顔認識AFにしてライブビュー撮影を行っている場合は、選べません (□58)。
- 画像の再生時またはメニューの操作時には、フォーカスポイントを選べません (□19、237)。
- 半押しタイマーがオフになっていませんか？ フォーカスポイントを選択するには、シャッターボタンを半押しして半押しタイマーをオンにしてください (□38)。

● AFモードを変更できない

フォーカスモードセレクトが**M** (マニュアルフォーカス) になっていませんか？ (□130)

● AFエリアモードを変更できない

フォーカスモードセレクトが**M** (マニュアルフォーカス) になっていませんか？ (□130)

● 画像サイズを変更できない

[画質モード] が **[RAW]** のときは、画像サイズを変更できません (□115)。

● 画像の記録に時間がかかる

静止画撮影メニュー **[長秒時ノイズ低減]** が **[する]** になっていませんか？ (□315)

● 画像がざらつく

- ISO 感度が高くなっていませんか？ 静止画撮影メニューまたは動画撮影メニューの[高感度ノイズ低減]を[強め]、[標準]、[弱め]のいずれかに設定すれば、ざらつきを低減できます(□315)。
- シャッタースピードが1秒より低速な場合は、ざらつきが発生しやすくなります。静止画撮影メニュー[長秒時ノイズ低減]を[する]にして撮影すると、ざらつきを低減できます(□315)。
- アクティブD-ライティングを設定していませんか？ 撮影シーンによっては、ざらつきが強調される場合があります(□175)。

● AF補助光ランプが光らない

- 次の場合、AF補助光を照射しません。
 - ファインダー撮影時のAFモードが**AF-C**または**AF-A**で自動的に**AF-C**が選ばれたとき(□119)
 - ライブビュー/動画撮影時
 - オートエリアAF以外のAFエリアモードで中央以外のフォーカスポイントが選択された場合(□121、125)
- カスタムメニュー a9 [内蔵AF補助光の照射設定]が[しない]になっていませんか？(□330)
- AF補助光ランプを連続して使うと、保護機能が働いて一時的に照射が制限されます。少し時間をおくと再び照射するようになります。また、短時間に何回も使うと、AF補助光ランプが熱くなることがあるのでご注意ください。

● 画像にゴミが写り込む

- レンズの前面または背面(マウント側)が汚れていませんか？
- 撮像素子の前面にあるローパスフィルターにゴミが付着していませんか？ イメージセンサークリーニングを行ってください(□453)。

● 動画に音声録音されない

動画撮影メニュー[マイク感度]が[録音しない]になっていませんか？

● ライブビューが開始されなかったり、自動的に終了する

- 次のような場合は、高温によるカメラへの損傷を抑えるために、ライブビューの開始を制限したり自動的に終了したりすることがあります。
 - 撮影時の気温が高い場合
 - ライブビュー撮影や動画撮影を長時間行った場合
 - 連続撮影を行った直後など
 - カメラが熱くなってライブビューを開始できない場合は、カメラ内部の温度が下がるまでライブビューを一時休止してください。このとき、カメラボディ表面が熱くなることがありますが故障ではありません。
-

● **ライブビュー表示中にノイズが発生する**

長時間ライブビューで撮影すると、カメラ内部の温度が上昇することがあるため、ノイズ（ざらつき、むら、輝点）が発生する場合があります。撮影時以外は、ライブビューを終了してください。

● **ライブビュー表示中や動画撮影時に画面にちらつきや横縞が生じる**

セットアップメニュー【フリッカー低減】の設定を、カメラをお使いになる地域の電源周波数に合わせてください（□□381）。

● **ライブビュー表示中や動画撮影時に横帯状の明るい部分が生じる**

撮影している周囲でスピードライトやフラッシュなどが発光されたり、イルミネーションなどの点滅する光源がある場合には、画面の一部が明るくなったり、明るい横帯が発生することがあります。

● **選択または設定できないメニュー項目がある**

撮影モードによっては、設定できない機能があります。この場合、その項目は選択できません。

撮影関連（撮影モードP、S、A、M）

● **シャッターがきれない**

- CPUレンズが装着されていますか？ 非CPUレンズは**A、M**以外の撮影モードではお使いになれません（□□435）。
- 撮影モード**M**でシャッタースピードを**bulb**（バルブ）または**- -**（タイム）に設定し、そのまま撮影モードを**S**に変更した場合は、シャッタースピードを再設定してから撮影してください（□□91）。

● **設定できるシャッタースピードの範囲が狭い**

フラッシュ撮影時は、シャッタースピードが制限されます。フラッシュ撮影時の同調シャッタースピードは、カスタムメニューe1【フラッシュ撮影同調速度】で、1/250～1/60秒の範囲で設定できます。[1/250秒（オートFP）]または[1/200秒（オートFP）]に設定して、別売のオートFPハイスピードシンクロ対応スピードライトを使用すると、全シャッタースピードに同調可能なオートFPハイスピードシンクロが可能です（□□344）。

● **画像の色合いがおかしい**

- ホワイトバランスは正しく設定されていますか？（□□144）
- ピクチャーコントロールは正しく設定されていますか？（□□164）

● **ホワイトバランスのプリセットマニュアルのデータが取得できない**

被写体が明るすぎるか、暗すぎます（□□156）。

● **ホワイトバランスのプリセットマニュアルのデータとして設定できない画像がある**

この機種以外のカメラで撮影した画像は、プリセットマニュアルデータとして設定することはできません (□161)。

● **ホワイトバランス (WB) ブラケティング撮影ができない**

- RAW または RAW を含む画質モードの場合、ホワイトバランスブラケティング撮影はできません (□114、208)。
- ホワイトバランスブラケティングと多重露出による撮影を同時に行うことはできません (□215)。

● **【ピクチャーコントロール】の効果が安定しない**

【ピクチャーコントロール】、【カスタムピクチャーコントロール】の調整画面で、【輪郭強調】、【明瞭度】、【コントラスト】、【色の濃さ (彩度)】のいずれかが【A】(オート)に設定されています。ピクチャーコントロールの効果を一定にするには、これらの項目を【A】(オート)以外に設定してください (□168)。

● **測光モードが変更できない**

AEロック中は、測光モードを変更できません (□140)。

● **露出補正ができない**

撮影モードがMの場合、露出補正を行っても、露出インジケータの表示が変化だけで、シャッタースピードと絞り値は変化しません (□142)。

● **画像の一部が赤っぽくなる**

シャッタースピードを**bulb** (バルブ) または**- -** (タイム) にした場合など、長時間露出で撮影すると、画像の一部が赤っぽくなることがあります。この現象は、静止画撮影メニュー【長秒時ノイズ低減】を【する】に設定することで低減できます (□315)。

● **画像にむらが出る**

シャッタースピードを**bulb** (バルブ) または**- -** (タイム) にした場合など、長時間露出で撮影すると、画像の一部にむらが出ることがあります。この現象は、静止画撮影メニュー【長秒時ノイズ低減】を【する】に設定することで低減できます (□315)。

再生関連

● **RAW画像が表示されない**

【画質モード】を【RAW + FINE】、【RAW + NORMAL】、【RAW + BASIC】にして撮影した画像は、JPEG画像しか再生されません (□115)。

● **他のカメラで撮影した画像が表示されない**

この機種以外のカメラで撮影した画像は、正常に表示されないことがあります。

● **全ての画像が表示されない**

再生メニュー [再生フォルダー設定] を [全てのフォルダー] にしてください (□298)。

● **画像の縦位置・横位置が正しく表示されない**

- 再生メニュー [縦位置自動回転] が [しない] になっていませんか? (□305)
 - セットアップメニュー [縦横位置情報の記録] が [しない] になっていませんか? (□383)
 - 撮影直後の画像確認では自動回転はしません (□305)。
 - カメラを上向き・下向きにして撮影すると、縦横位置情報が正しく得られない場合があります (□383)。
-

● **画像が削除できない**

- SDカードがロックされていませんか? (□32)
 - 画像にプロテクトが設定されていませんか? (□253)
-

● **画像が編集できない**

このカメラでは編集できない画像です (□397)。

● **【撮影画像がありません】と表示される**

SDカードの交換直後に画像を再生するときは、再生メニュー [再生フォルダー設定] を [全てのフォルダー] にしてください (□298)。

● **プリント指定ができない**

- SDカードがロックされていませんか? (□32)
 - SDカードの空き容量が不足していませんか? (□30)
-

● **ダイレクトプリントができない**

RAW画像はダイレクトプリントできません (□266)。

● **RAW画像をプリントできない**

- 画像編集メニューの [RAW現像] などからRAW画像からJPEG画像を作成してからプリントしてください (□408)。
 - RAW 画像はパソコンに転送してから、Capture NX-Dまたは付属のViewNX 2などのソフトウェアを使ってプリントしてください (□448)。
-

● **画像がHDMI対応機器で再生できない**

HDMIケーブルが正しく接続されているか確認してください (□273)。

● **HDMI-CEC対応機器のリモコンから制御できない**

- セットアップメニューの [HDMI] の [機器制御] が [する] になっているか確認してください (□274)。
 - テレビ側のHDMI-CECの設定については、テレビの使用説明書などをご覧ください。
-

● 画像をパソコンに転送できない

お使いのパソコンのOSによっては、カメラをパソコンに接続して画像を転送できないことがあります（□259）。カードリーダーなどの機器を使って、SDカードの画像をパソコンに保存してください。

● Capture NX-Dでイメージダストオフ機能が動作しない

次の場合は、イメージセンサークリーニングにより、ローパスフィルター表面のゴミの位置が変わってしまうため、イメージダストオフ機能を使用できません。

- イメージセンサークリーニングを実行する前に撮影した画像に対して、クリーニング後に取得したイメージダストオフデータを使ってゴミの写り込みを取り除こうとしたとき
- イメージセンサークリーニングを実行する前に取得したイメージダストオフデータを使って、クリーニング後に撮影した画像に対してゴミの写り込みを取り除こうとしたとき（□379）

● [ピクチャーコントロール]、[アクティブD-ライティング]、[ヴィネットコントロール] の効果がパソコンで確認できない

RAW画像で記録した場合、当社製ソフトウェア以外では機能しません。RAW画像の現像はCapture NX-Dまたは付属のViewNX 2をお使いください。

Wi-Fi（無線LAN）関連

● スマートデバイスにカメラのSSID（ネットワーク名）が表示されない

- セットアップメニュー [Wi-Fi] の [通信機能] が [有効] になっていることを確認してください（□280）。
 - スマートデバイスのWi-Fi機能をOFFにしてからONにし直してみてください。
-

その他

● 撮影日時が正しく表示されない

カメラの内蔵時計は合っていますか？ カメラの内蔵時計は腕時計などの一般的な時計ほど精度は高くないので、定期的に日時設定を行うことをおすすめします（□27、382）。

● 表示されているメニュー項目が選べない

- SDカードをカメラに挿入していないときは、選べない項目があります。
 - 一部のメニュー項目は、カメラの設定状況によって選べない場合があります。
 - セットアップメニュー [電池チェック] は、電源に別売のパワーコネクターとACアダプターを使用している場合は選べません（□384）。
-

警告メッセージ

表示パネル、ファインダー、液晶モニターに表示される警告メッセージの意味は次の通りです。

こんなとき		原因	対処方法	📖
表示 パネル	ファイン ダー 内表示			
		レンズの絞りリングが最小絞りになっていません。	レンズの絞りリングを最小絞り（最も大きい値）にしてください。	32
		バッテリー残量は残りわずかです。	バッテリー交換の準備をしてください。	23、 25
 (点滅)	 (点滅)	• バッテリーが消耗しています。	• バッテリーを交換してください。	25
		• バッテリーとの情報通信ができません。	• バッテリーを充電してください。	23
		• 別売のマルチパワーバッテリーパック MB-D16装着時に、極端に消耗しているLi-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL15、またはカメラと通信できないバッテリーをカメラかMB-D16のいずれかで使用しています。	• このバッテリーは使用できません。ニコンサービス機関にご相談ください。	515
			• 極端に消耗したバッテリーを使用している場合は、充電してください。 • カメラと通信できないバッテリーを使用している場合は、ニコン純正品のバッテリーと交換してください。	23 xxi、 25、 445

こんなとき		原因	対処方法	
表示 パネル	ファイン ダー 内表示			
ΔF	ΔF	開放絞りからの絞り段数が表示されています。非CPUレンズが装着されているか、またはレンズが装着されていない状態で、レンズの開放絞り値が設定されていません。	レンズの開放絞り値を設定すると、レンズの絞り値が表示されます。	232
$F - -$ (点滅)	$F - -$ (点滅)	レンズが装着されていないか、非CPUレンズが装着されています。	• CPUレンズを装着してください。すでにCPUレンズを装着している場合は、一度レンズを取り外してから、レンズを装着し直してください。 • 非CPUレンズを装着しているときは、撮影モードAまたはMで撮影してください。	26、430 435
—	 (点滅)	オートフォーカスでピント合わせができません。	構図を変えるか、マニュアル(手動)でピント合わせを行ってください。	130

こんなとき		原因	対処方法	
表示 パネル	ファイン ダー 内表示			
(シャッタースピード表示、絞り値表示のいずれかまたは露出インジケータが点滅)		被写体が明るすぎてカメラの制御範囲を超えています。	- ISO感度を低くしてください。 - 撮影モードがPのときは市販のNDフィルター（光量調節用）を使用してください（S、Aのときに下記の操作を行っても警告表示が消えない場合も同様に対応してください）。 - 撮影モードがSのときはシャッタースピードをより高速側にセットしてください。 - 撮影モードがAのときは絞りを絞り込んでください（より大きい数値）。 - 撮影モードが  の場合は、撮影モードを切り換えてください。	132 448 91 92 6
			- ISO感度を高くしてください。 - 撮影モードがPのときはフラッシュを使用してください（S、Aのときに下記の操作を行っても警告表示が消えない場合も同様に対応してください）。 - 撮影モードがSのときはシャッタースピードをより低速側にセットしてください。 - 撮影モードがAのときは絞りを開いてください（より小さい数値）。	132 183 91 92
 (点滅)	 (点滅)	撮影モードが S のときにシャッタースピードが  にセットされています。	- シャッタースピードを変えてください。 - 撮影モードMで撮影してください。	91、94

こんなとき		原因	対処方法	
表示 パネル	ファイン ダー 内表示			
-- (点滅)	-- (点滅)	撮影モードが S のときにシャッタースピードが--にセットされています。	- シャッタースピードを変えてください。 - 撮影モードMで撮影してください。	91、94
busy (点滅)	busy (点滅)	カメラが処理を行っています。	カメラが処理を終えるまでお待ちください。	—
—	 (点滅)	フラッシュがフル発光しました。	撮影に必要な光量が不足している可能性があります。撮影距離、絞り値、調光範囲、ISO感度などをご確認ください。	187
Full (点滅)	Full (点滅)	- 画像を記録する空き容量がありません。 - カメラが扱えるファイル数をオーバーしています。	- SDカードに記録されている画像を削除して、SDカードに画像ファイルが保存可能な状態にしてください。必要な画像はパソコンなどに転送してバックアップしてください。 - 新しいSDカードに交換してください。	254、261 25
Error (点滅)	Error (点滅)	撮影中に何らかの異常を検出しました。	もう一度シャッターボタンを押してください。警告表示が解除されない場合や、頻繁に警告が表示される場合は、ニコンサービス機関にご相談ください。	515

こんなとき		原因	対処方法	
液晶モニター	表示 パネル			
メモリーカードが入っていません。		SDカードが入っていないか、正しくセットされていません。	SDカードを正しくセットしてください。	25
このメモリーカードは壊れている可能性があるため、使用できません。カードを交換してください。	 [Card Error] (点滅)	- SDカードへのアクセス異常です。 - 新規フォルダーが作成できません。	- このカメラ用のSDカードであるかどうかを確認してください。 - SDカードが壊れている可能性があります。ニコンサービス機関にご連絡願います。 - SDカードに記録されている画像を削除して、SDカードに画像ファイルが保存可能な状態にしてください。必要な画像はパソコンなどに転送してバックアップしてください。 - 新しいSDカードに交換してください。	494 515 254、261 25
		 [Card Error] (点滅)	- Eye-Fiカードのファームウェアが最新版になっているか確認してください。 - 新しいSDカードに交換するか、必要な画像をパソコンなどに転送してバックアップした後、カメラでEye-Fiカードをフォーマットしてからご使用ください。	393 25
メモリーカードが書き込み禁止になっています。	 [Card Locked] (点滅)	SDカードの書き込み禁止スイッチがロックされています。	SDカードのロックを解除してください。	32

こんなとき		原因	対処方法	
液晶モニター	表示 パネル			
Eye-Fiカードは書き込み禁止の状態では使用できません。	[Errd、Errr] (点滅)	Eye-Fiカードの書き込み禁止スイッチがロックされています。	Eye-Fiカードのロックを解除してください。	32
このメモリーカードは初期化（フォーマット）されていません。フォーマットしてください。	[For] (点滅)	SDカードが正しく初期化されていません。	- SDカードを初期化してください。 - 正しく初期化されたSDカードに交換してください。	376 25
時計がリセットされました	—	内蔵時計の日時が設定されていません。	日時を設定してください。	27
ライブビューを開始できません。しばらくお待ちください。	—	カメラ内部の温度が高くなっています。	カメラ内部の温度が下がるまで、ライブビュー撮影または動画撮影を一時休止してください。	64、 73
撮影画像がありません。	—	- 撮影画像がありません。 - 再生するフォルダーの指定に問題があります。	- 画像が記録されているSDカードを入れてください。 - 再生メニューの〔再生フォルダー設定〕で、表示可能な画像があるフォルダーを選んでください。	25 298
全ての画像が非表示に設定されています。	—	記録されている画像が非表示設定されているために表示されません。	再生メニューの 〔非表示設定〕 で、画像の非表示設定を解除してください。	298

こんなとき		原因	対処方法	
液晶モニター	表示パネル			
このファイルは表示できません。	—	- パソコンで編集した画像など、DCF規格外の画像ファイルのため再生できません。 - 画像ファイルに異常があるため再生できません。	パソコンで編集された画像を上書き保存しないでください。	—
このファイルは選択できません。	—	編集できない画像です。	このカメラで撮影または編集した画像しか画像編集できません。	397
この動画は編集できません。	—	編集できない動画です。	- このカメラで撮影した動画しか編集できません。 2秒未満の動画は編集できません。	397 86
複数の接続先を検出したため接続を中止しました。しばらくしてから、接続をやり直してください。	—	スマートデバイスからの通信信号を受信中、複数の接続先を検出したため接続を中止しました。	しばらくしてから、接続をやり直してください。	—
エラーが発生しました	—	Wi-Fiの通信時に何らかのエラーが発生しました。	セットアップメニュー [Wi-Fi] の [通信機能] を [無効] にしてから、もう一度 [有効] にしてください。	280
カメラの温度が下がるまで通信機能は使えません。	—	カメラ内部の温度が高くなっています。	カメラの電源をOFFにして、カメラ内部の温度が下がるまでしばらく待ってから接続をやり直してください。	—

こんなとき		原因	対処方法	
液晶モニター	表示パネル			
プリンターの状態を確認してください。※	—	プリンターに異常があります。	用紙切れなどエラーの原因を取り除いた後、[継続]を選んで  ボタンを押すと、プリントが再開されます（エラー内容によっては、[継続]を選べない場合があります）。	266
用紙を確認してください。※	—	指定したサイズ of 用紙がセットされていません。	指定したサイズの用紙をセットした後、[継続]を選んで  ボタンを押して、プリントを再開してください。	266
紙詰まりです。※	—	用紙が詰まりました。	詰まった用紙を取り除いた後、[継続]を選んで  ボタンを押して、プリントを再開してください。	266
用紙がありません。※	—	用紙がセットされていません。	指定したサイズの用紙をセットした後、[継続]を選んで  ボタンを押して、プリントを再開してください。	266
インクを確認してください。※	—	インクに異常があります。	インクを確認した後、[継続]を選んで  ボタンを押して、プリントを再開してください。	266
インクがありません。※	—	インクがなくなりました。	インクを交換した後、[継続]を選んで  ボタンを押して、プリントを再開してください。	266

※プリンターの使用説明書も併せてご覧ください。

主な仕様

ニコンデジタルカメラ D750

型式

型式	レンズ交換式一眼レフレックスタイプデジタルカメラ
レンズマウント	ニコンFマウント（AFカップリング、AF接点付）
実撮影画角	ニコンFXフォーマット

有効画素数

有効画素数	2432万画素
-------	---------

撮像素子

方式	35.9×24.0mmサイズCMOSセンサー
総画素数	2493万画素
ダスト低減機能	イメージセンサークリーニング、イメージダストオフデータ取得（Capture NX-Dが必要）

記録形式

記録画素数	• 撮像範囲 [FX (36×24) 1.0×] の場合： 6016×4016 ピクセル（サイズL） 4512×3008 ピクセル（サイズM） 3008×2008 ピクセル（サイズS）
	• 撮像範囲 [1.2× (30×20) 1.2×] の場合： 5008×3336ピクセル（サイズL） 3752×2504ピクセル（サイズM） 2504×1664ピクセル（サイズS）
	• 撮像範囲 [DX (24×16) 1.5×] の場合： 3936×2624 ピクセル（サイズL） 2944×1968 ピクセル（サイズM） 1968×1312 ピクセル（サイズS）

記録形式

記録画素数	- FX ベースの（動画）フォーマット（撮像範囲 [FX (36 × 24) 1.0×] で動画ライブビュー中に静止画撮影する場合) 6016×3376 ピクセル（サイズL） 4512×2528 ピクセル（サイズM） 3008×1688 ピクセル（サイズS） - DX ベースの（動画）フォーマット（撮像範囲 [DX (24 × 16) 1.5×] で動画ライブビュー中に静止画撮影する場合）： 3936×2224 ピクセル（サイズL） 2944×1664 ピクセル（サイズM） 1968×1112 ピクセル（サイズS）
画質モード	- RAW 12ビット/14ビット（ロスレス圧縮、圧縮） - JPEG-Baseline準拠、圧縮率（約）：FINE（1/4）、NORMAL（1/8）、BASIC（1/16）サイズ優先時、画質優先選択可能 - RAWとJPEGの同時記録可能
ピクチャーコントロールシステム	スタンダード、ニュートラル、ビビッド、モノクローム、ポートレート、風景、フラット、いずれも調整可能、カスタムピクチャーコントロール登録可能
記録媒体	SDメモリーカード、SDHCメモリーカード、SDXCメモリーカード（SDHCメモリーカード、SDXCメモリーカードはUHS-I規格に対応）
ダブルスロット	順次記録、同時記録、RAW + JPEG分割記録ならびにカード間コピー可能
対応規格	DCF 2.0、DPOF、Exif 2.3、PictBridge

ファインダー

ファインダー	アイレベル式ペンタプリズム使用一眼レフレックス式ファインダー
視野率	• FX：上下左右とも約100%（対実画面） • 1.2×：上下左右とも約97%（対実画面） • DX：上下左右とも約97%（対実画面）
倍率	約0.7倍（50mm f/1.4レンズ使用、 ∞ 、 -1.0 m^{-1} のとき）
アイポイント	接眼レンズ面中央から21 mm（ -1.0 m^{-1} のとき）
視度調節範囲	$-3 \sim +1\text{ m}^{-1}$
ファインダー スクリーン	B型クリアマットスクリーンⅢ （AFエリアフレーム付、構図用格子線表示可能）
ミラー	クイックリターン式
プレビュー	Pv ボタンによる絞り込み可能、撮影モード A 、 M では設定絞り値まで絞り込み可能、その他の撮影モードでは制御絞り値まで絞り込み可能
レンズ絞り	瞬間復元式、電子制御式

レンズ

交換レンズ	• G、EまたはDタイプレンズ（PCレンズ一部制限あり） • G、EまたはDタイプ以外のAFレンズ（IX用レンズ、F3AF用レンズ使用不可） • Pタイプレンズ • DXレンズ（撮像範囲は [DX (24×16) 1.5×]） • 非CPUレンズ（ただし、非AIレンズは使用不可）：撮影モードA、Mで使用可能 • 開放F値がF5.6以上明るいレンズで、フォーカスエイド可能。ただしフォーカスポイント11点は、F8以上明るいレンズで、フォーカスエイド可能。
-------	---

シャッター

型式	電子制御上下走行式フォーカルプレーンシャッター
シャッター スピード	1/4000～30 秒（1/3 ステップ、1/2 ステップに変更可能）、Bulb、Time、X200
フラッシュ同調 シャッター スピード	X=1/200 秒、1/250 秒以下の低速シャッタースピードで同調（1/200～1/250 秒はガイドナンバーが減少）

レリーズ機能

レリーズモード	S ：単写、 CL ：低速連続撮影、 CH ：高速連続撮影、 Q ：静音撮影、 Qc ：静音連続撮影、 ⌚ ：セルフタイマー撮影、 Mup ：ミラーアップ撮影
連続撮影速度	• CL：約1～6コマ/秒 • CH：約6.5コマ/秒 • Qc：約3コマ/秒
セルフタイマー	作動時間：2、5、10、20秒、撮影コマ数：1～9コマ、連続撮影間隔：0.5、1、2、3秒
リモコンモード (ML-L3)	2秒リモコン、瞬時リモコン、ミラーアップリモコン

露出制御

測光方式	91Kピクセル（約91,000ピクセル）RGBセンサーによるTTL開放測光方式
測光モード	• マルチパターン測光：3D-RGBマルチパターン測光Ⅲ（G、EまたはDタイプレンズ使用時）、RGBマルチパターン測光Ⅲ（その他のCPUレンズ使用時）、RGBマルチパターン測光（非CPUレンズのレンズ情報手動設定時） • 中央部重点測光：φ12 mm相当を測光（中央部重点度約75%）、φ8 mm、φ15 mm、φ20 mm、画面全体の平均のいずれかに変更可能（非CPUレンズ使用時はφ12 mm） • スポット測光：約φ4 mm相当（全画面の約1.5%）を測光、フォーカスポイントに連動して測光位置可動（非CPUレンズ使用時は中央に固定） • ハイライト重点測光：G、EまたはDタイプレンズ使用時のみ、その他のCPUレンズまたは非CPUレンズ使用時は中央部重点測光に固定
測光範囲	• マルチパターン測光、中央部重点測光、ハイライト重点測光：0～20 EV • スポット測光：2～20 EV（ISO 100、f/1.4レンズ使用時、常温20℃）
露出計連動	CPU連動方式、AI方式併用

露出制御

撮影モード	☺: オート、Ⓢ: 発光禁止オート、P: プログラムオート (プログラムシフト可能)、S: シャッター優先オート、A: 絞り優先オート、M: マニュアル • シーンモード: 👤: ポートレート、🌄: 風景、👶: こどもスナップ、🏀: スポーツ、🌸: クローズアップ、🌃: 夜景ポートレート、🌃: 夜景、🎉: パーティー、🌨: 海・雪、🔥: 夕焼け、🌆: トワイライト、🐶: ペット、🕯: キャンドルライト、🌸: 桜、🍁: 紅葉、🍳: 料理 • スペシャルエフェクトモード: 🌃: ナイトビジョン、🎨: カラースケッチ、🏠: ミニチュア効果、🔍: セレクトカラー、👤: シルエット、🏔: ハイキー、🌃: ローキー • ユーザーセッティングU1、U2に登録可能
露出補正	P、S、A、M、SCENE、🌃モード時に設定可能、範囲: ±5段、補正ステップ: 1/3、1/2ステップに変更可能
AEブラケットिंग	撮影コマ数: 2~9コマ、補正ステップ: 1/3、1/2、2/3、1、2、3ステップ (2、3ステップに設定時は、撮影コマ数は2~5コマまで設定可能)
フラッシュブラケットिंग	撮影コマ数: 2~9コマ、補正ステップ: 1/3、1/2、2/3、1、2、3ステップ (2、3ステップに設定時は、撮影コマ数は2~5コマまで設定可能)
ホワイトバランスブラケットिंग	撮影コマ数: 2~3コマ、補正ステップ: 1~3ステップ
アクティブD-ライティングブラケットिंग	撮影コマ数: 2~5コマ、撮影コマ数が2コマの場合のみアクティブD-ライティングの効果の度合いを選択可能
AEロック	🔒 AE/AFロックボタンによる輝度値ロック方式
ISO感度 (推奨露光指数)	ISO 100~12800 (1/3、1/2ステップ)、ISO 100に対し約0.3、0.5、0.7、1段 (ISO 50相当) の減感、ISO 12800に対し約0.3、0.5、0.7、1、2段 (ISO 51200相当) の増感、感度自動制御が可能
アクティブD-ライティング	オート、より強め、強め、標準、弱め、しない
オートフォーカス	
方式	TTL 位相差検出方式: フォーカスポイント51点 (うち、15点はクロスタイプセンサー、11点はF8対応)、アドバンストマルチCAM3500 II オートフォーカスセンサーモジュールで検出、AF微調節可能、AF補助光 (約0.5~3 m) 付

オートフォーカス

検出範囲	-3～+19 EV (ISO 100、常温 (20℃))
レンズサーボ	• オートフォーカス (AF) : シングルAFサーボ (AF-S)、コンティニュアスAFサーボ (AF-C)、AFサーボモード自動切り換え (AF-A) を選択可能、被写体条件により自動的に予測駆動フォーカスに移行 • マニュアルフォーカス (M) : フォーカスエイド可能
フォーカスポイント	• AF51点設定時 : 51点のフォーカスポイントから選択可能 • AF11点設定時 : 11点のフォーカスポイントから選択可能
AFエリアモード	シングルポイントAF モード、ダイナミックAF モード (9点、21点、51点)、3D-トラッキング、グループエリアAFモード、オートエリアAFモード
フォーカスロック	AE/AFロックボタン、またはシングルAFサーボ (AF-S) 時にシャッターボタン半押し

フラッシュ

内蔵フラッシュ	AUTO、、、、、、、 時：オートポップアップ方式による自動発光 P、S、A、M、 時：押しボタン操作による手動ポップアップ方式ガイドナンバー： • 約12 (マニュアルフル発光時約12) (ISO 100・m、20℃)
調光方式	91Kピクセル (約91,000ピクセル) RGBセンサーによるTTL調光制御 : i-TTL-BL 調光 (マルチパターン測光、中央部重点測光、またはハイライト重点測光)、スタンダードi-TTL 調光 (スポット測光) 可能
フラッシュモード	通常発光オート、赤目軽減オート、通常発光オート+スローシャッター、赤目軽減オート+スローシャッター、通常発光、赤目軽減発光、通常発光+スローシャッター、赤目軽減発光+スローシャッター、後幕発光+スローシャッター、後幕発光、発光禁止 • オートFPハイスピードシンクロ可能
調光補正	範囲：-3～+1段、補正ステップ：1/3、1/2ステップに変更可能
レディーライト	内蔵フラッシュ、別売スピードライト使用時に充電完了で点灯、フル発光による露出警告時は点滅
アクセサリシュー	ホットシュー (ISO 518) 装備：シンクロ接点、通信接点、セーフティーロック機構 (ロック穴) 付

フラッシュ	
ニコン クリエイティブ ライティング システム	対応（コマンダー機能あり）
シンクロ ターミナル	ホットシューアダプター AS-15（別売）
ホワイトバランス	
ホワイト バランス	オート（2種）、電球、蛍光灯（7種）、晴天、フラッシュ、曇天、晴天日陰、プリセットマニュアル（6件登録可、ライブビュー時にスポットホワイトバランス取得可能）、色温度設定（2500K～10000K）、いずれも微調整可能
ライブビュー機能	
撮影モード	静止画ライブビューモード、動画ライブビューモード
レンズサーボ	• オートフォーカス（AF）：シングルAFサーボ（AF-S）、常時AFサーボ（AF-F） • マニュアルフォーカス（M）
AFエリア モード	顔認識AF、ワイドエリアAF、ノーマルエリアAF、ターゲット追尾AF
フォーカス	コントラストAF方式、全画面の任意の位置でAF可能（顔認識AFまたはターゲット追尾AFのときは、カメラが決めた位置でAF可能）
動画機能	
測光方式	撮像素子によるTTL測光方式
測光モード	マルチパターン測光、中央部重点測光、ハイライト重点測光
記録画素数/ フレームレート	• 1920×1080：60p/50p/30p/25p/24p • 1280×720：60p/50p ※ 60p：59.94fps、50p：50fps、30p：29.97fps、25p：25fps、24p：23.976fps ※標準/★高画質選択可能
ファイル形式	MOV
映像圧縮方式	H.264/MPEG-4 AVC
音声記録方式	リニアPCM
録音装置	内蔵ステレオマイク、外部マイク使用可能（ステレオ録音）、マイク感度設定可能
その他の機能	インデックスマーク、微速度撮影

液晶モニター

液晶モニター

チルト式3.2型低温ポリシリコンTFT液晶モニター、約122.9万ドット（640×RGBW×480）（VGA）、視野角約170°、視野率約100%、明るさ調整可能、角度調整可能

再生機能

再生機能

1コマ再生、サムネイル（4、9、72分割またはカレンダーモード）、拡大再生、動画再生、スライドショー（静止画/動画選択再生可能）、ヒストグラム表示、ハイライト表示、撮影情報表示、位置情報表示、撮影画像の縦位置自動回転

インターフェース

USB

Hi-Speed USB（標準装備されたUSBポートへの接続を推奨）

HDMI出力

HDMI端子（Type C）装備

アクセサリ ターミナル

- ワイヤレスリモートコントローラー WR-1、WR-R10（別売）
- リモートコード：MC-DC2（別売）
- GPSユニット：GP-1、GP-1A（別売）

外部マイク入力

ステレオミニジャック（φ3.5 mm、プラグインパワーマイク対応）

ヘッドホン出力

ステレオミニジャック（φ3.5 mm）

Wi-Fi（無線LAN）

D750（K）にはWi-Fi機能は搭載されていません。

準拠規格

IEEE802.11b、IEEE802.11g

伝送方式

- IEEE802.11b：DSSS/CCK
- IEEE802.11g：OFDM

周波数範囲 （中心周波数）

2412～2462 MHz（1～11ch）

通信距離 （見通し）

約30 m※

※ 電波干渉がない場合。通信距離は遮蔽物や電波状態などにより影響されます。

データ転送速度 （規格値）

54 Mbps※

※ 表示の数値は、規格の理論上の最大値であり、実際のデータ転送速度を示すものではありません。

セキュリティー

- 認証方式：オープンシステム、WPA2-PSK
- 暗号方式：AES

無線設定

WPS対応

アクセス方式

インフラストラクチャーモード

表示言語

表示言語

日本語、英語

電源	
使用電池	Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL15 1個使用
バッテリーパック	マルチパワーバッテリーパックMB-D16（別売）：Li-ionリチャージャブルバッテリーEN-EL15 1個使用。単3形電池（アルカリ電池、ニッケル水素充電電池、リチウム電池）6本使用
ACアダプター	ACアダプターEH-5b（パワーコネクターEP-5Bと組み合わせて使用）（別売）

三脚ネジ穴	
三脚ネジ穴	1/4（ISO 1222）

寸法・質量	
寸法 (W×H×D)	約140.5 × 113 × 78 mm
質量	約840 g（バッテリーおよびSDメモリーカードを含む、ボディーキャップを除く） 約750 g（本体のみ）

動作環境	
温度	0℃～40℃
湿度	85%以下（結露しないこと）

- 仕様中のデータは特に記載のある場合を除き、CIPA（カメラ映像機器工業会）規格によります。
- 仕様中のデータは、フル充電バッテリー使用時のものです。
- 仕様・性能は予告なく変更することがありますので、ご了承ください。使用説明書の誤りなどについての補償はご容赦ください。

バッテリーチャージャー MH-25a

電源	AC 100 ～ 240 V、50/60 Hz、0.23～0.12 A
定格入力容量	21 ～ 28 VA
充電出力	DC 8.4 V、1.2 A
適応充電電池	Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL15
充電時間	約2時間35分 ※残量のない状態からの充電時間（周囲温度25℃）
使用温度	0℃～40℃
寸法 (W×H×D)	約95 × 33.5 × 71 mm（突起部除く）
質量	約115 g（電源プラグ（直付け型）を除く）

Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL15

形式	リチウムイオン充電電池
定格容量	7.0 V、1900 mAh
使用温度	0℃～40℃
寸法 (W×H×D)	約40 × 56 × 20.5 mm
質量	約88 g（端子カバーを除く）

このカメラの準拠規格

- **Design rule for Camera File system (DCF) Version 2.0**：各社のデジタルカメラで記録された画像ファイルを相互に利用し合うための記録形式です。
- **DPOF (Digital Print Order Format)**：デジタルカメラで撮影した画像をプリントショップや家庭用プリンターで自動プリントするための記録フォーマットです。
- **Exif Version 2.3**：(Exif = Exchangeable image file format for digital still cameras)：デジタルカメラとプリンターの連携を強化し、高品質なプリント出力を簡単に得ることを目指した規格です。この規格に対応したプリンターをお使いになると、撮影時のカメラ情報を活かして最適なプリント出力を得ることができます。詳しくはプリンターの使用説明書をご覧ください。
- **PictBridge**：デジタルカメラとプリンターメーカーの各社が相互接続を保証するもので、デジタルカメラの画像をパソコンを介さずプリンターで直接印刷するための標準規格です。
- **HDMI (High-Definition Multimedia Interface)**：家庭用電化製品およびAV機器用のマルチメディアインターフェース規格です。1本のケーブルをつなぐだけで、画像、音声、制御信号をHDMI対応機器に送信できます。

商標説明

- PictBridgeロゴは商標です。
- SDロゴ、SDHCロゴ、およびSDXCロゴは、SD-3C, LLC.の商標です。
- Microsoft、Windows およびWindows Vistaは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
- MacおよびOS Xは米国およびその他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。
- IOSの商標は、米国およびその他の国におけるCiscoのライセンスに基づき使用しています。
- HDMI、HDMIロゴ、およびHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing, LLC.の商標または登録商標です。

HDMI

- Wi-FiおよびWi-Fiロゴは、Wi-Fi Allianceの商標または登録商標です。
- その他の会社名、製品名は各社の商標、登録商標です。

認証マークの表示

セットアップメニューの「**認証マークの表示**」では、このカメラが取得している認証マークの一部を確認できます (□394)。



Indonesia

35157/SDPPI/2014
4593

35158/SDPPI/2014
4588

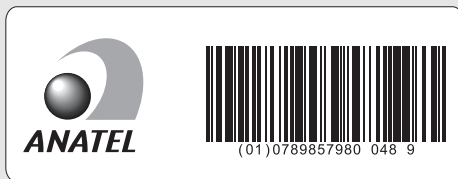
México

COFETEL: RCPMULB13-0954
LBWA1U5YR1

Paraguay

Número del Registro: 2014-01-I-00028
Este producto contiene un transmisor
aprobado por la CONATEL.

Brasil



الأردن

TRC/LPD/2013/141

عُمان

OMAN-TRA
R/1307/13
D100428

الإمارات العربية المتحدة

TRA
REGISTERED No:
ER0112542/13
DEALER No:
DA0073692/11

FreeType License (FreeType2)

本製品のソフトウェアの著作権の一部は、© 2012 The FreeType Project
(<http://www.freetype.org>) のものです。すべての権利はその所有者に帰属します。

MIT License (HarfBuzz)

本製品のソフトウェアの著作権の一部は、© 2014 The HarfBuzz Project
(<http://www.freedesktop.org/wiki/Software/HarfBuzz>) のものです。すべての権利はその所有者に帰属します。

使用できるSDカード

次のSDカードの動作を確認しています。

	SD メモリーカード	SDHC メモリーカード※2	SDXC メモリーカード※3
SanDisk社製	2 GB※1	4 GB、8 GB、 16 GB、32 GB	64 GB、128 GB
東芝製	—	4 GB、8 GB、 16 GB、32 GB	64 GB
Panasonic製	2 GB※1	4 GB、6 GB、8 GB、 12 GB、16 GB、 24 GB、32 GB	48 GB、64 GB
LEXAR MEDIA社	2 GB※1	4 GB、8 GB、 16 GB、32 GB	—
プラチナⅡシリーズ	—	8 GB、16 GB、 32 GB	64 GB
プロフェッショナル シリーズ	—	8 GB、16 GB、 32 GB	64 GB、128 GB、 256 GB
フルHDビデオ カードシリーズ	—	4 GB、8 GB、 16 GB	—

※1 カードリーダーなどをお使いの場合、お使いの機器が2 GBのSDカードに対応している必要があります。

※2 SDHC 規格に対応しています。カードリーダーなどをお使いの場合、お使いの機器がSDHC 規格に対応している必要があります。このカメラは、UHS-I規格に対応しています。

※3 SDXC 規格に対応しています。カードリーダーなどをお使いの場合、お使いの機器がSDXC 規格に対応している必要があります。このカメラは、UHS-I規格に対応しています。



- 動画の撮影には、SDスピードクラスがClass 6以上のカードをおすすめします。転送速度が遅いカードでは、動画の撮影が途中で終了することがあります。
- SDカードの機能、動作の詳細、動作保証などについては、SDカードメーカーにご相談ください。その他のメーカー製のSDカードにつきましては、動作の保証はいたしかねます。

記録可能コマ数と連続撮影可能コマ数

撮像範囲（□109）、画質モード（□114）と、画像サイズ（□117）の組み合わせによって、16 GBのSDカードに記録できるコマ数、および連続撮影できるコマ数は、次のようになります※1。ただし、カードの種類や撮影条件によって、コマ数は増減することがあります。

■【撮像範囲】が【FX (36×24) 1.0×】の場合※2

画質モード	画像サイズ	1コマあたりのファイルサイズ	記録可能コマ数※3	連続撮影可能コマ数※3、4
RAW（ロスレス圧縮RAW/12ビット記録）	—	約21.0 MB	376コマ	25コマ
RAW（ロスレス圧縮RAW/14ビット記録）	—	約26.9 MB	292コマ	15コマ
RAW（圧縮RAW/12ビット記録）	—	約19.2 MB	507コマ	33コマ
RAW（圧縮RAW/14ビット記録）	—	約23.9 MB	425コマ	21コマ
FINE※5	L	約12.6 MB	923コマ	87コマ
	M	約 7.7 MB	1500コマ	100コマ
	S	約 4.1 MB	2900コマ	100コマ
NORMAL※5	L	約 6.7 MB	1800コマ	100コマ
	M	約 3.9 MB	2900コマ	100コマ
	S	約 2.1 MB	5500コマ	100コマ
BASIC※5	L	約 2.2 MB	3500コマ	100コマ
	M	約 1.6 MB	5700コマ	100コマ
	S	約 1.1 MB	10100コマ	100コマ

■ [撮像範囲] が [DX (24×16) 1.5×] の場合※6

画質モード	画像 サイズ	1コマあたりの ファイルサイズ	記録可能 コマ数※3	連続撮影可能 コマ数※3、4
RAW (ロスレス 圧縮RAW/ 12ビット記録)	—	約10.5 MB	579コマ	100コマ
RAW (ロスレス 圧縮RAW/ 14ビット記録)	—	約13.1 MB	449コマ	48コマ
RAW (圧縮RAW/ 12ビット記録)	—	約 9.8 MB	785コマ	100コマ
RAW (圧縮RAW/ 14ビット記録)	—	約11.9 MB	656コマ	100コマ
FINE※5	L	約 6.2 MB	1900コマ	100コマ
	M	約 3.9 MB	3000コマ	100コマ
	S	約 2.3 MB	5000コマ	100コマ
NORMAL※5	L	約 3.1 MB	3700コマ	100コマ
	M	約 2.0 MB	5700コマ	100コマ
	S	約 1.2 MB	9300コマ	100コマ
BASIC※5	L	約 1.6 MB	7000コマ	100コマ
	M	約 1.2 MB	10300コマ	100コマ
	S	約 0.8 MB	15600コマ	100コマ

※1 SanDisk社製16 GBのSDHC UHS-Iカード (SDSDXPA-016G-J35) を使用した場合

※2 [撮像範囲] の [DX自動切り換え] が [する] でDXレンズ以外のレンズを装着した場合を含みます。

※3 撮影条件により、記録可能コマ数と連続撮影可能コマ数は、増減することがあります。

※4 ISO感度がISO 100の場合の、連続撮影速度を維持して撮影できるコマ数です。次のような場合、連続撮影可能コマ数は減少します。

- [JPEG圧縮] (□116) を [画質優先] に設定してJPEG画像を撮影した場合
- ISO感度 (□132) をHi 0.3以上に設定した場合
- [自動ゆがみ補正] (□314) を [する] に設定した場合
- [長秒時ノイズ低減] (□315) を [する] に設定した場合

- ※5 1コマあたりのファイルサイズおよび記録可能コマ数は、**[JPEG圧縮]**が**[サイズ優先]**に設定されている場合です。**[JPEG圧縮]**を**[画質優先]**に設定した場合、記録可能コマ数は減少します。
- ※6 **[撮像範囲]**の**[DX自動切り換え]**が**[する]**でDXレンズを装着した場合を含みます。

 カスタムメニュー d3 [連続撮影コマ数] (📖337)

カスタムメニュー d3 **[連続撮影コマ数]**では、連続撮影時の連続撮影コマ数を1～100コマの範囲で設定できます。

撮影可能コマ数（電池寿命）について

カメラ単体または別売のマルチパワーバッテリーパックMB-D16装着時の撮影可能コマ数（電池寿命）は、次の通りです。

- **撮影可能コマ数（1コマ撮影モード）：CIPA基準準拠※1**

約1230コマ（カメラ本体でLi-ionリチャージャブルバッテリーEN-EL15使用時）

約1230コマ（MB-D16を装着してEN-EL15使用時）

約430コマ（MB-D16を装着してアルカリ単3形電池使用時）

- **撮影可能コマ数（連続撮影モード）：当社試験条件※2**

約4420コマ（カメラ本体でEN-EL15使用時）

約4420コマ（MB-D16を装着してEN-EL15使用時）

約780コマ（MB-D16を装着してアルカリ単3形電池使用時）

- **動画撮影可能時間※3**

約55分（カメラ本体でEN-EL15使用時）

約55分（MB-D16を装着してEN-EL15使用時）

約20分（MB-D16を装着してアルカリ単3形電池使用時）

※1 初期設定条件で30秒間隔ごとに撮影レンズを無限遠から至近に1往復フォーカシング動作をさせて1コマ撮影する。ライブビュー撮影なし。リリース2回につき1回内蔵フラッシュを発光させる。装着レンズAF-S NIKKOR 24-85mm f/3.5-4.5G ED VR、温度23（±2）℃。

※2 画質モードBASIC、画像サイズM、シャッタースピード1/250秒、シャッターの半押しを3秒間持続後、撮影レンズを無限遠から至近間を3往復フォーカシング動作させ6回連続リリースした後、液晶モニターを5秒間点灯させ、消灯後半押しタイマーがオフになるまで放置。以後同じ動作を繰り返す。装着レンズAF-S NIKKOR 24-85mm f/3.5-4.5G ED VR、温度20℃。

※3 電池寿命測定方法を定めたCIPA（カメラ映像機器工業会）規格による実撮影電池寿命です。装着レンズAF-S NIKKOR 24-85mm f/3.5-4.5G ED VR、温度23（±2）℃。カメラは初期設定状態。

- 1回の動画撮影で記録可能な最長時間は20分（1080/60p）です。

- 1つの動画ファイルで記録可能な最大ファイルサイズは4GBです。

- カメラが熱くなった場合、連続撮影時間内でも動画撮影が終了することがあります。

※バッテリーの充電状態、撮影間隔やメニュー画面からの設定条件などの使用環境によって電池寿命が異なります。また、単3形電池使用時は、銘柄や保管状態により撮影可能コマ数が減少することがあります。単3形電池は、銘柄によっては使用できないこともあります。

次の場合はバッテリーの消耗が早くなります。

- ライブビュー撮影などで液晶モニターを使用した場合
- シャッターボタンの半押しを続けた場合
- オートフォーカスのレンズ駆動を繰り返し行った場合
- 画質モードをRAWに設定して撮影した場合
- 低速シャッタースピードで撮影した場合
- Wi-Fi（無線LAN）機能を使用した場合
- 通信ユニットUT-1、ワイヤレストランスミッター WT-5を使用した場合
- GPSユニットGP-1/GP-1A、ワイヤレスリモートコントローラー WR-R10/WR-1を使用した場合
- VRレンズ使用時にVR（手ブレ補正）機能をONにした場合

Li-ionリチャージャブルバッテリーEN-EL15の性能を最大限に発揮させるため、次のことに注意してください。

- バッテリーの端子を汚さないでください。端子が汚れていると、十分な性能が発揮できません。
- 充電が完了したバッテリーは、なるべく早いうちにお使いください。使用しないまま放置していると、自己放電によって、バッテリー残量が減ってしまいます。

AF補助光撮影、内蔵フラッシュ撮影に制限のあるレンズについて

■ AF補助光撮影に制限のあるレンズについて

- 使用するレンズや撮影距離によっては、AF補助光がレンズでさえぎられることがあります。
- AF補助光使用時は、レンズフードを取り外してください。
- AF補助光撮影に制限のあるレンズは次の通りです。

AF補助光を使ってオートフォーカス撮影ができないレンズ

AF-S NIKKOR 200mm f/2G ED VR II

AF-S VR Zoom-Nikkor 200–400mm f/4G IF-ED

AF-S NIKKOR 200–400mm f/4G ED VR II

AF-S NIKKOR 300mm f/2.8G ED VR II

撮影距離によってAF補助光を使ったオートフォーカス撮影に制限のあるレンズ

AF-S NIKKOR 16–35mm f/4G ED VR

AF-S Zoom-Nikkor 17–35mm f/2.8D IF-ED

AF-S DX Zoom-Nikkor 17–55mm f/2.8G IF-ED

AF-S DX VR Zoom-Nikkor 18–200mm
f/3.5–5.6G IF-ED

AF Zoom-Nikkor 20–35mm f/2.8D IF

AF Zoom-Nikkor 24–85mm f/2.8–4D IF

AF-S NIKKOR 24–85mm f/3.5–4.5G ED VR

AF Zoom Nikkor 24–120mm f/3.5–5.6D(IF)

AF-S NIKKOR 24–120mm f/4G ED VR

AF-S NIKKOR 28–300mm f/3.5–5.6G ED VR

AF-S NIKKOR 35mm f/1.4G

AF Zoom Micro Nikkor ED 70–180mm
f/4.5–5.6D

AF-S VR Micro-Nikkor 105mm f/2.8G IF-ED

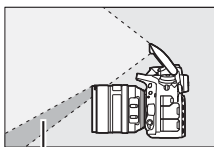
0.7m以内では内蔵AF補助光を使ったオートフォーカス撮影はできません。

撮影距離によってAF補助光を使ったオートフォーカス撮影に制限のあるレンズ

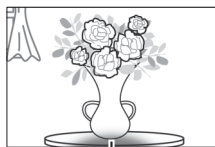
AF-S DX NIKKOR 18–200mm f/3.5–5.6G ED VR II	1.0m 以内では内蔵AF 補助光 を使ったオートフォーカス撮 影はできません。
AF-S DX NIKKOR 18–300mm f/3.5–5.6G ED VR	
AF-S DX NIKKOR 18–300mm f/3.5–6.3G ED VR	
AF-S NIKKOR 24–70mm f/2.8G ED	
AF-S VR Zoom-Nikkor 24–120mm f/3.5–5.6G IF-ED	
AF-S Zoom-Nikkor 28–70mm f/2.8D IF-ED	
AF-S NIKKOR 28–300mm f/3.5–5.6G ED VR	
AF Micro-Nikkor 200mm f/4D IF-ED	
AF-S NIKKOR 14–24mm f/2.8G ED	1.5m 以内では内蔵AF 補助光 を使ったオートフォーカス撮 影はできません。
AF-S DX NIKKOR 18–300mm f/3.5–5.6G ED VR	
AF-S DX NIKKOR 55–300mm f/4.5–5.6G ED VR	
AF-S VR Zoom-Nikkor ED 70–200mm f/2.8G (IF)	
AF-S NIKKOR 70–200mm f/2.8G ED VR II	
AF Zoom-Nikkor 80–200mm f/2.8D ED	
AF-S Zoom Nikkor ED 80–200mm f/2.8D (IF)	

■ 内蔵フラッシュ撮影に制限のあるレンズについて

- 内蔵フラッシュには、24mm(DXフォーマット時16mm)から300mmまでのCPUレンズが使用できます。
 - 撮影距離0.6m以上で使用してください。
 - マクロ付きズームレンズはマクロ領域では使用できません。
- 使用するレンズや撮影距離によっては、フラッシュのケラレが発生することがあります。
- ケラレとは、内蔵フラッシュの光がレンズの先端でさえぎられて影になり、写真に写り込む現象です。



影



ケラレ

- ケラレを防止するため、レンズフードは取り外して使用してください。
- 焦点距離や撮影距離に制限のあるレンズは次の通りです。

	レンズ	ケラレなく撮影できる焦点距離と撮影距離
D X	AF-S DX NIKKOR 10-24mm f/3.5-4.5G ED	● 焦点距離18mm以上では制約なし
	AF-S DX Zoom-Nikkor 12-24mm f/4G IF-ED	● 焦点距離18mmでは撮影距離1.0m以上 ● 焦点距離20mm以上では制約なし
	AF-S DX Zoom-Nikkor 17-55mm f/2.8G IF-ED	● 焦点距離20mmでは撮影距離2.0m以上 ● 焦点距離24mm以上では撮影距離1.0m以上
	AF-S DX NIKKOR 18-200mm f/3.5-5.6G ED VR II AF-S DX VR Zoom-Nikkor 18-200mm f/3.5-5.6G IF-ED	● 焦点距離18mmでは撮影距離1.0m以上 ● 焦点距離24mm以上では制約なし
	AF-S DX NIKKOR 18-300mm f/3.5-5.6G ED VR	● 焦点距離28mmでは撮影距離1.0m以上 ● 焦点距離50mm以上では制約なし

	レンズ	ケラレなく撮影できる焦点距離と撮影距離
F X	AF-S NIKKOR 16–35mm f/4G ED VR	● 焦点距離35mmでは撮影距離1.5m以上
	AF-S Zoom-Nikkor 17–35mm f/2.8D IF-ED	● 焦点距離28mmでは撮影距離1.5m以上 ● 焦点距離35mmでは制限なし
	AF Zoom-Nikkor 18–35mm f/3.5–4.5D IF-ED	● 焦点距離24mmでは撮影距離1.0m以上 ● 焦点距離28mm以上では制限なし
	AF-S NIKKOR 18–35mm f/3.5–4.5G ED	● 焦点距離28mmでは撮影距離1.5m以上 ● 焦点距離35mmでは制限なし
	AF Zoom-Nikkor 20–35mm f/2.8D IF	● 焦点距離24mmでは撮影距離1.5m以上 ● 焦点距離28mmでは撮影距離1.0m以上 ● 焦点距離35mmでは制限なし
	AF-S NIKKOR 20mm f/1.8G AF-S NIKKOR 24mm f/1.4G ED	● 撮影距離1.0m以上
	AF-S NIKKOR 24–70mm f/2.8G ED	● 焦点距離35mmでは撮影距離1.5m以上 ● 焦点距離50mm以上では制限なし
	AF-S VR Zoom-Nikkor 24–120mm f/3.5–5.6G IF-ED	● 焦点距離24mmでは撮影距離1.0m以上 ● 焦点距離35mm以上では制限なし
	AF-S NIKKOR 24–120mm f/4G ED VR	● 焦点距離24mmでは撮影距離2.0m以上 ● 焦点距離28mmでは撮影距離1.0m以上 ● 焦点距離50mm以上では制限なし
	AF-S Zoom-Nikkor 28–70mm f/2.8D IF-ED	● 焦点距離28mmでは撮影距離1.0m以上 ● 焦点距離50mm以上では制限なし
	AF-S NIKKOR 28–300mm f/3.5–5.6G ED VR	● 焦点距離28mmでは撮影距離1.5m以上 ● 焦点距離35mmでは撮影距離1.0m以上 ● 焦点距離50mm以上では制限なし
	PC-E NIKKOR 24mm f/3.5 ED	● アオリ操作をしていない状態で撮影距離1.5m以上

- AF-S NIKKOR 14–24mm f/2.8G ED使用時は、全ての撮影距離でケラレが発生します。

- 内蔵フラッシュ撮影時に使用可能な非CPUレンズは、ニコンレンズシリーズEと、焦点距離が24mmから300mmまでのニッコール（AI-S、AI、改造AI）です。ただし、次のレンズは使用に制限があります。

レンズ	ケラレなく撮影できる焦点距離と撮影距離
AI-S 25–50mm f/4 AI 25–50mm f/4	● 焦点距離25mmでは撮影距離2.0m以上 ● 焦点距離28mmでは撮影距離1.0m以上 ● 焦点距離35mm以上では制限なし
AI 50–300mm f/4.5 AI改 50–300mm f/4.5 AI-S ED 50–300mm f/4.5 AI ED 50–300mm f/4.5	● 焦点距離70mm以上では制限なし

索引

マーク・英数字

(オート)	6, 33
(発光禁止オート)	6, 33
SCENE (シーン)	40
(ポートレート)	41
(風景)	41
(こどもスナップ)	41
(スポーツ)	41
(クローズアップ)	42
(夜景ポートレート)	42
(夜景)	42
(パーティー)	42
(海・雪)	43
(夕焼け)	43
(トワイライト)	43
(ペット)	43
(キャンドルライト)	44
(桜)	44
(紅葉)	44
(料理)	44
EFFECTS (スペシャルエフェクト)	45
(ナイトビジョン)	46
(カラースケッチ)	46, 49
(ミニチュア効果)	47, 50
(セレクトカラー)	47, 52
(シルエット)	47
(ハイキー)	48
(ローキー)	48
P (プログラムオート)	90
S (シャッター優先オート)	91
A (絞り優先オート)	92
M (マニュアル)	94
U1/U2	100
S (1コマ撮影)	7, 104
CL (低速連続撮影)	7, 104, 337

CH (高速連続撮影)	7, 104
Q (静音撮影)	7, 104
QC (静音連続撮影)	7, 104
(セルフタイマー撮影)	7, 104, 106
MUP (ミラーアップ撮影)	7, 104, 108
(顔認識AF)	58
(ワイドエリアAF)	58
(ノーマルエリアAF)	58
(ターゲット追尾AF)	58
(マルチパターン測光)	137, 332
(中央部重点測光)	137, 333
(スポット測光)	137
(ハイライト重点測光)	137
AUTO (フラッシュモード)	182
REAR (フラッシュモード)	184
SLOW (フラッシュモード)	182, 184
Fn (ファンクション) ボタン	112, 192, 234, 356, 372
Pv ボタン	56, 69, 361, 373
BKT (オートブラケティング) ボタン	204, 208, 211
i ボタン	61, 70, 199, 241
(インフォ) ボタン	12
(ライブビュー) ボタン	54, 66
? (ヘルプ)	20
(連続撮影可能コマ数)	105, 495
(レディーライト)	39
12ビット記録	116
14ビット記録	116
1.2× (30×20) 1.2× (撮像範囲)	109, 112
1コマ撮影	7, 104
1コマ表示	237
2秒リモコン	195

3D-RGBマルチパターン測光Ⅲ	138	CEC	275
3D-トラッキング	121, 123	CPU信号接点	433
ACアダプター	445, 450	CPUレンズ	32, 430, 433
ADLブラケット (オートブラケ ティングのセット)	211, 353	DCF Version 2.0	492
Adobe RGB (色空間)	312	DPOFプリント (PictBridge)	269
AE-Lマーク	127, 140	DPOF (Digital Print Order Format)	492
AE/AFロックボタンの機能	361, 374	DX (24×16) 1.5× (撮像範囲)	109, 110, 112
AEブラケット (オートブラケ ティングのセット)	203, 353	DX自動切り換え (撮像範囲)	110
AEロック	140	DXフォーマット	109
AE・フラッシュブラケット (オートブラケットのセット)	203, 353	DXベースの (動画) フォーマット	75
AF-A (AFサーボモード自動切り換 え)	119	Dタイプレンズ	433
AF-C (コンティニュアスAFサーボ)	119, 325	D-ライティング	398
AF-Cモード時の優先	325	Exif Version 2.3	492
AF-F (常時AFサーボ)	57	Eye-Fi送信機能	393
AF-S (シングルAFサーボ)	57, 119, 325	Eタイプレンズ	433
AF-Sモード時の優先	325	FINE	114
AFエリアモード	58, 121	FP発光	344, 345
AFサーボモード自動切り換え (AF-A)	119	FVロック	191, 356, 370
AF点数切り換え	328	FX (36×24) 1.0× (撮像範囲)	109, 112
AF微調節	391	FXフォーマット	109
AF補助光	330	FXベースの (動画) フォーマット	75
AFモード	57, 119	GPSユニット	235, 447
AFモードボタン	2, 57, 59, 120, 123	Gタイプレンズ	433
AFロックオン	326	HDMI-CEC	275
AUTO1 標準	144, 145	HDMI端子	273
AUTO2 電球色を残す	144, 145	HDMI (High-Definition Multimedia Interface)	273, 492
BASIC	114	HDR (ハイダイナミックレンジ)	177
BKTの順序	354	Hi (ISO感度)	132
Bulb (バルブ撮影)	96	H.264	488
B型クリアマツスクリーンⅢ	484	INDEXプリント	269
Camera Control Pro 2	448	ISO感度	132, 321
Capture NX-D	115, 173, 379	ISO感度設定ステップ幅	331
		ISO感度の簡易設定	339
		i-TTL-BL調光	186

i-TTL 調光	186, 439
JPEG	114, 116
JPEG 圧縮	116
L (画像サイズ)	117
Lo (ISO 感度)	132
M (画像サイズ)	117
M (マニュアルフォーカス)	60, 130
MB-D16	341, 343, 369, 445
MB-D16 電池設定	341
MB-D16 の AE/AF ロック ボタンの 機能	369
MOV	488
NEF	114, 312
NORMAL	114
OK ボタンの 機能	354
PictBridge (ピクトブリッジ)	266, 492
Picture Control Utility	173
PIN コード	281
PRE (プリセットマニュアル)	144, 153
RAW	114, 115, 116
RAW+JPEG 分割記録 (スロット 2 の 機能)	118
RAW 記録	116
RAW 現像	408
RGB ヒストグラム 表示	245
RGB マルチパターン 測光	138, 435
S (画像サイズ)	117
SD カード	25, 30, 376, 494
sRGB (色空間)	312
SSID	283
USB ケーブル	261, 266
UTC	235, 249
ViewNX 2	115, 173, 257, 261, 383, 385
WB ブラケティング (WB-BKT)	208, 353
Wi-Fi (無線 LAN) 機能	277
Wireless Mobile Utility	277, 279

WPS	280, 281
WPS プッシュ ボタン 方式	280

ア

アイピース	107, 447
アイピース キャップ	107
青強調 (フィルター 効果)	402
アオリ 効果	417
赤強調 (フィルター 効果)	402
赤目 軽減 発光 (フラッシュ モード)	182, 184
赤目 補正	399
明るさ (ピクチャー コントロール)	167
アクセサリ (使用 できる アクセサリ)	445
アクセサリ ターミナル	198, 235, 447
アクティブ D-ライティング	175
アクティブ D-ライティング ブラケットング	211
圧縮 RAW	116
後幕 発光 (フラッシュ モード)	184
位置 情報	235, 249
イメージ センサー クリーニング	453
イメージ ダスト オフ	379
イメージ ダスト オフ 機能 (Capture NX-D)	379, 473
イメージ ダスト オフ データ 取得	379
イルミネーター	3, 340
イルミネーター 点灯	340
色合い (色相) (ピクチャー コントロール)	167
色温度	144, 146, 150
色温度 設定 (ホワイト バランス)	144, 150
色空間	312
色の 濃さ (彩度) (ピクチャー コントロール)	167

印刷 (プリント)	266
インジケーターの+/-方向	367
インターバル設定 (スライドショー)	306
インターバルタイマー撮影	221
インデックスプリント	269
インデックスマーキング	69
インフォ画面の表示設定	340
ヴィネットコントロール	313
ウォームトーン (フィルター効果)	402
液晶モニター	12, 16, 237
オート (撮影モード)	6, 33
オート (ホワイトバランス)	144
オートFPハイスピードシンクロ	344, 345
オートエリアAF	122, 123
オートフォーカス	57, 58, 119, 121, 125, 127, 129
オートブラケットリング	203, 353, 354
オートブラケットリングのセット	353

力

カードなし時リリース	367
カードの初期化 (フォーマット)	376
外部マイク	72, 319, 447
開放F値	232, 433
開放絞り	232, 433
開放絞り値の設定	232
顔認識	332
顔認識AF	58
画角	436
拡大表示	251
画質モード	114
画質優先 (JPEG圧縮)	116
カスタムピクチャーコントロール	169

カスタムメニュー	322
カスタムメニューのリセット	324
風切り音低減	320
画像合成	404
画像コピー	300
画像コメント	385
画像サイズ	117
画像サイズ/フレームレート	318
画像情報	242
画像編集メニュー	395
傾き補正	413
カメラ設定の保存と読み込み	387
カラーカスタマイズ	403
カラースケッチ	416
カラースケッチ (スペシャルエフェクト)	46, 49
カレンダー表示	240
簡単レタッチ	413
感度	132, 315, 321
感度自動制御	134
基準露出レベルの調節	333
魚眼効果	415
距離基準マーク	131
距離情報	138, 186
記録可能コマ数	30, 495
記録ビットモード (RAW記録)	116
記録フォルダー設定	309
記録方式 (RAW記録)	116
クイック調整	167
クール (モノトーン)	401
クリーニングミラーアップ	455
クリエイティブライティングシステム	437
グループエリアAF	122, 123, 327
クロススクリーン (フィルター効果)	402
蛍光灯 (ホワイトバランス)	144
言語 (Language)	383
現在地の設定 (地域と日時)	382
高感度 (Hi)	133

高感度ノイズ低減	315
格子線の表示	339
高速連続撮影	7, 104
コマ送り	81, 305, 365
コマンダーモード	348
コマンドダイヤルの設定	363
コンティニュアスAFサーボ (AF-C)	119, 325
コントラスト (ピクチャーコントロール)	167

サ

最近設定した項目	429
最小絞り	32
サイズ	400
サイズ優先 (JPEG圧縮)	116
再生	36, 80, 237, 273
再生画像の種類 (スライドショー)	306
再生画面設定	300
再生フォルダー設定	298
再生メニュー	297
先幕発光 (フラッシュモード)	184
削除	37, 254
削除後の次再生画像	305
撮影画面サイズ	436
撮影コマ数	337
撮影した画像を確認する	36
撮影情報	247
撮影直後の画像確認	238, 305
撮影モードダイヤル	6
撮影モードダイヤルロックボタン	6
撮像範囲	75, 109
サブコマンドダイヤルで画像送り	365
サマータイム (夏時間)	382
サムネイル表示	239, 355
シーンモード	6, 40
始点/終点の設定	83

自動発光 (フラッシュモード)	182
自動ゆがみ補正	314
視度調節	28, 447
絞り値	92, 94, 364
絞り優先オート	92
シャッタースピード	91, 94
シャッターボタン	35, 127, 140, 191, 374
シャッターボタンの機能	374
シャッター優先オート	91
順次記録 (スロット2の機能)	118
瞬時リモコン	195
常時AFサーボ (AF-F)	57
使用できるスピードライト	437
使用できるレンズ	430
焦点距離の設定	232
情報表示 (位置情報)	235
初期化 (フォーマット)	376
初期設定一覧	200, 288
シルエット (スペシャルエフェクト)	47
白黒 (モノトーン)	401
シングルAFサーボ (AF-S)	57, 119, 325
シングルポイントAF	121, 123
シンクロターミナル	444
水準器	64, 74, 359
水準器表示	390
推奨SDカード	494
スカイライト (フィルター効果)	402
スタンダード (ピクチャーコントロール)	164
スタンダードi-TTL調光	186, 439
スピードライト	347, 437
スペシャルエフェクトモード	45
スポット測光	137
スポットホワイトバランス	158
スマートデバイス	278

スマートデバイスへの送信指定/解除	286	縦位置自動回転	305
スライドショー	306	縦横位置情報の記録	383
スローシャッター（フラッシュモード）	182, 184	縦/横位置フォーカスポイント切換	329
スロット2の機能	118	地域と日時	382
スロット/フォルダー指定メニュー	241	チャージャー	23
制御上限感度（感度自動制御）	135	着脱指標	26
静止画撮影メニュー	308	中央部重点測光	137, 333
静止画撮影メニューのリセット	309	中央部重点測光範囲	333
静止画ライブビュー	54	調光範囲	187
晴天（ホワイトバランス）	144	調光補正	189
晴天日陰（ホワイトバランス）	144	長時間露出	96
接眼補助レンズ	447	調色（ピクチャーコントロール）	167, 168
接眼目当て	107	長秒時ノイズ低減	315
接続設定のリセット	284	著作権情報	386
設定に制限がある機能一覧	463	チルト式液晶モニター	16
設定の保存	387	ツールボタンリセット	200
セットアップメニュー	375	低感度（Lo）	133
セピア（モノトーン）	401	低速限界設定（感度自動制御）	135
セルフタイマー	334	低速連続撮影	7, 104, 337
セルフタイマー撮影	7, 104, 106	デモモード	367
セレクトカラー	419	テレビ	273
セレクトカラー（スペシャルエフェクト）	47, 52	電球（ホワイトバランス）	144
全画像削除	255	電子音設定	336
選択画像削除	255	電池チェック	384
選択フレームの保存	83	電池の使用順序	343
測光モード	137	動画	66, 80, 83
外付けフラッシュ発光	347	動画ISO感度設定	321
ソフト（フィルター効果）	403	動画撮影ボタン	68
		動画撮影ボタンの機能	368
		動画撮影メニュー	316
		動画撮影メニューのリセット	317
		動画の画質	318
		動画編集	83
		動画ライブビュー	66, 372
		統合表示	250
		同調シャッタースピード	344, 345, 470

タ

ターゲット追尾AF	58
ダイナミックAF	121, 123, 327
タイマー（セルフタイマー）	106
タイム撮影（長時間露出）	96, 98
多重露出	215

登録項目の削除 (マイメニュー)	426
登録項目の順序変更 (マイメニュー)	427
トリミング	400
曇天 (ホワイトバランス)	144

ナ

内蔵AF補助光の照射設定	330
内蔵フラッシュ	181
内蔵フラッシュ発光	346
ナイトビジョン (スペシャルエフェクト)	46
夏時間の設定 (地域と日時)	382
ニコンクリエイティブライティングシステム	437
日時の設定 (地域と日時)	382
ニュートラル (ピクチャーコントロール)	164
認証マークの表示	394
塗り絵	415
ネットワーク	264
ノイズ低減	315
ノーマルエリアAF	58

ハ

ハイキー (スペシャルエフェクト)	48
ハイダイナミックレンジ	177
ハイビジョンテレビと接続する	273
ハイライト重点測光	137
ハイライト表示	244
バックアップ記録 (スロット2の機能)	118
発光禁止 (フラッシュモード)	182, 184
発光禁止オート (撮影モード)	6, 33
バッテリー	23, 29, 491

バッテリーチャージャー	491
バッテリーパック	341, 343, 369, 445
バルブ撮影 (長時間露出)	96
パワーオフ時間	335
パワーコネクタ	445, 450
パワー絞り	372, 373
範囲指定 (PictBridge)	268
半押し (シャッターボタン)	35
半押しAEロック	333
半押しタイマー	38, 334
非CPUレンズ	232, 431, 435
ピクチャーコントロール	164
被写界深度	93
ヒストグラム表示	355, 245, 246
微速度撮影	227
日付選択 (削除)	256
日付と時刻を設定する	27
日付の表示順 (地域と日時)	382
日付プリント (PictBridge)	268
ピッチング	390
ビビッド (ピクチャーコントロール)	164
非表示設定	298
表示中の画像を削除する	37
表示パネル	8
標準表示	243
ピント表示	35
ファームウェアバージョン	394
ファイル記録先	317
ファイル名設定	311
ファインダー (視度調節)	28, 447
ファインダー内格子線表示	357
フィルター効果	402
フィルター効果 (ピクチャーコントロール)	167, 168
風景 (ピクチャーコントロール)	164
フォーカスエイド	131

フォーカスポイント	35, 54, 58, 125, 327, 328
フォーカスポイント循環選択	328
フォーカスポイント照明	328
フォーカスポイント表示	327
フォーカスモード	57, 119, 130, 325
フォーカスモードセクター	57, 119
フォーカスリング	60, 130
フォーカスロック (AFロック)	127
フォーマット (カードの初期化)	376
フチ設定 (PictBridge)	268
ブラケティング	203, 208, 211, 353
プラスRAW記録	357
フラッシュ	181
フラッシュ (ホワイトバランス)	144
フラッシュ撮影同調速度	344
フラッシュ使用時の露出補正	353
フラッシュ使用推奨表示	338
フラッシュ時シャッタースピード制限	346
フラッシュブラケティング (オートブラケティングのセット)	203, 353
フラッシュモード	182, 184
フラット (ピクチャーコントロール)	164
フレンジバック	131
プリセットマニュアル (ホワイトバランス)	144, 153
フリッカー低減	381
プリント	266
プリント実行 (PictBridge)	267, 270
プリント指定 (DPOF)	271
プリント設定 (PictBridge)	268
フレームレート	318
プレビューボタンの機能	373
プログラムオート	90

プログラムシフト	90
プログラム線図	465
プロテクト	253
ヘッドホン	72
ヘッドホン音量	71
ヘルプ	20
編集前後の画像表示	422
ポートレート (ピクチャーコントロール)	164
ボタンのホールド設定	366
ボディーキャップ	3
ホワイトバランス	144
ホワイトバランスの微調整	147
ホワイトバランスブラケティング (WBブラケティング)	208

マ

マイク	72, 319, 447
マイク感度	319
枚数指定 (PictBridge)	268
マイメニュー	424
マイメニュー登録 (マイメニュー)	424
マニュアル (露出)	94
マニュアル発光モード	347
マニュアルフォーカス	60, 130
マルチセクター	18
マルチセクターによるパワー絞り	71
マルチパターン測光	137, 332
緑強調 (フィルター効果)	402
ミニチュア効果	418
ミニチュア効果 (スペシャルエフェクト)	47, 50
ミラーアップ撮影	7, 104, 108
ミラーアップリモコン	195
ミレッド	148
無線LAN	264, 446
明瞭度	167

モデリング発光	353
モニターの明るさ	377
モニターのカラースタマイズ	378
モニターのパワーオフ時間	335
モニター発光	186, 192, 346
モノクローム (ピクチャーコントロール)	164
モノトーン	401

ヤ

ユーザーセッティング	100
ユーザーセッティングの登録	100
ユーザーセッティングのリセット	103
有線LAN	264
ゆがみ補正	414
用紙設定 (PictBridge)	268
予測駆動フォーカス	120

ラ

ライブビュー	54, 66
ライブビューセクター	54, 66
リサイズ	410
リセット	200, 309, 317, 324
リピート発光モード	347
リモートコード	77, 99, 447
リモコン	194, 449
リモコン撮影	194
リモコン待機時間 (ML-L3)	335
リモコンモード設定 (ML-L3)	195
リモコン (WR) のFnボタンの機能	370
輪郭強調	167
レディーライト	39, 351, 442
レリーズモード	104
レリーズモードダイヤル	7
レリーズモードダイヤルロックボタン	7

レンズ情報手動設定	232
レンズの取り外し	32
レンズマウント	131
レンズ (使用できるレンズ)	430
連続撮影	104
連続撮影コマ数	337
連番モード	338
ローキー (スペシャルエフェクト)	48
ローパスフィルター	453
ローパスフィルターを自動で掃除する	453
ローパスフィルターをブローアースで掃除する	455
ローリング	359, 390
録音設定	319
録音帯域	319
露出	137, 140, 142, 203
露出インジケータ	95
露出設定ステップ幅	331
露出ディレーモード	338
露出プレビュー	61, 62
露出補正	142
露出補正簡易設定	331
露出補正值	142
ロスレス圧縮RAW	116

ワ

ワイドエリアAF	58
ワイヤレストランスミッター	264
ワイヤレスリモートコントローラー	77, 198, 370

ニコンプラザ、サービスセンターのご案内

■ニコンプラザ

ショールーム、サービスセンター、ギャラリーを統合したニコン映像製品の総合情報拠点です。充実したサポートサービスを通して、お客さまのデジタルイメージングの世界を広げ、写真文化の普及、向上に資することを目指しています。

ニコンプラザ銀座

〒104-0061 東京都中央区銀座 7-10-1 ストラータ ギンザ 1・2 階

営業時間：10:30～18:30（年末年始、2月の第1土曜日とその翌日、8月の第2土曜日とその翌日を除く毎日）

ニコンプラザ新宿

〒163-1528 東京都新宿区西新宿 1-6-1 新宿エルタワー 28 階

営業時間：10:30～18:30（年末年始、2月11日・12日、8月の第3日曜日とその翌日を除く毎日）

ニコンプラザ名古屋

〒461-0005 名古屋市東区東桜 1-13-3 NHK 名古屋放送センタービル 2 階

営業時間：10:30～18:30（日曜日、祝日、年末年始を除く毎日）

ニコンプラザ大阪

〒530-0001 大阪市北区梅田 2-2-2 ヒルトンプラザウエスト・オフィスタワー 13 階

営業時間：10:30～18:30（年末年始、2月の第3土曜日とその翌日、8月の第3土曜日とその翌日を除く毎日）

 ニコンプラザショールーム（ナビダイヤル）
0570-02-8080

 ニコンプラザサービスセンター（ナビダイヤル）
0570-02-8060

* 音声ガイダンスにしたがって、ご利用になるニコンプラザをお選びください。

■サービスセンター

ニコン映像製品のメンテナンスサポートの窓口です。カメラ製品の展示の他、ご質問、ご相談もお受けしています。お気軽にご来所ください。

札幌サービスセンター

〒060-0807 札幌市北区北 7 条西 4-3-1 新北海道ビルディング 2 階

福岡サービスセンター

〒812-0011 福岡市博多区博多駅前 1-4-1 博多駅前第一生命ビル 1 階

（各サービスセンター共通）

営業時間：9:30～18:00（土曜日、日曜日、祝日、年末年始、夏季休業など弊社定休日を除く毎日）

（ナビダイヤル）
0570-02-8050

* 音声ガイダンスにしたがって、ご利用になるサービスセンターをお選びください。

- ナビダイヤルは一般電話からは市内通話料金でご利用いただけます。
- ナビダイヤルをご利用いただけない場合は、(03)6702-0577（ニコンカスタマーサポートセンター）におかけください。

アフターサービスについて

■この製品の使い方や修理に関するお問い合わせは

- 使い方に関するご質問は、裏面に記載の「ニコン カスタマーサポートセンター」にお問い合わせください。
- 修理に関するご質問は、裏面に記載の「修理センター」にお問い合わせください。

【お願い】

- お問い合わせいただく場合には、おわかりになる範囲で結構ですので、次の内容をご確認の上、お問い合わせください。
「製品名」、「製品番号」、「ご購入日」、「問題が発生したときの症状」、「表示されたメッセージ」、「症状の発生頻度」など。
- ソフトウェアのトラブルの場合には、おわかりになる範囲で結構ですので、次の内容をご確認の上、お問い合わせください。
「ソフトウェア名およびバージョン」、「パソコンの機種名」、「OSのバージョン」、「メモリー容量」、「ハードディスクの空き容量」、「問題が発生したときの症状」、「症状の発生頻度」、エラーメッセージが表示されている場合はエラーメッセージの内容など。
- ファクシミリや郵送でお問い合わせの場合は「ご住所」、「お名前」、「フリガナ」、「電話番号」、「FAX 番号」を（会社の場合は会社名と部署名も）明確にお書きください。

■修理を依頼される場合は

ニコンサービス機関（ニコンプラザ、サービスセンター、修理センター）、ご購入店、または最寄りの販売店にご依頼ください。

- ニコンサービス機関について詳しくは、左ページおよび裏面をご覧ください。

【お願い】

- 修理に出されるときは、メモリーカードがカメラ内に挿入されていないかご確認ください。

※ 内蔵メモリーがあるカメラでは、内蔵メモリー内に画像データがあるときは、消去される場合があります。

■補修用性能部品について

このカメラの補修用性能部品（その製品の機能を維持するために必要な部品）の保有年数は、製造打ち切り後7年を目安としています。

- 修理可能期間は、部品保有期間内とさせていただきます。なお、部品保有期間経過後も、修理可能な場合もありますので、ニコンサービス機関またはご購入店へお問い合わせください。水没、火災、落下等による故障または破損で全損と認められる場合は、修理が不可能となります。なお、この故障または破損の程度の判定は、ニコンサービス機関にお任せください。

製品の使い方に関するお問い合わせ

<ニコン カスタマーサポートセンター>

全国共通のナビダイヤルにお電話ください。



0570-02-8000

一般電話からは市内通話料金でご利用いただけます。

営業時間：9:30～18:00(年末年始、夏期休業日等を除く毎日)
ナビダイヤルをご利用いただけない場合は、(03)6702-0577 におかけください。ファクシミリでのご相談は、(03) 5977-7499 にお送りください。

修理サービスのご案内

修理品のお引き取りを依頼される場合は

<ニコン ピックアップサービス>

下記のフリーダイヤルでお申し込みいただくと、ニコン指定の配送業者(ヤマト運輸)が、梱包資材のお届け・修理品のお引き取り、修理後のお届け・集金までを一括して提供するサービスです。全国一律の料金にて承ります。

※宅配便で扱える大きさや重さには制限があるため、取り扱いできない製品もございます。



0120-02-8155

営業時間：9:00～18:00(年末年始12/29～1/4を除く毎日)

※上記のフリーダイヤルはピックアップサービス専用です。ニコン指定の配送業者(ヤマト運輸)にて承ります。

製品や修理に関するお問い合わせは、カスタマーサポートセンター、または修理センターへお願いいたします。

修理品を宅配便などでお送りいただく場合の送り先と修理に関するお問い合わせは

<(株)ニコンイメージングジャパン 修理センター>

230-0052 横浜市鶴見区生麦2-2-26



0570-02-8200

一般電話からは市内通話料金でご利用いただけます。

営業時間：9:30～18:00(土曜日、日曜日、祝日、年末年始、夏期休業日など弊社定休日を除く毎日)
ナビダイヤルをご利用いただけない場合は、(03) 6702-0577 におかけください。

●修理センターには、ご来所の方の窓口がございません。宅配便のみお受けします。ご了承ください。

インターネットご利用の方へ

<ニコンイメージング/サポートページ>

●<http://www.nikon-image.com/support/>

最新の製品テクニカル情報や、ソフトウェアのアップデートに関する情報がご覧いただけます。

※製品をより有効にご利用いただくために、定期的にアクセスされるようおすすめします。

●<http://www.nikon-image.com/support/repair/>

「ニコン ピックアップサービス」のお申し込みや修理見積もり金額の確認、インターネットを利用して修理を申し込まれた場合の修理状況や納期の確認などがご覧いただけます。

※お問い合わせや修理を依頼をされるときには、裏面の「アフターサービスについて」も参照ください。

株式会社 **ニコン**

株式会社 **ニコン イメージング ジャパン**